

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第43集

岡島遺跡II・不馬入遺跡

1993

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県西尾市は六万石の城下町として知られ、肥沃な田園地帯が広がる岡崎平野のほぼ中央に位置しております。

この度、愛知県埋蔵文化財センターでは、建設省中部地方建設局名古屋四国事務所
の委託事業として、国道23号バイパス建設に先立ち、岡島遺跡・不馬入遺跡の発掘
調査を実施いたしました。その結果、岡島遺跡では、弥生時代中期を中心とする豊
富な遺物が出土し、矢作川下流域の弥生時代を考える上で貴重な知見を得たほか、
不馬入遺跡では18・19世紀を中心とする遺構・遺物を見ることができました。

今回これらの調査成果をまとめ、ここに報告書を刊行するに至りました。本書が
歴史資料として活用され、埋蔵文化財に対するご理解の一助となれば幸いに存じま
す。

なお、発掘調査から資料整理に至るまで、地元関係者をはじめ関係諸機関及び関
係者からご指導とご協力をいただきました。ここに心から謝意を表するものです。

平成5年3月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

理事長 高木 鐘三

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第43集

お か じ ま
岡島遺跡

1993

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

目 次

第1章 調査概要

第1節 調査経緯・経過	1
第2節 歴史的環境	2
第3節 地理的環境	6
第4節 岡島遺跡の調査小史	8

第II章 遺跡

第1節 基本層位	16
第2節 遺構	19
①遺構の分類	19
②第1遺構	20
③第2遺構	23
④第3遺構	33
⑤田圃遺	38
⑥その他の遺構	39

第III章 遺物

第1節 土器	40
①分類視点	41
②弥生土器	42
③古墳時代～中世の土器・陶磁器	73
④近世の土器・陶磁器	79
第2節 土製品	82
第3節 金属器	84
第4節 木製品	85
第5節 石器・石製品	86

第IV章 科学分析

第1節 柱澤及び昆虫化石群からえられた岡島遺跡の古環境変遷	87
第2節 岡島遺跡における花粉化石	133
第3節 岡島遺跡出土の土器胎土	141
第4節 残留脂肪酸分析	153

第V章 考察

第1節 主要遺構の変遷	160
第2節 岡島I期～V期の設定	162
第3節 矢作川下流域における沖積地の形成と河川	167

第VI章 まとめ	169
----------	-----

付表	172
----	-----

挿図目次

図1 調査進行表	1	図35 古墳時代～中世の土器	78
図2 調査区位置図	3	図36 近世の陶磁器1	80
図3 岡島遺跡と周辺の遺跡	5	図37 近世の陶磁器2	81
図4 岡島遺跡周辺地質概略図	7	図38 土製品	82
図5 過去の調査区	8	図39 加工円盤	83
図6 岡島遺跡遠景	9	図40 銅鉄	84
図7 岡島遺跡中心部分	9	図41 銅鉄出土状況	84
図8 岡島町4号線排水路	9	図42 岡島遺跡位置図	87
図9 愛知県歴史文化財センター岡島区(62 C区)	9	図43 分析試料採取地点(62 B区・63 A区)	88
図10 西尾市立東部中学校保管遺物1	10	図44 分析試料採取地点(90 B区)	88
図11 西尾市立東部中学校保管遺物2	11	図45 分析試料採取地点における地質柱状図1(90 B区)	89
図12 愛知県歴史文化財センター試掘調査出土遺物	12	図46 分析試料採取地点における地質柱状図2(91 A区)	89
図13 黒田藩邸・碧南線用地内出土遺物1	13	図47 昆虫化石試料の埋蔵およびその相対年代	91
図14 黒田藩邸・碧南線用地内出土遺物2	14	図48 発生時代中期および後期の地層から検出された昆虫化石の生息環境別出現率	98
図15 方位標式図	17	図49 岡島遺跡90 B区珪藻遺骸分析結果	103
図16 主要遺構時期区分	18	図50 岡島遺跡91 A区珪藻遺骸分析結果	104
図17 各土坑	19	図51 岡島遺跡の珪藻遺骸分析結果①岡島90 B区	105・106
図18 S B 01	20	図52 岡島遺跡の珪藻遺骸分析結果②岡島91 A区	107
図19 S Z 01-04	22	図53 岡島遺跡の昆虫化石リスト	108・109
図20 S Z 05	25	図54 岡島遺跡昆虫化石の分析結果1(90 B:泥炭最2 F層)	110
図21 S E 01	24	図55 岡島遺跡昆虫化石の分析結果2(90 B:泥炭最下層)	111
図22 S X 03	25	図56 岡島遺跡昆虫化石の分析結果3(70 B:泥炭下層)	112-115
図23 S B 02	26	図57 岡島遺跡昆虫化石の分析結果4(90 B:泥炭上層)	116
図24 S Z 06	27	図58 岡島遺跡昆虫化石の分析結果6(90 B:III E 5 P-SD 01)	116
図25 S Z 07-09	28	図59 岡島遺跡昆虫化石の分析結果8(91 A:上層泥炭)	117-118
図26 土器棺墓1	30	図60 岡島遺跡昆虫化石の分析結果9(90 B:II F 7 トソル)	118
図27 土器棺墓2	31	図61 岡島遺跡昆虫化石の分析結果10(90 B:大型土坑下部)	119-120
図28 S Z 33-36	34	図62 岡島遺跡昆虫化石の分析結果11(90 B:大型土坑上部)	121-122
図29 旧河道	38	図63 岡島遺跡産の珪藻遺骸の顕微鏡写真1	123
図30 そのほかの遺構	40	図64 岡島遺跡産の珪藻遺骸の顕微鏡写真2	124
図31 土器の部位名称	41	図65 岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真1	126
図32 形態分類図	47	図66 岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真2	126
図33 古墳時代の土器1	75	図67 岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真3	128
図34 古墳時代の土器2	77	図68 岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真4	129

図 69 岡島遺跡産の昆虫化石の電子顕微鏡写真1	…131	図 80 鉱物組成の三角ダイアグラム(Bサンプル)	…143
図 70 岡島遺跡産の昆虫化石の電子顕微鏡写真2	…132	図 81 粒径による三角ダイアグラム	…143
図 71 岡島遺跡の位置図	…133	図 82 岡島V期試料の偏光顕微鏡観察結果	144
図 72 分析試料採取位置図(90 B ₂ 区)	…134	図 83 岡島遺跡周辺の地質	…144
図 73 岡島遺跡 90 B ₂ 区トレンチ断面図	…134	図 84 Xサンプルの実体顕微鏡観察結果	…145
図 74 分析試料採取地点における地質柱状図	…135	図 85 X・Sサンプルの鉱物組成の三角ダイアグラム	146
図 75 岡島遺跡 90 B ₂ 区の花粉ダイアグラム	…136	図 86 X・Sサンプルの偏光顕微鏡観察結果	…146
図 76 花粉化石リストおよび出現率	…137	図 87 分析土器実測図 1	…149
図 77 岡島遺跡判土の花粉化石	…140	図 88 分析土器実測図 2	…150
図 78 分析試料一覧	…142	図 89 土器薄片の偏光顕微鏡写真(1)	…151
図 79 岡島V期試料の実体顕微鏡観察結果	142	図 90 土器薄片の偏光顕微鏡写真(2)	…152

図版目次

図版 1 第1面遺構図 1	図版 28 土器実測図 19
図版 2 第1面遺構図 2	図版 29 土器実測図 20
図版 3 第1面遺構図 3	図版 30 土器実測図 21
図版 4 第2面遺構図 1	図版 31 土器実測図 22
図版 5 第2面遺構図 2	図版 32 土器実測図 23
図版 6 第2面遺構図 3	図版 33 土器実測図 24
図版 7 第3面遺構図 1	図版 34 土器実測図 25
図版 8 第3面遺構図 2	図版 35 土器実測図 26
図版 9 第3面遺構図 3	図版 36 土器実測図 27
図版 10 土器実測図 1	図版 37 土器実測図 28
図版 11 土器実測図 2	図版 38 土器実測図 29
図版 12 土器実測図 3	図版 39 土器実測図 30
図版 13 土器実測図 4	図版 40 土器実測図 31
図版 14 土器実測図 5	図版 41 土器実測図 32
図版 15 土器実測図 6	図版 42 土器実測図 33
図版 16 土器実測図 7	図版 43 土器実測図 34
図版 17 土器実測図 8	図版 44 土器実測図 35
図版 18 土器実測図 9	図版 45 土器実測図 36
図版 19 土器実測図 10	図版 46 土器実測図 37
図版 20 土器実測図 11	図版 47 土器実測図 38
図版 21 土器実測図 12	図版 48 土器実測図 39
図版 22 土器実測図 13	図版 49 土器実測図 40
図版 23 土器実測図 14	図版 50 土器実測図 41

图版 24 土器实测图 15
图版 25 土器实测图 16
图版 26 土器实测图 17
图版 27 土器实测图 18
图版 55 土器实测图 46
图版 56 土器实测图 47
图版 57 土器实测图 48
图版 58 土器实测图 49
图版 59 土器实测图 50
图版 60 土器实测图 51
图版 61 土器实测图 52
图版 62 土器实测图 53
图版 63 土器实测图 54
图版 64 土器实测图 55
图版 65 土器实测图 56
图版 66 土器实测图 57
图版 67 土器实测图 58
图版 68 土器实测图 59
图版 69 土器实测图 60
图版 70 土器实测图 61
图版 71 土器实测图 62
图版 72 土器实测图 63
图版 73 土器实测图 64
图版 74 土器实测图 65
图版 75 土器实测图 66
图版 76 土器实测图 67
图版 77 土器实测图 68
图版 78 土器实测图 69
图版 79 木器实测图
图版 80 石器实测图 1
图版 81 石器实测图 2

图版 51 土器实测图 42
图版 52 土器实测图 43
图版 53 土器实测图 44
图版 54 土器实测图 45
图版 82 调查区全景 1
图版 83 调查区全景 2
图版 84 调查区全景 3
图版 85 调查区全景 4
图版 86 造構 1
图版 87 造構 2
图版 88 造構 3
图版 89 造構 4
图版 90 土器 1
图版 91 土器 2
图版 92 土器 3
图版 93 土器 4
图版 94 土器 5
图版 95 土器 6
图版 96 土器 7
图版 97 土器 8
图版 98 土器 9
图版 99 土器 10
图版 100 土器 11
图版 101 土器 12
图版 102 土器 13
图版 103 土器 14
图版 104 土器 15
图版 105 土器 16
图版 106 土器 17
图版 107 土製品・金属器・木器
图版 108 石器

例 言

1. 本書は愛知県西尾市岡島町・江原町に所在する岡島遺跡（『愛知県遺跡分布地図（II）』による遺跡番号は55074）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は国道23号バイパス建設に先立つもので、建設省中部地方建設局名四国道工事事務所より愛知県教育委員会を通じ委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間は1986年度・1989年度～1991年度であり、調査面積は19000㎡である。
4. 調査担当者は以下の通りである。

86年度 平田陸美（本センター主事・現愛知県立松蔭高校）・池本正明（本センター主事）

89年度 山田基（本センター主事・現刈谷市立衣浦小学校）・松田訓（本センター嘱託員）・北村和宏（本センター調査研究員・現愛知県立岡崎西高校）・川井啓介（本センター主事）

90年度 大橋正明（本センター主事）・池本正明・鈴木正貴（本センター主事）・尾野善裕（本センター嘱託員・現名古屋市長台考古資料館）

多治見 91年度 野本欽也（本センター主査）・池本正明

5. 調査に際しては、次の機関から指導・協力を受けた。

愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター・建設省中部地方建設局名四国道工事事務所・西尾市教育委員会

6. 遺物の整理・製図などについては、次の方々の協力を得た。

阿部小百合・市川浩代・加藤ちか子・河野実佳子・佐野香恵・清水真理子・中島由美子・中山記久子・中村明実・服部恵子・巖田久子・山本章子（五十音順・敬称略）

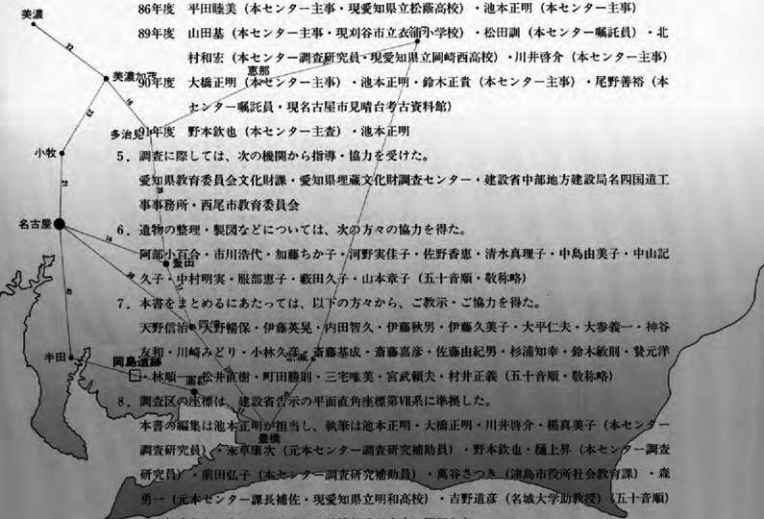
7. 本書をまとめるにあたっては、以下の方々から、ご教示・ご協力を得た。

天野信治・野野橋保・伊藤英晃・内田智久・伊藤秋男・伊藤久美子・大平仁夫・大参養一・神谷友和・川崎みどり・小林久彦・斎藤基成・斎藤嘉彦・佐藤由紀男・杉浦知幸・鈴木敏則・賢元洋一・林順一・松井直樹・町田勝則・三宅唯美・宮武頼夫・村井正義（五十音順・敬称略）

8. 調査区の座標は、建設省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠した。

本書の編集は池本正明が担当し、執筆は池本正明・大橋正明・川井啓介・橋真美子（本センター調査研究員）・末草康次（元本センター調査研究補助員）・野本欽也・樋上昇（本センター調査研究員）・前田弘子（本センター調査研究補助員）・萬谷さつき（津島市役所社会教育課）・森勇一（元本センター課長補佐・現愛知県立明和高校）・吉野道彦（名城大学助教授）（五十音順）が、担当した。なお、それぞれの執筆部分は文末に明記した。

9. 調査に係る資料はすべて愛知県埋蔵文化財調査センターにて保管している。



第 I 章 調査概要

第 1 節 調査経緯・経過

建設省名四国道工事事務所では、交通量調整を目的とした国道 23 号知立バイパス建設を計画している。ところがこの予定用地内には弥生時代の集落遺跡である岡島遺跡が所在しており、事前に発掘調査を実施し、記録保存する必要性が認められた。このため新国道建設に先だって調査実施が計画され、建設省中部地方建設局名四国道工事事務所から愛知県教育委員会を通じて委託をうけた財団法人愛知県埋蔵文化財センターがこれを実施した。本書は、この成果をまとめたものである。

調査の原因

調査は、昭和 61 年度の試掘による範囲確認を皮切りに、平成元年度～三年の三ヶ年におたって、地下水位の低下する冬季に実施した。調査区は、新国道建設用地を横切る岡島町 4 号線排水路と、市道尾花岡島線を境界に、西側から平成元年度分、二年度分、三年度分とした。なお、作業にあたっては、これらをさらに排土などの関係で、それぞれ南北に二分割して実施した。調査区の名称は各年度とも北側を A 区、南側を B 区とした。調査区の総面積は 19000 m² である。調査方法は現地表面から表土のみをバック・ホウにより除去したのち、建設省告示によって定められた平面直角座標第 VII 系に準拠した 5 m グリッドを設定し、手掘りで包含層を掘削して遺構を検出する方法をとった。なお、今回の調査ではこの作業を概ね 2 回実施している。本書では、表現上必要な場合のみ、調査区名に第 2 項目としてアラビア数字を、上層検出面（以下、上面）に 1、下層検出面（以下、下面）に 2 を付与して表現している。なお、調査に要した日程などは、図 1 に示した工程による。遺構の測量については、ヘリコプターによる航空写真測量を実施し、調査区全面の 1/50 基本平面図を作成したほか、重要部分については補助測量図を手掘りにより実施した。

年度	調査区	担当者	期 間
89	A	山田 和夫 北村 豊 川井 啓	12 → 2月
	B	山田 和夫 北村 豊 松田 昌 川井 啓	3月
90	A	1 面	9 → 11月
		3 面	12 → 2月
	B	1 面	1 → 2月
		3 面	3月
91	A	野本 政也 池本 正明	12 → 1月
	B	野本 政也 池本 正明	2 → 3月

図 1 調査進行表

また、調査参加者は、以下の通りである。

調査参加者

青山辰雄・青山千代子・浅井あや子・朝岡せつ子・浅井 倫・天野昭英・荒川喜代蔵・
芦田弘子・伊沢八重子・石川陽子・磯部艶子・若瀬米子・稲吉秀英・宇野光秋・
遠藤フミ子・太田兎志子・太田美知子・大竹つや子・大竹礼子・大西 稔・岡野 寛・
岡安信次・小栗八重子・小野倉二・加藤はま江・蟹江よし子・小里基佐子・小塚雪江・
紺道朝子・近藤敏夫・後藤照子・柳原猶子・菅尾恵理子・佐野栄作・佐原徳二郎・
志賀一三・杉浦集一・杉浦みどり・杉山幸子・杉山 倫子・杉山美枝子・鈴木京美・
鈴木 勉・鈴木昌子・鈴木まち子・鈴木明子・鈴木英子・鈴木みさき・須見孝子・
高橋文雄・高原 三郎・谷川綾子・都築加代子・上田千枝子・手嶋キヨ子・富川 通代・
内藤富子・中井みつえ・中根己代治・永山 勇征・名倉百合子・鍋田 一雄・久永はるみ・
日高美代子・平岩 駒二・平野フミエ・平松ゆみ子・藤村志げ子・星野安信・堀場 節子・
牧 ミツエ・増田洋子・松田 和子・三浦悦子・三浦サエ子・三浦まつ・村井正義・
森嶋澄江・山本昭吾・山北チヨ子・渡辺スミエ・中根良雄・野々山弘子

(五十音順・敬称略)

出土遺物の一次整理(洗浄・注記段階)の参加者は、以下の通りである。

伊佐治民子・稲垣智子・加納かず子・齋藤夏美・新美厚子・久米弘子・堀田加代子・
三輪はつえ(五十音順・敬称略)

(池本正明)





图2 调查区位置图

第2節 歴史的環境

岡島遺跡の位置する西尾市東部地域の遺跡分布を見てみると、弥生時代の集落跡である岡島遺跡及び毘沙門遺跡が沖積地の自然堤防上に位置している点を除いては、中世以前の遺跡はいずれも碧海台地縁部または丘陵上に立地している。これが中世以降になると、沖積地の開発ともない、台地上から沖積地へと広がりを見せるようになる。

具体的な遺跡により上記の面を補足するならば、当地域最古の遺跡は、八ッ面山西南麓台地上に位置する新御堂貝塚であり、縄文時代中・後期の土器が出土している。この地区には時代的には弥生時代中・後期まで下がるが、松崎八反田遺跡・熊子山遺跡が立地しており、一連の集落跡を考えることができる。

また岡島遺跡の北部地域には、方形周溝墓が検出された西山古墳下層遺構、小島銅鐸出土地、丘陵上の環濠集落とみられる不毛遺跡群、五砂山頂上に鉄製農具類を出土した5世紀後半に築造されたと思われる五砂山古墳、葦石・形象埴輪の存在が確認された西山古墳などが位置している。さらに136基の小円墳からなる羽角山古墳群や金屑古墳が立地している。羽角山古墳群は6～7世紀代に構築された群集墳で、横穴式石室を伴う小円墳が多い。そして矢作古川右岸の西南山麓の丘陵斜面に位置する舟向山古墳は横穴式石室をもつ古墳である。

古代・中世に至っても岡島遺跡周辺には、多くの遺跡が存在している。須恵器が出土する古代集落遺跡である志賀野遺跡、志賀野廃寺と呼ばれる古代布目瓦散布地、古代から中世にかけての集落と考えられる八ッ面山北部遺跡、そして古代の灌漑施設の一部に利用されていたと推定される木樋が出土している室遺跡、さらに八ッ面城・戸ヶ崎城・室城をはじめとする中世城館も構築されている。

上述のように、岡島遺跡の周辺は原始・古代以来連続と人々の居住域として歴史を刻み続けているのである。(川井啓介)

No	遺跡名	備考	No	遺跡名	備考
1	岡島遺跡	S 52年度西尾市教委、 S 62・H 1・2・3年度(財)愛知県埋文センター調査	10	室遺跡	H 3年度(財)愛知県埋文センター調査
2	加美遺跡	S 63年度(財)愛知県埋文センター調査	11	毘沙門遺跡	
3	志賀野遺跡	S 62・63年度(財)愛知県埋文センター、 H 1年度西尾市教委調査	12	小島銅鐸出土地	
4	八ッ面北部遺跡	H 2・3・4年度西尾市教委調査	13	西山古墳	S 63年度西尾市教委調査
5	志能谷遺跡		14	五砂山古墳	S 63年度西尾市教委調査
6	小島遺跡	H 1年度(財)愛知県埋文センター調査	15	舟向山古墳	
7	松崎八反田遺跡		16	三本木山古墳	S 43年度西尾市教委調査
8	熊子山遺跡		17	金屑古墳	S 53年度西尾市教委調査
9	新御堂貝塚	S 48・49・56年度西尾市教委調査	18	志賀野廃寺	

※ Sは昭和、Hは平成を表す。



図3 阿島道路と周辺の道路
この地図は国土地理院発行の2万5千分の1
地形図「西尾」を使用したものである。

第3節 地理的環境

岡島遺跡は、愛知県西尾市岡島町・江原町にかけて立地する弥生時代中期から後期にかけての集落遺跡である。その面積は推定 20,000 m² におよび、弥生時代の三河地方を代表する遺跡といえよう。ここでは、その立地を地形学的・地質学的に簡単に整理しておく。

地形学的には、東側を三河山地南西端の轆豆山塊、西側を碧海台地に挟まれた北東から南西方向に延びる岡崎平野に属し、その肥沃な大地は稲作をはじめとして多くの人々の生活に最適な場を与えてきた。

岡崎平野は、地質学的には、矢作川により形成された沖積平野で、沖積層の厚さは矢作川河口で 20 m 以上に達する。岡島遺跡の基盤層としての沖積層は、珪藻化石・貝化石などを分析した森ほか(1990)により詳しく報告されている。この報告によれば、岡島遺跡周辺の地下には、内湾性の安定した海域に堆積したと思われるシルト層が厚く堆積している。この事実は、約 9000~8000 年前にはじまり、アカホヤ火山灰(K-Ah)降灰時期(6300 y. B. P.)付近にピークを迎える縄文海進の頃には、岡島遺跡周辺は、三河湾の一部、あるいは矢作川の河口部となっていたことを示唆する。縄文の海はその後、矢作川の大量の堆積物供給により急速に埋め立てられ、遺跡周辺は、干潟環境を経ることなく河成氾濫域に移り変わった。縄文時代後期から晩期の頃には、岡島遺跡周辺は後背湿地性の湿地帯が広がり、さらに弥生時代前期にかけて、湿地は次第に縮小し草原的環境に遷移し、岡島遺跡の最盛期である弥生時代中期を迎える。しかし、弥生時代後期には矢作川の洪水が頻発し、遺跡は廃絶された。

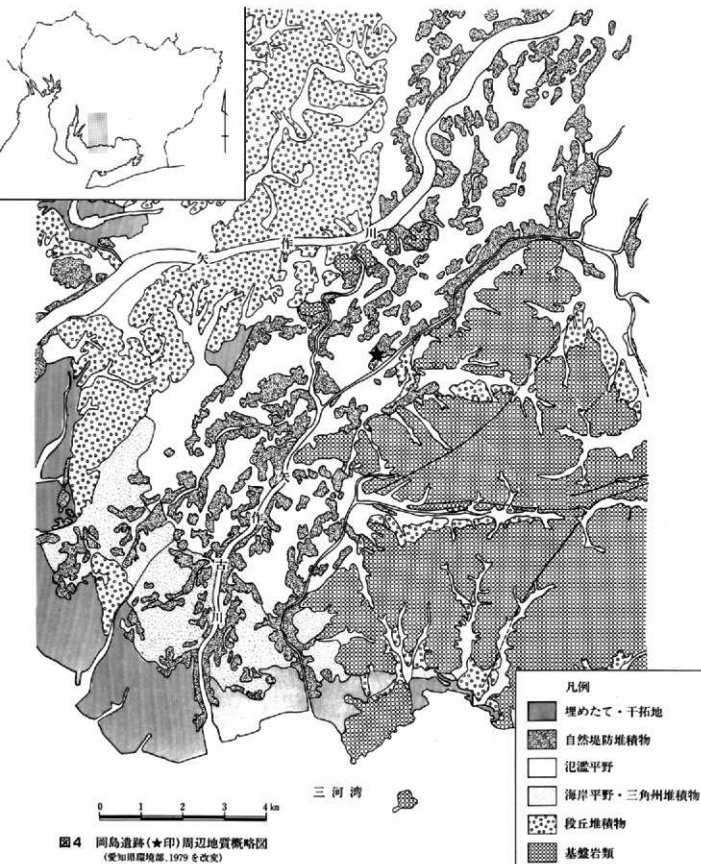
以上が、森ほか(1990)により報告された岡島遺跡周辺の古環境の変遷の概略であるが、ここで、今回新たに岡島遺跡周辺の地質概略図(第4図、愛知県環境部、1979より作成)をもとに、岡崎平野の形成に関する時期と旧地形の問題点を指摘しておく。それは濃尾平野における森(1992)や服部(1993)の指摘する浜堤列の存在である。岡崎平野においても濃尾平野に対応する浜堤列が存在する可能性が高い。岡崎平野は、縄文海進後の海退により、矢作川の三角洲として急速に埋積されたことはすでに述べたが、その際に現在の海岸線と平行する浜堤を形成していたと考えられる。その1つの可能性として第4図に示した、氾濫平野の堆積物と三角洲の堆積物の境界付近にみられる微高地があげられる。この微高地は、見かけ上、旧矢作川の自然堤防の高まりであるが、その延びの方向は必ずしも流路方向と一致しない。このほかにも、地中に埋没した浜堤存在の可能性が考えられる。いずれにしても、この問題については、遺跡と海岸線の間を知るためにも、今後さらにくわしく検討する必要がある。(服部 俊之)

引用文献

- 愛知県環境部(1979)地質図Ge-04(渥美半島一岡崎周辺地域)、愛知県環境利用適性調査。
服部俊之(1993)遺跡基盤層の粒度分析、(財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第45集「山中遺跡Ⅱ」、

森勇一・伊藤隆彦(1990)岡島遺跡周辺の古環境の変遷。(財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第14集「岡島遺跡」,102-106.

森勇一(1992)朝日遺跡およびその周辺の地質と古環境。(財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第31集「朝日遺跡Ⅱ・自然科学編」,9-40.



第4節 岡島遺跡の調査小史

発掘調査史 岡島遺跡は今日まで数回にわたって発掘調査が実施されている。ここでは、従来の成果をまとめておきたい。まず岡島遺跡がその名を知られたのは、三河地震に伴う災害復旧工事（昭和29年）で、新たに設定された岡島町4号線排水路の掘削工事中に岡島町地内において多量の土器が出土したことによる。この資料は、西尾市立三和中学校（現在の東部中学校）に持ち込まれ、その後同校で保管されることとなる。東部中学にはこの他に、昭和41年に実施された岡島町4号線排水路床下げ工事の排土中から採集された資料も保管されている（神谷他 1972）。これらの資料は今回実見・図化することができた。図示したものは21点で、弥生時代後期のものが主体であり、中期のものが若干これに加わる。1～9は壺。1はいわゆるパレス壺。底部を欠損する。胴部は、赤彩される。口縁部は短く外反し、口端で縁帯を形成する。文様は、口端に凹線文、口縁部上面にヘラによる刻目文、肩

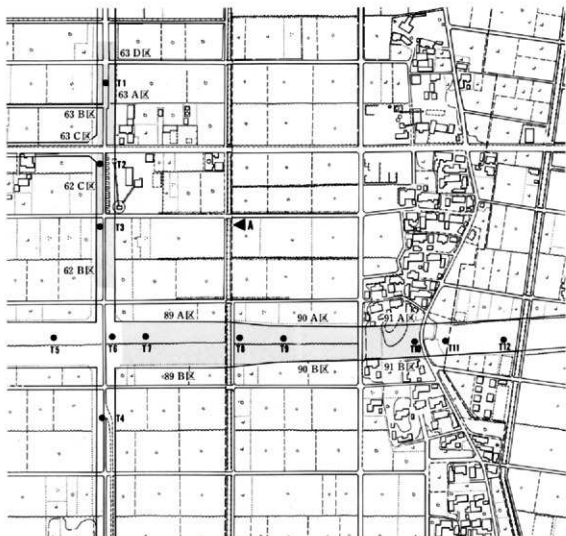


図5 過去の調査区

部にクシによる直線文と刻目文を交互に施す。2・4は口縁部を欠損する。外面の調整は、手法C a（第三章第1節参照）による。文様は、2が肩部にクシによる波状文と直線文を交互に重ね、4はやはりクシによる直線文と扇形文を施す。5は口縁部片。頸部がやや長く、強く外反する口縁部をもつ。文様は、口縁部にヘラによる刻目文を施す。6・7は小振り。外面の調整は、手法C aによる。8は口縁部片。口縁部は短く外反し、口端で縁帯を形成する。文様は、口端に凹線文、肩部にクシによる直線文を施す。9は肩部片。クシによる直線文を施す。10~16は高杯。16を除き、外面の調整は、手法C a。11は赤彩される。17・18は甕。17は球形の体部に、外反する口縁部をもつ。外面の調整は手法D b。18は台部片。体部との接合部分が「柱」状に発達する。20・21はミニチュア。19は器種不明。手法A aによる。

岡島遺跡で正式な発掘調査が開始されたのは、昭和52年度のこと、西尾市教育委員会により昭和47年から開始されていた果園圃場整備事業にともなって実施された。その結果、環濠を想定させるような溝が検出されたほか、これに伴う弥生時代後期を中心とする遺物が多数出土した。

昭和50年代代にはいと、西尾市周辺に道路網整備計画が活発化し、岡島遺跡の範囲内に果道藩部・碧南線と、国道23号知立バイパスが岡島遺跡の南東部分で交差する形で計画された。これに先立ち、本センターは予定用地内での遺跡の範囲確認を目的とした試掘調査を実施した(池本 1987)。その結果、遺跡の範囲は現在の岡島町・江原町を中心とし、果道藩部・碧南線建設用地をほぼ西限、国道23号知立バイパスの予定用地をほぼ南限とし



図6 岡島遺跡遠景



図7 岡島遺跡中心部分



図8 岡島町4号線排水路



図9 愛知県埋蔵文化財センター調査区62C区

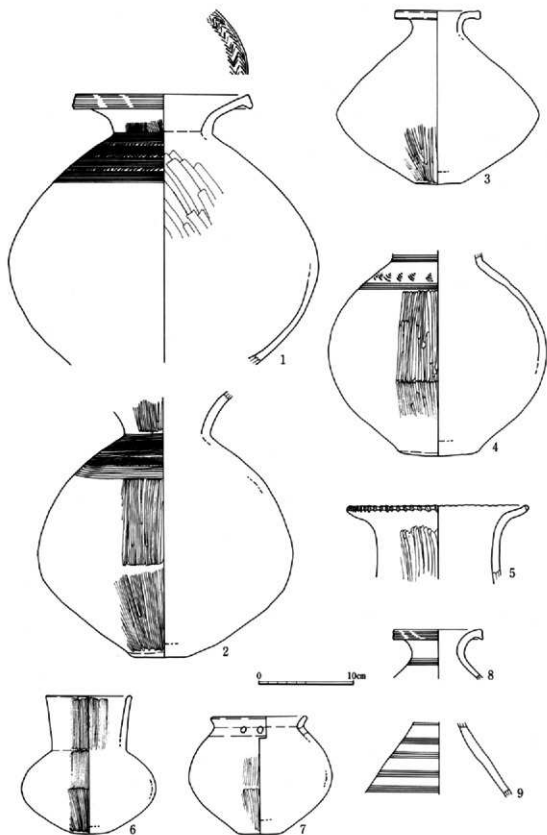


図 10 西尾市立東部中学校保管遺物 1

て存在していること、県道藩部・碧南線建設用地以西と、国道23号知立バイパス予定用地内の岡島町集落以東には、大規模な谷が存在していたことなどが明らかとなった。図12に示す遺物は、この時点の出土遺物である。掲載資料はT、1～4までの出土遺物で、県道藩部・碧南線建設用地からの出土である。22は壺。肩部片。外面の調整は手法D a。突帯を巡らす。23・24も壺。形状は類似する。腰部に焼成後穿孔を施す。外面の調整は、いずれも手法C a。文様は口縁部上面に円形浮文を施すが、24は肩部にクシによる扇形文も施す。25・26も壺。小振り。外面の調整は、25が手法E a、26が手法C aによる。

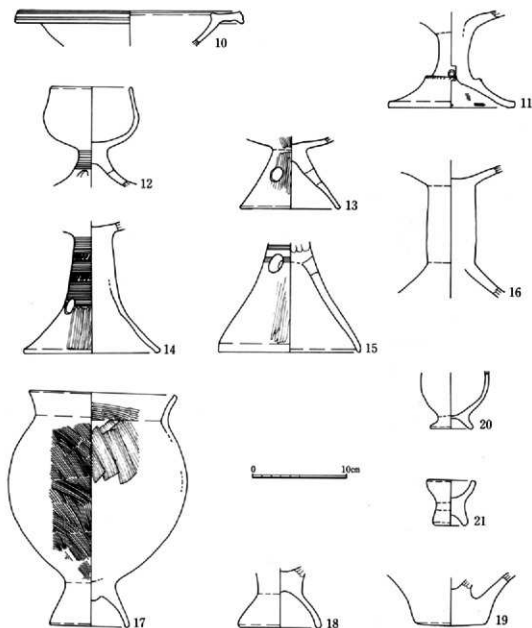


図11 西尾市立東部中学校保管遺物 2

昭和62・63年には、前年度に実施された試掘調査の成果をもとに、県道番部・碧南線建設用地内の発掘調査を実施した。この時の調査は総面積6900㎡とやや広範囲で、弥生時代中期を中心とする多量の遺物が層位を成して出土している。特にSD24・25と呼称した大規模な溝の埋土中から、従来瓜壺式・古井式などと呼称されてきた土器群が大量に出土したことは注目できる。なお、SD23・24は、切り合い関係を持っており、これらの前後関係が層位的にも検証できたほか、厚さ30cm程度の間層(本書第II章で説明する灰黄色粘質土に該当。)を挟んだ上方のSX02・03からは、従来長床式と呼称されてきた土器が出土している。図13・14に示すものが報告書(『岡島遺跡』1990 愛知県埋蔵文化財センター、以下「県道報告」と省略する。)掲載資料の一部で、27~34がSD30、35がSD30・35がSD14、36~42がSD29、43~58がSD24、33がSD26、34~47がSD25、48~57がSX08、58~66がSX02出土である。これらはいずれも、有効空間を岡島遺跡に限定した弥生時代中期の土器編年(池本1990)の基準資料とされるもので、それぞれSD29・30、SK14がI期、SD24がII期、SD24・25がIII期、SX02・09がIV期に該当している。なお、各時期の具体的内容を要約すると以下の通りとなる。まずI期は、いわゆる「条痕文系土器」の一群で、SK14、SD29資料にはヘラもしくは竹管による文様を付加する例も含まれる。次にII期・III期は「櫛描文系土器」で、II期がクシによる文様のほかヘラによる文様も多用し、III期はササラもしくはホウキのような柔軟性に富んだ特殊な原体を用いた櫛描文を多用する時期。最後のIV期は「凹線文系土器」がIII期以来の土器に一定量加わる様相を呈する一群と理解された。なお、この中で特にI期とした一群については出土量の関係から組成が明確にはで

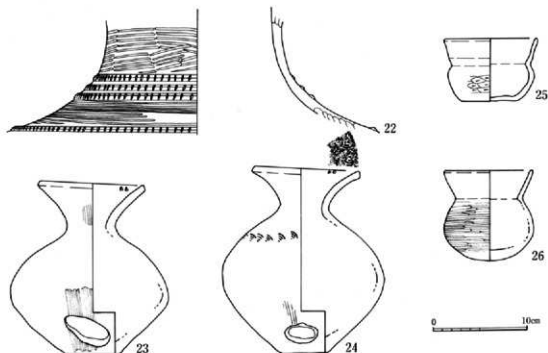


図12 愛知県埋蔵文化財センター試掘調査出土遺物

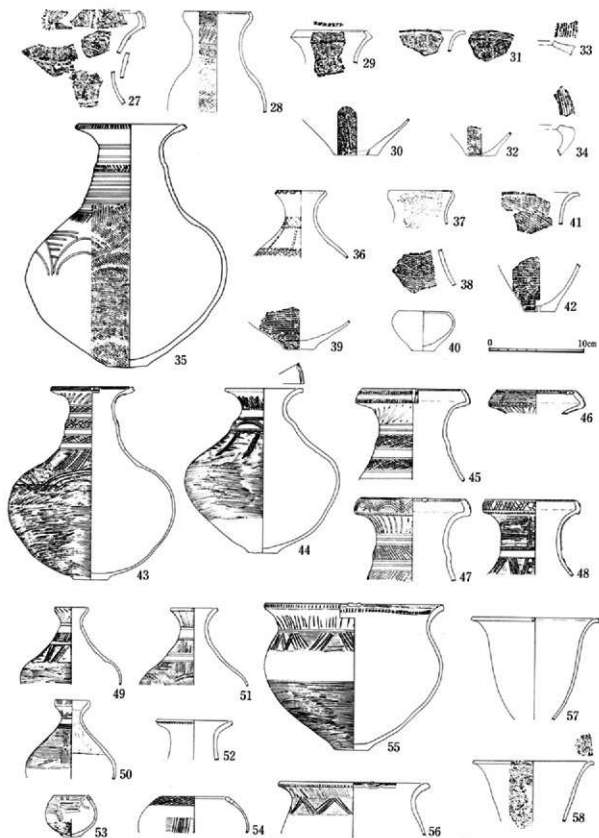


図 13 早道藩邸・碧南線用地内出土遺物 1

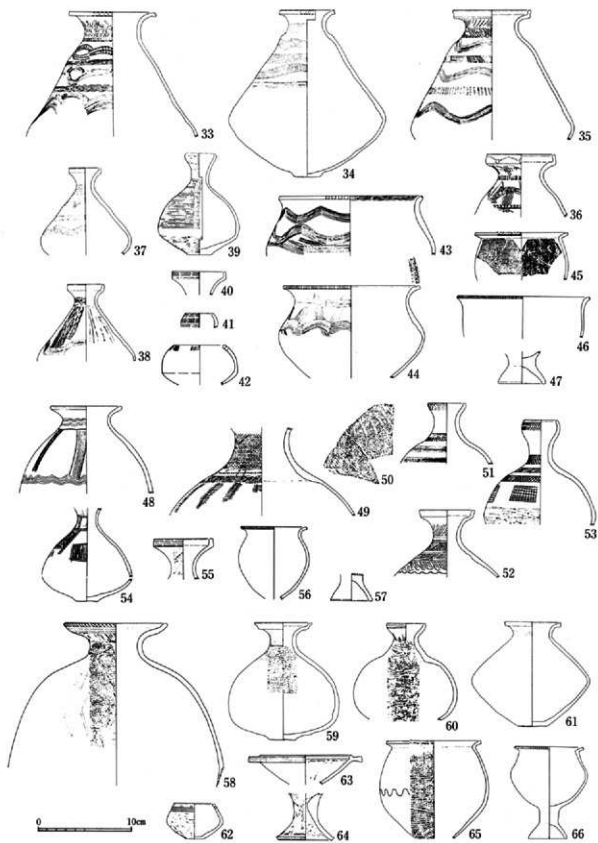


図 14 果道藩郡・碧南線用地内出土遺物 2

きなかったほか、その時期区分についての問題点も指摘された（石黒 1990）。

平成元年度からはやはり本センターは、国道23号バイパス予定用地内の調査を開始し、本書がその報告書である。 (池本正明)

参考・引用文献

- 池本正明 1987 「岡島遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター 年報 昭和61年度』
愛知県埋蔵文化財センター
- 1990 「岡島Ⅰ～Ⅳ期の設定」 「岡島遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター
- 1991 「岡島遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター 年報 平成2年度』
愛知県埋蔵文化財センター
- 1992 「岡島遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター 年報 平成3年度』
愛知県埋蔵文化財センター
- 1992 「岡島遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』6 愛知県教育委員会
- 石黒立人 1990 「弥生中期土器にみる複数の系」 『考古学フォーラム』1
愛知考古学談話会
- 神谷和正他 1972 『西尾市史』一 西尾市史編纂委員会
- 川井啓介 1991 「岡島遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』6 愛知県教育委員会
- 野口哲也 1987 「岡島遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター 年報 昭和62年度』
愛知県埋蔵文化財センター
- 1988 「岡島遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター 年報 昭和63年度』
愛知県埋蔵文化財センター
- 1989 「岡島遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』4 愛知県教育委員会
- 樋上 昇 1990 「岡島遺跡」『愛知県埋蔵文化財情報』5 愛知県教育委員会
- 福岡晃彦他 1990 「岡島遺跡」『愛知県埋蔵文化財センター 年報 平成元年度』
愛知県埋蔵文化財センター

第II章 遺跡

第1節 基本層序

前章で述べたように、調査区周辺には土地改良時に盛土を伴う整地が加えられている。従って、この整地層以下が旧地表の堆積層となる。これは大きく5つに区分される。まず、この最上部を覆う旧表土部分であるが、これは概ね耕作土である。これを第I層と呼称する。第I層の下層には黒色粘質土で構成される包含層が堆積している。これを第II層と呼称する。第II層の下層は、黒褐色土1で構成される包含層が確認できる。これを第III層と呼称する。第III層の上面は検出面（第1面）である。第III層の下層には、灰黄色粘質土が堆積し、これを第IV層と呼称する。第IV層の上面は検出面（第2面）となる。第IV層の下層にはさらに黒褐色土2で構成される包含層が存在する。これを第V層と呼称する。第V層の下層には灰オリブ色シルトが存在する。この上面が検出面（第3面）で、岡島遺跡の基盤である。これを第VI層と呼称する。

以上が基本層序であるが、今回の調査区は東西約200mに及び、各調査区ともそれぞれ若干の特色をもった、堆積状況となっている。まず、89年度調査区では第IV・V層が不明瞭となるのが特徴となる。90年度調査区では旧表土上面を覆う整地層が基本的には存在しない。また、調査区東側部分では、第VI層上面が大きく落ち込み谷地形を形成する。埋土には荒砂層なども存在し、ここに河道の存在を確認できることが特色としてあげられる。また、91年度調査区では、西側部分で第VI層上面が落ち込み、90年度調査区で確認できた谷地形の対岸部分が検出されている。また、91年度調査区は現在の岡島町集落部分に該当し、調査区の東側部分では第I層の上部に大規模な整地層が確認された。

検出面

基本層序の説明で触れたように、今回の調査区は、時期を違えた3つの検出面を把握することができた。ここではこれらを上面から第1面・第2面・第3面と呼称し、記述を進めることとする。

第1面

90年度調査区以東に分布し、メインセクションでの検出状況からは、第2面の上を覆う黒褐色土1層の上部が検出面となっている。ただし、89年度調査区を除いて、これを面的に把握するのが困難な状況で、90年度調査区ではこれを第2面と同一面で検出している（上面）。第1面の遺構は、平安時代～室町時代の遺構と古墳時代の遺構とに大別できる。前者をA期、後者をB期と呼称する。

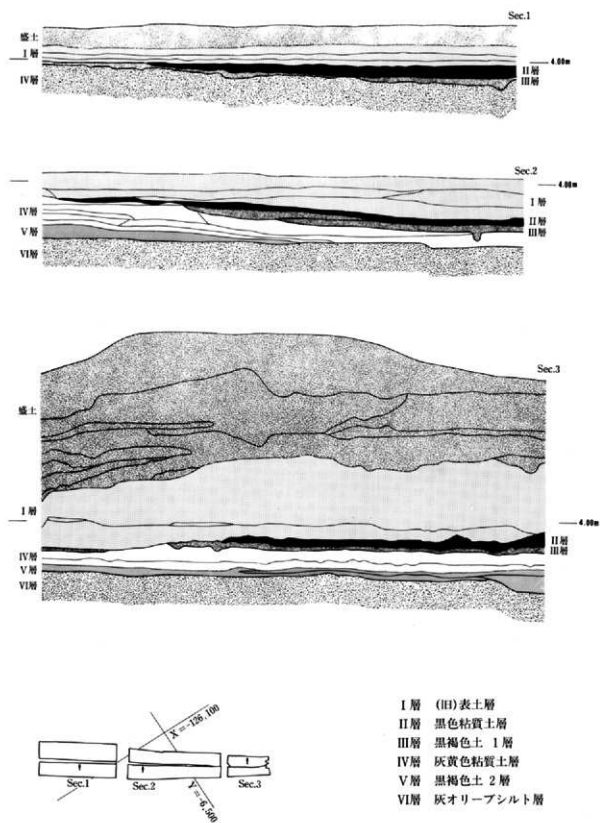


図 15 層位模式図(1 : 80)

第2面

今回の調査区はほぼ全面で検出できた。89年度調査区の下面、90・91年度調査区上面の一部に該当する。検出面は灰黄色粘質土上部である。第2面は、弥生時代中期末～後期に属する検出面で、2時期に区分できる。このうち後期の遺構は、方形周溝墓数基と、土坑群により形成される。これらをC期と呼称する。また弥生時代中期末頃に属するものは、90年度調査区の東部で検出された旧河道を挟んで、91年度調査区では居住域、89・90年度調査区では方形周溝墓と土器棺墓群で構成される墓域を検出している。これをD期と呼称する。

第3面

黒褐色土2層の下に分布する灰オリーブシルト層直上が検出面である。90・91年度調査区に分布するが、90・91年度調査区東部に所在する旧河道を挟んだ付近に濃密に分布している。ここでは、これらの遺構群については、時期的なまとまりから、90年度調査区と91A区北側部分に分布する遺構群をE期、90年度調査区東部分で検出された旧河道以東のみに分布する遺構群をF期と呼称する。なお、「県道報告」では今回E・F期とした遺構群が、63A区でレベル差をもって検出されたことが報告されている。

第1面	A期	掘立柱建物 土坑 溝	S B01 S K01 S D02		
	B期	方形周溝墓 土坑 溝	S Z01～04 S K02 S D03・04	土器集積遺構	S X01・02
第2面	C期	方形周溝墓 井戸 土坑	S Z05 S E01 S K03	溝 土器集積遺構	S D05 S X03・04
	D期	竪穴住居 方形周溝墓 土器棺墓	S B05 S Z06～09 S Z10～32	土坑 土器集積遺構	S K04～09 S X05
第3面	E期	土坑 溝	S K10 S D07		
	F期	方形周溝墓 土坑 土器集積遺構	S Z33～36 S K11～30 S X06		

図16 主要遺構時期区分

第2節 遺構

①遺構の分類

以下、具体的な遺構についてA期から順に記述を進めるが、記述の煩雑さを避けるため、土坑の種類・土坑については、若干の分類を試みる。

土坑

土坑は形状から3つに区分される。

土坑a 平面形が正方形ないし長方形で竪穴住居に類似するもの。ただし支柱穴は検出されていない。

土坑b 大型の土坑で、面積は2㎡以上。平面形は、円形を基本とするが、方形ないし不整形のものもある。さらに二分できる。

土坑b₁ 面積の割に深いもの。検出面からの深さが20cm以上。

土坑b₂ 面積の割に浅いもの。検出面からの深さが20cm未満。

土坑c 小型の土坑で、通常面積1㎡以下。平面形は、円形を基本とするが、方形ないし不整形のものもある。さらに二分できる。

土坑c₁ 面積の割に深いもの。検出面からの深さが20cm以上。

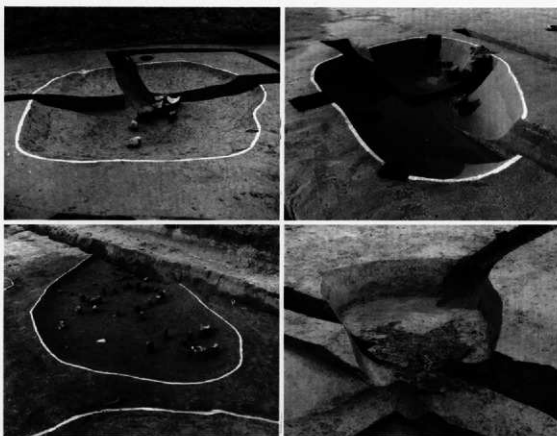


図17 各土坑(左上・土坑a、右上・土坑b₁、左下・土坑b₂、右下・土坑c₁)

土坑c₂ 積の割に浅いもの。検出面からの深さが20 cm未満。

溝

溝は形状から2つに区分される。

溝の種類 溝a 長さが10 mを越える大規模な溝。

溝b 長さ10 m前後の溝。

②第1面

A期の遺構 A期

A期の遺構には掘立柱建物・土坑c₁・溝bなどがある。

掘立柱建物

SB 01

90 B区で検出された。梁行は3.0 m (2間)、桁行4.5 mが(3間)で、柱穴を9ヶ所確認した。柱通りは不良。出土遺物は得られなかった。

土坑c₁

SK 01

90 B区中央部分で検出した。超大型の土坑。埋土中から灰釉系陶器・土師器・施釉陶器(123~136)などが出土している。

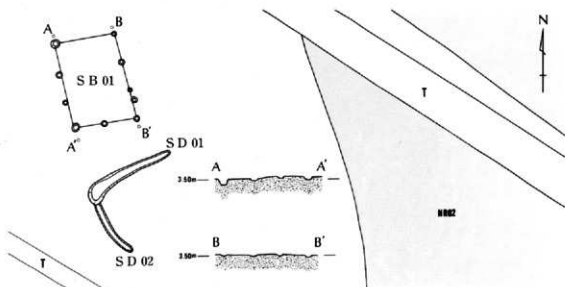


図 18 SB 01(1:200)

溝 b

SD 01

全長 4.9 m を検出した。SB 01 の梁行に方向が類似する。埋土中から灰釉系陶器広口瓶 (137) が出土している。

SD 02

全長 3.2 m を検出。SD 01 に西端部分が破壊されている。

B 期

B 期の遺構

B 期の遺構には方形周溝墓・土坑 a₂・溝 a・同 b・土器集積遺構がある。

方形周溝墓

SZ 01

陸橋部を北東にもつ。南側部分は調査区外となる。調査区壁面の観察から墳丘を有していたことが判明した。出土遺物には古墳時代の土師器 (93・94) がある。

SZ 02

陸橋部を北西にもつ。形状はやや歪む。SZ 01 に西側部分が破壊されている。出土遺物は得られなかった。

SZ 03

南側部分は調査区外となる。出土遺物には図示してはいるが、土師器壺片がある。

SZ 04

形状はやや歪む。SZ 03 に北側部分が破壊される。図示してはいるが、出土遺物には土師器壺片がある。

土坑 a₂

SK 02

89 A 区で検出した。埋土は炭化物を多量に含み、これに土師器壺の小片が多量に含まれていた。接合作業により形状がある程度判明した 3 点 (110~112) を図示した。このほか出土遺物としては銅鏃 (209) が 1 点ある。

溝 a

SD 03

89 年度調査区西側部分で検出された。ほぼ南北方向をとる。端部はいずれも調査区外となる。出土遺物には古墳時代の須恵器杯蓋 (122) がある。

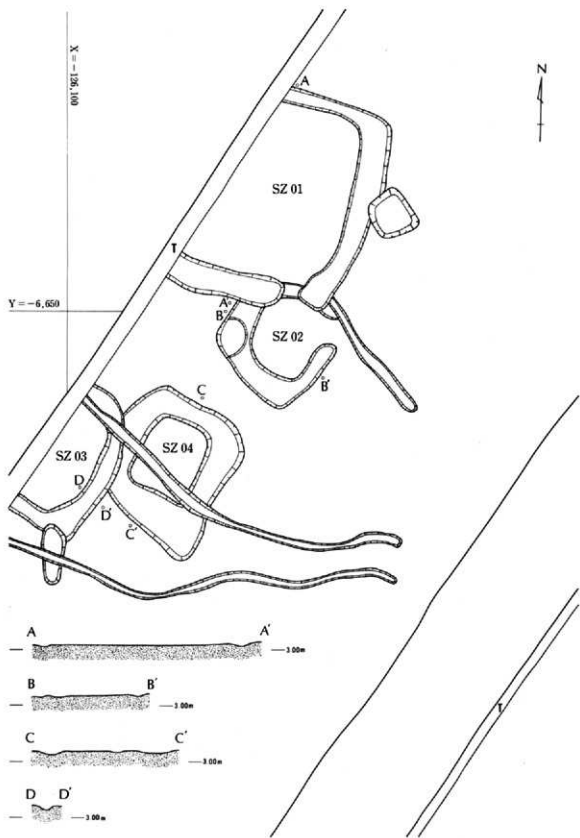


図 19 SZ 01~04 (1 : 200)

溝b

SD 04

面積 16 m²程度の範囲を、四角く区画している。規模から判断して、竪穴住居の周溝部分である可能性が大きい。出土遺物には古墳時代に属する土師器甕 (12) がある。

土器集積遺構

SX 01

NR 01 の 89 A 1 区南側部分、西岸の川肩がやや突出する位置で検出された土器集積遺構。古墳時代の土師器 (95~109) が、若干のレベル差をもって出土している。

SX 02

90 B 2 区で検出された。SD 07 が埋没する過程の残存する窪地に堆積した土器群 (114~116)。数量的には乏しいが、いずれも古墳時代に属する。

③第2面

C期

C期の遺構

C期の遺構には、方形周溝墓・井戸・土坑b₂・溝a・土器集積遺構がある。

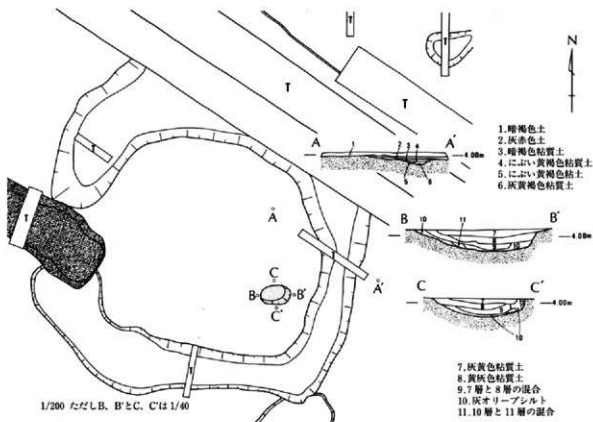


図20 S Z 05

方形周溝墓

SZ 05

90 B区で検出された。北側周溝と北東コーナー部分は調査区外となる。規模は一辺9～10 m程度。西側の周溝中央部分に陸橋部をもつ形状で、下図に表現する周溝部分を含めた断面図の観察から、墳丘を有していたことが確認できる。主体部は、墳丘南東隅で1ヶ所検出できた。プランは楕円形で、長径1.3 m、短径1.0 mをはかる。

ただし、棺の痕跡は確認できなかった。なお、埋土については脂肪酸分析を実施しており、結果を本書 ページに記述した。出土遺物は弥生時代後期に属し、周溝及び主体部埋土中から若干を得ている (210～219)。

井戸

SE 01

90 B区で検出された。プラン楕円形の「摺鉢」状の土坑で、全体の形状は90 A区との境界部分に所在する生活排水路下に伸び、明らかにはできていない。壁面はなだらかな傾斜をもつ。底部には帯水層を打ち抜き、長径5.0 m、短径2.8 m、深さ0.8 mの土坑を設置している。南側には「テラス」状の施設を設定する。埋土中から弥生時代後期の土器がややまとまって出土 (220～224・226) したほか、上層では古墳時代の土器 (225) も若干これに加わっている。埋土の状況が特に上層部分では自然埋没の様相を呈していたことから、古墳時代の土器については自然埋没時の混入と判断される。

土坑b₁

SK 03

90 A区で検出された。北側部分は調査区外に及び全体の形状は不明。溝である可能性も残される。出土遺物には弥生土器 (227～240) がある。

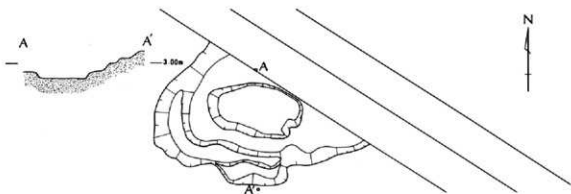


図 21 SE 01(1 : 200)

溝 a

SD 05

90 A区南東部分で検出された。幅 0.9 mをはかる。全長は、9.4 mを検出したが、西側部分は 90 B区との境界部分に所在する生活排水路下に伸び、東側の端部はトレンチで破壊してしまった。出土遺物には弥生土器（241・242）がある。なお、241・242 は近接して出土している。

土器集積遺構

SX 03

89 A区北側部分で検出された。NR 03 の東岸部で検出された。ほぼ完形のミニチュア品が多く、土器を「立て並べた」ものが倒壊した結果である可能性が高い。

出土遺物には弥生土器（243～275）がある。

SX 04

後述するSX 05 上面に堆積する土器集積遺構。弥生時代後期の土器（276～292）が比較的まとまって出土している。

D期

D期の遺跡

D期の遺構には、竪穴住居・方形周溝墓・土器棺墓・土坑 a・同b₁・溝 a・土器集積遺構がある。

竪穴住居

SB 02

91 B区で検出された。南側が調査区外となる。プランは長方形。規模は確認できた一辺が 5.6 m。床面には柱穴 2 ヶ所と炉のほか、放射状に炭化材が分布し、これは垂木などの

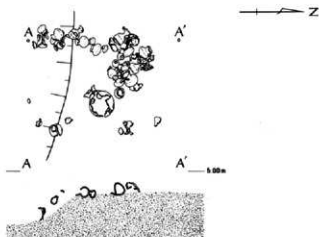


図 22 SX 03(1 : 40)

土器棺墓

89 A・B区と90 B区で22基検出した。使用された土器は、SZ 29が大鉢を利用しているほかはすべて壺である。なお、SZ 32を除き、墓壙は検出できなかった。

SZ 10

89 A区の北東部分で検出された。棺身とする土器を正位で据えている。棺身の充墳土中より別個体の土器小片（体部片）が数点出土しており、棺蓋も存在した可能性が考えられる。棺身は肩部以下が残存する。棺身の外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 11

89 A区の北東部分で検出された。棺身とする土器（349）を正位で据え、別個体の底部片を棺蓋としている。棺蓋の残存状況は不良。棺身は肩部以下が残存する。棺身・棺蓋とも外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 12

89 A区の東部分で検出された。棺身とする土器（351）を正位で据え、別個体の底部を棺蓋（350）とし、これを覆っている。棺身・棺蓋とも肩部以下が残存する。外底部の摩滅痕は棺身にはほとんど認められないが、棺蓋にはこれが確認できる。

SZ 13

89 A区の北東部分で検出された。残存状況は不良。棺身とする土器を横位で据えている。棺身は肩部が残存する。

SZ 14

89 A区の東部分で検出された。棺身とする土器を正位で据え、別個体の部片を棺蓋としている。棺身は肩部以下が残存し、外底部には摩滅痕が認められる。

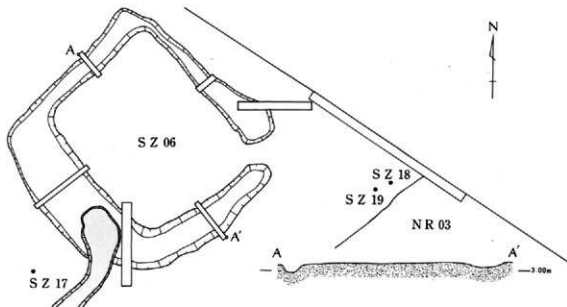


図24 SZ 06(1:200)

のみが残存する。なお、棺身の下胴部に焼成後穿孔を施している。外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 20

89 A区の南東部分で検出された。棺身とする土器(360)を正位で据えている。棺身は胴部以下が残存し、外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 21

89 A区の南東部分で検出された。棺身とする土器(361)を正位で据えている。棺身は胴部以下が残存し、外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 22

89 A区の南東部分で検出された。棺身とする土器(362)を正位で据えている。棺身は胴部以下が残存し、外底部が摩滅している。

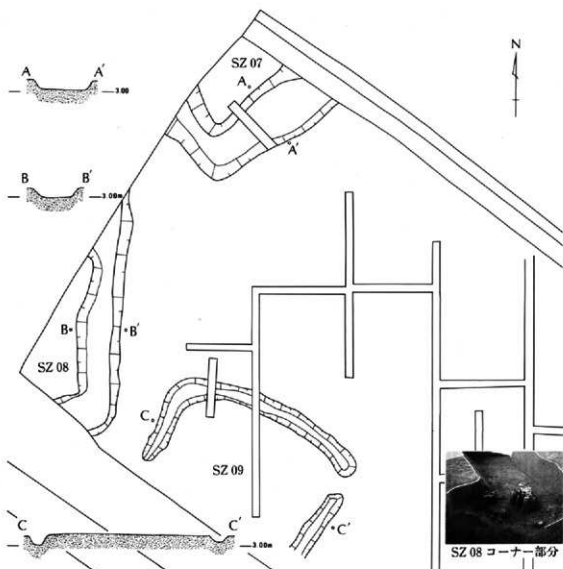


図 25 SZ 07~09(1:200)

部のみ残存する。棺身は外底部が摩滅している。

SZ 18

89 A区の中央部分で検出された。棺身とする土器(357)を正位で据えている。棺身は肩部以下が残存し、外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 19

89 A区の中央部分で検出された。SZ 18に近接する。棺身とする土器(359)を正位で据え、別個体の土器を「入れ子」状の棺蓋(358)としている。棺身は肩部以下、棺蓋は肩部のみが残存する。なお、棺身の下胴部に焼成後穿孔を施している。外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 20

89 A区の南東部分で検出された。棺身とする土器(360)を正位で据えている。棺身は腰部以下が残存し、外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 21

89 A区の南東部分で検出された。棺身とする土器(361)を正位で据えている。棺身は肩部以下が残存し、外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 22

89 A区の南東部分で検出された。棺身とする土器(362)を正位で据えている。棺身は胴部以下が残存し、外底部が摩滅している。

SZ 23

89 B区の北東部分で検出された。棺身とする土器を正位で据えている。棺身は肩部以下が残存し、底部付近に焼成後穿孔が確認される。また、外底部には摩滅痕はあまり認められない。

SZ 24

89 B区の北東部分で検出された。棺身とする土器を正位で据えている。棺身は肩部以下が残存する。外底部の摩滅痕は不明。

SZ 25

89 B区の北東部分で検出された。棺身とする土器を正位で据えている。棺身は腰部以下が残存し、外底部が摩滅している。残存状況は不良。

SZ 26

89 B区の北東部分で検出された。棺身とする土器を正位で据えている。棺身は肩部以下が残存し、外底部の摩滅痕は不明。残存状況は不良。

SZ 27

89 B区の中央部分で検出された。棺身とする土器(363)を天地逆に据えている。棺身は全形が窺え、外底部が摩滅している。

SZ 28

89 B区の中央部分で検出された。SZ 27に近接する。棺身とする土器(364)を正位で据

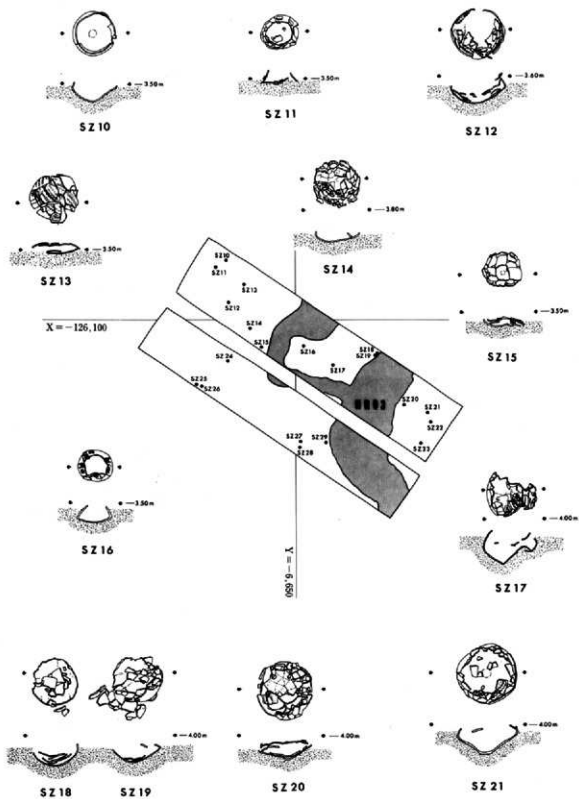


圖 26 土器棺墓 1



SZ 23



SZ 24



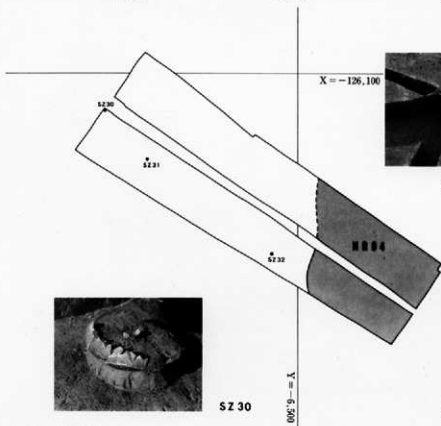
SZ 25



SZ 26



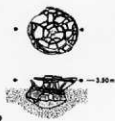
SZ 27



SZ 28



SZ 30



SZ 29

圖 27 土器棺墓 2

えている。棺身は腰部以上が残存する。

SZ 29

89 B区の中央部分で検出された。棺身とする土器(366)をほぼ正位で据え、別個体の土器を棺蓋(365)としている。棺身、棺蓋ともに全形が窺われるほか、煮沸痕を確認できる。また、磨製石斧(1002)が棺身から出土した。なお、外底部の摩滅痕は棺蓋にはほとんど認められないが、棺身にはこれが確認できる。

SZ 30

90 B区の北東部分で検出された。棺身とする土器(367)を正位で据えている。棺身は腰部以下が残存し、外底部には摩滅痕があまり認められない。

SZ 31

90 B区の中央部分で検出された。棺身とする土器(369)を正位で据え、別個体の土器を棺蓋(368)とし、これを覆っている。棺身、棺蓋とも肩部以下が残存し、いずれも外底部が摩滅している。また、充填土の脂肪酸分析を実施し、結果は本書153ページに記述した。

SZ 32

90 B区の中央部分で検出された。残存状況は不良。棺身とする土器を正位で据えている。棺身は腰部が残存する。墓壇は棺身とする土器よりひとまわり大きい円形。直径70 cmを測る。

土坑 a

SK 04

90 A区中央部分で検出された。東側部分をSD 1001により破壊される。出土遺物には弥生土器小片がある。

SK 05

91 A区の中央部分で検出された。プランは台形。北東部分に不整形の土坑が認められる。出土遺物には弥生土器のほか、不整形の土坑中から炭化米が出土している。

SK 06

91 A区中央部分で検出された。北西隅に長径1.1 m、短径0.8 m、深さ0.1 m、プラン楕円形の土坑を設定する。出土遺物には弥生土器がある。

SK 07

91 A区南西部分で検出された。出土遺物には弥生土器小片がある。

土坑 b₁

SK 08

91 A区南側部分で検出した。SD 06に東側を切られる。出土遺物には弥生土器(370)がある。

SK 09

91 A区南西部分で検出された。SK 07 に近接する。出土遺物には弥生土器小片がある。

溝 a

SD 06

91 A区南側部分で検出された。全長 9.5 m、幅 10 cm で、L 字形に屈曲する。

土器集積遺構

SX 05

89 A区のNR 03 東岸部分に大量に集積された土器群。SX 04 の下層に存在する。86 点を図示した (371~457)。

④第3面

E 期

E期の遺跡

E期の遺構はあまり明瞭ではない。土坑c₂・溝aがある。

土坑c₂

SK 10

90 年度調査区の東側部分で検出された。出土遺物には弥生土器 (458~460) がある。

溝 a

SD 07

90 年度調査区の東側部分で検出された。90 B区を南北に貫き、90 A区西側部分で終息する。F期に属するSD 08 と同一方向。なお、埋没過程で上面にSX 02 が形成されている。出土遺物には弥生土器 (461~474) がある。

F 期

F期の遺跡

F期の遺構には、方形周溝墓・土坑b₁・同b₂・同c₁・溝a・土器集積遺構がある。

方形周溝墓

4 基検出されている。90 B区の西側部分に集中する傾向にある。

SZ 33

90 A区中央部分で検出した。プランは、四隅に陸橋部をもつ形状で、やや歪む。主体部は検出できなかった。遺物は周溝部分から出土した弥生土器がある (475~501)。なお、448 は東溝北端部から出土している。

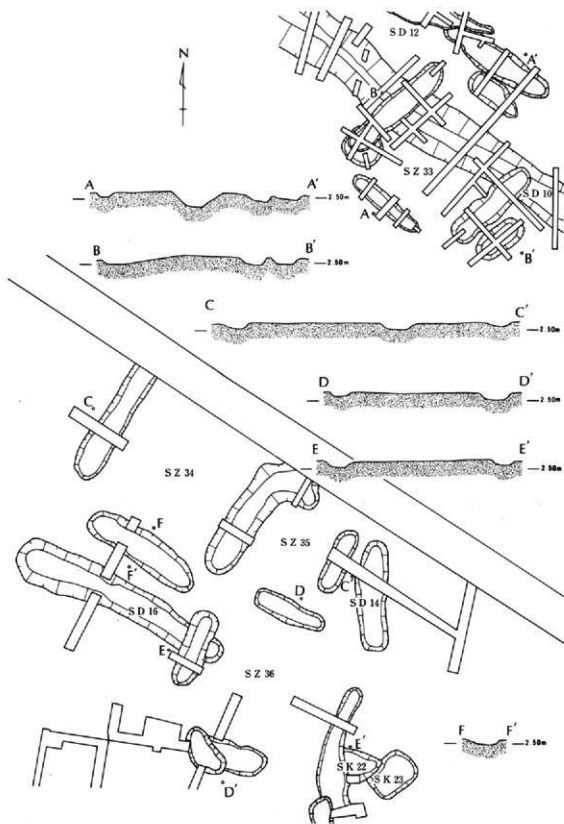


図 28 SZ 33~36 (1 : 200)

SZ 34

90 B区北側部分で検出した。SZ 35・36 と近接し、東側周溝をSZ 35 と共有する。北側の周溝は、90 A区との境界部分に所在する生活排水路下に伸びているため明らかにできないが、四隅に陸橋部をもつ形状か。遺物は周溝部分から出土した弥生土器がある(501~508)。

SZ 35

90 B区北側部分で検出した。SZ 34・36 と近接し、西側周溝をSZ 34 と、南側周溝をSZ 36 と共有する。プランはコーナー部分の三ヶ所に陸橋部をもつ形状。主体部は検出できなかった。遺物は周溝部分から出土した弥生土器がある(501~508)。

SZ 36

90 B区北側部分で検出した。SZ 34・35 と近接し、北側周溝をSZ 35 と共有する。プランは、四隅に陸橋部をもつ形状で、やや重む。主体部は検出できなかった。遺物は周溝部分から出土した弥生土器がある(501~518)。

土坑b₁

SK 11

90 A区北側部分で検出された。プランは楕円形。出土遺物には弥生土器(519~532)がある。

SK 12

90 A区北側部分で検出された。SZ 33 に近接する。プランは楕円形。出土遺物には弥生土器(533~539)がある。

SK 13

90 A区中央部分で検出された。SZ 33 に近接する。プランは楕円形。出土遺物には弥生土器(540~554)がある。

SK 14

90 A区南側部分で検出された。SZ 33 の西側周溝に一部分を破壊される。プランは円形。出土遺物には弥生土器(555~561)がある。

SK 15

90 A区南側部分で検出された。プランは扇形。出土遺物には弥生土器(563~568)がある。

SK 16

90 A区北側部分で検出された。SD 10 と接する。プランは楕円形。出土遺物には弥生土器(569~572)がある。

SK 17

90 A区南側部分で検出された。プランは円形。出土遺物には弥生土器(573~613)がある。

SK 18

90 A区北側部分で検出された。SD 10 と接する。プランは円形。出土遺物には木製品(968)のほか、弥生土器細片がある。埋土の脂肪酸分析を実施しており、結果については

本書 153 ページに記述した。

SK 19

90 A 区北側部分で検出された。SD 11 の一部分を破壊する。出土遺物には弥生土器(614～616)がある。

SK 20

90 B 区南側部分で検出された。SD 08 に近接する。プランは楕円形。出土遺物には弥生土器(617～618)がある。

SK 21

90 B 区南側部分で検出された。プランは長方形。出土遺物には弥生土器(619～626)がある。

SK 22

90 B 区南側部分で検出された。SZ 36 の東側周溝に大部分を破壊されるほか、SK 23 と接する。プランは形状不明。出土遺物には弥生土器(627～628)がある。

SK 23

90 B 区南側部分で検出された。SK 22 と接する。プランは長方形。出土遺物には弥生土器(629～634)がある。

SK 24

90 B 区中央部分で検出された。プランは台形。出土遺物には弥生土器(635～637)がある。

SK 25

90 B 区中央部分で検出された。プランは円形。出土遺物には弥生土器(638～641)がある。

SK 26

91 A 区北側部分で検出された。プランはやや歪んだ楕円形。出土遺物には弥生土器小片がある。

SK 27

91 A 区北側部分で検出された。プランは円形。出土遺物には弥生土器小片がある。

SK 28

90 A 区北側部分で検出された。プランは長方形。出土遺物には弥生土器小片がある。なお、埋土の脂肪酸分析を実施しており、結果については本書 ページに記述した。

土坑b₂

SK 29

90 B 区西側部分で検出された。プランは隅丸長方形。出土遺物には弥生土器(642)がある。

土坑c₁

SK 30

90 B 区西側部分で検出された。プランは円形。出土遺物には弥生土器(643)がある。

SK 31

90 B区西側部分で検出された。ブランは卵形。出土遺物には弥生土器（644）がある。

溝 a

SD 08

90 年度調査区の東側部分で検出された。90 B区を南北に貫くが、90 A区では検出できなかった。90 A・B区の間部分で終息、あるいは大きく東側に屈曲する可能性をもつ。出土遺物には弥生土器（645～690）がある。

SD 09

90 A区の北壁に接するかたちで検出された。規模は不明。出土遺物には弥生土器（691～708）、木製品（964）がある。

SD 10

90 A区北側部分で検出された。SD 11 付近を西端とし、直線的に 89 A区へ伸びるが、89 A区では検出されていない。90 A区と 89 A区の間部分で終息、あるいは大きく屈曲する可能性をもつ。出土遺物には弥生土器（709～741）・石器（1019）がある。

SD 11

90 A区中央部分で検出された。北側は調査区外に達する。出土遺物には弥生土器小片がある。

溝 b

SD 12

90 A区北側部分で検出された。全長 7.6 m。幅は、西側が広く、東側が狭い。出土遺物には弥生土器（742～771）・石器（1025）がある。

SD 13

90 B区北側部分で検出された。全長 3.6 m。出土遺物には弥生土器（774～777）がある。

SD 14

90 B区北側部分で検出された。全長 5.9 m。SZ 35 に近接する。出土遺物には弥生土器（778～790）がある。

SD 15

90 B区北側部分で検出された。4.6 m を検出したが、西側は調査区外に伸びる。出土遺物には弥生土器（791～793）がある。

SD 16

90 B区北側部分で検出された。全長 12.1 m。西側の一部を、SZ 36 西側周溝に破壊される。出土遺物には弥生土器（794～833）がある。

SD 17

90 A区北側部分で検出された。全長 9.8 m。SD 10 に平行する。出土遺物には弥生土器

(834~868) がある。

SD 18

90 B区東側部分で検出された。出土遺物には弥生土器 (511) がある。

土器集積遺構

SX 06

明瞭ではない。なだらかなくほみに土器が集積している状況。出土遺物には弥生土器 (869~882) がある。

⑤旧河道

いずれも調査区を横断する形で、5本を確認した。自然地形であるので、ここでまとめて扱う。

NR 01

第1面に伴うもので、89 A・B区の東側部分で弧状に展開する。埋土は細砂である。A~B期に属する。検出面(第1面)での幅は18m程度である。出土遺物は古墳時代から中世にまで及ぶ。89 A区南側部分、西岸の川筋がやや突出する位置からは、古墳時代の土器がややまとまって出土している (SX 01)。

NR 02

第1面に伴う。90 A・B区の東側と91 B区の西側で検出した。やはりA~B期に属する。検出面(第1面)での幅は30m程度。出土遺物は古墳時代から中世にまで及ぶ。

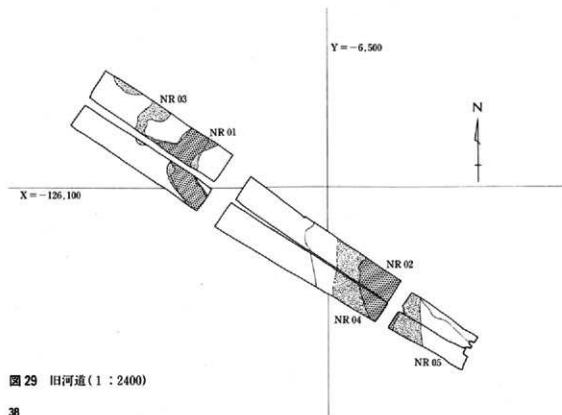


図 29 旧河道 (1 : 2400)

NR 03

第2面に伴うもので、二本の河川の合流部分を検出した。これらは89 A区南側部分で合流する。C～D期に属する。検出面での幅は、NR 01 とほぼ重複する部分が10 m程度、89 A区で大きく蛇行する部分で25 mとなる。出土遺物には弥生時代中期後半の土器がある。なお、89 A区では左岸部分から大量の遺物が出土している (SX 06)。

NR 04

やはり第2面に伴うもので、90 A・B区の東側半分と91 B・A区の西側部分で検出された。C～D期に属する。検出面での幅は25 m程度。検出面での西岸部分周辺には上面にSK 03が検出されていることから、時期が下がるにつれて次第に幅が狭くなっていることが予想される。図29に表現したものは最大幅の状態で、C期の段階。D期の幅は不明。出土遺物には、弥生時代中期末から後期前半の土器のほか、昆虫化石がある。

NR 05

第3面に伴うもので、90 A・B区の東側半分と91 B区全域、91 A区で検出した。E～F期に属する。検出面(第3面)での幅は推定80 m程度。出土遺物には弥生時代中期に属する土器のほか、昆虫化石がある。

⑥ そのほかの遺構

近世～近代に該当する遺構群で、91 A・B区を中心として分布している。これらは調査直前まで所在した鳥居家に関連する遺構群と考えられる。ただし、鳥居家移転に伴う擾乱により、調査時には明確な面をもつものではなく、結果的にはこれを第2面と同一面で検出した。具体的な遺構は、井戸4基・特殊遺構2基がある。検出した井戸はいずれも桶組。ただし、SE 1004のみ上部を漆喰で円筒形に固めている。これらの遺構埋土中からは近世～近代の陶磁器のほか、昆虫化石が出土している。特殊遺構は甕を天地逆に埋設した遺構。埋設した甕の法量は、SX 1001 が口径30 cm、SX 1002 が口径70 cmである。この他にこの時代に該当する遺構として、89 A・B区で溝1条 (SD 1001) を検出している。地籍図などの検討から、三河地震による災害復旧時に廃絶した旧水田に伴うものと判断できる。埋土中から近世～近代の陶磁器のほか、昆虫化石が出土している。(池本正明)

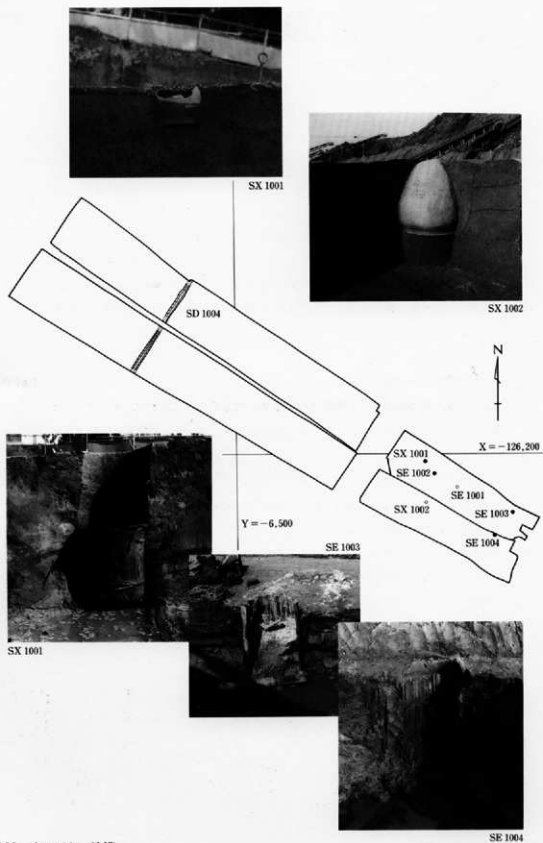


図 30 そのほかの遺構

第三章 遺物

今回の調査で得られた遺物は弥生時代～近世まで及ぶが、各時期を通じ最も多量に得られているものは土器類である。以下、遺物について材質別に説明を加える。

第1節 土器

①分類視点

土器は、今回の調査で最も多量に得られた遺物で、その出土量は27リットル入りコンテナで700箱を数える。本項では具体的にこれらを報告するが、記述の関係上、時代別にこれらを弥生時代、古墳時代～中世・近世と区分する。なお、表現の煩雑さを避けるため、以下に弥生時代、古墳時代の土器について、あらかじめ手法・文様・技法を整理し、形態分類をしておく。

手法

手法の種類

単一の工具により施される単一の動作を呼称する。代表的な手法はナデ、オサエ、ミガキ、条痕、ハケメ、ケズリの5つである。これらを順に手法A～Eと便宜的に呼称する。

手法A（ナデ手法）

A a 通常のナデ。表面はなめらかとなる。

A b 皮革などを利用。端部に多用される。手法A aに比べ平行線が明瞭。

A c 恐らく指頭または指腹によるもので、一工程が明瞭な凹凸で判別できる。

手法B（オサエ手法）

内面に多く観察できるもので、明瞭な凹凸を持つ。指頭によるものか。

手法C（ミガキ手法）

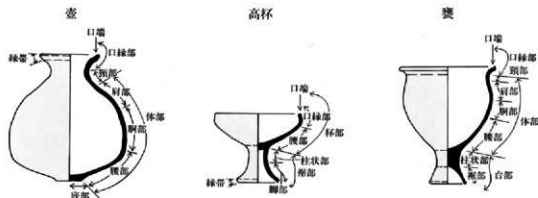


図31 土器の部位名称

- C a 通常のミガキ。原則として縦方向。
- C b 横方向に施されるやや幅の広いミガキ。器面が完全に乾燥していない段階で実施され、若干の粘土の動きが観察できる。
- C c 手法C a に付加し、文様の効果を狙ったもの。

手法D (条痕・ハケメ手法)

- D a いわゆる条痕文。貝殻によるものをD a 1、クシによるものをD a 2とさらに区分するが、不明確な場合はD a とのみ表現する。
- D b いわゆるハケメ。原体は板。
- D c 手法D c に類似するが、工具の動作単位のみ明確なもの。いわゆる、板ナデ。

手法E (ケズリ手法)

- E a 狭義のケズリ。砂粒の動きをともなう。
- E b 手法D d に類似するが、器壁を掻き取る行為に重点をおくもの。

手法F (タキ手法)

文様

文様は多様である。工具と装飾法に区分して説明を加える。

工具の種類 工具

岡島遺跡資料では施文工具として確認できるものに、クシ・ヘラ・貝殻・竹管・指頭・縄がある。

クシ

一回の工程で同時に多数の沈線を線刻できる原体を呼称する。各線刻は基本的に平行となる。岡島遺跡資料ではクシをこのように規定した場合、以下の種類に区分できる。なお、クシによる文様はさまざまな形状をもち、この差は使用工具の差として認識できる。岡島遺跡ではこれをa～eの5つに区分できる。

クシa種

1本1本がきわめて細かく、まれにこれらが交差する。ササラまたはホウキのような形状の工具によったもので、岡島遺跡で最も代表される文様となる。

クシb種

木もしくは竹の先端を細く割ったもの。手法D c またはD d に使用する工具と基本的に同一（佐原眞氏による分類のI種。以下、佐原分類と省略する）。

クシc種

先端が二つに分かれたものを束ねたもの（佐原分類II種A）。

クシd種

先端が丸い棒状のものを束ねたもの（佐原分類II種B）。

クシe種

管状のものを束ねたもの（佐原分類II種C）。

ヘラ

先端が鋭利な工具を総括する。

貝殻

大振りな二枚貝の腹縁部によるが、まれに背面も使用する。

竹管

細い筒状の工具。そのまま、または半截して使用されている。

縄

いわゆる縄文の原体。

装飾

装飾の種類

上記の器具を駆使し設定された文様は、大きく刻文系（刺突・線描）と貼付文系（浮文・突帯）に区分できる。

刻文系

クシ

クシによる文様は、直線文・波状文・瘤状文・斜格子文・刻目文・オシビキ文・扇形文・はね上げ文・斜線文と区分する。

ヘラ

ヘラによる文様は、直線文・波状文・斜格子文・刻目文・オシビキ文・はね上げ文・斜線文・局部圧痕文・斜線文・記号文と区分する。

貝殻

貝殻による文様には、直線文・波状文・刻目文・斜格子文・擬似縄文と区分する。

竹管

竹管による施文には、直線文・刻目文・オシビキ文・波状文・山形文がある。

指頭

指頭による文様には、刻目文・局部圧痕文がある。

凹線文

凹線文は、凹線文・擬凹線文に区分する。

縄文

縄文には、単節縄文がある。

組合せ文

組合せ文には、区画文と付加文がある。

区画文

区画文はクシないしヘラにより区画を設定し、その中を文様で充填させたもの。区画文はさらに4つに区分される。

- 区画文の種類**
- 区画文1種（垂下直線文）
区画中に、多くはクシa種による縦方法の直線文・波状文を充填する。
- 区画文2種（区画充填文）
ヘラにより設定された区画中に、擬似縄文または縄文を充填する。
- 区画文3種（連環状弧文）
区画文2種に類似するが、形状は弧状。横方向に連続して設定される。
- 区画文4種
そのほかの区画文をまとめる。

付加文

- 付加文の種類**
- 付加文は横方向の文様に直交ないし斜交する形で縦方向の刻みを施したもので、上下をヘラによる直線文により設定された区画中に施される場合もある。同一モチーフのうち、工具が複数に及ぶ場合もふくまれるもの（多くはクシとヘラ）を付加文A種とし、さらにX字文（付加文A1種）・丁字文（付加文A2種）・山形文（付加文A3種）・そのほか（付加文A4種）と区分する。また、工具が単一なものをB種とし、これには複合鋸歯文（付加文B種）がある。

貼付文系

浮文

浮文は貼付する粘土の形状から、棒状浮文・円形浮文と区分する。

帯文

帯文には、突帯文（各種刻目文を付加するものA種、突帯のみものB種）がある。

彩文系

彩文

彩文は、赤色顔料（大部分はベンガラ）を部分的に塗彩するもので、さまざまな形状にこれを塗彩する。ただし、残存状況の良好なものにめぐまれず、形状の判明した資料はない。

技法

おもに上記の手法を特徴的に駆使した特定手順の組合せや、特殊な文様構成などにより設定される作業を呼称する。岡島遺跡資料では6つの特徴的な技法があげられる。

技法の種類

- 肩部突出技法**
壺にみられるもので、成形時に設定されるいくつかの小乾燥のうち、頸部以上を付加する段階（第2段階）で、粘土紐を若干内側に屈曲させて積む技法。この作業によって、器形は肩部がやや強調された形状となる。

黑色焼成技法

壺にみられるもので、黒色に焼成されている。断面の観察では、この色調は土器の表面、特に外面にのみ認められることから、これが土器焼成の最終段階で、器面に炭素を吸着させる特殊な冷却法を使用した結果と判断できる。

台部柱状技法

台付壺の台部にみられるもので、体部との接合部分を発達させ、柱状部を設定する。柱状部の外面には原則的に縦方向の手法C bを施す。

連続成形技法（円盤充填法）

高杯にみられるもので、脚部から杯部を連続して成形する技法。杯部の底は、粘土板を貼り設定される。

付加沈線磨消技法

壺に限定された技法。ヘラによる直線文を間隔をあけて、平行に施すことでいくつかに区画し、交互に文様帯と研磨帯を配置する。文様帯は、クシb種による直線文を充填したのち、付加文を施すことを原則とする。研磨帯は手法C aにより、基本的に横方向となる。

頭部文様帯強調技法

付加沈線磨消技法と類似するが、文様帯部分のみが若干突出し、視覚的に文様帯を強調するものを特に区分する。そのほかの形状は、付加沈線磨消技法と一致するが、付加沈線磨消技法の文様帯にはないモチーフを使用する場合も多い。

分類

土器の形状については、上記の手法・文様・技法を考慮し、分類する。壺は32種、甕は10種、高杯は8種、鉢は4種に分類できる。

弥生土器 の分類

壺

壺は口縁部の形状に注目し、広口壺・細頸壺・無頸壺・短頸壺と区分する。

壺の種類

広口壺

広口壺は、頸部が大きく、口縁部が外反する口縁部をもつ形状。11類に区分する。

広口壺A

太い頸部に外反する口縁部をもつ。底部は突出。加飾性が強く、彩文を施す例も認められる。肩部突出技法が特色で、Ⅲ期以降（後述）黒色焼成技法がこれに加わる。

広口壺B

基本的形状・手法は、広口壺Aによく類似するが、口縁端部が「受け口」状を呈するもの。

広口壺C

口縁部に特色をもつ。上面には「コブ」状に発達する円形浮文を用いる例もある。

広口壺D

大形品。太い頸部に外反する口縁部をもつ。加飾性は強い。黒色焼成技法、肩部突出技法が特色。底部は突出する。

広口壺E

口縁部は直線的に伸びる。外面の調整は手法Daを原則とする。

広口壺F

口縁部は「受け口」状を呈する。外面の調整は手法Daを原則とする。

広口壺G

口縁部が「受け口」状で、縁帯を形成する。縁帯外面には凹線文、擬凹線文を施す。

広口壺H

頸部は外反し、口端で縁帯を形成する。縁帯は下方が垂下する。加飾性は強い。

広口壺I

頸部は外反し、口端で縁帯が形成される。

広口壺J

広口壺Iに類似するが、頸部が短い。体部は、「ソロバン玉」状を呈する。外面には手法Caを施す。縁帯外面には凹線文または、擬凹線文を施す。

広口壺K

頸部は外反し、口端で縁帯を形成する。体部最大径以下は、手法Caを施す。加飾性が強く、赤彩が施される例も認められる。

広口壺L

体部は球形で、頸部が長く外反する広口壺。加飾性は乏しい。

広口壺Z

そのほかの広口壺をまとめる。

細頸壺

頸部が細く、外反する口縁部をもつ。比較的小振りで加飾性は強い。8類に区分される。

細頸壺A

丸みを帯びた体部に短く外反する口縁部をもつ形状。底部は突出する。

細頸壺B

基本的形状・手法は、細頸壺Aによく類似する。ただし、口縁部は鈍く立ち上がり、明瞭な縁帯を形成する。黒色焼成技法が特色。底部は突出する。

細頸壺C

基本的形状・手法は、細頸壺Bによく類似するが、頸部はやや長い。口縁部が鈍く立ち上がり、縁帯を形成する。黒色焼成技法が特色。底部は突出する。

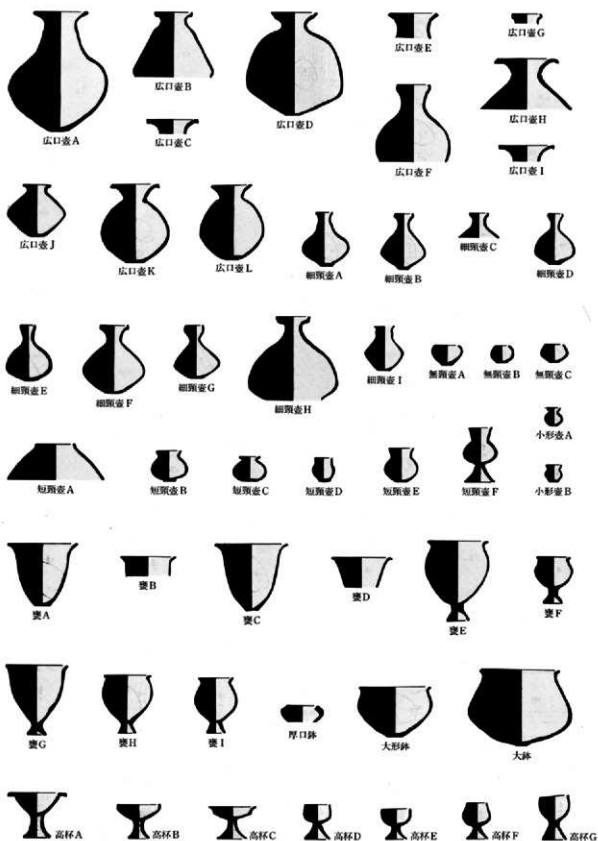


图 32 形態分類圖

細頸壺D

口縁部は鈍く立ち上がり、縁帯を形成する。黒色焼成技法、肩部突出技法が特色。底部は突出する。

細頸壺E

形状は、細頸壺Aに類似する。頸部はやや長く外反する。口縁部が鈍く立ち上がり、縁帯を形成する。黒色焼成技法、肩部突出技法が特色。底部は突出する。

細頸壺F

体部は「ソロバン玉」状を呈する。口縁部は立ち上がり、明瞭な縁帯を形成する。縁帯外面には、凹線文または擬凹線文を施す。

細頸壺G

口縁部が丸みを帯びて「袋」状を呈する。口縁部外面には、凹線文または擬凹線文を施す。

細頸壺H

大形品。太い頸部に外反する口縁部をもつ。加飾性は強い。黒色焼成技法、肩部突出技法が特色。底部は突出する。

細頸壺I

体部は「ソロバン玉」状を呈する。口縁部は外反し、端部が肥厚する。

細頸壺Z

そのほかの細頸壺をまとめた。

無頸壺

頸部をもたない形状。細頸壺の成形第2段階（底部～肩部まで）で製作。無頸壺は2類に区分される。

無頸壺A

腰部が張る形状。黒色焼成技法が特色。底部は突出する。

無頸壺B

体部が球形。黒色焼成技法が特色。底部は突出する。

無頸壺C

体部の形状は細頸壺FまたはGに類似する。口縁部外面には、凹線文または、擬凹線文を施す。

短頸壺

頸部が短い形状。短頸壺は6つに区分される。

短頸壺A

口縁部は肥厚し、フラットとなる。全形は不明。外面には、凹線文または擬凹線文を施す。

短頸壺B

しもぶくれの体部に短く外反する口縁部をもつ。端部は丸く収める。調整は手法C aによる。

短頸壺C

丸みを帯びた体部に、短く強く外反する口縁部をもつ。調整は手法C aによる。

短頸壺D

卵形の体部に、直立する口縁部をもつ。調整は手法C aによる。

短頸壺E

口縁部が外反するものをまとめた。調整は手法C aによる。体部、頸部の形状差により、さらに細分できるかもしれない。

短頸壺F

脚部をもつ短頸壺をまとめた。いずれも、頸部は体部の1/2以上である。「短頸」と呼称するには問題が残るが、短頸壺B・Eと、形状・手法などが類似することから、この名称を用いた。脚部の形状は、体部、頸部の形状差によりさらに細分できるのかもしれない。後述する高杯C～Fと同一。

小形壺

いわゆるミニチュアをまとめた。小形壺は3つに区分される。

小形壺A

ミニチュア品のうち、外面手法C aによるものを集めた。

小形壺B

ミニチュア品のうち、外面手法D bによるものを集めた。

小形壺Z

そのほかのミニチュア品をまとめた。

甕

頸部の径が広い形状。甕は9類に区分される。いずれも基本的には煮沸痕が確認される。形状は、A～Dが平底、E～Hが台付である。甕の種類

甕A

体部の形状は腰部がやや張る。口端はフラットであるが、貝殻またはクシによるオシビキ文を施す。体部外面は手法D aによる。

甕B

口縁部は緩やかに外反する。口端はフラットであるが、刻目文、局部瓦痕文を施す。外面の調整は、手法D bによる。

甕C

口縁部は緩やかに外反する。口端は丸みを帯びる。口端には局部瓦痕文が確認さ

れる場合がある。体部外面は手法D aによる。

甕D

口縁部は屈曲し外反する。口端は丸みを帯びる。口端には局部圧痕文が確認される場合がある。体部外面調整は手法D aによる。

甕E

器壁は薄く、口縁部は緩やかに屈曲する。口端には刻目文が確認される場合がある。台部柱状技法が確認される。頸部や口縁部の形状差よりさらに細分できるかもしれない。外面調整は手法A aによる。

甕F

基本的形状・手法は甕Eに類似するが、小形となる。やはり頸部や口縁部の形状差よりさらに細分できるかもしれない。

甕G

口縁部は緩やかに外反する。口端はフラットとなる。口端には刻目文が確認される場合がある。体部外面は手法D bによる。

甕H

口縁部は明瞭な稜をもって屈曲する。調整は、外面が手法F、内面が手法E bを原則とする。

甕I

体部は球形。調整手法は、外面が手法D b、内面が手法E bを原則とする。

甕Z

そのほかの甕をまとめた。

鉢

鉢の種類 甕を扁平にした形状。鉢は4類に区分される。

厚口鉢

無頸壺に類似した形状だが、扁平で器壁は厚い。口端は厚く肥大し、縁帯を形成する。腰部以下には、煮沸痕が確認される。調整は外面が手法A a、口端が技法D aによる。

大形鉢

腰部の張る扁平な鉢。口縁部は明瞭な段をもって屈曲する。調整は手法D bによる。

大鉢

腰部の張る扁平な鉢で、口縁部は緩やかに外反する。頸部を中心に加飾性が強い。黒色焼成技法が特色で、底部は突出する。煮沸痕が確認される。

鉢Z

そのほかの鉢をまとめた。

高杯

脚部をもつ。高杯は8類に区分される。

高杯の種類

高杯A

杯部は深い形状で、体部より水平に屈曲して口縁部を形成する。屈曲部上面には、小さな稜を形成する。端部はフラットとなる。連続成形技法が特色、調整は手法C aによる。

高杯B

杯部は、丸みを帯びた形状。口縁部はなだらかに屈曲する。脚部は外反し、裾部を形成する。連続成形技法が特色、調整は手法C aによる。

高杯C

杯部中央で明瞭な稜を形成する。上段部分は外反する。脚部は緩やかに外反し、裾部を形成する。柱状部は文様帯となる。調整は手法C aによる。

高杯D

杯部は丸みを帯び、腰部で屈曲する。脚部は外反し、裾部を形成する。柱状部は文様帯となる。調整は手法C aによる。

高杯E

杯部は丸みを帯び、腰部で屈曲する。口径と杯部最大径がほぼ同一。脚部は外反し、裾部を形成する。柱状部は文様帯となる。調整は手法C aによる。

高杯F

体部は球形。柱状部は文様帯となる。調整は手法C aによる。

高杯G

杯部は、緩やかに口縁部に至る。口端は尖る。脚部は柱状部から直線的に裾部に伸びる。調整は手法C aによる。

高杯Z

そのほかの高杯をまとめた。

②弥生土器

210~219はSZ 05 出土。210・211は主体部、そのほかは周溝からの出土。210は高杯C。杯部の小片。稜はシャープ。全面手法C aによるが、稜の周辺部分の外面のみ手法A aによる。211は、壺で底部片。外面の調整は、器面の風化が進み判然としないが、外面は手法C a、内面は手法D aによる。212は短頸壺F。腰部以下を欠損し、台部の有無は不明。外面は手法C aによるが、口縁部のみ手法A bを施す。213は短頸壺B。口縁部片。手法A bを施す。214は壺の体部片。外面は手法C aによる。212と同一個体である可能性がある。215は高杯C。杯部と脚部との接合部分の破片。器面は風化が進み判然としないが、調整は外面が手法C a、脚部外面にはヘラによる直線文を施す。216~218は、台部の小片。いずれも、器種は不明。外面は手法C aによるが、端部のみ手法A bを施す。217・218は端部がフラットとなる。219は鉢Z。体部は丸みを持ち、口縁部は短く外反する。底部は、やや突出し、外面の中央部が浅くくぼむ。外面は手法D bによるが、口縁部は手法A bを施す。

220~226はSE 01 出土。220は広口壺Kの口縁部片。緑帯外面に擬凹線文、口縁部上面にクシb種による刻目文を施す。221は壺の口縁部片、222・223は底部片である。いずれも外面の調整は、器面の風化が進み判然としない。224は器台。柱状部片。「筒」状を呈する。外面は手法C a。225は甕。口縁部は粗曲し、緑帯を形成する。混入品。226は甕Iの底部。外面に手法D aを施す。

227~240はSK 03 出土。227は壺。体部片。丸みを帯びる。外面は、肩部に手法C a、肩部に手法D bを施す。文様は肩部にみられ、クシb種による直線文と波状文を交互に施す。228は壺L。口縁部片で、外反する形状。口端はフラット。口端付近は手法A bによる。口縁部上面にはクシb種による刻目文を施す。229は壺の底部。外面は手法C aを施すが、部分的に手法D bを施した痕跡をとどめる。230は短頸壺F。裾部が欠損する。器面の風化が進むが、外面に手法C a、柱状部にはヘラによる直線文が確認できる。231・232は高杯Cの杯部片。外面の稜はシャープ。いずれも手法C aによる。232にはクシb種による直線文と波状文を施す。233は高杯D。やはり杯部片。口縁部は外反する。内外面手法C aによるが、口縁部は器面の風化が進み不明瞭。234は高杯の柱状部片。全面手法C aを施したのち、ヘラによる直線文を六本一単位とし、これを6段施す。235・236は高杯の脚部片。外面は手法C aによるが、裾部内面には手法A bを施す。柱状部にはヘラによる直線文、クシb種による刻目文を施す。237~240は甕。237・240は甕の台部。いずれも煮沸痕を残す。238は口縁部片。「受け口」状を呈する。外面は手法D b。239は台部を欠損する。口縁部付近に手法A bを施すほかは外面が手法D b、内面が手法D cによる。

241・242はSD 05 出土。241は蓋。傘形の体部に「円環」状の把手をもつ。口縁部はわずかにくびれる。くびれの部分には直径2mm程度の穿孔を二個一組とし、これを対角線上に二ヶ所設定する。242は甕I。台部は高い。外面の手法D bは、非常に密。頸部には直径2mm程度の穿孔を二個一組とし、これを対角線状に二ヶ所設定する。なお、煮沸痕は確認できない。

243~275はSX 03 出土。243は広口壺L。球形の体部に外反する口縁部をもつ。内面に手法D b、口端に手法A bを施すほかは、底部を除き全面手法C aによる。244は短頸壺B。丸みを帯びた形状。底部は突出する。外面は手法C aによる。245は短頸壺C。口縁部は強く外反する。口縁部は手法A b、体部外面は手法C aによる。外底部には「木葉」の圧痕が確認できる。246~249は短頸壺E。246は丸底。口縁部には手法A b、外面には腰部を中心に手法C bを施す。247~249は口縁部に手法A b、外面に手法C aを施す。247は底部が突出する。250~255は短頸壺F。体部の形状は250・253・255が球形、251・252・254がやや扁平となる。外面の調整は手法C aを中心に、端部には手法A bも確認できる。文様は、柱状部にへらによる直線文を重ねるが、250・251はクシb種による刻目文も施される。なお、254は脚部欠損後、破面を研磨して再利用している。256~262は小形壺A。体部の形状は球形で、口縁部は外反する。256は口縁部の中程で若干屈曲する。外面の調整は体部外面が手法C a、口縁部には手法A bを施す。263・264は小形壺B。体部は、やや張る形状。調整は、体部外面に手法D b、口縁部に手法A bを施す。265~271は高杯。265が高杯D。266・267が高杯F、268~270が高杯E、271が高杯Gとなる。外面の調整は、手法C aを中心とし、端部には手法A bも確認できる。271は調整がややラフとなる。文様は、柱状部にへらによる直線文を重ねるが、255・256・267・268には、クシb種による刻目文も施す。266・267は、口縁部にも文様帯をもつ。272~274は、鉢Z。272は、やや扁平な体部と内挿する短い口縁部をもつ。底部は突出する。273・274は、直線的な体部と突出する底部をもつ。外面の調整はいずれもラフで、口縁部には手法A bを施すが、体部には、前者が手法D b、後者が手法A aを施す。275は甕I。胴部に張りをもつ形状で、口端はフラットとなる。外面の調整は手法A aか。裾部は欠損するが、破面を研磨し再利用している可能性をもつ。

276~292はSX 04 出土。276は短頸壺D。底部は突出する。調整は体部外面が手法D b、口縁部には手法A bを施すがラフである。277は短頸壺E。体部と口縁部の境界が不明瞭。調整は、体部外面が手法D b、口縁部には手法A b、外底部には手法E aを施す。278は壺。腰部が張る形状。外面の調整は、風化が進み判然としない。279・280は短頸壺F。体部の形状は、279がやや扁平、280が球形となる。外面の調整は手法C aを主体とし、端部には手法A bも確認できる。文様は、柱状部にへらによる直線文を重ねる。281は高杯E。外面の調整は、手法C aを中心とし、端部には手法A bも確認できる。271はややラフとなる。文様は、柱状部にへらによる直線文を重ねる。282~291は鉢Z。282~286は「コップ」状。外面の調整は、口縁部に手法A bを施すほかは、ラフな手法A cによる。288は、やや扁平な体部と、短い口縁部をもつ。底部は突出する。外面の調整は、手法C aを中心とし、端部には手法A bも確認できるほか、体部には、部分的に手法D bを施す。289は、274に細部まで類似する。290は胴部がやや張る形状をとるほかは、282~286に細部まで類似する。291は甕の頭部を拡大した形状。低い台をもつ。外面の調整は、口縁部に手法A b、体部手法D bを施す。292は甕I。形状は胴部がやや張る球形。調整は、口縁部に手法A b、体部

外面に手法D bを施す。煮沸痕は確認できない。

293・294は、SB 02出土。同一個体で、甕E。卵形の体部と、短く外反する口縁部をもつ。調整は外面が手法A a、内面が手法A cによるが、柱状部には台部柱状技法が確認できる。文様は、口端にヘラによる刻目文を施す。

295～299はSZ 06の周溝出土。295は広口壺AまたはB。口縁部と腰部以下を欠損する。外面の調整は、肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。外面は手法A aを施す。文様は、クシa種による波状文、直線文、オシビキ文を施した空間に、区画文1種を施す。296は細頸壺。口縁部を欠損する。形状は胴部がやや張り、底部は突出する。外面の調整は、肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。外面は手法A aを胴部まで、腰部以下はさらに手法C bを施す。文様は、クシb種による直線文を頸部に二段、肩部と胴部上方に各一段ずつ施したのち、肩部と胴部上方の直線文を、やはりクシb種による縦方向の波状文で所々つなく。297は壺。口縁部を欠損する。体部の形状は「ソロバン玉」状。外面の調整は、手法A aを胴部まで、腰部以下は手法D bを施す。文様は、クシd種による直線文と波状文を交互に重ねる。298も297と類似。ただし、施文原体はクシb種。直線文と波状文は交互ではない。なお、波状文はラフである。299は口縁部を欠損する。体部の形状は、「ソロバン玉」状。外面の調整は器面の風化が進み判然としないが、腰部外面には手法D dを施す。

301～348はSZ 07の周溝出土。301～304は広口壺D。304を除き、黒色焼成技法が特徴。301は口縁部片。緑帯は外反する。調整は器面の風化が進み判然としないが、手法A aによる。文様は、頸部下方にクシa種による直線文を重ね、上方にはやはりクシa種によるはね上げ文を施す。302・304は頸部片。形態・手法は301と類似する。文様は前者については301と同様であるが、残存部の下方には区画文1種の一部分が確認できる。後者は、頸部下方に竹管による山形文を施す。303は肩部片。肩部突出技法が確認できる。外面の調整は、手法A aによる。文様は肩部上方の竹管による直線文を境界とし、上方にクシa種による波状文を重ね、下方には区画文1種を施す。305・306は広口壺H。いずれも肩部以下を欠損する。305は、がっしりとした緑帯をもつ。外面の調整は、肩部が手法C a、緑帯が手法A b、内面が手法D bによるほかは、手法A aによる。文様は、緑帯に凹線文、口縁部上面にクシb種による刻目文を施す。306は、緑帯下方が垂下する。外面の調整は器面の風化が進み判然としない。文様は、頸部に突帯文を三条貼付し、その下方にクシb種による刻目文を施す。緑帯は、竹管による刻目文を三段重ねた文様を間隔を開けながら配置する。307は広口壺I。口縁部片で、緑帯に擬凹線文を施す。308は広口壺B。底部は突出し、緑帯は外反する。外面の調整は、肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。外面の調整は器面の風化が進み判然としない。無文で、胴部には焼成後穿孔の円窓をもつ。309は、口縁部が肥厚し、底部は突出する。外面の調整は、器面の風化が進み判然としないが、黒色焼成技法が特徴。腰部外面にわずかに手法C bが確認できる。文様は不明確だが、胴部にヘラによる斜格子文がわずかに確認できる。口端には指頭による局部匠痕文を施す。胴部には焼成後穿孔の円窓をもつ。310・311は壺で、口縁部を欠損する。底部は突出する。肩部突出技法

・黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、器面の風化が進み判然としない。文様は、310が肩部上方にクシb種による直線文、その下方に区画文1種を施す。311は無文。312・313も壺。黒色焼成技法が特徴で、前者には肩部突出技法も確認できる。外面の調整は、前者については、器面の風化が進み判然としないが、後者は腰部下方外面に手法C b、胴部外面には手法A aを施す。文様は、311では頸部に確認できるが、詳細は不明。313は無文。314～316は、細頸壺C。314・316は頸部の発達する形状。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、器面の風化が進み判然としないが、前者には腰部外面、後者に肩部以下で、わずかに手法C bが確認できる。文様は、314が頸部の上方にクシb種による直線文を積み、下方には貝殻による刻目文を間隔を密に並べる。316は、頸部からクシb種による直線文二段と、波状文二段を、間隔を開けて刻んだのち、波状文間については、縦方向の直線文でこれをつなぐ。315は、肩部以下を欠損する。無文。317は無頸壺A。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。底部は突出する。外面の調整は腰部以下に手法C b、口縁部に手法A bを施す。文様は口縁部外面に凹線文が確認できる。318は壺の台部。低くがっしりとした形状。外面の調整は、器面の風化が進み判然としない。319・320も壺。詳細は、器面の風化が進み判然としない。321も壺。腰部以下が残存する。底部は突出する。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。調整は、腰部外面で手法C bが確認できる。322は台部をもつ細頸壺。口縁部は欠損する。「ソロバン玉」状の体部に、低くがっしりとした台部がつく。外面の調整は、肩部・胴部の外面は手法A a、腰部と台部の外面は、縦方向の手法E bによる。文様は肩部を中心に、クシb種による直線文と幅の狭い扇形文の列を交互に並べる。323～325も細頸壺。いずれも、口縁部を欠損する。体部は「ソロバン玉」状。323は、外面に手法D bを施したのち、手法A aをラフに施す。無文。腰部には、直径3cmの焼成後穿孔がみられる。324は、腰部外面に手法C bを施す。文様は、円形浮文を縦方向に並べて貼付する。325は、腰部外面に手法E aを施す。文様は、肩部を中心に、クシd種による直線文、波状文を施したのち、ヘラによる縦方向の直線文により器面を分割し、肩部上方のみ、やはりヘラによる斜格子文で間隔を充填する。326は高杯A。脚部を欠損する。連続成形技法が特徴。外面に手法D b、内面に手法A aを施す。文様は、口端にクシd種による波状文がある。327・328は高杯の脚部片。やはり連続成形技法が特徴。327は、裾部がやや広がる。端部はフラットとなる。外面の調整は、裾部が手法A a、柱状部は手法D b。328は基本的に327と同一。裾部を欠損する。330は鉢Z。底部は突出する。詳細は、器面の風化が進み判然としない。331～339は、甕E。331～337は口縁部が残存する。形状は、口縁部が短く外反し、いずれも内側に稜をもつ。また、体部が残存する331・332・334・336は、胴部にやや張りをもつ。調整は全面手法A aによる。文様は331・334・335の口端にクシb種による刻目文を施す。338・339は腰部片。調整は手法A aによる。340～345は台部。342・344には、体部柱状技法が確認できる。346～348は甕H。346・347は胴部が張る形状。口縁部は屈曲し、端部はフラットとなる。外面の調整は、外面が手法Fを施したのち、手法D bを施す。内面は、手法D bによるが、腰部の残存する347には、この部分に

縦方向の手法E bが確認できる。文様は、クシb種を原体とするものが346に認められ、口端にオシビキ文、肩部に刻目文を施す。348は台部。外面は手法D bによる。

349は、SZ 11の棺身。肩部以上が欠損する。器種は広口壺AまたはBか。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、腰部が手法C b、胴部が手法A aによる。文様はクシa種による直線文と波状文を交互に刻む。

350・351はSZ 12の棺蓋と棺身。350が棺蓋で、肩部以上が欠損する。器種は広口壺AまたはBか。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、腰部が手法C b、胴部が手法A aによる。文様は、竹管によるオシビキ文を波状に連続させる。また、図中に表現していないが、さらに上方には区画文1種(?)も確認できる。351は棺身。やはり肩部以上が欠損する。体部は球形。外面の調整は、腰部が手法C b、胴部が手法D bによる。文様はクシc種による直線文と波状文を交互に刻む。

352・353はSZ 12の棺蓋と棺身。352が棺蓋で、肩部以上が欠損する。器種は壺か大鉢。黒色焼成技法が特徴。底部は突出し、腰部は丸みを帯びる。外面の調整は手法C b。353は棺身。肩部以上が欠損する。器種は広口壺AまたはBか。黒色焼成技法が特徴。形状は胴部の最大径付近から外唇気味に肩部を形成する。腰部は丸みを帯びる。外面の調整は、腰部が手法C b、胴部が手法A aによる。文様は腰部以上にみられ、胴部上方のクシa種による直線文に、やはり縦方向のクシa種による直線文を交差させ、その上部にはへらによる波状文を施す。

354はSZ 16の棺身。肩部以上が欠損する。器種は広口壺AまたはB。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、腰部が手法C b、胴部が手法A aによる。文様は、区画文1種を「チドリ」状に配置する。

355・356はSZ 17の棺蓋と棺身。355が棺蓋で、肩部を中心とした破片。器種は壺。肩部の形状は丸みを帯びる。調整は、外面に手法D bを施したのち、手法C aをラフに施す。文様はクシb種による直線文と波状文を交互に刻む。356は棺身。器種は広口壺I。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状。頭部は外反し、口端で縁帯を形成する。外面の調整は、腰部に手法D b、口端に手法A bを施すほかは、手法A aによる。文様は、頭部にクシd種による直線文とその直下にクシb種による刻目文を施す。体部の文様は、クシd種による直線文と波状文を交互に配置したもの。

357はSZ 18の棺身。頭部・口縁部が欠損する。器種は壺。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状。外面の調整は、肩部を除き手法C b。文様は肩部にみられ、クシb種による直線文と波状文を施す。

358・359はSZ 19の棺蓋と棺身。355が棺蓋で、肩部を中心とした破片。器種は壺。肩部の形状は丸みを帯びる。外面の調整は、手法D bを施したのち、手法C bをラフに施す。

359は棺身。肩部以上が欠損する。器種は壺。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状。外面の調整は、手法C b。残存部分は無文。腰部には焼成後穿孔がみられる。

360はSZ 20の棺身。肩部以上が欠損する。器種は壺。体部の形状は丸みを帯びた「ソロ

バン玉」状。外面の調整は、器面の風化が進み判然としない。残存部分は無文。

361はSZ 21の棺身。肩部以上が欠損する。器種は壺。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状。外面の調整は、手法D bによる。文様はクシb種による波状文を胴部上方に二段施す。

362はSZ 22の棺身。肩部以上が欠損する。器種は壺。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状。外面の調整は、器面の風化が進み判然としないが、手法C bか。残存部分は無文。

363はSZ 27の棺身。器種は広口壺H。超大形品。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状を呈し、緑帯は口縁部上面にも発達する。底部は突出する。外面の調整は、緑帯に手法A b、底部に手法A aを施すほかは、手法C bによる。文様は、頸部付近と緑帯及び口縁部上面にみられる。前者は、突帯文を貼付し、その下方にクシb種による直線文と波状文、後者はクシb種による刻目文を「ヤガスリ」状に並べる。

364はSZ 28の棺身。器種は広口壺H。底部を欠く。超大形品。体部の形状は卵形。口縁部は外反する。外面の調整は、体部が手法C c、頸部が手法C a、緑帯が手法A bとなる。文様は、頸部に突帯文を貼付するほか、緑帯に凹線文を施す。

365・366は、SZ 29の棺蓋と棺身。365が棺蓋。器種は大鉢。胴部にやや丸みをもつ形状。口縁部は短く屈曲し、底部は突出する。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、腰部が手法C b、胴部が手法A a、口縁部が手法A bによる。文様は胴部以上に認められる。口端にヘラによるオシビキ文を施すほかはクシa種によるもので、頸部上方に波状文、同下方にオシビキ文を施し、これを胴部の直線文と大ピッチの山彩文で結ぶ。366は棺身。器種は大鉢。胴部にやや張りをもつ形状。口縁部は外反、底部は突出する。外面の調整は、腰部に手法C b、胴部に手法D bを施したのち、手法A aをラフに施す。文様は胴部以上に認められる。口端にヘラによる刻目文を施すほかはクシb種によるもので、肩部に連弧文を施したのち、上下にそれぞれ糜状文を刻む。

367はSZ 30の棺身。肩部以上が欠損する。器種は壺か。腰部の形状は丸みを帯び、胴部はやや張り、底部は突出する。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、腰部が手法C b、胴部が手法A aによる。文様は、胴部上方にクシa種による連弧文と縦方向の直線文を、腰部上方にはヘラによる連弧文を重ねた文様の接点付近にやはりヘラによる斜格子文を重ねる。

368・369はSZ 31の棺蓋と棺身。368が棺蓋。器種は広口壺AまたはBか。肩部以上が欠損する。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、腰部が手法C b、胴部が手法A aによる。文様は胴部上方にヘラによる直線文で区画された中にやはりヘラによる斜格子文を施す。369は棺身。器種は広口壺AまたはBか。文様以外はすべて368に類似する。文様構成は、胴部上方にクシa種による直線文を施すが、そのさらに上方には区画文1類を施す。

370はSK 08出土。器種は壺。口縁部と腰部以下を欠く。形状は体部で丸みを帯び、頸部で緩やかに外反する。調整は外面が手法D b、内面が手法D cによるが、残存する最下部外面には手法C aを横方向に施す。文様は頸部にクシb類による直線文を重ねたのち、縦方向の波状文でこれを刻む。

371~457はSX 05出土。371は細頸壺H。体部は丸みを帯び、頸部は細い。口縁部は立ち上がり、「受け口」状を呈する。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、口縁部に手法A b、肩部・頸部外面に手法A a、胴部・腰部に手法C bを施す。文様は、口縁部上面にヘラによる刻目文を施す。頸部は、クシa種による斜線文を4段施したのち、ヘラによる直線文でこれを横方向に区画する。肩部の区画文1種、胴部上方は、ヘラによる直線文で区画された中にやはりヘラによる斜格子文を施す。また、頸部の文様帯下方と胴部上方の文様帯の上下にはヘラによる波状文を施す。372・373は広口壺D。口縁部片。縁帯はやや外反する。縁帯内面に手法A bを施すほかは、手法A aによる。文様は、372が、頸部上方にクシa種によるはね上げ文、下方に直線文を重ねる。頸部中央以下は、竹管による文様も付加し、中央部分が縦方向の直線文、下方が横方向の直線文となる。373は原体が全てクシb種による。はね上げ文を頸部上方に、下方には直線文を重ねたのち、部分的に縦方向の直線文でこれを刻む。374は広口壺D。口縁部・底部を欠く。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、肩部に手法A a、胴部・腰部に手法C bを施す。文様は肩部上方にヘラによる斜格子文と直線文、肩部と胴部には区画文1種と、区画文4種を施す。375は壺の口縁部。外面の調整は、器面の風化が進み判然としないが、口縁部が手法A b、そのほか手法A aか。文様は口縁部外面に凹線文を施す。376~394が広口壺A。全形の判明するものは376のみで、多くは底部もしくは体部の一部分が欠損する。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴であるが、前者については383、後者については382・387が例外となる。外面の調整は口縁部に手法A b、肩部・胴部上方に手法A a、腰部に手法C bを施す。文様は、口端に刻目文またはオシビキ文、頸部と体部にクシa種またはヘラによる直線文・波状文が施される。口端の文様はヘラを原体とするものが一般的だが、337・339・386は指頭、385が竹管、393が貝殻となる。頸部の文様では、上方にははね上げ文をもつものに376・378・390があるが、原体は前二者がクシb種、後者がクシa種となる。ヘラによる斜格子文をもつものは377・380・383~385・390で、さらにヘラによる直線文を付加するものに377・380・384がある。体部の文様は、クシa種による直線文と波状文が一般的だが、377・382の上段・388・391・392・395はクシb種で、391・392はラフとなる。また、そのほかの文様として、390は口縁部内面にヘラによる記号文を施す。395~397は広口壺AまたはB。口縁部を欠く。やはり、肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴となる。外面の調整は肩部・胴部上方の外面に手法A a、腰部外面に手法C bを施す。文様は、395・397がクシa種による直線文と波状文を施すが、395の最上段はオシビキ文となる。396はクシb種による波状文。ラフである。398~400は広口壺B。黒色焼成技法が特徴。肩部の残存するものは、肩部突出技法も確認できる。口縁部の形状は、398・399が、明瞭な「受け口」状で、400はこれが不明瞭となる。外面の調整は、口縁部が手法A b、肩部・胴部上方が手法A a。文様は、398が、口縁部上面に、指頭による局部圧痕文。頸部と体部は、クシa種による直線文・波状文・連弧文の組合せとなる。399は、口縁部上面に、指頭による局部圧痕文。頸部には、クシb種によるはね上げ文にヘラによる斜線文を付加する。400は、

肩部下方には区画文1種、頸部と肩部上方には、ヘラによる斜線文を二段「ヤガスリ」状に配し、やはりヘラによる直線文二条と刻目文を「ハシゴ」状に組み合わせた文様を付加する。401は広口壺I。口縁部片で、縁帯に凹線文を施す。402・403は広口壺C。やはり口縁部片となる。頸部がやや長く、口端で縁帯を形成する。外面の調整は、前者が手法A a、後者が手法D bとなる。文様は、口縁部上面と、縁帯にクシb種による波状文、前者にはさらに頸部にクシc種による直線文と、クシb種による刻目文を加える。404も広口壺C。形状は、体部が丸みを帯びた「ソロバン玉」状で、口縁部は、402・403と同一となる。外面の調整は、手法D bによるが、口縁部には手法A bを加える。文様は、縁帯にクシb種による波状文、体部上方にクシd種による直線文と波状文を施す。405は、丸みを帯びた体部と、外反する口縁部をもつ。外面の調整は、風化が進み判然としない。文様は肩部を中心にクシb種による直線文と波状文を交互に施す。406は壺。体部の形状は丸みを帯びた「ソロバン玉」状。全体に風化が著しく、詳細は不明。407は細頸壺D。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴となる。外面の調整は、器面の風化が進み不明瞭だが、口縁部が手法A b、肩部・胴部が手法A a、腰部が手法C bによる。文様は、頸部上方にクシa種によるはね上げ文、頸部と肩部上方では、ヘラによる斜線文を二段「ヤガスリ」状に配し、やはりヘラによる直線文を付加する。また、胴部上方ではヘラによる直線文二条の間にクシa種による斜線文を充填する。肩部と胴部上方の文様帯の間には、ヘラによる波状文を施す。408は広口壺F。口縁部片。広口壺Fとしては一般的でない黒色焼成技法(ただしそれほど顕著ではない。)が特徴となる。外面の調整は、器面の風化が進み不明瞭だが、口縁部が手法A b、肩部の外面が手法A aとなる。文様は、縁帯に凹線文または擬凹線文を施すほかはヘラによるもので、頸部上方にははね上げ文、下方には直線文と連弧文、肩部には縦方向の波状文がみられる。408は細頸壺D。黒色焼成技法が特徴となる。外面の調整は、口縁部に手法A b、肩部・頸部外面に手法A aを施す。文様は頸部にクシa種によるはね上げ文を施し、ヘラによる直線文を付加する。口縁部内面にも竹管による刻目文、区画文4種がみられる。410は細頸壺B。外面の調整は、口縁部が手法A b、頸部が手法A aとなる。文様は頸部にクシa種によるはね上げ文を施し、ヘラによる直線文を付加する。411は細頸壺C。黒色焼成技法が特徴となる。外面の調整は、口縁部が手法A b、肩部・頸部外面が手法A aだが、口縁部外面には手法D b、残存する最下方には、手法C aを施す。文様はクシb種による直線文と波状文を施す。412は細頸壺E。肩部突出技法・黒色焼成技法(ただしそれほど顕著ではない。)が特徴となる。外面の調整は、器面の風化が進み不明瞭だが、口縁部が手法A b、肩部・胴部の外面が手法A a、腰部が手法C bによる。文様は、頸部にクシb種による直線文、頸部下方から胴部までは、ヘラによる直線文二条の間にクシa種によるオシビキ文を充填する文様を横方向に二段施したのち、それぞれの下部から斜線文風に同様の文様帯を刻む。413も細頸壺E。口縁部片。外面の調整は、口縁部が手法A b、頸部の外面が手法A aによる。文様はクシa種による波状文を口縁部外面に、頸部には直線文を施す。414も細頸壺。口端がわずかに屈曲し、体部は丸みを帯びる。外面の調整は、

口縁部が手法A b、そのほか手法A aによる。文様は全て原体がヘラ。頸部には直線文を二条、体部には縦方向の直線文で器面を区画したのち、各区画毎に直線文を積む。415は細頸壺G。胴部は強く張る。外面の調整は、口縁部が手法A b、肩部・胴部が手法A a、腰部が手法D bとなる。文様は口縁部に凹線文、頸部にはクシb種による刻目文と簾状文を三条施す。体部は上方から竹管による直線文と波状文を施し、胴部上方付近から下方にはクシb種による直線文と波状文を交互に刻む。416も細頸壺G。口縁部片。外面の調整は、口縁部が手法A b、頸部外面が手法A aによる。文様は口縁部に凹線文。頸部には、クシb種による刻目文を施す。417～420は細頸壺F。いずれも口縁部片。外面の調整は、口縁部が手法A b、頸部外面が手法A aによるが、418・419は手法D bの痕跡も残す。文様は口縁部に擬凹線文を施し、頸部には417がクシb種による刻目文、418・420がヘラによる直線文を施す。421～430は細頸壺の体部を集めた。422は胴部以下を欠損する。形状は「ソロバン玉」状を呈するものが、424・426・427・430で、「しもぶくれ」の形状をとるものが、421・423・428となる。428・423は底部が突出する。このうち肩部突出技法によるものは421、黒色焼成技法によるものは421・422・423となる。外面の調整は、胴部・肩部が手法A aとなることは通有だが、腰部は、手法A aが428、手法C aによるものが426・429、手法C bによるものが424、手法D bによるものが427となる。文様は、クシd種による直線文と波状文を交互に施すものが426・427・429・430。だが、429は同様の原体で上段の直線文に縦方向の直線文を付加する。421・422・428は、クシa種による文様で、421がオシビキ文と縦方向の波状文、通常の波状文を施す。422は直線文を間隔を開けて施し、ヘラによる斜線文を付加する。428は直線文を頸部と胴部に施し、肩部にはオシビキ文を縦方向に並べる。424はクシb種による直線文を重ねるもので、最下段には波状文も施す。直線文は頸部にも確認できるが、器面の風化が著しく、図中に表現していない。423・425はヘラによる文様構成。423は、頸部にはねあげ文を施し、体部には波状文と二条の直線文中に貝殻による刻目文を充填した文様を交互に並べる。425は、直線文二条中に斜格子文を充填する。431～446は壺の体部片を集めた。このうち、肩部突出技法によるものは433・437・438、黒色焼成技法によるものが431・432・434・437・439・440となる。文様は、431が肩部上方には、ヘラによる斜線文を二段「ヤガスリ」状に配し、その下方にヘラによる直線文を二条、さらに下方に区画文1類を施す。432はクシb種による直線文を間隔を開けて配し、さらにヘラによる山形文を施す。433は頸部にヘラによる斜格子文と直線文を組み合わせた文様を配置し、その下方にヘラによる刻目文、さらに下方にはクシb種による波状文を施す。434・435はクシb種による文様で、前者が直線文とオシビキ文の組合せ、後者が連弧文を重ねる。436はクシa種による波状文の上にヘラによる波状文と直線文をそれぞれ二本ずつ刻み、その下方に区画文1種を施す。437は二本のヘラによる直線文中にクシa種による斜線文を充填した文様を間隔を開けて並べる。各文様帯間は手法A a。438は、ヘラによる二条の直線文間に貝殻によるオシビキ文を充填する文様帯を、横方向に二段施し、その間にヘラによる山形文を刻む。439はヘラによる二条の直線文間に貝殻によるオシビ

キ文を充填する文様帯を、「T字」状に配す。440は、破片の上下にクシD種による直線文をやはりクシD種による縦方向の直線文で刻む文様帯を設定し、中央の手法Aaによる無文帯とヘラによる波状文を挟む。441は、ヘラによる波状文間にやはりヘラによる山形文を施す。442は、ヘラによる直線文二条の間にヘラによる刻目文を充填する文様を横方向に施す。443は竹管による斜格子文を上下に挟んでクシB種による直線文を施す。444・446はクシB種による直線文と、竹管による刻目文を施す。445はクシA種による縦方向の直線文と波状文を施す。447・448は高杯A。447は脚部を欠く。いずれも黒色焼成技法・連続成形技法が特徴。外面の調整は、器面の風化が進み不明瞭だが、口縁部に手法Ab、そのほかには手法Aa、内面に手法Aaを施す。また、447の脚部外面は手法Caによる。499は大鉢。頸部が発達する形状。口縁部は内面に稜をもって屈曲する。外面の調整は、口縁部が手法Ab、腰部が手法Cbによるほかは手法Aaによる。文様は、体部にクシA種による波状文と直線文、口端に指頭による刻目文を施す。450は大鉢形。体部の形状は丸みを帯びる。口縁部は外反する。外面の調整は、腰部が手法Cbによるほかは基本的に手法Dbによる。文様は口端にヘラによる刻目文を施す。451~455は、甕E。形状は、口縁部が短く外反し、いずれも内側に稜をもつ。452はこれが明瞭、451・453はこれが不明瞭となる。また、体部が残存する454・455は、胴部にやや張りをもつ。外面の調整は全面手法Aaによるが、451・453は手法Dbによる。文様は、口端にヘラによる刻目文が、451・454・455に確認できるが、452にも施す可能性がある。456・457は台部。柱状部は、前者が著しく発達し、後者が未発達となる。いずれも外面の調整は、器面の風化が進み不明瞭。

458~460はSK 10出土。458は広口壺A。肩部突出技法・黒色焼成技法が特徴。口縁部は外反する。外面の調整は、腰部に手法Cbを施すほかは手法Aa。文様は、頸部と体部にクシA種による直線文と波状文、オシビキ文を施し、口端には指頭による刻目文がみられる。459は壺の体部片。外面の調整は手法Aaによる。文様はクシA種による。460は壺の底部。腰部外面には手法Cbを施す。

461~474はSD 07出土。461は広口壺A。黒色焼成技法が特徴。口縁部は外反する。外面の調整は、手法Aa。文様は、頸部にクシA種による直線文を施す。462は広口壺I。外面の調整は、口端が手法Ab、そのほかは手法Aaとなる。文様は口縁部上面にクシB種による扇形文を施す。頸部下方、肩部にはクシB種による波状文と直線文、口端には擬凹線文が確認できる。463も広口壺I。口端の文様が凹線文となるほかは、462に一致する。464~471は壺の体部。外面の調整は手法Aaによるが、464は手法Cbも施す。文様はクシA種を基本とし、464が波状文、465・467が直線文とオシビキ文、468が直線文と波状文となる。また471はヘラによる波状文も付加する。469はクシA種による斜線文に、ヘラによる直線文・波状文を付加した文様帯と、ヘラによる斜線文を部分的に施す。また、470には区画文1種を施す。472は鉢Z。やや深い体部と、低く扁平な台部をもつ。外面の調整は手法Eaを施したのち、ラフな手法Aaを加える。473・474は甕の台部。473は柱状部の上方、474は裾部片。

475-501はSZ 33出土。475-487は西側周溝出土。475・476は細頸壺A。口縁部は外反し、口端はフラット。外面の調整は、手法A a。いずれも、頸部にヘラによるはね上げ文を施すが、後者については、頸部外面にクシb種による直線文も充填する。なお口端にはヘラによるオシビキ文も施す。477も細頸壺。頸部片。文様は付加沈線磨消技法によるが、文様帯はクシb種によるオシビキ文となる。479は壺の頸部片。外面の調整は、手法A aによる。文様には竹管による縦方向の直線文を施す。480は壺の胴部片。外面の調整は、手法A aによる。文様は、クシb種による直線文を縦方向と横方向に施す。481-483は壺。前者が頸部片で、後二者が肩部片である。外面の調整は、手法D a 1を地文に、ヘラによる波状文を付加する。混入。484は、おそらく大鉢。口縁部は外反する。調整は手法A a。文様は口縁部上面と口端に集中する。口縁部上面の文様は、クシb種による直線文上にヘラによる刻目文を付加し、口端ではヘラによる直線文と刻目文を施す。485・486は甕C。外面の調整は、手法D b。文様は、口端に指頭による局部圧痕文を施す。487は甕D。外面の調整は、手法D a 1。文様は口端に指頭による局部圧痕文がある。488-501は東側周溝出土。488は細頸壺A。頸部がやや太くなる。外面の調整は、胴部下方が手法D b。文様は、頸部下方・肩部が付加沈線磨消技法によるが、ヘラによる直線文は省略される。文様帯は付加文A 2。原体はクシb種。なお、口端には指頭による局部圧痕文がある。489は細頸壺C。口縁部片。口縁部は緩やかに屈曲する。文様は外面全面にクシb種による直線文を充填後、縁部下方にヘラによるオシビキ文を付加する。490-493、496-497は壺。いずれも体部片で、黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。文様帯に付加文が確認できるのは490・491・496の付加文A 2種、493のA 3種である。なお、497は棒状浮文を付加する。498は壺の底部片。外面は手法D b。499も壺。体部片で、外面の調整は手法A a。文様は区画文2種。充填された文様は貝殻による擬似縄文。500は甕。口縁部片で内外面手法D bによる。文様は口端に竹管によるオシビキ文を施す。501は甕A。外反する体部にフラットな口端をもつ。外面の調整は手法D a。文様は口縁部内面に貝殻(?)による波状文、口端に貝殻による直線文を施す。

502-508はSZ 34・35の共有周溝出土。502は細口壺A。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。胴部が張る形状。外面の調整は、胴部以下が手法D bによる。文様は、縁部にクシb種による波状文、頸部にクシb種による直線文を重ね、その下方には、二本のヘラによる直線文間にやはりヘラによる刻目文を充填する。口端内面には指頭による局部圧痕文を施す。肩部を中心とする付加沈線磨消技法は、文様帯がクシb種によるもので、付加文はA 2種となる。503は壺の口縁部片。黒色焼成技法が確認できる。口縁部は外反し、口端はフラットとなる。外面の調整は手法A a。前者は、頸部にヘラによるはね上げ文、口端にはクシb種による直線文、ヘラによるオシビキ文を施す。504-506も壺。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。文様帯はクシb種によるもので、付加文は504がA 2種、505・506がA 3種となる。なお、505には彩文も確認できる。507は壺の胴部片。黒色焼成技法が確認できる。外面は手法D bによる。508は甕C。腰部に丸みをもつ形状。

口縁部は外反し、端部を丸く収める。外面の調整は、手法D b。文様は口端に指頭による局部瓦痕文がある。

509・510・512～514はSZ 36 東周溝出土。器種はいずれも壺。509は細頸壺Aの口縁部片。口縁部は外反し、端部はフラットとなる。外面の調整は、手法A a。文様は頸部にクシb種による直線文を重ね、やはりクシb種による縦方向の直線文でこれを刻む。510は広口壺Aか。口縁部片で、黒色焼成技法が確認できる。形状は、口縁部が外反し、口端は丸みを帯びる。外面の調整は手法A a。文様は頸部に、付加文A 3種。口端にはヘラによるオシビキ文を施す。512は細頸壺の頸部。黒色焼成技法が確認できる。文様は付加沈線磨消技法によるほか、彩文も確認できる。513は肩部片。肩部上方に付加文A 3種を施す。514は腰部片。黒色焼成技法が確認できる。外面は手法D bによる。

511はSD 18 出土。器種は細頸壺A。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。体部は球形を呈する。外面の調整は、頸部が手法A a、胴部以下が手法D bによる。文様は、頸部にクシb種による直線文、口端には指頭による局部瓦痕文を施す。肩部を中心とする付加沈線磨消技法はやや退化傾向で、最下段のヘラによる直線文が省略される。文様帯はクシb種によるもので、付加文はA 3種となる。

515～518はSZ 36 南周溝出土。器種はいずれも壺。515は黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。文様帯はクシb種によるもので、付加文はA 1種となる。516は細頸壺Aか。口縁部片で、端部はフラット。外面の調整は手法A a。文様は頸部外面にクシb種による直線文を重ねる。517は、付加沈線磨消技法が確認できる。文様帯はクシb種によるもので、付加文はA 2種か。518は区画文3種を施し、ヘラによる直線文を充填する。

519～532はSK 11 出土。519は広口壺。口縁部は外反する。外面の調整は、器壁の風化が進み不明。文様は、口端にヘラによる刻目文を施し、口縁部上面に円形浮文を貼付する。縁帯下方には突帯文A種を施す。付加される刻目文はヘラによる。520は広口壺B。縁帯は長い。外面の調整は手法A a。文様は、縁帯に円形浮文、口縁部上面と縁帯下端に貝殻によるオシビキ文を施す。521は器種不明。口縁部片で、波状を呈する。外面の調整は、手法A aによる。文様は口縁部上面に貝殻背面による刻目文、外面に竹管による波状文を施す。522は広口壺。口縁部片で、波状を呈する。外面の調整は、手法A aによる。文様は口縁部上面に、貝殻による直線文、口縁部外面に竹管による斜格子文、頸部外面に直線文を施す。524・525は壺の体部片で、同一個体。外面の調整は、手法A aによる。文様はクシb種による直線文。526は器種不明。外面の調整は手法D a、ヘラによる波状文を施す。527は壺の体部片。外面の調整は、手法A aによる。文様は区画文2種。ただし区画は竹管による。528は大鉢か。口縁部片。外面の調整は手法A aを施したのち、ラフな手法C aを加える。文様は、口端にヘラによる刻目文を施し、口縁部上面に棒状浮文を貼付する。529・530は鉢Zで、同一個体。口縁部はフラット。文様はヘラによるもので、斜格文と斜線文を「ヤガスリ」状に配し、直線文でこれを分割する。531も鉢Z。口縁部片となる。外面の調整は、器壁の風化が進み不明。532は壺C。口縁部は外反し、端部を丸く収める。外面の調整は、

手法D a。文様は口端に指頭による局部瓦紋文がある。

533-539はSK 12出土。533は広口壺A。口縁部片。口縁部は外反する。調整は、内外面手法D bによる。文様は、口端にクシb種による波状文を施す。534は広口壺F。やはり口縁部片。口縁部は短く屈曲する。外面の調整は手法D b。535-537は甕の口縁部片。器種は前一者が甕A、後二者が甕C。外面の調整は、手法D aによる。文様は、536にクシb種による直線文がある。538・539は土器の底部。外面の調整は手法D aによる。

540-554はSK 13出土。540は広口壺I。口縁部は外反し、口端で肥厚する。外面の調整は手法A a。文様は、縁帯にクシb種によるオシビキ文がある。541は器種不明。全面手法A aによる。542は無頸壺B。底部を欠損する。体部はやや扁平な球形。外面の調整は、腰部が手法D b。文様は区画文2種で、貝殻による擬似縄文を充填する。543は広口壺の頸部。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法・頸部文様帯強調技法が確認できる。文様は、上段がクシb種による直線文を重ね、ヘラによる直線文でこれを刻む付加文A 2種、中・下段が山形文となるA 1種となる。544・545は壺。付加沈線磨消技法をとるものを集めた。前者は、黒色焼成技法の特徴をもつ。いずれも文様帯はクシb種によるが、前者がクシb種によるX字文を付加した付加文A 2種、後者がヘラによる山形文を付加した付加文A 3種となる。546は土器の底部。外面の調整は手法D bによる。547-554は甕。547・551・554は甕C、548・550・552・553は甕D。548・549は同一個体。いずれも器面の風化が著しい。外面の調整は、手法D aによるものが、547・550・551-553、手法D bによるものが553・554となる。文様は、口端に指頭による局部瓦紋文が547・552に認められる。

555-561はSK 14出土。555は壺。胴部は張る。外面の調整は、斜方向の手法C a。文様はヘラによる直線文を縦方向に並べ、下端に横方向の直線文を施す。556は細頸壺の頸部。外面の文様は区画文2種で、縄文を充填する。557は壺。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。文様は、クシb種による直線文を重ね、ヘラによる直線文でこれを刻む付加文A 2種による。558・559は甕C。口縁部片。口縁部は外反し、端部を丸く収める。外面の調整は、手法D b。文様は、559の口端に指頭による局部瓦紋文がある。560・561は甕。560は、底部に焼成後穿孔を施す。外面の調整は、前者が手法D a、後者が手法D bによる。

562-568はSK 15出土。562は広口壺B。縁帯は短い。文様は、口縁部上面に貝殻による刻目文、縁帯外面は付加文B種、頸部外面はヘラによるはね上げ文を施す。また、縁帯下方にも突帯文A種を施す。付加される刻目文は指頭による。563は広口壺。口縁部は外反する。外面の調整は手法A a。文様は、口端にヘラによるオシビキ文を施し、口縁部上面には棒状浮文を貼付する。564は壺の体部。腰部が張り、底部は突出する。外面の調整は、器面の風化が進み判然としない。565・566は同一個体で器種は壺。565は壺の胴部片。外面は手法D bによる。頸部は付加沈線磨消技法による。文様帯は、上段が付加文A 2、下段が付加文A 3。566は、底部片。突出する形状。外面の調整は、手法D bによる。567・568は土器の底部片。外面は手法D a。

569-572はSK 16 出土。569は口縁部片。外面の調整は、手法D a 1。文様はヘラによる直線文と斜格子文。570-572は壺。いずれも、付加沈線磨消技法が確認できる。文様は、570が、ヘラによるはね上げ文と、クシb種による直線文を重ね、ヘラによる山形文を加える付加文A 3種による。571は文様帯が斜格子文、572は、クシb種による直線文を重ね、ヘラによる縦方向の直線文と斜線文を加える付加文による。なお、572には頸部文様帯強調技法も確認できる。

573-610はSK 17 出土。573-575は広口壺E。いずれも口縁部片。503は、太い頸部をもつ。外面の調整は、手法D a による。文様は、頸部に竹管による波状文と、口端と口縁部内面に直線文、下方には突帯文A種を施す。突帯文に付加される刻目文はクシb種。574・575は、573に類似した形状。文様は、貝殻による直線文を頸部と口縁部内面に、クシb種によるオシビキ文を口端に施すが、前者は口縁部外面が無文となる。577・578は、574・575と同様。576は壺の口縁部片。口端はフラットとなる。外面の調整は、手法D b。文様は、口端に指頭による局部疍痕文がある。579も壺の口縁部片。外面の調整は手法D a 1。文様は、口端にヘラによるオシビキ文がある。580・581は壺Fの口縁部片。口縁部は丸みを帯び、口端はフラット。581は波状となる。いずれも外面の調整は手法D a。582-584は壺の頸部片。外面の調整は手法A a による。文様は貝殻による直線文とヘラによる波状文。585は無頸壺の口縁部片。外面の調整は、文様帯を除き、横方向の手法C a。文様は、クシb種による直線文を重ね、やはりクシb種による縦方向の直線文でこれを刻む付加文A 2種による。586は壺の体部。形状は、丸みを帯びる。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。外面の調整は横方向の手法C a。文様は、胴部にクシb種による縦方向の直線文を施す。肩部の、付加沈線磨消技法による文様は、クシb種による直線文を重ね、やはりクシb種でこれを刻む。587-595は土器の底部。外面の調整は、588・595が手法A a、587・589・590-594が手法D a による。なお、587の調整方向は、胴部で羽状となる。596は、壺の底部片。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。付加文の形状は破片の残存状況の関係からは、判断できない。597は細頸壺の頸部。外面の調整は、手法A a。文様は、クシb種による直線文を重ね、やはりクシb種による縦方向の直線文でこれを刻む。付加文A 2種による。598・599は壺の胴部片。外面の調整は、文様帯を除き、横方向の手法C a。文様は、クシb種による直線文を重ね、やはりクシb種による山形文でこれを刻む。付加文A 3種による。600は厚口鉢。底部を欠損する。外面の調整は、口端が手法D a 1による。601-609は甕A。口縁部は外反し、端部はフラット。外面の調整は手法D a によるが、このうち605・608・609は手法D a 1となる。調整方向は、602-604・606-608が羽状、605・609が斜方向となる。文様は、口端にクシb種(?)によるオシビキ文を施すが、608はこれがやや長い。608・609は口縁部内面に波状文を施す。原体は前者がクシb種、後者が貝殻による。なお、604・606は同一個体。611-613は甕の底部片。

614-616はSK 19 出土。614は細頸壺Aの口縁部片。口縁部は外反し、端部はフラットとなる。外面の調整は手法A a。文様は、縁帯下方にヘラによる刻目文と、指頭による局部

圧痕文を施す。頸部外面は、クシb種による直線文を重ね、やはりクシb種による縦方向の直線文でこれを刻む。付加文A2種による。615は壺の底部。外面の調整は手法Db、外底部は手法Eaによる。616は鉢乙。黒色焼成技法が特徴。体部は若干の丸みもち、口縁部は外反する。外面の調整は手法Aa。口端にはへらによる刻目文を施す。

617~618はSK20出土。617は広口壺B。頸部・緑帯は長い。文様は口縁部上面にへらによるオシビキ文を施す。緑帯は、クシ(?)による直線文と竹管による波状文を付加し、下方には突帯文A種を施す。付加される刻目文は指頭。頸部の文様は上方がはね上げ文、下方が緑帯と同一モチーフとなる。肩部との境界には突帯文A種を施す。付加される刻目文はへらによる。肩部の文様は直線文・はね上げ文を地文とし、竹管による縦方向の直線文・波状文を付加する。618は壺。最大径を肩部付近にもつ形状。底部は突出する。調整は、器面の風化が進み判然としないが、手法Daによる。文様は肩部にへらまたは竹管による山形文が確認できる。

619~626はSK21出土。619は壺の頸部片。頸部はやや長い。外面の調整は手法Db。文様は、頸部下方にクシb種による直線文にやはりクシb種による直線文を付加した付加文A2種。621~622は土器の底部。外面の調整は、前者が手法Db、後者が手法Da1。623は細頸壺。口縁部が短く、端部はフラットとなる。外面は付加沈線磨消技法による。文様帯は付加文A2。624は壺の口縁部片。緑帯屈曲部下方には突帯文A種を施す。付加される刻目文は指頭による。625~626は壺の体部片で、おそらく同一個体。外面は付加沈線磨消技法による。文様帯は、付加文A1。

627~628はSK22出土。627は壺の頸部片。黒色焼成技法が確認できる。外面は手法Dbによる。頸部は付加沈線磨消技法による。文様帯は付加文A3。628は壺C。外面の調整は手法Db。文様は口縁部上面にクシb種による波状文を施す。

629~631はSK23出土。629~631は壺。629は広口壺。口縁部は外反する。外面の調整は手法Aaによる。文様は、口端にへらによる刻目文を施し、頸部外面にはクシb種による直線文を「ヤガスリ」状に刻む。また、口縁部上面には棒状浮文を貼付し、その周囲をクシb種によりふちどる。630は細頸壺B。文様は、緑帯にクシb種による波状文、頸部にクシb種による直線文を重ね、口縁部上面にへらによる刻目文を施す。632~634は壺D。いずれも口縁部片。外面の調整は手法Dbによる。前二者の口端には、指頭による局部圧痕文がある。

635~637はSK24出土。635は広口壺B。口縁部片。口縁部は短く屈曲する。頸部外面の調整は手法Daによる。文様は、口端に竹管によるオシビキ文、緑帯はクシb種(?)による直線文上に棒状浮文を貼付する。棒状浮文の上部には擬似縄文を施す。なお、緑帯屈曲部下方には突帯文A種を施す。付加される刻目文は指頭による。また、頸部内面には、クシb種(?)による直線文を施す。636は無頸壺。口縁部片で端部はフラット。外面の調整は手法Aaだが、端部は手法Abによる。文様は、へらによる直線文と貝殻による擬似縄文が確認できる。637は壺の体部片。外面は手法Da。外面に彩文が確認できる。

638-641はSK 25 出土。638-640は細頸壺。いずれも口縁部・頸部片で、おそらく同一個体。形状は細い頸部に、強く屈曲する緑帯をもつ。緑帯下部の屈曲部分には竹管によるオシビキ文を施す。頸部の装飾は、竹管による直線文を重ね、やはり竹管による山形文を付加した付加文A 3種。641は壺の口縁部片。外面の調整は手法D a 2による。口端にはクシb種によるオシビキ文を施す。

642はSK 26 出土。壺の胴部片で、黒色焼成技法が特徴。外面の調整は手法A aによる。文様は、クシb種による直線文を重ね、ヘラによる刻目文を付加する。

643はSK 27 出土。器種は甕D。腰部に丸みをもつ形状。口縁部は外反し、端部を丸く収める。外面の調整は手法D b。文様は口端に指頭による局部瓦文がある。

644はSK 28 出土。器種は細頸壺。口縁部と底部を欠損する。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が確認できる。胴部が張る形状で、外面の調整は手法D bによる。文様は付加沈線磨消技法による。文様帯はクシb種、付加文はA 2種となる。

645-690はSD 08 出土。645は広口壺B。外面の調整は手法A a。文様は、緑帯下端に貝殻によるオシビキ文、頸部上方にヘラによるはね上げ文、下方にヘラによる二条の直線文中に貝殻による刻目文を充填する。646・647は細頸壺C。頸部は長い。文様は、緑帯にクシb種による波状文、頸部外面にやはりクシb種による直線文を重ねる。647にはさらに緑帯と、頸部下方に円形浮文、緑帯下端にヘラによるオシビキ文を加える。648は壺の肩部片。外面の調整は手法A a。文様はヘラによるもので、頸部に二条の直線文中に斜格子文を充填、肩部上方にやや崩れた付加文B種を施す。649は細頸壺の頸部片。文様は外面にクシb種による直線文を重ねる。651・652は細頸壺の口縁部片。外面にクシb種による直線文を重ね、緑帯下端にはヘラによるオシビキ文を加える。653・654は細頸壺A。文様は付加文A 2か。前者は下方に無文帯（調整は手法A a）が存在し、やや崩れた付加沈線磨消技法をとる。655は広口壺B。口縁部片で、緑帯は短い。文様は、口縁上面に貝殻による直線文と貝殻背面を利用した刻目文、緑帯外面は貝殻による斜線文と棒状浮文、口縁部内面には貝殻による直線文を施す。頸部外面は風化が著しいが、緑帯屈曲部の下方には突帯文A種を施す。付加される刻目文は指頭による。656は壺の頸部片。外面の調整は手法A a、文様はヘラによるはね上げ文を施す。657・658は細頸壺の頸部。黒色焼成技法が特徴。文様は、前者がヘラによる直線文と刻目文を「ヤガスリ」状に施し、この部分は突出する（頸部文様帯強調技法）。後者は、やはりヘラによる直線文と、付加文B種を施す。659は壺の頸部片。文様はヘラによる直線文と、クシb種による直線文となる。670・674も壺で、肩部片。外面の調整は手法D bによる。文様はクシb種によるもので、前者が縦方向の直線文、後者が縦方向の直線文・波状文となる。660-669・671・672・673・675-681は壺。付加沈線磨消技法をとるものを集めた。676・677、678-681がそれぞれ同一個体。661・664・666-669・671-681が、黒色焼成技法の特徴をもつ。いずれも文様帯はクシb種によるが、660・670・673・675がヘラによる丁字文を付加した付加文A 1種、661-663・665がクシb種によるX字文を付加した付加文A 2種、666・667・668・671・672・676-681が

へらによる山形文を付加した付加文A 3種となる。なお、664・666には円形浮文、678～681には棒状浮文も確認できる。650は広口壺。口縁部は下方に垂下する。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は手法A a。文様は、口端にへらによる刻目文を施し、頸部外面にはクシb種による直線文を刻む。682・683は壺の底部。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は手法D c。684は甕B。口縁部は緩やかに外反する。外面の調整は手法D b。口端に指頭による局部圧痕文を施す。685～688も甕で、前二者が甕D、後二者が甕Cとなる。外面の調整はいずれも手法D c。文様は、685と687の口端に指頭による局部圧痕文を施す。689は甕の底部片。外面の調整は手法D b。

691～708はSD 09出土。691は広口壺A。口縁部は外反する。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法・頸部文様帯強調技法が特徴。外面の調整は、頸部が手法A aによる。文様は、頸部にへらによるはね上げ文、口端にはクシb種による直線文のほか、頸部下方に彩文を施す。頸部の文様帯はクシb種によるが、へらによる丁字文と頂部が丸い山形文を付加した付加文A 4種となる。692は広口壺C。口縁部片。口縁部は外反し、端部は肥厚する。文様は、頸部外面と縁帯に貝殻による直線文、縁帯下方には指頭による刻目文を施す。693～701は壺の体部片を集めた。693～697・700・701・703に黒色焼成技法、698・699には付加沈線磨消技法が特徴。外面の調整は、694・695・696・697が手法D b。文様は、693がへらによる直線文を境界とする上部にへらによる斜格子文、下部にクシb種による直線文に、へらによる山形文と縦方向の直線文を付加する付加文A 4種を施す。694・696はクシb種による付加文A 2種による。695はへらによる連弧文の一部分となる。698・999は付加沈線磨消技法によるもので、前者は文様帯にクシb種によるX字文を付加した付加文A 2種。後者は棒状浮文を貼付する。700・701はへらによる施文が特徴的で、700はさらに貝殻による刻目文を施す。702は壺の頸部片。外面の調整は手法D aによる。中央に突帯文A種を施す。付加される刻目文はへらと貝殻背面による。703は壺の底部。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は手法D c。704は大鉢(?)の頸部片。黒色焼成技法が特徴。調整は手法A a。文様は外面がへらによるはね上げ文とクシb種による直線文、内面が付加文A 2種。705は器種不明の口縁部片。緩やかに外反する口縁部をもつ。端部はフラット。文様は口端にへらによる刻目文、口縁部上面に貝殻(?)による波状文を施す。706～708は甕。前二者が甕C、後二者が甕Dとなる。外面の調整はいずれも手法D c。文様は、706の口端に指頭による局部圧痕文がある。

709～741はSD 10出土。709は広口壺。口縁部は、端部で若干垂下する。外面の調整は、頸部が手法D bによる。文様は、口端にへらによる刻目文を施し、口縁部上面には、貝殻による刻目文や円形浮文がある。710は広口壺I。口縁部片。直線的な頸部に強く外反する口縁部をもつ。外面の調整は手法D bを施す。文様は、口端にクシb種による刻目文を上下別々に施す。711～713は無頸壺A。いずれも胴部以下を欠損する。黒色焼成技法が特徴で、711・713には付加沈線磨消技法も施す。外面の調整は、いずれも胴部が手法D b。文様は712・713がクシb種による文様帯に、前者はクシb種による丁字文を付加した付加文

A 1種、後者がヘラによるX字文を付加した付加文A 2種となる。714は細頸壺の頸部。付加沈磨磨消技法が特徴。文様は、クシb種による文様帯に、ヘラによる丁字文を付加した付加文A 1種。714~718も細頸壺。いずれも口縁部片。715・717は黒色焼成技法が特徴。形状は、714がわずかに屈曲して縁帯を形成し、717はこれが明瞭となる。716は口端がフラット。718は内面にわずかに突出する。715・717は黒色焼成技法が特徴。文様は、715がクシb種による波状文を口端に、頸部には直線文を重ねる。716は、クシb種による文様帯に、やはりクシb種による丁字文を付加した付加文A 1種を施す。717は、クシb種による波状文を縁帯に、頸部にはラフな直線文を重ねるほか、縁帯下方にはヘラによる刻目文を施す。719~723は壺の体部。いずれも口縁部を欠損する。底部は、721を除き、いずれも突出する。外面の調整は、719が手法D b、720が手法C b、721~723が手法D aによる。文様は、719がクシb種による文様帯に、ヘラによる丁字文を付加した付加文A 1種。722は頸部下方にヘラによる付加文B種、肩部にやはりヘラによる連弧文を施す。また、721は胴部にヘラによる連弧文、723は区画文3種による。724~729は壺の体部片を集めた。724~727は黒色焼成技法が特徴。文様は、724・725が付加沈磨磨消技法によるもの。文様帯はクシb種によるもの。前者は、ヘラによる丁字文を付加する付加文A 2種、後者は文様帯にクシb種によるX字文を付加した付加文A 2種となる。726・727は付加文A 3種。山形文は前者がヘラ、後者がクシb種となる。728は貝殻による刻目文を地文とし、ヘラによる直線文・連弧文を施す。729は、縄文を地文にヘラによる直線文を施す。730・731は壺の頸部片。前者はヘラによる直線文と付加文B種を施し、後者は竹管による刻目文を施す。732は鉢z。小振りて口縁部が短く外反する。外面の調整はラフな手法A cを施す。無文。733は大鉢の口縁部片。口縁部は外反する。外面の調整は手法A cを施す。文様は、口端に棒状浮文を貼付し、その周囲をクシb種によりふちどる。頸部にはやはりクシb種による波状文を施す。734・735・737~740は甕C。外面の調整は、734・735・737・738が手法D b、739・740が手法D aによる。文様は、734・735の口端に指頭による局部圧痕文がある。741は甕H。混入。

742~771はSD 12出土。742は細頸壺。体部は細身で、頸部は長い。外面の調整は手法D aを施す。文様は、頸部にヘラによる二条の直線間に縄文を充填する文様帯の上下に、ヘラ(?)による直線文を重ねるほか、肩部には区画文3種を施す。743は壺の体部。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は、肩部・胴部上方が手法A a、胴部下方、腰部が手法C b。胴部上方の文様は、文様帯にクシb種によるX字文を付加した付加文A 1種を施す。745・746は黒色焼成技法が特徴。形状は、744・745がわずかに屈曲した縁帯をもち、746は屈曲が明瞭となる。747は口端がフラット。文様は、744・746がクシb種による波状文を口端に、頸部には直線文を重ねる。747は頸部にヘラによる直線文、口端の下方にやはりヘラによる刻目文を施す。748~750は広口壺B。口縁部片。749・750は同一個体。いずれも縁帯は短い。文様は、748が口縁部上面に貝殻によるやや単位の長いオシビキ文、縁帯外面は貝殻による直線文と棒状浮文、口縁部内面には貝殻による直線文を施す。縁帯屈曲部の下方

には、突帯文A種が施され、これに付加される刻目文は指頭による。749・750は、縁帯外面に貝殻による直線文と棒状浮文を施す。棒状浮文の上面は貝殻の背面による刻目文を付加する。また、縁帯上面には縄文を施す。751は無頸壺の口縁部片。黒色焼成技法が特徴。口縁部付近には、クシb種による波状文と、ヘラによる直線文を施す。752-762は壺の体部片。755・760-762は黒色焼成技法、775-762は付加沈線磨消技法が特徴。なお、756-759、760-762はそれぞれ同一個体。文様は、752はクシb種による直線文を施す。753は区画文2種。充填される文様は貝殻による刻目文。754は竹管による波状文を施す。755-762は、いずれも文様帯がクシb種で、やはりクシb種による丁字文を付加した付加文A2種、ただし、756-758の付加文は波状文となる。763-765は甕A。口縁部は外反し、端部がフラットとなる。外面の調整は手法D a 1。文様は、763が口端にやや長いオシビキ文、口縁部上面にやはり貝殻による直線文を施し、764・765が口端に貝殻による直線文を施す。766・767は甕B。短く外反する口縁部をもつ。口端の形状は、前者がフラット、後者は丸く収める。外面の調整は手法D bによる。文様は766の口端に指頭による局部屈折文、口端下部にはヘラによる刻目文を施す。768-770は甕C。外面の調整は手法D a 1。772-773は甕の底部。

774-777はSD 13出土。774は壺の頸部片。文様は、ヘラによる直線文と、刻目文を「ヤガスリ」状に施す。775は壺の体部片。黒色焼成技法・付加沈線磨消技法が特徴。文様は、文様帯がクシb種で、やはりクシb種による丁字文と棒状浮文を付加した付加文A2種となる。776は甕A。口縁部は外反し、端部がフラットとなる。外面の調整は手法D a。777は甕の底部。外面の調整は手法D a。

778-790はSD 14出土。778-785は壺。778は細頸壺Aの口縁部。端部はフラット。文様は、クシb種を地文とし、ヘラによる山形文を付加した付加文A3種となる。779は、頸部片。頸部文様帯強調技法による。文様はヘラを原体とし、直線文と斜格子文を施す。780は、頸部片。620とよく類似する。781は、肩部片。文様はクシb種を地文とし、やはりクシb種による山形文を付加した付加文A3種による。782は体部片。文様帯がクシb種で、やはりクシb種による丁字文を付加した付加文A2種、ただし、付加文は波状となる。また文様帯下方には円形浮文も貼付する。783-785は頸部片か。同一個体。文様はクシb種を地文とし、ヘラによる山形文を付加した付加文A3種による。786-789は甕。器種は786・788・789が甕C、787が甕Dである。外面の調整は手法D bによる。

791-793はSD 15出土。器種はいずれも甕C。外面の調整は、791・792が手法D a、793が手法D bによる。文様は、792は貝殻を原体とし、口端にやや長いオシビキ文と、口縁部内面に斜線文と縦方向の直線文を施す。793は指頭による局部屈折文を施す。

794-833はSD 16出土。794は広口壺A。口縁部は外反する形状。外面の調整は、頸部が手法A aによる。文様は、頸部にヘラによるはね上げ文、口端には貝殻による刻目文のほか、頸部にヘラによる直線文、口縁部上面には貝殻背面を使用した局部屈折文を刻む。795-797は壺の頸部。黒色焼成技法、796を除き付加沈線磨消技法が特徴。文様は、795・797

が文様帯をクシb種とし、前者がヘラによる山形文を付加した付加文A3種、後者がクシb種による丁字文を付加した付加文A2種となる。796は文様帯をクシb種とし、やはりクシb種による山形文を付加した付加文A3種を施すが、付加沈線磨消技法の無文帯に該当する部分を、クシb種による斜線文で充填する。また、頸部下方には彩文を施す。798は細頸壺A。口縁部は緩やかに外反する形状。文様はクシb種による直線文を重ね、ヘラによる山形文を付加する付加文A3種となる。801~810は壺の体部片を集めた。800・801、804・805、806~810はそれぞれ同一個体となる。799~802・804・805は黒色焼成技法、799・802・804~810は付加沈線磨消技法が特色。文様は、800・801がクシb種による丁字文を付加した付加文A2種、803がヘラによるやや崩れた付加文B種を施す。799・802・804~810は、いずれも文様帯はクシb種によるが、799がヘラによる山形文を付加した付加文A3種、802・804・805がヘラによる丁字文を付加した付加文A1種、806~810がクシb種によるX字文を付加した付加文A2種となる。ただし802は文様帯上下のヘラによる直線文が省略される。811~815は底部片。外面の調整は、811・813・814が手法D a、812・815が手法D bによる。816・817は大鉢。黒色焼成技法が特色。816は胴部が張る形状。外面の調整は、口縁部が手法A a、腰部は手法C bを施す。文様は、付加沈線磨消技法による。文様帯はクシb種。ヘラによる山形文を付加した付加文A3種となる。817は口縁部片。文様は、頸部の外面がクシb種によるはね上げ文と直線文、口縁部上面には貝殻による刻目文とヘラによるオシビキ文を施す。口縁部内面には、円形浮文を二個並べ、上面に貝殻による刻目文を施し、その周囲をクシb種によりふちどる。818~831は甕。器種は819が甕A、818・822・828が甕D、829・830が甕Bによる。外面の調整は、819が手法D aのほかは全て手法D bによる。831は甕の胴部片。外面の調整は手法D b。832・833は土器の底部。外面の調整は、832が手法D a、833が手法E aを施したのち、ラフな手法A aを加えるが、部分的に「ヤガスリ」状を呈する。文様は、834の肩部と頸部に竹管による波状文を施す。

834~866はSD 17出土。834・835は壺の体部片。いずれも口縁部と底部を欠損する。外面の調整は手法D a 1による。836は壺の頸部片。外面の調整は、貝殻による直線文・波状文を施す。頸部下方が手法A a。文様は頸部下方に竹管による波状文、頸部上方には貝殻による直線文とはね上げ文を施す。837は広口壺E。口縁部片。外面の調整は手法A aによる。文様は頸部と口縁部内面に貝殻による直線文、口端にやはり貝殻によるオシビキ文を施す。838は広口壺B。口縁部片。文様は、縁帯外面にヘラによる直線文、縁帯屈曲部の下方には、突帯文A種が施され、これに付加される刻目文はヘラと貝殻背面による。839は鉢Z。口縁部片で端部はフラット。外面の調整は手法D a 1。文様は竹管によるもので、外面に波状文と山形文、口端にオシビキ文を施す。842・843は壺の肩部片。同一個体。外面の調整は手法A a。文様は竹管による直線文二条中に貝殻による直線文を充填し、やはり貝殻による縦方向の直線文を付加する。840・844は同一個体で、広口壺C。外面の調整は手法D b。頸部は長く、口縁部に縁帯をもつ形状。文様は、頸部にヘラによる直線文と波

状文を交互に施し、口端にはクシb種による刻目文を「ヤガスリ」状に施す。混入。845は、壺の頸部片。文様は、頸部中央に突帯文A種が施され、これに付加される刻目文は竹管による。突帯の上方には貝殻による直線文・はね上げ文を施し、下方には竹管による波状文を刻む。846・847も壺の頸部片。文様は貝殻による直線文。848は器種不明。文様は貝殻による直線文にヘラによる波状文を付加する。849～854は土器の底部。外面の調整は、849・850が手法C b、851～854は手法D aによる。855は大鉢。口縁部片。口縁部は外反する。外面の調整は、手法A cを施す。文様は、口端に棒状浮文を貼付し、その周囲をクシb種によりふちどる。856は厚口鉢。外面の調整は手法A aによるが、口端は手法D a。857～864・866は甕。器種は857～861・866が甕A、863・864が甕D、862が甕Bである。外面の調整はすべて手法D aによるが、866は「ヤガスリ」状となる。文様は口端に貝殻によるオシビキ文を施すものが857～859・861・866、やはり貝殻による直線文を施すものが860となる。また、862は指頭による局部圧痕文を施す。867・868は土器の底部。外面の調整はいずれも手法D aによる。

869～879はSX 06出土。869・871・873は同一個体である可能性をもつ。869は口縁部片。器種はおそらく広口壺A。頸部外面にヘラによるはね上げ文、口縁部下方にヘラによるオシビキ文を施す。871は頸部片。文様は、上方にヘラによる二条の直線文中にやはりヘラによる斜格子文を充填し、その下方にはクシb種による直線文とやはりクシb種による丁字文を付加する付加文A 2を施す。870は、細頸壺Aの口縁部片。口端はフラット。文様は、クシb種を地文とし、ヘラによる山形文を付加した付加文A 3種となる。872～874は付加沈線磨削技法を施すもの。874は黒色焼成技法も施す。文様は、いずれもクシb種を地文とし、クシによるX字文を付加した付加文A 1種が872、ヘラによる山形文を付加した付加文A 3種が873、クシによる丁字文を付加した付加文A 2種が874。875は壺の胴部片。黒色焼成技法が特徴。外面の調整は手法D a。876・877は土器の底部。外面の調整は、前者が手法D a、後者が手法D bによる。878～881は甕。器種は878が甕A、879が甕B、880が甕C、881が甕Dである。外面の調整は、878・880・881が手法D b、879が手法D b。文様は、878の口端に貝殻による直線文と指頭による局部圧痕文を施す。なお、879は底部脇に焼成後穿孔を施す。

891～963は包含層出土。器種は、広口壺Aが891～893・903～909、広口壺Bが883・910～914、広口壺Dが915・917、広口壺Eが884・885、広口壺Fが886・887、広口壺Hが925、広口壺Iが926・927・928・938、広口壺Kが952～955となる。細頸壺では、細頸壺Aが874、細頸壺Bが919・921・922。高杯は、高杯Cが956、高杯Fが958。甕は、甕Aが889・890、甕Bが900・901、甕Cが902、甕Eが945・958、甕Fが947・950、甕Iが960・962・963。大形鉢には944がある。
(池本正明)

③ 古墳時代～中世の土器

前述の第1面にとまうものである。種類としては土師器と須恵器・灰釉系陶器・施釉^(註)

陶器（古瀬戸）があり、器種としては、前者に壺・甕・高杯・杯・鍋・釜、後者に杯・杯蓋・杯身・碗・小皿・丸皿・広口瓶・平瓶・壺がある。なお、後半期灰釉系陶器はすべて、南部系（藤澤 1982）である。また、法量などは巻末の一覧表に示した。

93・94はSZ 01出土。93は壺。肩平な体部に、やや長い口縁部をもつ。外面底部付近に手法A bを加える。94は鉢。口縁部は手法A b、底部外面は手法E aによる。

95～109はSX 01出土。95～101までが壺。95・96は二重口縁となる。95は体部が球形。頸部上方は屈曲し、明瞭な段を形成する。腰部および底部外面は手法E a、肩部付近は手法D bを手法A aでラフに消す。なお腰部には焼成後穿孔が認められる。4世紀。96は94に類似した形状。外面の調整は、腰部に手法C aを施すのか。文様は肩部にクシb種による直線文と波状文、口縁部では外面に「ヤガスリ」状の刻目文を施し、内面は3段の刻目文を充填する。4世紀。97～99は壺。ほぼ球形の体部に直線的な口縁部を有する形状。底部は平底となり、口端はわずかに内彎する。外面の調整は、手法A aを基本とするが、97は底部付近に手法E aを加える。99は口端付近に手法A bを付加し、二重口縁風に仕上げられる。いずれも4世紀。100・101は小振り。100は球形の体部で丸底。外面は手法A aによるが、底部付近のみ手法E aが消された痕跡をとどめる。内面は手法A c。101は肩部がわずかに張る形状で、底部は平底となる。器壁は厚い。外面は手法A aによるが、頸部のみ手法A bを付加する。102～104は甕。102・103は同一個体か。102は頸部片で、「くの字」状に屈曲する。肩部付近に手法E a、頸部に手法A bを施す。103は腰部以下が残存する。体部は卵型で、底部は平底。外面は手法A a。6世紀。104は口縁部を欠く。体部は丸みを帯びるが、やや扁平。底部は平底となる。外面の調整は、体部が手法A a、頸部が手法A bによる。5～6世紀。105～109は高杯。105は杯部片。浅い形状で、やや張りをもつ。口縁部を手法A bの後、下方を手法E a、内面を手法D bでラフに整える。杯部外底面には、脚部接合のための5mm大の小突起を設定する。6世紀。106～109は脚部片。いずれも柱状部で、屈曲して裾部を形成する。106・107は裾部を欠く。柱状部はやや太い。杯部との接合部は「ソケット」状を呈する。柱状部外面と裾部内外面は手法A a、柱状部内面は手法E aによる。107は柱状部分に手法C aを加える。いずれも5世紀。108は106・107と同様、裾部を欠く。柱状部はやや太い。柱状部外面と裾部内外面は手法A a、柱状部内面は手法E aによる。5世紀。109は裾部を端部まで残存させる。裾部はわずかに外反。柱状部はやや太く、中央部分で若干丸をもつ。外面は手法C a、柱状部内面は手法E bによる。内外面とも手法A a。5世紀後半から6世紀前半。

110～112まではSK 02出土。いずれも二重口縁となる壺で、頸部上方で明瞭な段を形成後、緩やかに外反する口縁部がつく。4世紀。113はSD 04出土。甕で、底部は「輪古」状。頸部は手法A b、体部は手法D bの後、手法A aでこれを消し、底部外面をも含めて特殊な手法D b（板状工具の小口方向にやや荒い刻み目をつけた原体）を通常の手法D bとは逆方向に施す。なお下胴部には焼成後穿孔が認められる。3世紀後半～4世紀前半。

114～116はSX 02出土。114・115は壺。114は二重口縁をとる。体部は球形。頸部上方

で明瞭な段を形成し、緩やかに外反する口縁部がつく。器壁は薄い。下胴部および底部外面は手法E a。115は壺。体部は卵型を呈する。口縁部は短く外反する。全面手法A aによるが、腰部以下の外面は手法E a。116は甕か。体部はやや丸みをもつ。外面にはスガが付着する。外面の調整は、腰部、底部に手法E aを施す。

117-121まで包含層出土。117・121は二重口縁となる壺。117は体部が卵形。頸部上方で屈曲し段を形成する。口縁部は緩やかに外反する。器壁は薄い。外面の調整は不明。口端上方にはヘラによる直線文を一条めぐらす。4世紀後半から5世紀。117は口縁部片で、二重口縁となる。頸部上方の段は明瞭。口縁部は直線的に伸びる。器壁は厚い。全面手法A aによるが、外面の段部分には手法A bを付加、頸部外面にはラフな手法D bを付加する。口縁部内面には刻目文を施す。4世紀後半。119・120は高杯。119は胴部を欠く。杯部は緩やかに屈曲する。柱状部は細く長い。全面手法A aだが、柱状部外面は手法C a。5世紀前半。120は脚部を欠く。杯部は稜をもって屈曲する。杯部の内底部分はフラットとなる。121はミニチュア品。二重口縁をもつ甕か。球形の体部に短く屈曲する口縁部がつく。全面手法A a。

122は、SD 03 出土。須恵器杯蓋で、小振り。天井部は丸みを帯び、頂部はややフラットとなる。天井部外面はヘラ切り後、頂部のみ回転ヘラ削り調整を加える。7世紀前半。

123-136までSK 01 出土。123-129までが埋土上部出土資料。123-128は灰軸系陶器。123・124はいずれも椀で底部片。123は前半期。小型化した断面「三日月」状の高台をもつ。底部外面は回転ヘラ削り調整。内底部には淡緑色の灰軸が付着。10世紀後半。124は後半期。やはり底部片で、低くつぶれた断面三角形の高台をもつ。端部にはモミガラ圧痕は観察できない。12世紀前半。125・127は小皿。いずれも後半期。125は底部片。底部がやや突出する。12世紀後半。127は底部を欠くが扁平な形状。口縁部はフラットとなる。13世紀。126は長頸瓶。底部片で前半期。底径はやや小さい。128は平瓶。やはり前半期。上面部分には濃緑色の灰軸が付着する。天井部には上面を手持ちヘラ削り調整した大振りの把手を貼付する。129は施軸陶器。器種不明。体部下方で屈曲する形状。外面には画花文が確認できる。モチーフは不明。底部外面を除く全面に濃緑色の灰軸を施す。130-136までが下部出土資料。130・131は後半期灰軸系陶器。いずれも椀。130は口縁部片。直線的な体部をもつ。口縁部は丸みを帯びるが、端部調整は確認できない。13世紀末。131は、底部片。低くつぶれた断面三角形の高台をもつ。端部にはモミガラ圧痕が確認できる。12世紀中頃。132-135までが土師器。いずれもクロロもしくは回転台使用。132は小皿。形状・手法などは、後半期灰軸系陶器の小皿に類似する。ただし内底部に「コロシ」は確認できない。135・136は杯。いずれもやや丸みを持った体部をもつ。口縁部は丸みを帯びるが、端部調整は確認できない。内底部に「コロシ」が確認でき、周辺部分が浅くくぼむ。底部外面は回転系切り痕を未調整で残す。

137はSD 01 出土。灰軸系陶器の広口瓶下胴部片。やや丸みを持った形状を呈する。高台は断面台形で、やや外側に傾く。10世紀後半-11世紀。

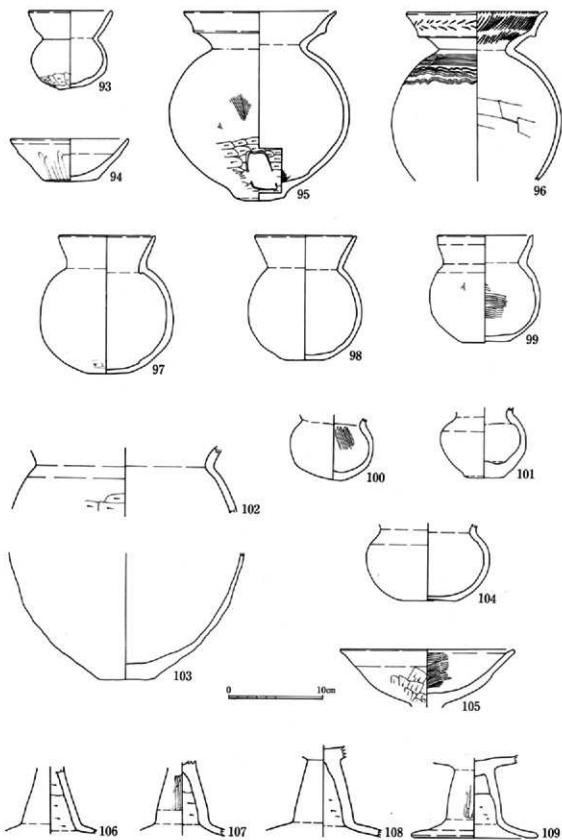


図 33 古墳時代の土器 1

138-140 まで NR 02 出土。いずれも灰釉系陶器。138 は口縁部片。直線的な体部をもつ。口縁部はフラットで上部はやや尖る。端部は未調整。13 世紀中頃。139 は、底部片。低くつぶれた断面三角形の高台をもつ。端部にはモミガラ圧痕が確認できる。12 世紀中頃。140 は壺。体部に強い丸みをもつ形状。底部には断面台形の低い高台をもつ。外面には黄灰色の灰釉を施す。

141-159 まで包含層出土資料。141-143 は須恵器。141 は杯蓋。丸みを帯びた天井部に、内面にかえしをもつ形状。7 世紀後半。142 は杯身。扁平な形状。7 世紀前半。143 は杯。体部にはほぼ直線的な形状。底部外面は回転糸切り痕を未調整で残すほか、墨書が確認される。「太」と判読できるが、破片資料のためさらに文字がこれに加わる可能性も考えられる。144・145 は前半期灰釉系陶器の碗。いずれも底部片。肉厚の底部に断面長方形の低い高台をもつ。内底部に灰釉を施す。146 は土師器甕。口縁部は水平に外反する。147-154 は後半期灰釉系陶器。147-152 は碗。147 は完形。直線的な体部をもつ。口縁部は丸みを帯びるが、端部調整は確認できない。13 世紀末。148 は腰部にわずかに丸みをもつ。口縁部上面はやや尖る。端部は未調整。13 世紀中頃。149 は口縁部片。体部にやや丸みをもつ形状。口縁部付近に灰緑色の灰釉をツケガケする。150-152 は底部片。いずれも高台は低くつぶれる。端部には 150 がモミガラ圧痕、151・152 が砂粒圧痕をとどめる。内底部の形状は、150 がフラットで、151・152 は周辺部分がやや盛り上がる。150 は 12 世紀中頃。151・152 はこれよりやや遅るかもしれない。153・154 は小皿。153 は深手の形状。底部はやや突出する。12 世紀末。154 は底部を欠くが扁平な形状。口縁部はフラットとなる。13 世紀。155 は施釉陶器で折縁深皿。口縁部片で、折曲げられた口縁部の中央に低い突帯をもつ。15 世紀前半。156 は灰釉丸皿。16 世紀。157-159 は土師器。157 は鍋。口縁部は「く」字状に外反する。口縁部内面には吊り手を貼付する。159 は釜。口縁部直下に鈎をもつ。口縁部はフラットである。(池本正明)

注 本書では「灰釉陶器」と「山茶碗」とを「灰釉系陶器」という名称で同一概念として考え、前者を前半期、後者を後半期と呼称している（池本 1990 a・1990 b）。

引用文献

- 池本正明 1990 a 「猿投室の山茶碗」『マージナル』10 愛知考古学談話会
 1990 b 「奥三河の灰釉系陶器」『考古学フォーラム』1 愛知考古学談話会
 藤澤良祐 1982 「瀬戸古窯跡群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』Ⅰ
 瀬戸市歴史民俗資料館

④近世の土器・陶磁器

岡島遺跡発掘調査(92年度)の表土剥ぎの段階で、かなりの量の近世陶器が採集できた。これは鳥居あさの宅で使用されていたものであり、伝世品として長らく使用されたもので

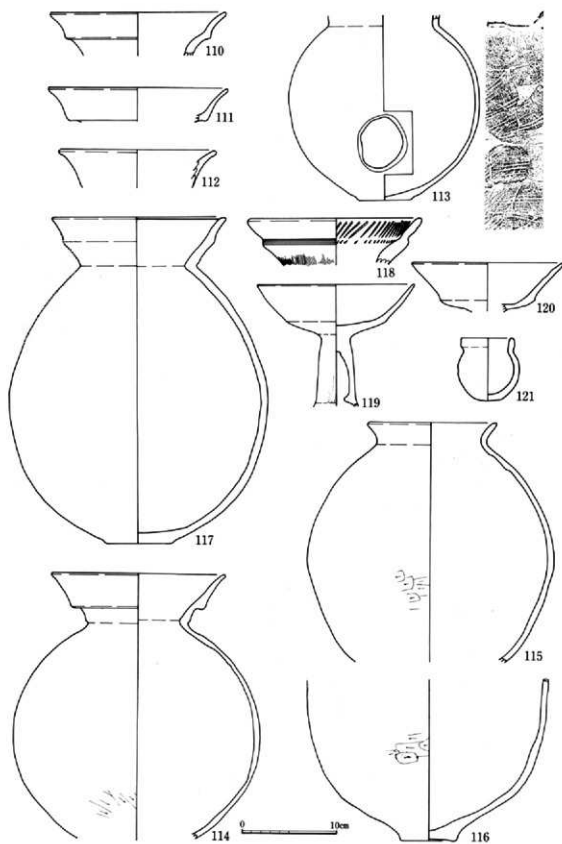


図 34 古墳時代の土器 2

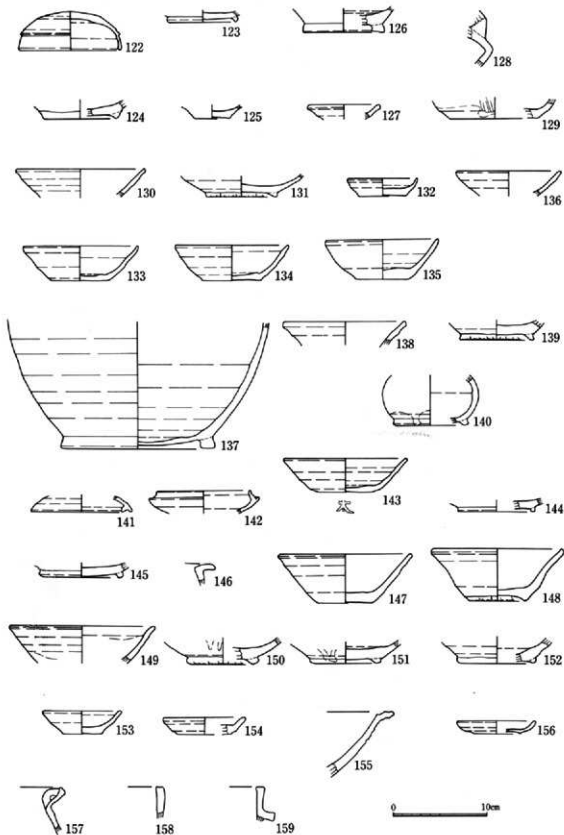


図 35 古墳時代～中世の土器

あろう。また、かなりの量の常滑産の甕も出土している。主に出土した地域は92 A区からである。以下、出土した近世陶磁器に関して説明を加えておきたい。165-166は碗の類で、瀬戸・美濃系陶器である。時期的には18世紀-19世紀にかけてのものである。163-164は本業焼で腰錆が施されている。165-166は広東碗で染付が施されている。見込み部分には、梅文が描かれている。167-168は染付の丸碗である。167の外面には笹文が施されている。また、168の外面には梅文と思われる文様が描かれている。169-170-172は皿の類で、瀬戸・美濃系陶器である。169は見込み部分に梅文が施されている。170は口径9.5cmと比較的小振りで、染付皿で、呉須絵が内面に施されている。見込み部分には梅文が描かれている。172は染付皿で、呉須絵が内面に施されている。見込み部分にはコンニャク印判が描かれている。時期的には19世紀前半から中葉にかけてのものである。171は鳥の餌入れと思われ、灰釉が施された瀬戸・美濃系陶器である。18世紀後半のものとして推定される。173-174は箱形湯呑で、瀬戸・美濃系陶器である。173は外面に団扇の文様が3つ描かれている。見込み部分にコンニャク印判が施されている。174は外面に菊花散文が施されている。見込み部分にはコンニャク印判が施されている。175は小鉢の類で、瀬戸・美濃系陶器である。京焼系陶器と称されるものである。外面に山水画が描かれている。時期的には18世紀前半のものとして推定される。176-177-178は肥前系磁器である。176は飯碗の類で、18世紀中葉と思われる。外面に竹文が施されている。見込み部分には手書きで五弁花文描かれている。177は皿の類で、18世紀中葉から末期と推定される。外面高台部分に「大明年製」くずれの窠印が施されている。見込み部分にはコンニャク印判が描かれている。178は箱形湯呑の類である。時期としては18世紀中葉から末期と推定される。外底部には宝珠の退化したものが描かれている。口縁内側には花菱文が施されている。また、見込み部分には五弁花のコンニャク印判が施されている。

(野本欽也)

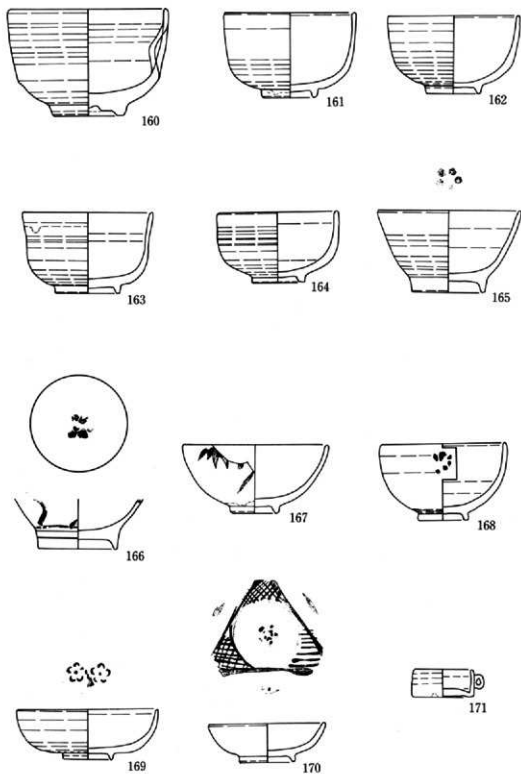


図 36 近世の陶磁器 1

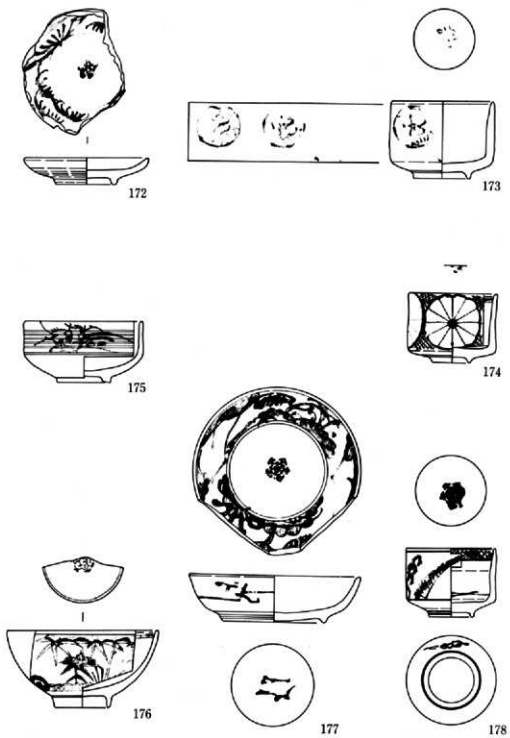


図 37 近世の陶磁器 2

第2節 土製品

179は台盤状土製品。1点のみ出土した。高さ3cmの低い円柱形の土製品で、完形。時期は弥生時代中期。180は、用途不明の土製品。残存部分には手法Aaが施されている。土偶形容器の脚部片の可能性をもつ。181はコップ状土製品。口縁部を欠く。体部は直線的に伸び、底部はフラットとなる。体部外面にはヘラによる複合鋸歯文の上下にヘラによる擬凹線文を施す。SZ 06出土。182は紡錘車。完形。直径3.7cmの円形で、中央部分に直径6cmの穿孔を持つ。重量は290g。表面の調整はラフであるが、手法Aaによる。183~208は加工円盤。総数57点出土。土器片を加工したもので、土器片の周辺を順に打ち欠いて成形している。なお、183・184・195・198・200・202はさらに側面に研磨を加えている。いずれも弥生土器片を転用する。原材の器種は、194・268が甕の可能性を残すほかは、壺を利用している。使用する部位は体部が多いが、185・188は底部を利用。形状は円形、直径は4cm程度と、7cm程度にまとまりをみる。出土地点は大半が包含層中で、分布状況には特に意味をみいだせない。

(池本正明)

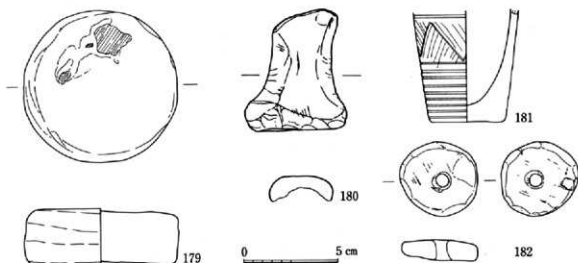


図38 土製品

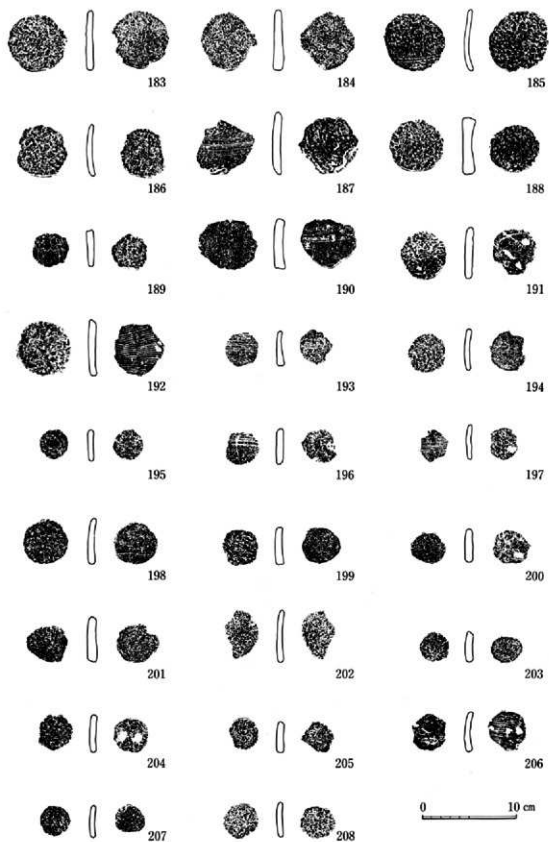


图 39 加工内盤

第3節 金属製品

209は銅鉄。SK 02から1点のみ出土した。完形で、逆刺をもつ形状。鎌身には、直径3mmの穿孔が5ヶ所認められる。重量は5.4g。弥生時代後期。(池本正明)

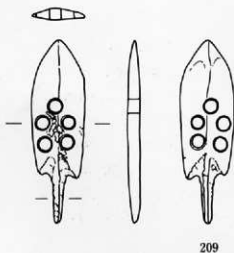


図40 銅鉄(原寸)



図41 銅鉄出土状況

第4節 木製品

岡高遺跡からは、昭和62・63年度におこなった累道の調査において若干の本製品が出土している。これらについてはすでに『累道報告』に掲載されている。今回の調査でもわずかながら木製品が出土しており、本節において用途ごとに記述をすすめていくこととする。なお、964～967は90A区、968・969は90B区の出土である。

①農耕具

獣の未製品が2点ある。964は広獣で、上部部と下部部の幅が変わらず、平面が縦長の長方形を呈するタイプである。柄を装着する部分の隆起は輪郭が不明瞭で、中央部が若干厚くなる。全長30.0cm、幅20.8cmで、厚さは6.2cmである。SD09出土で時期はⅢ期に属する。965は下部部から上部部にかけてゆるやかに幅が狭くなる平面形をもつ。964同様、柄孔は開けられていないが、着柄部分の隆起はきわめて厚くつくられている。全長18.8cm、幅13.6cm、厚さ5.6cmで、広獣としてはやや小さいことから小型獣の未製品と思われる。SK18出土で、時期は弥生時代中期である。

②容器

966は槽の破片である。図上で右側約2分の1が欠損している。現存長は35.5cm、最大幅は11.6cm、槽の深さは図の上部で5.0cm、下部で3.4cmをはかる。下部部にわずかに突起が残ることから、この部分に把手がついていたことが考えられる。一方にのみ把手がつき、槽の深さが把手側に浅くなることから軽く、あるいはアカカキとなるかもしれない。SD09出土でⅢ期に属する。

③その他

967・968は用途不明品である。967は四分割した丸太材を、梯子のように上半部はそのままにして下半部のみ板状に加工している。下部部は欠損しており、全体の形状はわからない。現存長は23.6cm、幅13.6cmで、厚さは上半部が8.5cm、下半部で2.6cmある。SD09出土、Ⅲ期である。968は細い丸太棒で、一端は欠損しているために本来の長さはわからない。遺存しているもう一方の端は面取りがなされている。有頭棒の破片であろうか。残存長37.2cm、径4.2cmである。NR04出土で、Ⅴ期に属する。969は杭である。上部部は欠損しており、下部部には丁寧に加工をほどこして先端を尖らせている。現存長42.4cm、径は3.6cmあり、半截されている。NR04出土で、Ⅴ期に属する。 (樋上 昇)

第5節 石器・石製品

岡島遺跡から出土した石器・石製品は、土器の出土量に比べると相対的に少なく、出土地点も調査区全体に散在して分布する。器種としては、磨製石庖丁、磨製石斧、石鏃、磨石、叩石、石剣、管玉などがみられた。

これらの石質については、凝灰岩、溶結凝灰岩、塩基性凝灰岩、緑色凝灰岩、泥岩、チャート、安山岩、ガラス質石英安山岩、玄武岩、頁岩、緑色片岩、紅レン石片岩、細粒花崗岩、巨晶花崗岩、砂岩、ハイアロクロスタイトなどがみられた。なお石質については、本センターの橋真美子が鑑定を行った。

1010・1011 は磨製石庖丁片である。いずれも全形は窺い得ないが、1010 の平面形態は直線刃半月形または杏仁形の可能性を有し、背部寄りに二孔一対の紐部が穿たれている。

1001～1007・1024・1025 は磨製石斧である。形態的には大型蛤刃（1004～1007）、柱状片刃（1002）、小型方柱状片刃（1024・1025）、扁平片刃（1001）などがみられる。100・1005（剥落後）には研ぎ直しの痕跡が認められ、1006 には凹石として、1007 には刃部欠損の後叩石として再利用された痕跡が認められる。1002 は土器棺内からの出土である。1015～1021 は石鏃である。形態的には茎の長短はあってもすべて有茎石鏃で、無茎のものはみられなかった。しかしこの有茎のものも長さが4.5～5 cmの大形品と、3 cm前後のものとの間に明確な規格の差異が認められる。さらに大形品の中で平面形態上、側辺が先端から基部に向かって緩やかに反外するもの（1015・1016）と、側辺中程がやや内彎するもの（1017・1018）とがみられた。

1013・1014 は磨石である。2点ともに肩平な円礫を使用しており、側縁には磨痕が認められる。

1009 は叩石である。長さ13 cm程の細長い円礫を使用しており、端部には打撃痕が認められる。

1012 は石剣片である。全形を窺い得ないため平面形態上の特徴は判じ得ないが、鉄剣形の基部ではないかと思われる。基部端には意図的に研がれた刃部が設けられており、破損した後に再加工して使用されたものと思われる。

1022・1023 は管玉である。長さはそれぞれ1.3・2.0 cmで、管の外径は0.5・0.6 cm、内径（孔径）は0.2・0.2～0.3 cmを測る。

本遺跡出土の石器・石製品は、推定できる伴出土器の時期から考えると弥生時代中期前～後葉（岡島Ⅱ～Ⅳ）の時間幅に収まる。遺構から時期が判断できる遺物は1002がS Z 29土器棺内で中期後葉（岡島Ⅳ）、1004・1006・1007がNR 03で中期後葉（岡島Ⅳ）、1009がS B 02で中期後葉（岡島Ⅳ）、1019がS D 10で中期中葉（岡島Ⅲ）、1022・1023がS D 08で中期中葉（岡島Ⅲ）、1025がS D 12で中期前葉（岡島Ⅱ）である。（松田 訓）

参考文献

平井勝 1991 『弥生時代の石器』 ニューサイエンス社

第IV章 科学分析

第1節 珪藻および昆虫化石群集から得られた岡島遺跡の古環境変遷

①. はじめに

岡島遺跡は、西三河平野南部、碧海台地と幡豆山塊にはさまれた矢作古川左岸の氾濫平野に位置している(図42)。遺跡の標高は、弥生時代中期の生活面で+4.0m～+4.5mである。

これまでの調査によって、岡島遺跡からは弥生時代中期～後期の方形周溝墓群、および同時期の多数の土器・木製品・石製品等が発見され、調査区の北方に三河地方最大級の弥生時代の集落遺跡の存在が推定されている。

自然科学的な分析では1989～1990年の調査によって、イネノクロカメムシなどの稲作害虫や湿原性のキヌツヤミズクサハムシ等、多数の昆虫化石や種実ほかの自然遺物が発見され、また岡島遺跡地下のボーリング試料中からは広域テフラとして著名なアカホヤ火山灰層(K-Ah)が確認されるなど、岡島遺跡の遺跡立地のみならず広く三河平野における古地理の変遷を考えるうえで多くのデータが得られている(森ほか、1990)。

古地理の変遷

本論では、1990～1991年にかけての発掘調査の過程で明らかになった弥生時代中・後期～中世を中心とした遺物包含層、およびその基盤層中から抽出した珪藻遺骸・昆虫化石の分析を通じて、岡島遺跡における古環境の復元を試みる。

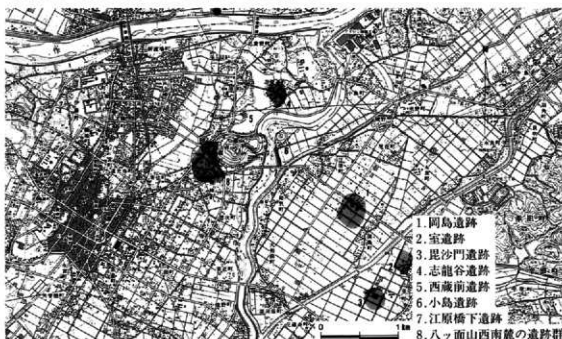


図42 岡島遺跡位置図

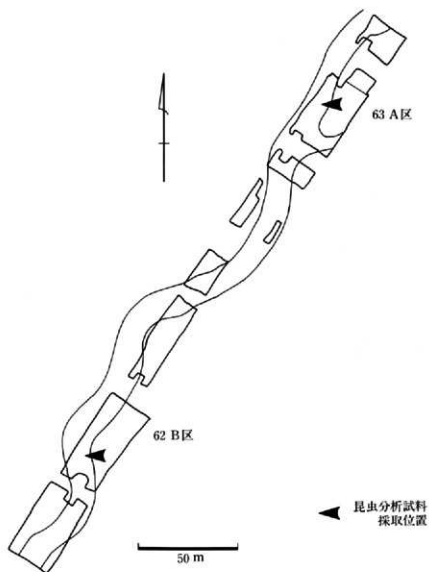


図 43 分析試料採取地点(62 B区・63 A区)

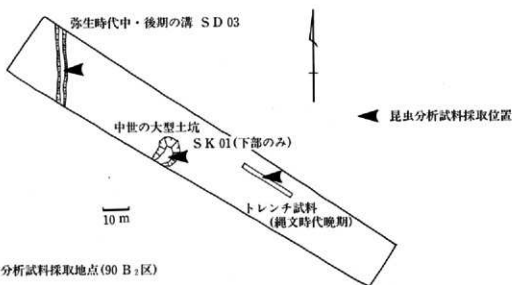


図 44 分析試料採取地点(90 B₂区)

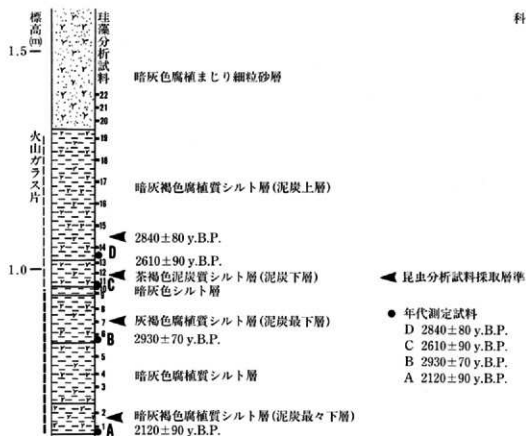


図 45 分析試料採取地点における地質柱状図 1 (90 B₂区)

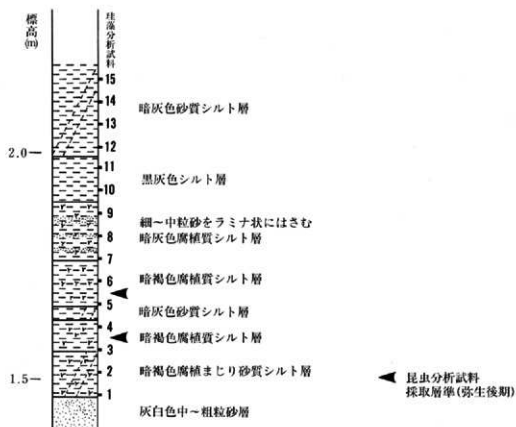


図 46 分析試料採取地点における地質柱状図 2 (91 A区)

②. 試料および分析方法

珪藻および昆虫化石の分析試料採取地点は図 43・44 に示した。

A. 珪藻遺骸

分析試料は、岡島遺跡 90 B₂区の縄文時代晩期を中心とした連続試料(試料 1)、91 A 区の弥生時代後期の連続試料(試料 2)より採取した。地層断面図(柱状図)および地層の層相などについては図 45・46 に示したとおりである。なお、90 B₂区の連続試料からは、

松河戸火山灰

縄文時代後・晩期の境界付近に位置する松河戸火山灰層(MT; 3120±120 y. B. P.; 森ほか, 1990)に対比される少量の多孔質型の火山ガラス片が、試料全体に分散した状態で検出された(図 45)。分析試料の年代は考古遺物による相対年代に加え、名古屋大学タンデロン加速器質量分析計、学習院大学理学部¹⁴C測定用比例計数管によって測定された放射性炭素年代値を加味して編年した。これは昆虫化石の分析試料についても同様である。

試料の分析方法

試料の分析にあたって、乾燥重量 1g をトルビーカーにとり、過酸化水素水(35%)を加えて煮沸し、有機物の分解と粒子の分散を行った。岩片除去ののち、水洗を 4~5 回繰り返しながら、同時に比重選別を行った。次に分離した試料を希釈し、マウントメディア(和光純薬製)にて封入した。検鏡は 1000 倍の光学顕微鏡を使用し各試料とも 200 個の珪藻殻を同定した。しかし、試料中に含まれる珪藻殻が極端に少ない場合は、200 個に達しなくても検鏡を打ち切った。

珪藻の文献

珪藻の分類およびその生態的特性などは、Hustedt (1930, 1937-1938, 1927-1966)・Kramer and Lange-Bertalot (1986, 1988, 1991 a, 1991 b)・Hendey (1964)・Desikachary (1987, 1988, 1989)・Cholnoky (1968)・Foged (1954)・Schoeman (1973)・Round *et. al.* (1990) などによった。発見された主な珪藻化石については図 63 および 64 に示した。

B. 昆虫化石

分析試料の採取場所(地区名)およびその相対年代、湿潤重量等については図 47 に、層位・地層断面図・地層の層相などは珪藻分析試料と同じ図 45・46 に示した。

昆虫の分析試料は、層序が明確になった地層断面からできるだけ多く採取した。昆虫化石の検出は、主にブロック割り法によって抽出した。

昆虫化石の抽出

なお、昆虫の検出にあたってはアサヒペンタックス単眼顕微鏡(20 倍)を利用し、実体顕微鏡下でクリーニングののち、一つずつの節片について、筆者採集の現生標本の各部位と実体顕微鏡下で比較・検討しながら行った。鞘翅目の分類および検索は、主に森本ほか(1984)・平嶋ほか(1989)によった。また、地表性歩行虫など個々の昆虫の生態については筆者の観察所見に加え、中根ほか(1975 b)等を参考にした。同定後の標本は、エチルアルコール(50%)を十分噴霧したのち、土ごと密閉ケースに入れ愛知県埋蔵文化財調査センター収蔵庫にて保管中である。

調査区	試料の種類	層相	時代	湿潤重量
11	90 B ₂ 大型土坑上部	砂質シルト層	中世前期 (13 C)	26.4 kg
10	90 B ₂ 大型土坑下部	砂質シルト層	中世前期 (13 C)	22.6 kg
9	90 B ₂ 山中式期溝堆積物	細砂混じりシルト層	弥生時代後期後半	30.5 kg
8	91 A 上層泥炭	褐色泥炭層	弥生時代後期	72.0 kg
7	62 B 河道堆積物	植物片混じりシルト層	弥生時代中期以降	70.0 kg
6	90 B ₂ 瓜棚式期溝堆積物	細砂混じりシルト層	弥生時代中期	56.4 kg
5	63 A トレンチ泥炭	黒褐色泥炭層	縄文時代晩期	123.3 kg
4	90 B ₂ 泥炭上層	暗灰褐色腐植質シルト層	縄文時代晩期	37.9 kg
3	90 B ₂ 泥炭下層	茶褐色腐植質シルト層		62.8 kg
2	90 B ₂ 泥炭最下層	灰褐色腐植質シルト層		50.8 kg
1	90 B ₂ 泥炭最々下層	暗灰褐色腐植質シルト層		40.5 kg

図 47 昆虫化石試料の種類およびその相対年代

③. 分析結果

A. 珪藻遺骸群集

同定した珪藻遺骸のリストを図51・52に、その生態値の百分値と出現頻度等を図49・50に示した。出現した珪藻遺骸は、90 B₂区深掘りトレンチ内の縄文時代晩期の頃の22試料（試料1；泥炭最々下層～泥炭上層）では、39属156種（9変種および3未同定種を含む）計2,160個体であった（図51）。

91 A区の弥生時代後期を中心とした15試料（試料2；暗褐色腐植混じり砂質シルト層～暗褐色砂質シルト層）では、24属93種（10変種を含む）計1,568個体であった（図52）。次に、分析試料ごとに珪藻の群集組成の特徴について述べる。

1. 試料1（90 B₂区深掘りトレンチ）

珪藻遺骸群集は群集組成の特徴から、下位よりA帯～E帯の5帯に区分される。以下に珪藻の群集組成の特徴、優占種等について記す。

A帯（試料1～9）

A帯の試料では、出現珪藻のすべてが淡水生種で占められた。pHについては真～好アルカリ性種（平均49.6%）、水流性については不定性種（同約72.3%）、生態性については付着生種（同65.0%）が優占する群集組成であるとみなすことができる。

種ごとにみると、好アルカリ性・水流不定性で、付着生種の *Synedra ulna*（8.6%）や、同じく好アルカリ性・水流不定性で、付着生種の *Cocconeis placentula* およびその変種の *C. placentula* var. *euglypta*（計8.5%）などが比較的多く出現した。ほかに河川や池沼等の水生植物の茎や葉に付着して生活する *Cymbella*属（13.9%）や *Eunotia*属（7.1%）の種群が多数認められた。

湿润地表面や水量の乏しい水たまりなどの好気的環境を好む *Hantzschia amphioxys*、*Navicula contenta*、*Navicula mutica*、*Pinnularia borealis*、*Pinnularia subcapitata* などの陸生珪藻が計 12.8% 出現した。その結果、この頃の地層（泥炭最々下層・泥炭最下層）は、水深の浅い環境下で堆積したものであろうと推定される。

B帯（試料 10~12）

**汽水~海水
生珪藻の
出現**

本帯は汽水生ないし海水生珪藻の出現によって特徴づけられる。試料 12（標高+1.00 m）の 75.0% を最高に、試料 10 で 68.8%、試料 11 においても半数を超える 55.3% の汽水~海水生種（平均 66.4%）が認められた。

種組成では、汽水産・浮遊生種の *Melosira nummuloides*（平均 36.6%）が優占し、汽水産・付着生種の *Achnanthes brevipes* var. *intermedia*（同 11.4%）や、同じく汽水産・付着生種の *Cocconeis scutellum*（同 6.2%）、海水産・浮遊生種の *Thalassionema nitzschioides*（同 6.2%）などが随伴した。淡水生種の出現率は 3 試料ともごくわずかであった。

C帯（試料 13~15）

淡水生種を主体に、平均で 30.9% の汽水~海水生種が伴われた。汽水~海水生珪藻では、*C. scutellum*（13.8%）、*M. nummuloides*（8.4%）が比較的多く認められた。淡水生珪藻では、好アルカリ性・水流不定性種で、付着生種の *Achnanthes lanceolata*（4.8%）、*Gomphonema clevei* var. *inaequilongum*（4.2%）、*Eunotia pectinalis*（3.0%）、*Flagilaria brevistriata*（3.0%）などが出現した。

しかし、本層準では珪藻の出現数種が少なく、また A 帯同様 *Hantzschia amphioxys*（6.4%）、*Navicula mutica*（4.2%）などの陸生珪藻が計 12.6% 認められた。

D帯（試料 16~19）

全体に珪藻の出現数種が少なく、出現珪藻のすべてが淡水生種で占められた。珪藻数種の極端に少ない試料 18 のぞき、pH については真~好アルカリ性種（平均で 52.6%）、水流性については不定性種（同 87.5%）、生態性については底生種（同 50.0%）が優占する群集組成であるとみなすことができる。

種組成では、pH、水流性ともに不定性で、底生種の *Nitzschia parvula* が試料 17 で 42.6% 出現した。ほかに *C. placentula* およびその変種の *C. placentula* var. *euglypta*（9.7%）、*S. ulna*（6.2%）などが比較的多く出現した。陸生珪藻は計 23.4% 認められた。

陸生珪藻

E帯（試料 20~22）

珪藻の出現数種は D 帯より増加した。pH については真~好アルカリ性種（平均で 73.6%）、水流性については不定性種（同 71.6%）、生態については付着生種（同 91.4%）がそれぞれ優占した。

種ごとにみると、*S. ulna*（14.9%）や好アルカリ性・好止水性で、付着生種の *Gomphonema clevei*（11.2%）、*Epithemia turgida*（8.3%）などが比較的多く認められた。陸生珪藻の出現率は 4.6% と大変少なかった。

2. 試料2 (91 A区、弥生時代後期の泥炭層)

15 試料の分析結果を出現珪藻の群集組成の特徴から以下のように下位から I～II 帯の 2 帯に区分することができる。次にそれぞれの群集組成の特徴について記す。

I 帯 (試料 1～9)

出現珪藻のすべてが淡水生種で占められた。珪藻の出現数数は少なかつた。pH については真～好アルカリ性種が 77.7% (平均、以下同様) と優占し、不定性種 (13.0%)、真～好酸性種 (8.9%) の出現率は低率であった。水流性については真～好止水性種が 10.3%、不定性種が 82.8%、真～好流水性種は 6.6% であった。生態性では、付着生種 (91.7%) が底生種 (平均 7.1%) を大きく上回り、浮遊生種の出現率はわずか 1.1% にとどまった。

種組成では、好アルカリ性・水流不定性で、付着生種の *Achnanthes brevipes* var. *intermedia* (13.3%)、好アルカリ性・好止水性で、付着生種の *Gomphonema clevei* (9.5%) などが比較的多く出現した。陸生珪藻の出現率は低率であった。

II 帯 (試料 10～15)

I 帯同様、出現珪藻のすべてが淡水生種で占められた。珪藻の出現数数は I 帯にくらべてはるかに多く、珪藻殻の保存状態も良好であった。

pH については、真～好アルカリ種の出現率は 54.2%、不定性種は 29.1%、真～好酸性種は 11.7% であった。I 帯にくらべ、不定性種や真～好酸性種の出現率が増加した。水流性については真～好止水性種が 16.2%、不定性種が 72.1%、真～好流水性種は 9.3% で、I 帯にくらべわずかながら真～好止水性種が増加している。生態性では、付着生種 (91.5%) が I 帯同様、底生種 (平均 6.4%) を大きく上回った。浮遊生種の出現率は 1.8% であった。

種組成では、*C. placentula* およびその変種の *C. placentula* var. *euglypta* (12.7%) や *S. ulna* (10.2%) が比較的多く出現した。ほかに *Cymbella* 属の種群 (28.3%) や *Gomphonema* 属の種群 (12.6%) が多数認められた。

B. 昆虫化石群集

昆虫化石の同定結果を図 53 に示した。総点数 (節片または破片数) は現時点での集約数で計 1,058 点、発見された節片についての詳細な種の検討を実施していない標本も多く、そのため昆虫化石の分析はまだ未完成の状態にあるが、これまでに明らかになった知見について述べる。

科以上のレベル (亜科を含む) まで同定できたもの 16 科 4 亜科 451 点 (41.6%)、族レベル (亜族を含む) まで同定できたもの 5 族 1 亜族 24 点 (2.2%)、属レベルまで同定できたもの 16 属 127 点 (11.7%)、種まで同定できたもの 68 種 390 点 (35.9%) であった。目のレベルでとどめたものは 1 目 1 点 (0.09%)、未分類および所属不明の甲虫目等は計 92 点 (8.5%) であった。

生息環境および生態による分類では、湿原性ないし湿地性のネクイハムシ亜科を含む水生昆虫 199 点 (18.3%)、食糞性および食屍性昆虫 11 点 (1.1%)、食肉性および雑食性の地表性歩行虫 280 点 (25.8%)、食葉性昆虫など陸生の植生依存型昆虫 500 点 (46.1%)、

真～好アルカリ性種の優占

生息環境別出現率

その他所属不明および未分類のため生態が判明していない昆虫片は91点(8.4%)であった。

次に層単ごとの昆虫化石の出現傾向について述べる。

1. 縄文時代

湿潤重量総計315.3 kgの試料中より計631点の昆虫化石が発見された。うち水生昆虫は136点(21.6%)、地表性歩行虫198点(31.4%)、陸生の植生依存型昆虫234点(37.1%)、その他は63点(9.9%)であった。陸生の植生依存型昆虫と、地表性歩行虫・水生昆虫の三者が共存する群集組成であると考えられることができる。

泥炭最々下層(90B₂区)

泥炭最々下層(試料の湿潤重量は40.5 kg)では計49点の昆虫化石が発見され、うち水生昆虫は計2点(4.1%)、地表性歩行虫は25点(51.0%)、陸生の植生依存型昆虫は17点(34.7%)であった。種組成では、水辺などの湿潤地表面に好んで生息する地表性歩行虫のヤマトトクリゴミムシ *Lachnocrepis japonica* をはじめ、トクリゴミムシ属 *Lachnocrepis* sp. が2点見いだされた。陸生の植生依存型昆虫では、主に樹葉を食するコガネムシ *Mimela splendens* (2点)、ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* (4点)、サクラコガネ属 *Anomala* sp. (4点) など、スジコガネ亜科 RUTELINAE に属する昆虫化石が計14点発見された。

泥炭最下層(90B₂区)

泥炭最下層(90B₂区、試料の湿潤重量は50.8 kg)では計25点が発見された。うち水生昆虫は計2点(8.0%)、地表性歩行虫は11点(44.0%)、陸生の植生依存型昆虫は10点(40.0%)であった。種組成では、泥炭最々下層と同様、トクリゴミムシ *Lachnocrepis prolixa* など、トクリゴミムシ属 *Lachnocrepis* sp. が2点発見されている。

泥炭下層(90B₂区、試料の湿潤重量は62.8 kg)

210点のうち、水生昆虫は計69点(32.9%)、地表性歩行虫は85点(40.5%)、陸生の植生依存型昆虫は41点(19.5%)であった。種組成では、食肉性の水生昆虫であるマメゲンゴロウ属 *Hyphydrys* sp. (3点)、ヒメゲンゴロウ亜科 COLYMBETINAE (4点) などのゲンゴロウ科 DYTISCIDAE が計22点発見された。また、セマルガムシ *Coelostoma stultum* (25点) をはじめ、食植性の水生昆虫が計44点見いだされた。また、湿地性の食植性昆虫であるキヌツヤミズクサハムシ *Plateumaris sericea* が1点発見された。

地表性歩行虫では、池沼や川べりなどの水辺環境に多く生息するヒラタゴミムシ亜族 PLATYNINA (8点) や、ツヤヒラタゴミムシ属 *Synuchus* sp. (2点)、モンコムズギワゴミムシ属 *Tachyura* sp. (4点)、ヤマトトクリゴミムシ (6点)、およびアオヘリアオゴミムシ *Chlaenius praefectus* (2点) などのゴミムシ科が多数認められた。陸生の植生依存型昆虫では、アザミ類を食するオナガカツオゾウムシ *Lixus moiwanus* (2点) などのゾウムシ科 CURCULIONIDAE (9点)、イネ科の草本とりわけ水稲を加害することで著名なイネノクロカメムシ *Scotinophara lurida* が10点出現したことが特筆される。

泥炭上層 (90 B₂区、試料の湿潤重量は37.9 kg)

計43点発見され、うち水生昆虫は3点(7.0%)、地表性歩行虫は19点(44.2%)、陸生の植生依存型昆虫は17点(39.5%)であった。地表性歩行虫のなかに、アシの茂った川べりの草地に多く生息するヨツボシゴミムシ*Panagaeus japonicus*が出現した。

コクワガタ

トレンチ泥炭 (91 A区、試料の湿潤重量は123.3 kg)

計304点発見された。うち水生昆虫は60点(19.7%)、地表性歩行虫は58点(19.1%)、陸生の植生依存型昆虫は149点(49.0%)であった。種組成では、湿地性の食植性昆虫であるキヌツヤミズクサハムシが計9点出現した。全体に90 B₂区の泥炭下層と昆虫の群集組成のうえでよく似た出現傾向を示した。

キヌツヤミズクサハムシ

2. 弥生時代

湿潤重量総計228.9 kgの試料中より計278点の昆虫化石が発見された。うち水生昆虫は23点(8.3%)、食糞性および食屍性昆虫は5点(1.8%)、地表性歩行虫は40点(14.4%)、陸生の植生依存型昆虫は190点(68.3%)、その他20点(7.2%)であった。全体に陸生の植生依存型昆虫が優占する群集組成であるとみなすことができる。

弥生時代中期 (試料の湿潤重量は56.4 kg)

計16点発見され、うち水生昆虫は2点(12.5%)、地表性歩行虫は4点(25.0%)、陸生の植生依存型昆虫は9点(56.3%)であった。地表性歩行虫では砂地に多いセアカヒラタゴミムシ*Dolichus halensis*が発見された。また、陸生の食植性昆虫のなかにクヌギヤコナラなどの樹液に集まるコクワガタ*Macrodorcas rectus*や、山地のブナやヤナギ林に多いアカシクワガタ*Nipponodorcus rubrofemoratus*が見いだされたことは、弥生時代中期の頃の岡島遺跡の古環境を考えるうえで重要である。

コクワガタ

アカシクワガタ

弥生時代中期以降 (試料の湿潤重量は70.0 kg)

弥生時代中期から後期にかけての河道堆積物中から計164点の昆虫化石が発見された。うち水生昆虫は6点(3.7%)、食糞性昆虫は4点(2.4%)、地表性歩行虫は17点(10.4%)、陸生の植生依存型昆虫は122点(74.4%)で、植生依存型昆虫が優占する群集組成であるとみなすことができる。

山地のニレ類やカエデ類等に多い樹上性のツノアオカメムシ*Pentatoma japana*(2点)や、アオカナブン*Rhomborrhina unicolor*(2点)、タマムシ*Chrysochroa fulgidissima*(10点)、コクワガタ(1点)、コカブトムシ*Eophileurus chinensis*(1点)などの樹木起源の食植性昆虫が多数発見された。また、ルリハムシ*Linacidae aenea*(7点)をはじめ草本植生を好むハムシ科が計14点見いだされた。ほかにセンチコガネ*Geotrypes laevistratus*(3点)をはじめ、計4点の食糞性昆虫が出現している。

ツノアオカメムシ

弥生時代後期 (試料の湿潤重量は72.0 kg)

計75点発見された。うち水生昆虫は3点(4.0%)、食屍性昆虫は1点(1.3%)、地表性歩行虫は17点(22.7%)、陸生の植生依存型昆虫は51点(68.0%)であった。弥生時代中期の試料同様、植生依存型の昆虫が優占した。

ハンミョウ 乾燥した砂地を好む地表性歩行虫であるハンミョウ *Cicindela chinensis japonica* が3点出現する一方、枯れ木や朽ち木などに多いキマワリ *Plesiophthalmus nigrocyanus* ・ヒメナガキマワリ *Strongylium impigrum* がそれぞれ1点ずつ発見された。また、コガネムシ(15点)やアオドウガネ *Anomala albopilosa* (4点) ・クロコガネ *Holotrichia kiotoensis* などの樹葉を好む食葉性昆虫が多数発見された。

弥生時代後期後半 (試料の湿潤重量は 30.5 kg)

計 23 点発見され、うち水生昆虫は 12 点 (52.2%)、地表性歩行虫は 2 点 (8.7%)、陸生の植生依存型昆虫は 8 点 (34.6%) であった。水生昆虫のなかに池沼や溝・水路などに多く認められるキベリクロヒメゲンゴロウ *Ilybius apicalis* (3 点) ・ガムシ *Hydrophilus acuminatus* (4 点) などが検出された。食植性昆虫では主に樹葉を食害するスジコガネ *Mimela testaceipes* (1 点) が出現した。

キベリクロヒメゲンゴロウ

3. 中世

13 世紀の大型土坑内の試料 (湿潤重量計 49.0 kg) 中より計 176 点の昆虫化石が発見された。うち水生昆虫は 39 点 (22.2%)、食糞性および食屍性昆虫は 6 点 (3.4%)、地表性歩行虫は 42 点 (23.9%) であった。また、陸生の植生依存型昆虫が 76 点 (43.2%)、その他 13 点 (7.4%) が見いだされた。試料は下部と上部に分けて採取したが、分析結果に明瞭な差異が認められなかったため、ここでは両者の出現傾向を併せて述べる。中世の試料では植生依存型昆虫を中心に、地表性歩行虫と水生昆虫が共存する群集組成であった。

ゲンゴロウ 水生昆虫では、ゲンゴロウ *Cybister japonicus* (2 点)、コガタノゲンゴロウ *C. tripunctatus orientalis* (1 点)、コシマゲンゴロウ *Hydaticus grammicus* (1 点) などの食肉性のゲンゴロウ科 DYTISCIDAE が計 14 点発見された。また、食植性の水生昆虫では、ガムシ (3 点) ・コガムシ *Hydrochara affinis* (2 点) ・ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (3 点) など計 20 点のガムシ科に加え、溝や水田・小河川などの止水環境に生息するコガシラミズムシ *Pelodytes intermedius* (2 点) が認められた。人為度の高い止水域 (水田等) に生息し、稲作害虫としても知られるイネネクイハムシ *Donacia provosti* が計 3 点発見された。

イネネクイハムシ

地表性歩行虫では、ツヤヒラタゴミムシ属 (8 点) をはじめ水路や川べりなどの湿潤地表面を特徴づけるゴミムシ科が多数見いだされた。

また、食植性昆虫では、樹葉を食するスジコガネ亜科やサクラコガネ属とともに、アオバネサルハムシ *Basilepta fulvipes* (2 点) ・ドウガネサルハムシ *Scelodonta lewisii* (2 点) ・ルリハムシ *Linacidae aenea* (1 点) などの草本植生を好むハムシ科 CHRYSOMELIDAE が計 8 点発見された。

④、古環境の変遷

1. 縄文時代晩期のはじめの頃

岡島遺跡の基盤層を構成する腐植質シルト層ないし泥炭層の放射性炭素年代（計6点）は最も新しいもので2120±90 y.B.P. (GaK-15762、試料は90 B₂区の泥炭最々下層)、最も古いもので2930±70 y.B.P. (GaK-15763、試料は90 B₂区の泥炭最下層)を示し、現在の編年によればこれらはいずれも縄文時代晩期に相当する年代値である。また、90 B₂区の柱状試料の全層面にわたって松戸戸火山灰層 (MT: 3120±120 y.B.P.) に対比される火山ガラス片が発見されたことから、90 B₂区における腐植質シルト層の堆積が松戸戸火山灰層降灰後、すなわち縄文時代晩期に入ってから行われたものであることがわかる。

この頃、岡島遺跡周辺は水深の浅い湿地帯のような状況にあったことが推定される。珪藻分析の結果は90 B₂区深掘りトレンチのA帯に相当し、付着生種が優占する一方、12.8%の陸生珪藻が出現する。昆虫分析では51.0% (90 B₂区泥炭最々下層)、および44.0% (90 B₂区泥炭最下層)の水辺を好む地表性歩行虫の産出によって特徴づけられる。この層からは水生昆虫はごく少数しか発見されておらず、36.5%の主に樹葉を食する食葉性昆虫が出現した。その結果、岡島遺跡一帯には小規模な止水域が点在し、起伏のある潤溜地表面のところどころに落葉性の低木が生育していたものと推定される。

水深の浅い湿地帯

地表性歩行虫の多産

小規模な止水域

2. 縄文時代晩期半ば頃

岡島遺跡90 B₂区の標高+1.0 m付近には、汽水～海水生珪藻が多産する層（90 B₂区B帯）が認められ、この時期に小規模ながら明瞭な海進があったことが明らかになった。岡島遺跡の海成層は、これまで朝日遺跡63 A区（縄文時代後期前半の土器片（堀之内II式土器）を含む地層より上位、標高+1.25 m；森ほか、1989）、同じく朝日遺跡62 A区（<3790±90 y.B.P.、標高±0 m；森、1992）、土田遺跡（<2530±190 y.B.P.、標高0～+1.0 m；森ほか、1991 a）、菩薩遺跡（3400±110 y.B.P.、標高+2.0～2.15 m；森ほか、1991 a）をはじめ、濃尾平野各地で認められた海進（縄文後期の再海進）より、いくぶん新しい年代値を示している。しかし、現在までのところ放射性炭素年代以外にこれら海～汽水成層を対比する材料に乏しく、岡島遺跡および濃尾平野各地で見いだされた両海進がそれぞれ時期を異にする二時期の海進を示したもののなか、それとも年代値はやや前後するものの同時期の海進期のものであるかを確定するには至っていない。

縄文後期の海進

生物群集はこの海進を境に、大きな変化が認められた。陸生の植生依存型昆虫では樹葉性の昆虫にかわって、ハムシ科やゾウムシ科、イネノクロカメムシなどの草本植生に由来する食植性昆虫が多数を占めるようになり、水生昆虫では8～9種のガムシ科をはじめ、2種類のミズスマシ科、少なくとも5種類以上のゲンゴロウ科など食植性ないし食肉性の多様な水生昆虫が認められた。また、酸性の湿原域を好む湿地性のキヌツヤミズクサハムシも発見された。

草本植生を好む植生依存型昆虫

地表性歩行虫では、水辺に多いヤマトトクリゴミムシやアオヘリアオゴミムシ、ミズギワゴミムシの仲間、ヒラタゴミムシの仲間が出現した。塩性遷移の進行に伴って多様な

塩性遷移

植物が繁茂し、そのことが昆虫相に多大な影響を及ぼしたものと推定される。

3. 縄文時代晩期の終り～弥生時代前期の頃

柱藻の分析結果では、90 B区のC帯～D帯にみられるように陸生柱藻の出現率が高く、底生の種群も比較的多く認められた。アシの茂った水辺に生息するヨツボシゴミムシの出現によって水深が浅くなり、挺水植物の繁殖する水たまり的な止水域に変化したものと思われる。

4. 弥生時代中期

90 B区の溝中の堆積物からは数は少ないものの、当時の植生環境を考えるうえで重要な昆虫化石が発見された。アカアシクワガタ（前胸背板）は現在は山地帯（冷温帯）のブナ林に多く、しばしば低山地のヤナギ類の樹液に集まることが知られている。コクワガタ（前胸背板）はクヌギやコナラなどの樹液に集まる森林性の食植性昆虫であり、3点発見されたアオドウガネ（前胸背板など）は海岸部の樹葉上に多く認められる食葉性昆虫の一種である。

これらの昆虫片の大きさはいずれもかなり大きく、しかもほとんど壊れていないことから、遠くから運ばれたものとは考えにくい。その結果、弥生時代中期の頃、岡島遺跡90 B区付近にはクヌギやコナラを中心とした落葉広葉樹が生育していたことはほぼ確実であろう。

弥生時代中期から一部後期を含む62 B区の河道堆積物中の試料からは、コクワガタをはじめ、コクワガタ同様クヌギやコナラなどの樹液に集まるアオカナブン、エノキヤヤマザクラなどの古木に多いタムシ、さらにニレやカエデ類に集まるツノアオカメムシが発見され、弥生時代中期から後期にかけて、岡島遺跡一帯に森林植生が成立していたことを推定させる。

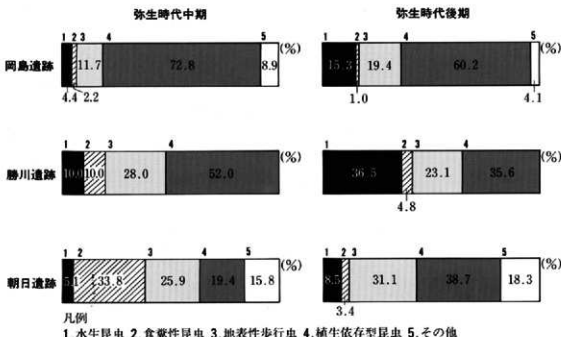


図 48 弥生時代中期および後期の地層から検出された昆虫化石の生息環境別出現率

5. 弥生時代後期

弥生時代後期の試料でも陸生の植生依存型昆虫の出現率が高く、コガネムシやクロコガネ・サクラコガネ属などの樹葉を食害する食害性昆虫が多数見いだされた。弥生時代後期の前半では、砂地を好むハンミョウ、枯れ木や朽ち木に集まるキマワリ・ヒメナガキマワリ・ハネカクシ科などの地表性歩行虫の出現率が高いことから、岡島遺跡周辺では樹木の伐採が進み、裸地的空間が拡大したことが推定される。

裸地的空間
の拡大

弥生時代後期後半になると、地表性歩行虫の出現率が低下し、かわって水生昆虫の出現率が増加する。珪藻分析でも、付着生珪藻の出現率が増大して、遺跡の周囲に水（流水）の影響が及んだことが考えられる。

図48に岡島遺跡の弥生時代中期および後期の試料中から発見された昆虫化石の生息環境別出現率を示した。比較のために、ほぼ同時期の勝川遺跡（低位段丘上から低位段丘直下に営まれた環濠集落：愛知県春日井市）、朝日遺跡（濃尾平野の沖積低地上に成立した弥生「都市」：愛知県西春日井郡清洲町ほか）から産した昆虫化石の生息環境別出現率を掲げた。勝川遺跡の弥生時代中期の試料（計50点）は低位段丘直下の木製品貯蔵施設と推定される流路内、弥生時代後期の試料（計104点）は同じく低位段丘直下の自然流路内から採取した。一方、朝日遺跡の試料（弥生時代中期139点、弥生時代後期235点）は、いずれも環濠集落外の居住域に掘られた溝中より採取した。

勝川遺跡
朝日遺跡

それぞれの遺跡の立地環境、遺跡内における分析試料の採取位置、および昆虫化石包含層による差異などを考慮する必要があるものの、岡島遺跡では他の2遺跡にくらべ、陸生の植生依存型昆虫の占める割合が著しく高いことがわかる。このことから、岡島遺跡の周りには、弥生時代中・後期を通じて森林植生が相当残存していたことが容易に推定される。一方、朝日遺跡では、植生依存型昆虫の出現率が低く、食害性昆虫を含め地表性歩行虫の出現率が格段に高いことがわかる。その結果、朝日遺跡では「都市」の造営にあたって森林植生の伐採が進み、遺跡内に占める裸地的空間の割合が著しく高かったことが考えられる。

森林植生
に囲まれた
農村

6. 中世

植生依存型昆虫には樹葉を食する種群に加え、草本植生を食害するハムシ科などが多く見いだされた。ガムシ科やゲンゴロウ科などの水生昆虫も多く出現し、とりわけ水稲を食害することで知られるイネネクイハムシの精翅の完全品が大型土坑中から3点も発見されたことから、岡島遺跡の周りに水田が営まれていた可能性が考えられる。

稲作害虫

⑤. まとめ

縄文時代晩期の半ば頃、水深の浅い湿地帯のような環境下に海水が侵入し、岡島遺跡周辺の氾濫平野では塩性遷移が進行した。やがて、やや水深のある沼沢地のような環境に移り変わり、草本植生に由来する多様な生物群集が認められた。

海水の浸入

水深の
ある
沼沢地

縄文時代晩期から弥生時代前期にかけて、岡島遺跡周辺では水域が縮小し、落葉広葉樹を中心とした森林植生が成立していた。

弥生時代中期～後期を通じて、岡島遺跡の周りにはクヌギやコナラなどの樹木が生育し、

岡島ムラの景観 岡島ムラの景観は「雑木林に囲まれた農村」といったイメージであった可能性が考えられる。弥生時代後期後半になると、岡島遺跡の周りでは再び水城の占める割合が高くなり村が衰退に向かった。

そして、中世の頃の岡島遺跡は、人工改変の進んだ水田地帯のような状況であったことが考えられる。 (森 勇一・前田弘子)

謝 辞

小論を草するにあたり、三重大学生物資源学部昆虫学研究室の松浦 誠・山田佳廣両氏、ならびに大阪市立自然史博物館の宮武頼夫氏には現在標本の借用、および有益な助言をいただいた。昆虫化石の電子顕微鏡写真撮影にあたっては、名古屋大学年代測定資料研究センターの森 忍氏に御世話になった。昆虫化石・珪藻遺骸の抽出・分類作業には橋 真美子・服部俊之・服部恵子・中村明実・永草康次氏をはじめ、多くの方々に協力いただいた。これらの方々に関心よりお礼申し上げる。

文 献

- Cholnoky, B. J. (1968) , Die Ökologie der Diatomeen Binnengewässern. Cramer, Germany. 699 p.
- Desikachary, T.V. (1987・1988・1989) , Marine Diatoms of the Indian Ocean Region. Atlas of Diatoms, Madras Science Foundation Madras, pls.1-809
- Foged, N. (1954) , On the Diatom flora of some Funen lakes. *Fol. Limnol. Scandinavica* , **6**, 76 p.
- Hendey, N.I. (1964) , An introductory Account of the smaller algae of British coastal waters. Part V: Bacillariophyceae (diatom) . Her Majesty's Stationary Office, London, 317 p.
- 日浦 勇・宮武頼夫・那須孝梯 (1984) , 昆虫遺体群集による遺跡環境の復元に関する基礎的研究, 古文化財の自然科学的研究, 古文化財編集委員会編, 同朋舎, 411-429.
- 平嶋義宏・森本 桂・多田内修 (1989) , 昆虫分類学, 川島書店, 597 p.
- Hustedt, F. (1930) , Bacillariophyta, *Die Süßwasser Flora Mitteleuropas*, 10, G. Fischer, Jena, 466 p.
- Hustedt, F. (1937-1938) , Systematische und Ökologische Untersuchungen über die Diatomeen Flora von Java, Bali und Sumatra. nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. *Arch. Hydrobiol.*, Suppl. **15**, 131-177.
- Hustedt, F. (1927-1966) , Die Kieselalgen Deutschland, Österreichs und der Schweiz unter Berücksichtigung der übrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. *Kryptogamen-Flora von Deutschland*, Teil 1 ~ 3, Leipzig, W. Deutschland. 920 p., 845 p., 816 p.
- Kobayasi, H. (1968) , A Survey of Fresh Water Diatoms in the Vicinity of Tokyo. *Journ. Bot. Japan*, **20**, 93-122.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H. (1986・1988・1991 a・1991 b) , Bacillariophyceae. Teil 1, Teil 2, Teil 3, Teil 4. *Pascher A. Süßwasserflora von Mitteleuropa*, 876 p., 596., 576 p., 437 p.
- 森 勇一 (1988 a) , 愛知県勝川遺跡及びその周辺地域から産した昆虫化石, 愛知県埋蔵文化財センター年報 (昭和 62 年度), 118-137.
- 森 勇一 (1988 b) , 昆虫化石と古環境。—愛知県勝川遺跡を中心として—, 弥生文化の研究, 10, 雄山閣出版, 202-212.
- 森 勇一 (1989 a) , 町田遺跡における珪藻遺骸群集, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 9 集), 町田遺跡, 64-73.
- 森 勇一 (1989 b) , 昆虫化石から得られた愛知県勝川遺跡周辺の古環境, 考古学と自然科学, 21, 57-71.
- 森 勇一・伊藤隆彦 (1989) , 古生物学的にみた朝日遺跡の古環境の変遷, 愛知県埋蔵文化財センター年報 (昭和 63 年度), 76-91.
- 森 勇一・伊藤隆彦・中村俊夫 (1990) , 西尾市岡島遺跡より発見された昆虫の年代とその古生態, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 14 集), 岡島遺跡, 107-115.

- 森 勇一・伊藤隆彦・宮田英嗣 (1990), 愛知県町田・松河戸遺跡から発見された縄文時代後・晩期の境界付近に位置する火山灰層について, 第四紀研究, 29, 17-23.
- 森 勇一・前田弘子 (1991 a), 珪藻分析からみた愛知県土田遺跡における古環境, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第23集), 土田遺跡, 17-25.
- 森 勇一・前田弘子 (1991 b), 珪藻分析からみた菩薩遺跡における古環境, 緑区大高町・菩薩遺跡 (第2次調査の概要), 名古屋市教育委員会, 8-14.
- 森 勇一 (1992), 愛知県・朝日遺跡 (弥生時代) における都市型昆虫群集, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第31集), 朝日遺跡 (自然科学編), 183-205.
- 森 勇一・前田弘子・伊藤隆彦 (1992), 珪藻および昆虫化石から得られた朝日遺跡の古環境変遷, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第31集), 朝日遺跡 (自然科学編), 71-131.
- 森 勇一 (1992), 勝川遺跡群より産した昆虫化石と古環境, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第29集), 勝川遺跡IV, 77-92.
- 森本 桂ほか (1986), 原色日本甲虫図鑑 (I)・(II)・(III)・(IV), 保育社.
- 中根猛彦ほか (1975 a), 学研中高生図鑑 (昆虫II・甲虫), 学習研究社.
- 中根猛彦ほか (1975 b), 原色日本昆虫図鑑 (上)・(下), 保育社.
- 中根猛彦ほか (1978), 原色昆虫大図鑑II (甲虫編), 北隆館.
- 野尻湖昆虫グループ (1985), アトラス・日本のネクイハムシ, 182 p.
- 野尻湖昆虫グループ (1987), 第9次野尻湖発掘および第4回陸上発掘で産出した昆虫化石, 地団研専報, 32, 117-136.
- 野尻湖昆虫グループ (1988), 昆虫化石ハンドブック, ニューサイエンス社, 126 p.
- Patrick, R. and C. W. Reimer (1966・1975), The Diatoms of the United States. *Monogr. Acad. Nat. Sci. Philadelphia*, no. 13 Philadelphia. 688 p. 213 p.
- Round F. E., Crawford, R. M. and Mann D. D. (1990), The Diatoms, Biology and Morphology of the Genera. Cambridge Univ. Press, Cambridge. 747 p.
- Schoeman, F. R. (1973), A Systematical and Ecological Study of the Diatom Flora of Lesotho with special Reference to the water quality, Pretoria, South Africa. 355 p.

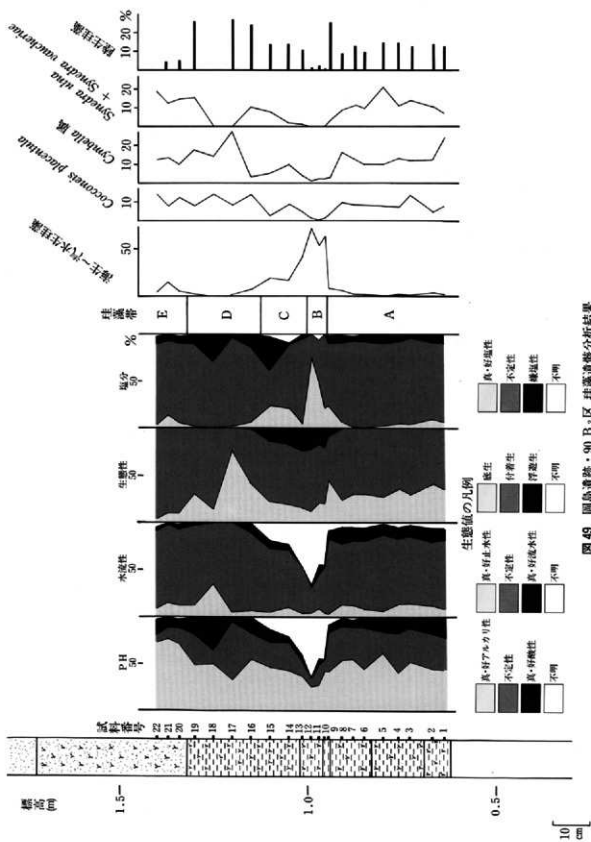


図 49 同島遺跡・90 B 区 柱状遺物分析結果

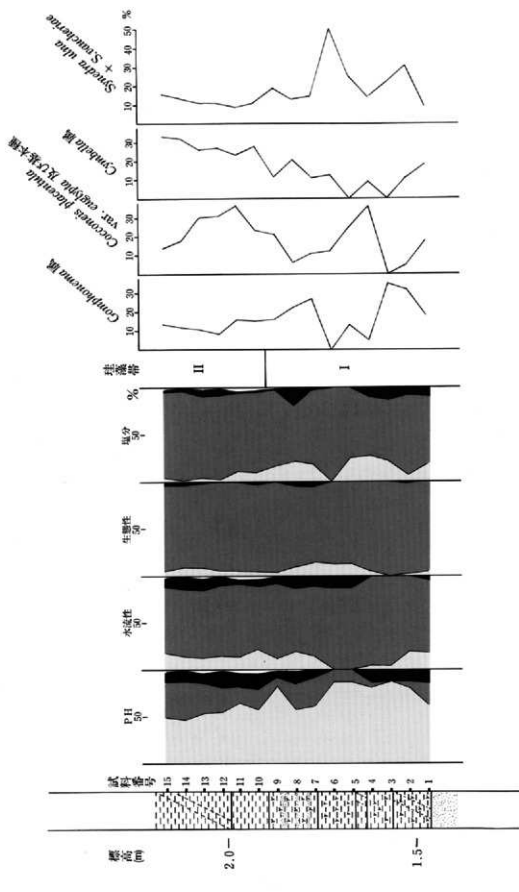


図 50 同島遺跡・91 A 区 珪藻遺骸分析結果

同島遺跡

No.	Species	Ecological Value	Sample																				TOTAL	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		21
81	<i>Hemaphysalis amphioxys</i> (OHR.) GRUNOW	Alph Ind Best Ind	1	1	2	2	4	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
82	<i>Hemaphysalis amphioxys</i> var. <i>stans</i> (HANTZ.) GRENOW	Alph Ind Best Ind	*	*	*	1	*	2	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1	*	*	*	*
83	<i>Hemaphysalis bancrofti</i> GRUNOW	Ind Ind Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
84	<i>Hemaphysalis bancrofti</i> CLEVE & MOLLEND CLEVE	Ind Ind Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
85	<i>Hemaphysalis bancrofti</i> GRUN. J O. MÜLLER	Ind Lgh Plan Ind	*	*	*	2	*	*	2	4	*	1	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	11
86	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) RALFS	Alph Lgh Plan Ind	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1	*	*	2
87	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) C. A. AGARH	Plan Mha	*	*	*	*	*	*	1	1	*	20	13	8	14	*	*	*	*	*	1	*	*	149
88	<i>Maculipes granulata</i> AGARH	Alph Ind Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	4
89	<i>Maculipes granulata</i> EHRENBERG	Alph Ind Best Ind	*	*	*	*	*	1	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2
90	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) RALFS	Alph Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	1	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	5
91	<i>Maculipes granulata</i> GRUNOW	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
92	<i>Maculipes granulata</i> GREGORY	Alph Ind Best Ind	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
93	<i>Maculipes granulata</i> GRUNOW	Alph Ind Best Ind	1	*	*	*	1	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	4
94	<i>Maculipes granulata</i> KÜTZING	Alph Ind Best Ind	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
95	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) RALFS	Alph Ind Best Ind	8	7	*	1	*	2	8	1	1	*	*	*	*	2	*	*	*	1	*	*	22	
96	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) KÜTZING	Ind Ind Best Ind	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
97	<i>Maculipes granulata</i> (HUSCH) H. L. SMITH	Ind Ind Best Ind	6	4	5	*	*	1	3	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1	*	*	*	22	
98	<i>Maculipes granulata</i> GREGORY	Ind Ind Best Ind	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
99	<i>Maculipes granulata</i> KÜTZING	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	1	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2
100	<i>Maculipes granulata</i> SHÜMANN	Alph Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
101	<i>Maculipes granulata</i> RALFS	Ind Ind Best Ind	9	12	3	6	1	6	2	10	1	*	2	3	2	3	5	*	2	1	1	*	69	
102	<i>Maculipes granulata</i> HÜSTEDT	Alph Ind Best Ind	*	*	*	1	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
103	<i>Maculipes granulata</i> EHRENBERG	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
104	<i>Maculipes granulata</i> LANGE-BERTALOT	Alph Ind Best Ind	1	*	2	1	1	1	3	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	11
105	<i>Maculipes granulata</i> KÜTZING	Ind Ind Best Ind	*	3	2	*	3	1	1	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	12
106	<i>Maculipes granulata</i> CLEVE	Alph Ind Best Ind	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
107	<i>Maculipes granulata</i> KÜTZING	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	4	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	6
108	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) EHRENBERG	Alph Ind Best Ind	*	1	*	*	2	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	5
109	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) CLEVE	Ind Lgh Best Ind	4	*	1	*	*	*	*	1	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	7
110	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) KRAMMER	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
111	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) KÜTZING	Ind Ind Best Ind	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	5
112	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) CLEVE	Ind Lgh Best Ind	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
113	<i>Maculipes granulata</i> GRUNOW	Alph Ind Best Ind	1	1	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	4
114	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) RALFS	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	4	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	4
115	<i>Maculipes granulata</i> ARNOPT	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	1	*	*	1	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	2
116	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) GRUNOW	Alph Ind Best Ind	*	*	*	*	2	1	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	4
117	<i>Maculipes granulata</i> GRUNOW	Alph Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	4
118	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) GRUNOW	Alph Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	1	6	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	7
119	<i>Maculipes granulata</i> HANTZSCH	Ind Lgh Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
120	<i>Maculipes granulata</i> HÜSTEDT	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
121	<i>Maculipes granulata</i> (AGARH) W. SMITH	Alph Ind Best Ind	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	4
122	<i>Maculipes granulata</i> W. SMITH	Alph Ind Best Ind	9	12	2	4	1	10	3	*	3	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	49	
123	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) W. SMITH	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	7
124	<i>Maculipes granulata</i> W. SMITH	Ind Ind Best Ind	1	1	1	4	2	10	1	2	1	*	20	1	*	*	*	*	*	*	*	*	64	
125	<i>Maculipes granulata</i> GRUNOW	Alph Ind Best Ind	*	*	*	*	*	1	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
126	<i>Maculipes granulata</i> HERBAUD	Alph Lgh Best Ind	*	*	*	*	*	2	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	5
127	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) CLEVE	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	3	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	4
128	<i>Maculipes granulata</i> RABENHORST	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2
129	<i>Maculipes granulata</i> CLEVE	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2
130	<i>Maculipes granulata</i> EHRENBERG	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	1	1	*	*	*	1	1	*	1	*	1	*	1	*	1	*	8	
131	<i>Maculipes granulata</i> W. SMITH	Alph Ind Best Ind	*	*	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2
132	<i>Maculipes granulata</i> (GRUN.) CLEVE	Alph Ind Best Ind	*	*	2	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2
133	<i>Maculipes granulata</i> EHRENBERG	Alph Ind Best Ind	4	1	1	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2
134	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) CLEVE	Alph Lgh Best Ind	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
135	<i>Maculipes granulata</i> W. SMITH	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
136	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) RABENHORST	Alph Ind Best Ind	*	*	*	1	1	*	*	*	1	*	1	*	1	*	1	*	1	*	1	*	5	
137	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) CLEVE	Alph Ind Best Ind	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14	
138	<i>Maculipes granulata</i> GREGORY	Ind Lgh Best Ind	4	8	3	8	4	7	4	*	1	*	1	1	*	1	1	*	1	1	*	1	41	
139	<i>Maculipes granulata</i> (HANTZ.) GRUNOW	Ind Ind Best Ind	4	1	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
140	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) FUSGAI	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
141	<i>Maculipes granulata</i> W. SMITH	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
142	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) GRUNOW	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	1	3	5	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	11
143	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) O. MÜLLER	Alph Ind Best Ind	*	*	1	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	4
144	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) O. MÜLLER	Alph Ind Best Ind	*	*	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6	
145	<i>Maculipes granulata</i> EHRENBERG	Ind Ind Best Ind	1	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2
146	<i>Maculipes granulata</i> HÜSTEDT	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
147	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) EHRENBERG	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2
148	<i>Maculipes granulata</i> GRUNOW	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1
149	<i>Maculipes granulata</i> GRUNOW	Ind Ind Best Ind	1	3	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8	
150	<i>Maculipes granulata</i> KÜTZING	Ind Lgh Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2
151	<i>Maculipes granulata</i> EHRENBERG	Alph Ind Best Ind	13	16	8	11	16	13	7	2	*	1	1	2	3	*	6	19	8	9	*	*	105	
152	<i>Maculipes granulata</i> KÜTZING	Alph Ind Best Ind	1	5	2	3	4	5	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	25
153	<i>Maculipes granulata</i> (LYNG.) KÜTZING	Alph Ind Best Ind	*	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	
154	<i>Maculipes granulata</i> (OHR.) KÜTZING	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2
155	<i>Maculipes granulata</i> GRUNOW	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	1	7	16	4	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	20
156	<i>Maculipes granulata</i> sp.	Ind Ind Best Ind	*	*	*	*	*	*	1	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2
TOTAL			280	280	73	126	69	195	280	91	60	122	47	280	74	37	29	63	14	39	128	65	48	2,540

生態学的大体		生態学 (Current spectra)		生態学 (Ecology)		分布 (Distribution spectra)	
Alph	Alphidion form	Lgh	Lophodion form	Ind	Indidion form	Epa	Ephidion form
Alph	Alphidion form	Lgh	Lophodion form	Ind	Indidion form	Epa	Ephidion form
Ind	Indidion form	Lgh	Lophodion form	Ind	Indidion form	Epa	Ephidion form
Alph	Alphidion form	Lgh	Lophodion form	Ind	Indidion form	Epa	Ephidion form

図53 岡島遺跡産の昆虫化石リスト

	和名	学名	属時代地層			縄文時代		縄文中期		縄文後期		縄文終期		小計	合計							
			前期	中期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
水	ゲンゴウ科	DYTISCIDAE																				
	ゲンゴウ	<i>Cybtis japonica</i> SHARP						W1	A1			T1	W1	A1	W1	1						
	コガネゲンゴウ	<i>Ohis thomasi</i> OCHSENDEK													W1	1						
	オオキキゲンゴウ	<i>Hydalis pacifica</i> AUBE								W1						1						
	コシマゲンゴウ	<i>Hydalis anomala</i> (GERMAR)						W1							W1	1						
	ツルギゲンゴウ	<i>Gnaphoderes adamsi</i> (CLAKE)						F1								1						
	ヒメゲンゴウ科	COLYMBETINAE																				
	ヒメゲンゴウ	<i>Rhantus pulvatus</i> (STEPHENS)										W1				T1	1					
	キハダヒメゲンゴウ	<i>Hydra aphana</i> SHARP													W1	A1	1					
	ツルギゲンゴウ	<i>Hyphidius</i> sp.															1					
	モンキゲンゴウ	<i>Platambus japonicus</i> (SHARP)													W1	1						
	アノゲンゴウ	<i>Aphus concolor</i> SHARP													W2	1						
	水	アノゲンゴウ	<i>Aphus apicatus</i> SHARP						W1								1					
ツルギゲンゴウ		HYPTIDINI						W1	F1							1						
ヒメゲンゴウ		GYRIDAE						A1								1						
ヒメゲンゴウ		<i>Gyrtus japonicus</i> SHARP							W2							1						
コヒメゲンゴウ		<i>Gyrtus curvi</i> MOTSCHULSKY							W1							1						
ヒメゲンゴウ		<i>Gyrtus genoi</i> REGIMBART						W1								1						
オオヒメゲンゴウ		<i>Dacnusa arvicola</i> MOEDER						F1	W1						W1	F1	1					
カミシ		HYMENOPTERA							W1	L3					W1	L3	15					
カミシ		<i>Hydophila arvensis</i> MOTSCHULSKY							W1						P1	W1	A1	L1	W1	H1	9	
コガシ		<i>Hydrachne affinis</i> (SHARP)							W1		W1	T2						W1	H1	9		
ヒメカミシ		<i>Stenomacrus rufipes</i> (FABRICIUS)							F1	W1										W3	5	
ヒメカミシ		<i>Codiniella rufipes</i> (FABRICIUS)						W1	W2	W3	F1	L1						W1	W1	F2	10	
ヒメカミシ		<i>Codiniella rufipes</i> (FABRICIUS)							W2											W1	6	
水	カミシ	CERCYONINI																			1	
	カミシ	<i>Cercyon</i> sp.							F1												1	
	ヒメカミシ	<i>Meloboris</i> sp.																		W1	1	
	ヒメカミシ	<i>Zanclus japonicus</i> (SHARP)							W2												1	
	ヒメカミシ	<i>Zanclus sinensis</i> (SHARP)							W1												1	
	ヒメカミシ	<i>Meloboris</i> sp.																			3	
	ヒメカミシ	<i>Phyllobius intermedius</i> (SHARP)							W1												3	
	カミシ	DONACHINAE								W1												1
	カミシ	<i>Donacia japonica</i> FAHREBAE																			5	
	カミシ	<i>Donacia</i> sp.																			5	
	カミシ	<i>Phaenocarpa</i> sp.																			10	
	カミシ	<i>Gastrophysa leucostoma</i> MOTSCHULSKY																			3	
	カミシ	<i>Gastrophysa</i> sp.																			1	
カミシ	<i>Gastrophysa stibana</i> HAROLD																			1		
カミシ	HISTERIDAE																			1		
カミシ	SILPHIDAE																			1		
水	カミシ	HARPALIDAE																			180	
	カミシ	<i>Saritus</i> sp.																			1	
	カミシ	<i>Saritus levicollis</i> BATES																			1	
	カミシ	PTEROSTICHINI																			1	
	カミシ	<i>Pterostichus</i> sp.																			1	
	カミシ	<i>Pterostichus fovea</i> MORAWITZ																			1	
	カミシ	PLATYNINI																			6	
	カミシ	<i>Platynus</i> sp.																			8	
	カミシ	<i>Platynus</i> sp.																			1	
	カミシ	<i>Cedus</i> sp.																			2	
	カミシ	<i>Dalicus fulvipes</i> (SCHALLER)																			1	
	カミシ	<i>Synaldis</i> sp.																			11	
	カミシ	<i>Tachys</i> sp.																			3	
カミシ	<i>Tachys curvipes</i> (BATES)																			1		
カミシ	<i>Tachys curvipes</i> (BATES)																			1		
カミシ	<i>Tachys curvipes</i> (BATES)																			1		
カミシ	<i>Oodini</i> sp.																			5		
カミシ	<i>Lachnospira</i> sp.																			3		
カミシ	<i>Lachnospira pulvipes</i> (BATES)																			2		
カミシ	<i>Lachnospira japonica</i> BATES																			1		
カミシ	<i>Chalcidius pulvipes</i> BATES																			2		
カミシ	<i>Merula</i> sp.																			1		
カミシ	<i>Purgatorius japonicus</i> CHAUDOHRI																			1		
カミシ	CARABIDAE																			1		
カミシ	STAPHYLINIDAE																			24		
カミシ	<i>Cedrus japonicus</i> THUNBERG																			3		
カミシ	TENERIDIDAE																			3		
カミシ	<i>Hypodamia curvipes</i> (LEWIS)																			1		
カミシ	<i>Bombus japonicus</i> MOTSCHULSKY																			1		
カミシ	<i>Stenopoma japonicum</i> LEWIS																			1		

科名	学名	種文の代換記				種上級別	昆虫分類	動物分類	植物分類	中 国	出 産		
		頭+脚	翅+脚	足+脚	尾+脚								
コガネムシ科	SCARABAEIDAE	S 1	26	27	W 1					58			
スズメバチ科	RUTELINAE	W 1	P 1	L 1	48	34	L 2	A 1		28			
ヤブコウモリ属	Anomala sp.	W 3 L 1	W 2 L 1	W 1 T 1 L 1	L 1	7	L 1	30	W 1 T 1 L 1	W 1 P 2 A 2 L 3			
コガネムシ	Anomala dalmaniae HAROLD						P 1	W 11		P 1 W 1 P 1			
ドウモクアブガイ	Anomala cuprea HOPE	W 1					W 1	A 1 A 2 L 2	A 1 W 3	A 1 L 1			
アオムシ	Anomala silphoidea HOPE			P 1			P 3	H 1		8			
ヒメコガネ	Anomala silphoidea MOTSCHULSKY	W 1 P 1 L 1		T 1 A 1			W 2	P 2	W 1 P 1 K 1 A 1	P 3 P 5 L 1			
コガネムシ	Mitocla splendens GYLLENHAL	W 2	P 1	W 3 S 1	W 3 P 1	W 2 P 4		W 1	W 11 P 1 S 2 L 1				
マメコガネ	Pipilina japonica NEWMANN	P 3			L 1	W 1				A 1 6			
スズメバチ	Mitocla testaceipes MOTSCHULSKY							H 1	H 1				
オオスズメバチ	Mitocla rufipes HOPE									H 1 1			
ハナムダリ科	CEYTONINAE								H 1	P 1 2			
アオハナムダリ	Escarabus rufipes (HAROLD)							W 1 S 1		2			
コアハナムダリ	Escarabus japonicus ULLERMANNO	W 1		P 1				W 1	W 1	4			
ヒメコガネコウモリ	Agapanis ovata LEWIS									W 1 1			
アオコガネ	Helictes japonicus BRENSKE								A 1	L 1 L 1 3			
アオコガネ	Helictes ovata MOTSCHULSKY							W 1 A 1		2			
コガネムシ	Ephialtes chinensis (FALDERMANN)							L 1		1			
コガネムシ	Macrodus setosus (MOTSCHULSKY)						P 1	W 1		2			
アオコガネ	Nipponoclerus subulmatus (SMELLEN VAN VULLENHOVEN)						P 1			1			
オオコガネ	CERAMBYCIDAE		L 3							3			
ナマムシ	Cyclophorus japonicus (SCHONBERG)							W 1 L 1		10			
コガネムシ科	ELATERIDAE				W 1	1		3	P 1	W 1 7			
ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	W 1	W 5	W 2	4			7		W 2 W 1 T 1			
アヒメハムシ	Lema sp.									1			
アヒメハムシ	Lema scutellaris OKRAATZ									W 1 1			
アヒメハムシ	Limonata curvata LINNEE							W 6 P 1		W 1 W 1 9			
アヒメハムシ	Phaenocarpa curvata (BALY)							W 1		1			
アヒメハムシ	Scydmaenus luteus BALY									W 2 2			
アヒメハムシ	Coscinus elegans BALY								W 1	1			
アヒメハムシ	Scydmaenus japonicus (MOTSCHULSKY)									W 2 2			
アヒメハムシ	Coscinus japonicus (MANNHEIM)						P 1 H 1			2			
ゾウムシ科	CURCULIONIDAE		W 1	W 6 T 1	T 1				W 2	W 2 13			
アヒメハムシ	Lema impunctatipes BOELPOLS							W 1		1			
アヒメハムシ	Lema scutellaris KONO						W 1 M 1			2			
アヒメハムシ	Phyllotreta japonica FAUST	W 1								1			
カメムシ科	PENTATOMIDAE								1	1			
カメムシ科	HEMIPTERA					T 1				1			
イナノアノカメムシ	Scaphisoma luteum BURMEISTER	S 1		P 1 S 1 A 2			W 1 P 1 T 1 L 1	S 1		42			
アノカメムシ	Psylliodes japonica DEJANT							W 2		2			
アノカメムシ	FORMICIDAE	T 1		T 1						H 2 4			
アノカメムシ	Aspicter testis									1			
カメムシ科	COLEOPTERA	A 1 L 1 P 1	W 1 A 1	W 1 P 1 L 1 L 1	L 1 3	27	L 1	15	P 1 2	P 1 W 1 P 1 4			
計		49	25	238	43	384	16	104	25	25	81	95	1885

検出部位凡例

W : 翅 (Wings) T : 胸部 (Thorax)
 P : 前胸背板 (Pronotum) A : 腹部 (Abdomen)
 H : 頭部 (Head) S : 小楯板 (Scutellum)
 L : 腿脛節 (Legs) F : 破片 (Fragment)
 M : 大顎 (Mandible) B : ほぼ一体分

一部の試料では、科・属レベルまでのものについては
 検出部位を表現しなかった。

図 54 岡島遺跡産昆虫化石の分析結果 1 (90 B₂泥炭最々下層)

No.	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
1	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
2	マメコガネ	<i>Popillia japonica</i> NEWMANN	前胸背板		好積性	食積性
3	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好積性	食積性
4	ドウダネアブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	鞘翅片		好積性	食積性
5	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
6	マメコガネ	<i>Popillia japonica</i> NEWMANN	前胸背板片		好積性	食積性
7	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好積性	食積性
8	ヒメコガネ	<i>Anomala ruficaprea</i> MOTSCHULSKY	鞘翅片		好積性	食積性
9	ヒメコガネ	<i>Anomala ruficaprea</i> MOTSCHULSKY	鞘翅片		好積性	食積性
10	マメコガネ	<i>Popillia japonica</i> NEWMANN	前胸背板		好積性	食積性
11	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅		地表性	雑食性
12	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅		地表性	雑食性
13	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好積性	食積性
14	コアオハナムグリ	<i>Oxyetania jucunda</i> (FALDERMANN)	鞘翅片		好積性	食積性
15	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好積性	食積性
16	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好積性	食積性
17	ハダカヒゲボソウムシ	<i>Phyllotibia japonica</i> FAUST	左鞘翅		好積性	食積性
18	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好積性	食積性
19	ヒメコガネ	<i>Anomala ruficaprea</i> MOTSCHULSKY	前胸背板		好積性	食積性
20	アリ科	FORMICIDAE	胸部		好積性	雑食性
21	ヒメコガネ	<i>Anomala ruficaprea</i> MOTSCHULSKY	前胸背板		好積性	食積性
22	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅上半部		地表性	雑食性
23	トックリゴミムシ属	<i>Lachnocnephis</i> sp.	前胸背板片		地表性	雑食性
24	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
25	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅上半部		地表性	雑食性
26	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅		地表性	雑食性
27	ゴミムシ科	HARPALIDAE	部位不明		地表性	雑食性
28	不明甲虫	COLEOPTERA	腹部腹板			
29	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
30	ハネカクシ科	STAPHYLINIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
31	ゴミムシ科	HARPALIDAE	後胸腹板		地表性	雑食性
32	ケンガムシ属	CERCYONINI	前胸背板		水生	食積性
33	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
34	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅		地表性	雑食性
35	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅片		地表性	雑食性
36	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅		地表性	雑食性
37	セマルガムシ	<i>Coleostoma stultum</i> (WALKER)	右鞘翅		水生	食積性
38	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅上半部		地表性	雑食性
39	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅		地表性	雑食性
40	不明甲虫	COLEOPTERA	鞘翅			
41	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅		地表性	雑食性
42	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅		地表性	雑食性
43	ヤマトックリゴミムシ	<i>Lachnocnephis japonica</i> BATES	前胸背板	図 66-7	地表性	雑食性
44	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅		地表性	雑食性
45	イネノタロウメムシ	<i>Scotinophara larida</i> BURMEISTER	小楯板片		好積性	食積性
46	不明甲虫	COLEOPTERA	前胸背板			
47	ゴミムシ科	HARPALIDAE	中縁部		地表性	雑食性
48	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
49	ゴミムシ科	HARPALIDAE	中胸腹板		地表性	雑食性

図 55 同島遺跡産昆虫化石の分析結果 2 (90 B 泥炭最下層)

No	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
1	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左胸翅片		地表性	雑食性
2	セマルガムシ	<i>Cochlostoma sialtium</i> (WALKER)	右胸翅		水生	食腐性
3	セマルガムシ	<i>Cochlostoma sialtium</i> (WALKER)	左胸翅片		水生	食腐性
4	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好樹性	雑食性
5	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左胸翅上半部		地表性	雑食性
6	カミキリムシ科	CERAMBYCIDAE	腿関節		好樹性	雑食性
7	ハネウタシ科	STAPHYLINIDAE	鞘翅片		地表性	雑食性
8	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
9	スジコガネ亜科	RUTELINAE	鞘翅片		好樹性	雑食性
10	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左胸翅		好樹性	雑食性
11	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好樹性	雑食性
12	不明甲虫	COLEOPTERA	腹甲覆板			
13	ゴミムシ科	HARPALIDAE	中胸側板		地表性	雑食性
14	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	鞘翅片		好樹性	雑食性
15	不明甲虫	COLEOPTERA	鞘翅片			
16	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	前胸背板片		好樹性	雑食性
17	トックリゴミムシ	<i>Lachnaecrips prolux</i> (BATES)	前胸背板		地表性	雑食性
18	カミキリムシ科	CERAMBYCIDAE	腿関節		好樹性	雑食性
19	トックリゴミムシ属	<i>Lachnaecrips</i> sp.	前胸背板片		地表性	雑食性
20	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	腿節		好樹性	雑食性
21	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
22	カミキリムシ科	CERAMBYCIDAE	腿関節		好樹性	雑食性
23	トックリゴミムシ属	<i>Lachnaecrips</i> sp.	前胸背板片		地表性	雑食性
24	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
25	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左胸翅		地表性	雑食性

図 56 岡島遺跡産昆虫化石の分析結果 3 (90 B₂泥炭下層)

No.	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
1	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅下平部		地表性	雑食性
2	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	腹節		好湿性	食植性
3	セマルガムシ	<i>Ceolostoma stultum</i> (WALKER)	左鞘翅		水生	食植性
4	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
5	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
6	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅片		地表性	雑食性
7	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
8	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	鞘翅片		地表性	雑食性
9	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅片		地表性	雑食性
10	不明甲虫	COLEOPTERA	頭部			
11	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
12	ヒタコゴミムシ亜族	PLATYNINA	鞘翅片		地表性	雑食性
13	ゴミムシ科	HARPALIDAE	中胸腹板		地表性	雑食性
14	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
15	イネノクワカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	小鞘翅片		好湿性	食植性
16	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板片		地表性	雑食性
17	ヒタコゴミムシ亜族	PLATYNINA	左鞘翅		地表性	雑食性
18	イネノクワカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	小鞘翅片		好湿性	食植性
19	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	頭部		地表性	雑食性
20	ゴミムシ科	HARPALIDAE	左鞘翅片		地表性	雑食性
21	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
22	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
23	イネノクワカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	腹部腹板	図 70-2	好湿性	食植性
24	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
25	オナガクワオゾウムシ	<i>Lixus sulciatus</i> KONO	口吻	図 67-8	好湿性	食植性
26	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好湿性	食植性
27	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
28	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
29	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
30	ゴミムシ科	HARPALIDAE	後胸腹板		地表性	雑食性
31	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	鞘翅片		水生	食植性
32	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	鞘翅片		好湿性	食植性
33	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	胸部		好湿性	食植性
34	ゴミムシ科	HARPALIDAE	第三腹板		地表性	雑食性
35	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
36	ゴミムシ科	HARPALIDAE	部位不明		地表性	雑食性
37	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	腹部背板		地表性	雑食性
38	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
39	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	鞘翅片		好湿性	食植性
40	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
41	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
42	ヒタコゴミムシ	<i>Tachyura curata</i> (BATES)	右鞘翅	図 65-7	地表性	雑食性
43	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	左右鞘翅		好湿性	食植性
44	ヒタコゴミムシ亜族	PLATYNINA	左右鞘翅		地表性	雑食性
45	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
46	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板		地表性	雑食性
47	イネノクワカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	腹部腹板		好湿性	食植性
48	オナガクワオゾウムシ	<i>Lixus sulciatus</i> KONO	左右鞘翅喙部		好湿性	食植性
49	イネノクワカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	前胸背板片		好湿性	食植性
50	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
51	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹板片		地表性	雑食性
52	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
53	イネノクワカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	腹部腹板		好湿性	食植性
54	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	腹部背板		地表性	雑食性
55	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	左右鞘翅		地表性	雑食性
56	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
57	セマルガムシ	<i>Ceolostoma stultum</i> (WALKER)	右鞘翅		水生	食植性
58	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	左右鞘翅		地表性	雑食性
59	ヒメガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	前胸背板片		水生	食植性

№	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
60	キヌツヤミズクサハムシ	<i>Phloeomaris sericea</i> LINNE	左鞘翅	図 65-4	湿地性	食性性
61	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
62	アオヘリアオゴミムシ	<i>Chlaenius praefectus</i> BATES	右鞘翅片		地表性	食肉性
63	ゴミムシ科	HARPALIDAE	中胸腹板	図 65-9	地表性	雑食性
64	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部片		地表性	雑食性
65	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	小鞘翅		好樹性	食性性
66	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
67	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	左鞘翅		水生	食性性
68	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	前胸背板片		水生	食性性
69	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
70	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
71	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板片		地表性	雑食性
72	ゴミムシ科	HARPALIDAE	後胸腹板		地表性	雑食性
73	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	左鞘翅		水生	食性性
74	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好樹性	食性性
75	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左右鞘翅		好樹性	食性性
76	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
77	イネノクワカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	腹板腹板		好樹性	食性性
78	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	鞘翅片		水生	食性性
79	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
80	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
81	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
82	コガシラミズムシ	<i>Pelodytes intermedius</i> (SHARP)	鞘翅片		水生	食肉性
83	コアオハナムグリ	<i>Oxytelonia jucunda</i> (FALDERMANN)	前胸背板	図 68-3	好樹性	食性性
84	ヤマトツクリゴミムシ	<i>Lachnocrepis japonica</i> BATES	右鞘翅	図 66-2	地表性	雑食性
85	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前腸部		地表性	雑食性
86	ヒメセマルガムシ	<i>Coelostoma orbiculare</i> (FABRICIUS)	左鞘翅		水生	食性性
87	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	右鞘翅		地表性	雑食性
88	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	鞘翅片		水生	食性性
89	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	左鞘翅		水生	食性性
90	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	前胸背板		水生	食性性
91	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
92	ゴミムシ科	HARPALIDAE	胸部		地表性	雑食性
93	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
94	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	鞘翅片		水生	食性性
95	ヤマトツクリゴミムシ	<i>Lachnocrepis japonica</i> BATES	右鞘翅		地表性	雑食性
96	不明甲虫	COLEOPTERA	前胸背板			
97	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	腸部		水生	食性性
98	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	左鞘翅		水生	食性性
99	ゴミムシ科	HARPALIDAE	部位不明		地表性	雑食性
100	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部		地表性	雑食性
101	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
102	モリヒラタゴミムシ属	<i>Colpodes</i> sp.	右鞘翅片		地表性	雑食性
103	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
104	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	鞘翅片		水生	食性性
105	イネノクワカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	腹板片		好樹性	食性性
106	イネノクワカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	小鞘翅片		好樹性	食性性
107	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板片		地表性	雑食性
108	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
109	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
110	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
111	アリ科	FORMICIDAE	胸部		好樹性	雑食性
112	ケシガムシ属	CERCYONINI	鞘翅片		水生	食性性
113	ヒラタゴミムシ亜族	PLATYNYNA	左右鞘翅	図 66-1	地表性	雑食性
114	オオミズスマシ	<i>Dinotus orientalis</i> MODEER	前胸背板		水生	食肉性
115	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
116	ケシゲンゴロウ族	HYPHYDRINI	鞘翅片		水生	食肉性
117	マメゲンゴロウ属	<i>Hyphidrus</i> sp.	中胸腹板		水生	食肉性
118	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好樹性	食性性

No	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
119	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左鞘翅片		好湿性	食積性
120	ヒラタゴミムシ亜族	PLATYNINA	右鞘翅	図 69-2	地表面	雑食性
121	ヒメセマルガムシ	<i>Coelostoma orbiculare</i> (FABRICIUS)	左鞘翅		水生	食積性
122	水生甲虫	Aquatic beetle	鞘翅片		水生	
123	マメゲンゴロウ属	<i>Hyphidrus</i> sp.	腹部腹板		水生	食肉性
124	不明甲虫	COLEOPTERA	腿節			
125	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
126	ヒラタゴミムシ亜族	PLATYNINA	鞘翅片		地表面	雑食性
127	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好湿性	食積性
128	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表面	雑食性
129	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	腿節		好湿性	食積性
130	スジコガネ亜科	RUTELINAE	前胸背板片		好湿性	食積性
131	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
132	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好湿性	食積性
133	不明甲虫	COLEOPTERA	腿節			
134	ミズスマシ科	GYRINIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
135	コガネムシ科	SCARABAEIDAE	小楯板		好湿性	食積性
136	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
137	ヒメセマルガムシ	<i>Coelostoma orbiculare</i> (FABRICIUS)	左右鞘翅		水生	食積性
138	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
139	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	鞘翅片		水生	食積性
140	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	前胸背板片		水生	食積性
141	ケンガムシ属	<i>Cercyon</i> sp.	前胸背板		水生	食積性
142	アオヘリアオゴミムシ	<i>Chaenetus praefectus</i> BATES	左鞘翅		地表面	食肉性
143	ヤマトトクリゴミムシ	<i>Lachnocyberis japonica</i> BATES	左右鞘翅		地表面	雑食性
144	ヤマトトクリゴミムシ	<i>Lachnocyberis japonica</i> BATES	左右鞘翅		地表面	雑食性
145	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	前胸背板片		水生	食肉性
146	不明甲虫	COLEOPTERA	腿節			
147	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
148	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	腿節		水生	食積性
149	キイロヒラタガムシ	<i>Enochrus simulans</i> (SHARP)	鞘翅片		水生	食積性
150	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅片		地表面	雑食性
151	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
152	ヒラタゴミムシ族	PLATYNINI	前胸背板		地表面	雑食性
153	ヤマトトクリゴミムシ	<i>Lachnocyberis japonica</i> BATES	右鞘翅	図 66-5	地表面	雑食性
154	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	腿節		水生	食積性
155	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	前胸背板片		水生	食肉性
156	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
157	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板		地表面	雑食性
158	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synchus</i> sp.	左鞘翅	図 65-8	地表面	雑食性
159	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表面	雑食性
160	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板		地表面	雑食性
161	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表面	雑食性
162	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synchus</i> sp.	右鞘翅上半部		地表面	雑食性
163	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	左鞘翅		水生	食積性
164	マメゲンゴロウ属	<i>Hyphidrus</i> sp.	中胸腹板		水生	食肉性
165	ヒメセマルガムシ	<i>Coelostoma orbiculare</i> (FABRICIUS)	左右鞘翅		水生	食積性
166	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	前胸背板片		水生	食肉性
167	ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	鞘翅片		水生	食肉性
168	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
169	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	鞘翅片		水生	食積性
170	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表面	雑食性
171	ゴミムシ科	HARPALIDAE	後胸腹板		地表面	雑食性
172	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
173	コガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	右鞘翅		水生	食積性
174	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	胸部		好湿性	食積性
175	モンコムシガワゴミムシ属	<i>Tachyura</i> sp.	左鞘翅片		地表面	雑食性
176	ヒラタゴミムシ族	PLATYNINI	左鞘翅		地表面	雑食性
177	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性

No.	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
178	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	左鞘翅		水生	食雑性
179	ヒラタゴミムシ属	<i>Platymus</i> sp.	左鞘翅片		地表性	雑食性
180	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
181	モンコミズギワゴミムシ属	<i>Tachyura</i> sp.	左鞘翅		地表性	雑食性
182	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
183	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅片		地表性	雑食性
184	ゴミムシ科	HARPALIDAE	中胸腹板		地表性	雑食性
185	ヒメセマルガムシ	<i>Coelostoma orbiculare</i> (FABRICIUS)	左鞘翅		水生	食雑性
186	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左右鞘翅		好雑性	食雑性
187	不明甲虫	COLEOPTERA	腿節			
188	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	鞘翅片		水生	食雑性
189	ヒラタゴミムシ族	PLATYNINI	前胸背板		地表性	雑食性
190	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	右鞘翅		好雑性	食雑性
191	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
192	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
193	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
194	イネノクロカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	腹部腹板	図 67-3	好雑性	食雑性
195	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅		地表性	雑食性
196	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	腿節		好雑性	食雑性
197	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
198	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	腿節		水生	食雑性
199	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腿節		地表性	雑食性
200	アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa</i> HOPE	前胸背板片	図 68-5	好雑性	食雑性
201	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
202	ウスグロヒラタガムシ	<i>Enochrus uniformis</i> (SHARP)	左鞘翅		水生	食雑性
203	ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	中胸腹板		水生	食肉性
204	ゴミムシ科	HARPALIDAE	後胸腹板		地表性	雑食性
205	不明甲虫	COLEOPTERA	鞘翅片			
206	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
207	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	鞘翅片		水生	食雑性
208	ヒメミズスマシ	<i>Gyrinus japonicus</i> SHARP	左鞘翅	図 65-3	水生	食肉性
209	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	鞘翅片		水生	食雑性
210	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	鞘翅片		地表性	雑食性
211	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
212	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	右鞘翅		好雑性	食雑性
213	キボシタロコミズギワゴミムシ	<i>Tachys gradatus</i> BATES	左鞘翅		地表性	雑食性
214	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
215	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好雑性	食雑性
216	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	左右鞘翅		好雑性	食雑性
217	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	左鞘翅		水生	食雑性
218	トックリゴミムシ	<i>Lachnocrepis proluxa</i> (BATES)	右鞘翅		地表性	雑食性
219	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好雑性	食雑性
220	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	前胸背板		水生	食雑性
221	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	鞘翅片		水生	食雑性
222	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左右鞘翅		好雑性	食雑性
223	ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	腹部腹板		水生	食肉性
224	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	胸部		水生	食肉性
225	タロメゲンゴロウ	<i>Agabus optatus</i> SHARP	右鞘翅上半部		水生	食肉性
226	ヒラタゴミムシ属	PLATYNINI	前胸背板		地表性	雑食性
227	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左右鞘翅	図 67-7	好雑性	食雑性
228	ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	鞘翅片		水生	食肉性
229	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	鞘翅片		水生	食雑性
230	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表性	雑食性
231	ウスグロヒラタガムシ	<i>Enochrus uniformis</i> (SHARP)	鞘翅片		水生	食雑性
232	ヤマトトックリゴミムシ	<i>Lachnocrepis japonica</i> BATES	左右鞘翅		地表性	雑食性
233	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	鞘翅片		水生	食雑性
234	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	鞘翅片		好雑性	食雑性
235	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性

図 57 岡島遺跡産昆虫化石の分析結果 4 (90 B₂泥炭上層)

No.	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
1	ヨツボシゴミムシ	<i>Panagaeus japonicus</i> CHAUDOIR	前胸背板	図 66-8	地表性	雑食性
2	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	前胸背板		好積性	食積性
3	カメムシ目	HEMIPTERA	胸部		好積性	食積性
4	モリヒラタゴミムシ属	<i>Colpodex</i> sp.	前胸背板		地表性	雑食性
5	ゲシゲンゴロウ属	HYPHYDRINI	前胸背板片		水生	食肉性
6	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
7	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	右鞘翅	図 66-9	地表性	雑食性
8	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	右鞘翅下半部	図 68-7	好積性	食積性
9	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
10	イネノクワカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	腹部腹板		好積性	食積性
11	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	左鞘翅		好積性	食積性
12	カツオゾウムシ	<i>Lixus impressiventris</i> ROELOFS	左鞘翅	図 67-9	好積性	食積性
13	イネノクワカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	腹部腹板片		好積性	食積性
14	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	後胸腹板		好積性	食積性
15	クロホソゴミムシダマシ?	<i>Hypophloeus colydioides</i> (LEWIS)	右鞘翅	図 67-4	地表性	雑食性
16	マメコガネ	<i>Popillia japonica</i> NEWMANN	左後腿関節		好積性	食積性
17	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹板片		地表性	雑食性
18	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
19	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	中脚腹板		好積性	食積性
20	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	腹部腹板		好積性	食積性
21	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹板片		地表性	雑食性
22	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅		地表性	雑食性
23	スジコガネ亜科	RUTELINAE	脛節		好積性	食積性
24	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
25	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	脛節		好積性	食積性
26	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好積性	食積性
27	ヒラタゴミムシ亜属	PLATYNINA	右鞘翅		地表性	雑食性
28	トクリゴミムシ亜属	CODNI	腹部腹板		地表性	雑食性
29	不明甲虫	COLEOPTERA	節			
30	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹板片		地表性	雑食性
31	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
32	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
33	ヒラタゴミムシ亜属	PLATYNINA	前胸背板		地表性	雑食性
34	ネタイハムシ亜科	DOMACHINAE	鞘翅片		水生	食積性
35	マメゲンゴロウ属	<i>Hyphydrus</i> sp.	前胸背板		水生	食肉性
36	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
37	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	左右鞘翅上半部		好積性	食積性
38	コマツキムシ科	ELATERIDAE	左鞘翅下半部		好積性	食積性
39	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
40	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
41	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
42	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	左鞘翅下半部		好積性	食積性
43	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性

図 58 岡島遺跡産昆虫化石の分析結果 5 (90 B₂)

No.	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
1	イネノクワカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i> BURMEISTER	小楕板他		好積性	食積性
2	アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa</i> HOPE	前胸背板		好積性	食積性
3	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
4	ゴミムシ科	HARPALIDAE	頭部		地表性	雑食性
5	アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa</i> HOPE	前胸背板		好積性	食積性
6	サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	前胸背板		好積性	食積性
7	ナグゴミムシ属	PTEROSTICHINI	右鞘翅		地表性	食肉性
8	アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa</i> HOPE	前胸背板		好積性	食積性
9	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	腿関節		好積性	食積性
10	ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i> SHARP	右鞘翅上半部		水生	食肉性
11	ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i> SHARP	右鞘翅上半部		水生	食肉性
12	ドウガネアブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	左鞘翅	図 68-8	好積性	食積性
13	不明甲虫	COLEOPTERA	腿節			
14	コクワガタ	<i>Macroderes rectus</i> (MOTSCHULSKY)	前胸背板	図 68-1	好積性	食積性
15	アカアシクワガタ	<i>Nipponoderes rubromaculatus</i> (SNELLEN VAN VOLENHOFEN)	前胸背板	図 68-2	好積性	食積性
16	セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i> (SCHALLER)	左鞘翅下半部	図 67-1	地表性	雑食性

図 59 岡島遺跡産昆虫化石の分析結果 6 (91 A 上層泥炭)

No	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
1	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	胸部		水生	食肉性
2	ヒメゲンゴロウ科	COLYMBETINAE	腹部腹板		水生	食肉性
3	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
4	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	前胸背板		好積性	食積性
5	ヤクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	腸節		好積性	食積性
6	ハンミョウ	<i>Cicindela chinensis japonica</i> THUNBERG	腹部腹板	図 67-2	地表面	食肉性
7	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	右鞘翅上半部		好積性	食積性
8	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好積性	食積性
9	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	前胸背板片		水生	食積性
10	アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa</i> HOPE	頭節		好積性	食積性
11	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	右後腿腸節		好積性	食積性
12	ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	腹部腹板		好積性	食積性
13	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	小楯板		好積性	食積性
14	ハンミョウ	<i>Cicindela chinensis japonica</i> THUNBERG	腹部腹板		地表面	食肉性
15	アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa</i> HOPE	前胸背板	図 68-4	好積性	食積性
16	ヤクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	左鞘翅片		好積性	食積性
17	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	前胸背板		好積性	食積性
18	ヤクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	左鞘翅		好積性	食積性
19	ヤクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	鞘翅片		好積性	食積性
20	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腸節		地表面	雑食性
21	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	頭部		地表面	雑食性
22	ヤクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	鞘翅片		好積性	食積性
23	ヤクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	腹部腹板		好積性	食積性
24	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好積性	食積性
25	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表面	雑食性
26	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	前胸背板		好積性	食積性
27	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表面	雑食性
28	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表面	雑食性
29	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	小楯板	図 68-6	好積性	食積性
30	キムネアオハムシ	<i>Croceus elegans</i> BALY	左鞘翅	図 68-11	好積性	食積性
31	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
32	ヤクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	右鞘翅		好積性	食積性
33	ヒメナガキマワリ	<i>Syngonium impigrum</i> LEWIS	右鞘翅	図 67-6	地表面	雑食性
34	アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa</i> HOPE	前胸背板		好積性	食積性
35	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好積性	食積性
36	アオドウガネ	<i>Anomala albopilosa</i> HOPE	前胸背板片		好積性	食積性
37	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	左鞘翅上半部		好積性	食積性
38	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板片		地表面	雑食性
39	ヤクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	左鞘翅		好積性	食積性
40	ヤクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	左鞘翅		好積性	食積性
41	シデムシ科	SILPHIDAE	前胸背板片		地表面	食積性
42	ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	腹部腹板		好積性	食積性
43	スジコガネ科	RUTELINAE	腸節		好積性	食積性
44	ヤクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好積性	食積性
45	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表面	雑食性
46	不明甲虫	COLEOPTERA	前胸背板			
47	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好積性	食積性
48	ヤクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好積性	食積性
49	ヤクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	鞘翅片		好積性	食積性
50	ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	腹部腹板		好積性	食積性
51	ナガゴミムシ属	<i>Pterostichus</i> sp.	左鞘翅		地表面	食肉性
52	ゴミムシ科	HARPALIDAE	胸部		地表面	雑食性
53	クワハムシ	<i>Fleutiauxia armata</i> (BALY)	左鞘翅片	図 68-10	好積性	食積性
54	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	左鞘翅上半部		好積性	食積性
55	コアオハナムグリ	<i>Oxyctonus jucunda</i> (FALDERMANN)	鞘翅片		好積性	食積性

岡島遺跡

No	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
56	ゴミムシ科	HARPALIDAE	胸部		地表性	雑食性
57	サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	鞘翅片		好湿性	食植性
58	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左鞘翅		好湿性	食植性
59	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	腹筋節		好湿性	雑食性
60	クロコガネ	<i>Holotrichia Kiotensis</i> BRENSKE	腹部腹板		好湿性	食植性
61	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好湿性	食植性
62	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部		地表性	雑食性
63	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	右鞘翅		好湿性	食植性
64	サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	鞘翅片		好湿性	食植性
65	スジコガネ亜科	RUTELINAE	腹筋節		好湿性	食植性
66	コガネムシ科	SCARABAEIDAE	左右鞘翅		好湿性	食植性
67	キマワリ	<i>Phaeophthalmus nigroconus</i> MOTSCHULSKY	左鞘翅上半部	図 67-5	地表性	雑食性
68	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好湿性	食植性
69	ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	腹筋		好湿性	食植性
70	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好湿性	食植性
71	ハンミョウ	<i>Cicindela chinensis japonica</i> THUNBERG	鞘翅片		地表性	食肉性
72	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
73	ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	腹筋		好湿性	食植性
74	コガネムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好湿性	食植性
75	サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	鞘翅片		好湿性	食植性

図 60 岡島遺跡産昆虫化石の分析結果 7 (90 B₂ II F 17 b シルト)

No	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
1	ルリハムシ	<i>Linacidos aeneo</i> (LINNE)	左鞘翅片		好湿性	食植性
2	コメツキムシ科	ELATERIDAE	前胸背板		食植性	食植性
3	コガネムシ科	SCARABAEIDAE	鞘翅片		食植性	食植性
4	クロズマメゲンゴロウ	<i>Agabus conspicuus</i> AHARP	左鞘翅		水生	食肉性
5	クロズマメゲンゴロウ	<i>Agabus conspicuus</i> AHARP	右鞘翅		水生	食肉性
6	スジコガネ	<i>Mimela testaceipes</i> MOTSCHULSKY	胸部		食植性	食植性
7	ヒメコガネ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	鞘翅片		好湿性	食植性
8	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		食植性	食植性
9	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	左鞘翅		水生	食植性
10	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板片		地表性	雑食性
11	ヒメコガネ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	前胸背板		好湿性	食植性
12	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
13	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	左鞘翅上半部		水生	食植性
14	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synsches</i> sp.	右鞘翅上半部		地表性	雑食性
15	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	腹部腹板		水生	食植性
16	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	腹部腹板		水生	食肉性
17	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
18	キベリクロヒメゲンゴロウ	<i>Ilybius apicalis</i> SHARP	後胸腹板	図 65-2	水生	食肉性
19	キベリクロヒメゲンゴロウ	<i>Ilybius apicalis</i> SHARP	腹部腹板		水生	食肉性
20	ハナムグリ亜科	CETONIINAE	頭部		好湿性	食植性
21	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	腹部腹板		水生	食植性
22	キベリクロヒメゲンゴロウ	<i>Ilybius apicalis</i> SHARP	右鞘翅		水生	食肉性
23	不明甲虫	COLEOPTERA	前胸背板			

図 61 岡島遺跡産の昆虫化石の分析結果 8 (90 B₃大型土坑下部)

No	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
1	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
2	エンマコガネ属	<i>Oonthophagus</i> sp.	前胸背板		地表性	食肉性
3	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synuchus</i> sp.	右鞘翅上半部		地表性	雑食性
4	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
5	スシコガネ	<i>Mimela testaceipes</i> MOTSCHULSKY	頭部		好樹性	食雑性
6	ドウガネアブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	腹部腹板		好樹性	食雑性
7	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synuchus</i> sp.	右鞘翅		地表性	雑食性
8	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	臍節		好樹性	食雑性
9	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好樹性	食雑性
10	モンコミズゴウゴミムシ属	<i>Tachyrua</i> sp.	左鞘翅		地表性	雑食性
11	スジコガネ密科	RUTELINAE	腹板片		好樹性	食雑性
12	ゴミムシ科	HARPALIDAE	右鞘翅上半部		地表性	雑食性
13	アオハネサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i> (MOTSCHULSKY)	左鞘翅		好樹性	食雑性
14	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	臍節		好樹性	食雑性
15	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	左鞘翅		水生	食雑性
16	コガネゲンゴロウ	<i>Cybisier japonicus orientalis</i> GSCHWENDNER	右鞘翅片		水生	食雑性
17	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好樹性	食雑性
18	モリヒラタゴミムシ属	<i>Colpodes</i> sp.	右鞘翅		地表性	雑食性
19	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
20	コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i> (SHARP)	左鞘翅		水生	食雑性
21	ゴモタムシ属	<i>Harpalus</i> sp.	右鞘翅		地表性	雑食性
22	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocaprea</i> MOTSCHULSKY	腹部腹板		好樹性	食雑性
23	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹板片		地表性	雑食性
24	ハネカクシ科	STAPHYLINIDAE	腹部背板片		地表性	雑食性
25	ヒョウタンゴミムシ属	<i>Scarites</i> sp.	左鞘翅上半部		地表性	食肉性
26	アオハネサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i> (MOTSCHULSKY)	左右鞘翅	図 68-12	好樹性	食雑性
27	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	鞘翅片		水生	食肉性
28	ルリハムシ	<i>Limacidae aenea</i> (LINNE)	右鞘翅		好樹性	食雑性
29	ゴミムシ科	HARPALIDAE	鞘翅片		地表性	雑食性
30	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	左鞘翅片		好樹性	食雑性
31	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	臍節		水生	食雑性
32	ゴミムシダマシ科	TENERBRIONIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
33	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
34	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸背板		地表性	雑食性
35	ゴミムシ科	HARPALIDAE	前胸腹板		地表性	雑食性
36	サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	前胸背板		好樹性	食雑性
37	ヒメセマルガムシ	<i>Coelostoma orbiculare</i> (FABRICIUS)	左鞘翅		水生	食肉性
38	ゲンゴロウ	<i>Cybisier japonicus</i> SHARP	鞘翅片		水生	食肉性
39	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	臍節		好樹性	食雑性
40	コシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus grammicus</i> (GERMAR)	鞘翅片		水生	食肉性
41	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	鞘翅片		好樹性	食雑性
42	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
43	オオミズスマシ	<i>Dinestus orientalis</i> MODEER	左鞘翅		水生	食肉性
44	不明甲虫	COLEOPTERA	鞘翅片			
45	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	臍節		好樹性	食雑性
46	エンマムシ科	HISTERIDAE	腹部腹板		地表性	食雑性
47	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synuchus</i> sp.	前胸背板		地表性	雑食性
48	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
49	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板		地表性	雑食性
50	ヒラタゴミムシ族	PLATYININI	左鞘翅		地表性	雑食性
51	アリ科	FORMICIDAE	頭部		好樹性	食雑性
52	オオミズスマシ	<i>Dinestus orientalis</i> MODEER	前胸背板		水生	食肉性
53	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	頭部		地表性	雑食性
54	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
55	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	中胸腹板		水生	食肉性
56	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹部腹板		水生	食肉性
57	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocaprea</i> MOTSCHULSKY	前胸背板		好樹性	食雑性
58	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synuchus</i> sp.	腹部腹板		地表性	雑食性
59	ヒラタガムシ属	<i>Helochares</i> sp.	左鞘翅		水生	食雑性
60	クロコガネ	<i>Holotrichia kitoensis</i> BRENSKE	臍節部		好樹性	食雑性
61	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	腹部背板		地表性	雑食性
62	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synuchus</i> sp.	左鞘翅		地表性	雑食性
63	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好樹性	食雑性

No	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
64	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	前胸背板			
65	不明甲虫	COLEOPTERA	前胸背板片			
66	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
67	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	腹部		好湿性	食植性
68	マルエンマコガネ	<i>Onthophagus viduus</i> HAROLD	頭部		地表性	食糞性
69	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	左前腿脛節		好湿性	食植性
70	ツヤヒラタゴミムシ属	<i>Synuchus</i> sp.	左鞘翅		地表性	雑食性
71	イネネクイハムシ	<i>Donacia provosti</i> FAIRMAIRE	左鞘翅	図 65-5	水生	食植性
72	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	鞘翅片板		好湿性	食植性
73	ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	鞘翅片		好湿性	食植性
74	ハナムグリ亜科	CETONIINAE	前胸背板片		好湿性	食植性
75	エンマコガネ属	<i>Onthophagus</i> sp.	腹部節		地表性	食糞性
76	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
77	ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	鞘翅片		好湿性	食植性
78	ヒメゲンゴロウ亜科	COLYMBETINAE	後胸腹板		水生	食肉性
79	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	頭部		地表性	雑食性
80	アリ科	FORMICIDAE	頭部		好湿性	雑食性
81	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	中胸腹板		好湿性	食植性

図 62 岡島遺跡産長虫化石の分析結果 9 (90 B₂大型土坑上部)

No	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
1	マメコガネ	<i>Pupilla japonica</i> NEWMANN	腹節腹板		好水性	食雑性
2	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
3	サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	鞘翅片		好水性	食雑性
4	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	鞘翅片		好水性	食雑性
5	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	鞘翅片		好水性	食雑性
6	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	後脚節	図 68-9	好水性	食雑性
7	ゲンゴロウ	<i>Cybister japonicus</i> SHARP	右鞘翅	図 65-1	水生	食肉性
8	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	左鞘翅		好水性	食雑性
9	オオナガゴミシ	<i>Pterostichus fortis</i> MORAWITZ	右鞘翅上半部	図 66-4	地表面	食肉性
10	ゴミシ科	HARPALIDAE	腹節腹板		地表面	雑食性
11	イネネクイハムシ	<i>Donacia provosti</i> FAIRMAIRE	右鞘翅	図 65-6	水生	食雑性
12	サクラコガネ	<i>Anomala</i> sp.	腹節腹板		好水性	食雑性
13	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	鞘翅片		好水性	食雑性
14	サクラコガネ	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好水性	食雑性
15	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	前胸背板片		好水性	食雑性
16	ドウガネアブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	鞘翅片		好水性	食雑性
17	ゴミシ科	HARPALIDAE	頭部		地表面	雑食性
18	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	前胸背板片		好水性	食雑性
19	コガネムシ科	SCARABAEIDAE	頭部		好水性	食雑性
20	コガムシ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	左鞘翅下半部		水生	食雑性
21	オオスジコガネ	<i>Mimela costata</i> HOPE	頭部		好水性	食雑性
22	サクラコガネ	<i>Anomala</i> sp.	前胸背板片		好水性	食雑性
23	ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus pulverosus</i> (STEPHENS)	後脚腹板		水生	食肉性
24	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	頭部		水生	食雑性
25	サクラコガネ	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好水性	食雑性
26	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	前胸背板		好水性	食雑性
27	コマツキムシ科	ELATERIDAE	右鞘翅		好水性	食雑性
28	サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	前胸背板		好水性	食雑性
29	コガムシ	<i>Pelodytes intermedius</i> (SHARP)	右鞘翅		水生	食雑性
30	ヒメガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	左鞘翅		水生	食雑性
31	ゴミシ科	HARPALIDAE	頭部		地表面	雑食性
32	ゴミシ科	HARPALIDAE	左鞘翅		地表面	雑食性
33	イネネクイハムシ	<i>Donacia provosti</i> FAIRMAIRE	左鞘翅		水生	食雑性
34	ゴミシ科	HARPALIDAE	左鞘翅片		地表面	雑食性
35	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	鞘翅片		水生	食雑性
36	ヒメガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	鞘翅片上半部		水生	食雑性
37	サクラコガネ	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好水性	食雑性
38	サクラコガネ	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好水性	食雑性
39	サクラコガネ	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好水性	食雑性
40	ヒメガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	左鞘翅		水生	食雑性
41	ナガヒョウタンゴミシ	<i>Scarites terricola pacificus</i> BATES	前胸背板		地表面	食肉性
42	サクラコガネ	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好水性	食雑性
43	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocuprea</i> MOTSCHULSKY	前胸背板		好水性	食雑性
44	ゴミシ科	HARPALIDAE	腹節		地表面	雑食性
45	エンマコガネ	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	左鞘翅		地表面	食雑性
46	サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	鞘翅片		好水性	食雑性
47	ハネカクシ科	STAPHYLININAE	右鞘翅		地表面	雑食性
48	サクラコガネ	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好水性	食雑性
49	ゴミシ科	HARPALIDAE	頭部		地表面	雑食性
50	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
51	サクラコガネ	<i>Anomala</i> sp.	腹節腹板		好水性	食雑性
52	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i> MOTSCHULSKY	頭部		水生	食雑性
53	サクラコガネ	<i>Anomala</i> sp.	前胸背板片		好水性	食雑性
54	サクラコガネ	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好水性	食雑性
55	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	腹節腹板		水生	食肉性
56	ゴミシ科	HARPALIDAE	腹節腹板		地表面	雑食性
57	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	鞘翅片		水生	食雑性
58	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
59	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	頭部		水生	食雑性
60	サクラコガネ	<i>Anomala daimiana</i> HAROLD	左鞘翅		好水性	食雑性
61	セマルガムシ	<i>Coclostoma stultum</i> (WALKER)	鞘翅片		水生	食雑性
62	ゴミシ科	HARPALIDAE	腹板片		地表面	雑食性
63	ヒラタゴミシ	PLATYNINI	鞘翅片		地表面	雑食性

岡島遺跡

No	和名	学名	部位名	備考	生息地	食性
64	ヒメガンショウコガネ	<i>Apogonia amida</i> LEWIS	鞘翅片		好湿性	食雑性
65	ツヤヒラタゴミシ属	<i>Synuchus</i> sp.	左鞘翅		地表性	雑食性
66	ツヤヒラタゴミシ属	<i>Synuchus</i> sp.	右鞘翅		地表性	雑食性
67	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	前胸背板		水生	食雑性
68	ガムシ科	HYDROPHILIDAE	腿節		水生	食雑性
69	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i> (WALKER)	前胸背板		水生	食雑性
70	ゲンゴロウ科	DYTISCIDAE	胸節		水生	食肉性
71	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	腿節		好湿性	食雑性
72	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	腿節		好湿性	食雑性
73	コシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus grammicus</i> (GERMAR)	左鞘翅片		水生	食肉性
74	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左鞘翅片		好湿性	食雑性
75	ゴミムシ科	HARPALIDAE	腹部腹板		地表性	雑食性
76	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocaprea</i> MOTSCHULSKY	左鞘翅片		好湿性	食雑性
77	ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	腹部腹板		好湿性	食雑性
78	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	鞘翅片		好湿性	食雑性
79	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	腿節		好湿性	食雑性
80	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
81	ドウガネサルハムシ	<i>Scelodonta lewisii</i> BALY	右鞘翅		好湿性	食雑性
82	ゾウムシ科	CURCULIONIDAE	左鞘翅		好湿性	食雑性
83	エンマコガネ属	<i>Mimela splendens</i> GYLLENHAL	左鞘翅片		地表性	食雑性
84	ドウガネブイブイ	<i>Anomala cuprea</i> HOPE	腿節		好湿性	食雑性
85	不明甲虫	COLEOPTERA	部位不明			
86	コガシラミズムシ	<i>Ptilodytes intermedius</i> (SHARP)	左鞘翅		水生	食雑性
87	サクラコガネ属	<i>Anomala</i> sp.	鞘翅片		好湿性	食雑性
88	セアカクビボソハムシ	<i>Lema scutellaris</i> (KRAATZ)	左鞘翅		好湿性	食雑性
89	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocaprea</i> MOTSCHULSKY	腿節		好湿性	食雑性
90	クロコガネ	<i>Holotrichia kiotoensis</i> BRENSKE	脛節		好湿性	食雑性
91	コガネムシ科	SCARABAEIDAE	鞘翅片		好湿性	食雑性
92	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocaprea</i> MOTSCHULSKY	鞘翅片		好湿性	食雑性
93	ヒメコガネ	<i>Anomala rufocaprea</i> MOTSCHULSKY	前胸背板		好湿性	食雑性
94	ドウガネサルハムシ	<i>Scelodonta lewisii</i> BALY	左鞘翅		好湿性	食雑性
95	ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	中胸腹板		好湿性	食雑性

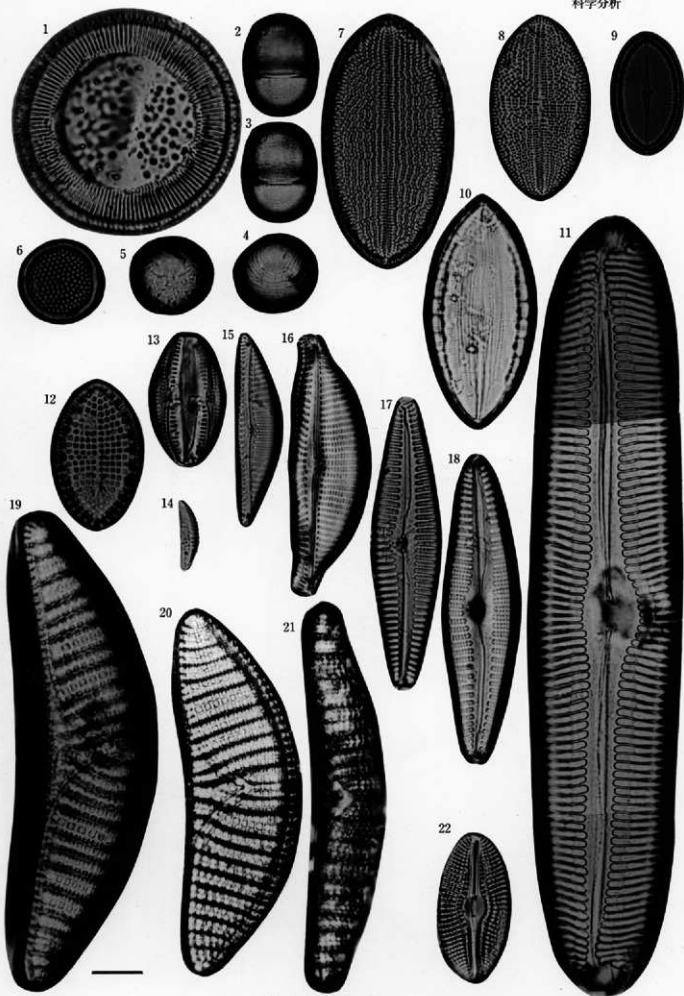


図 63 岡島遺跡産の珪藻遺骸の顕微鏡写真 1

岡島遺跡

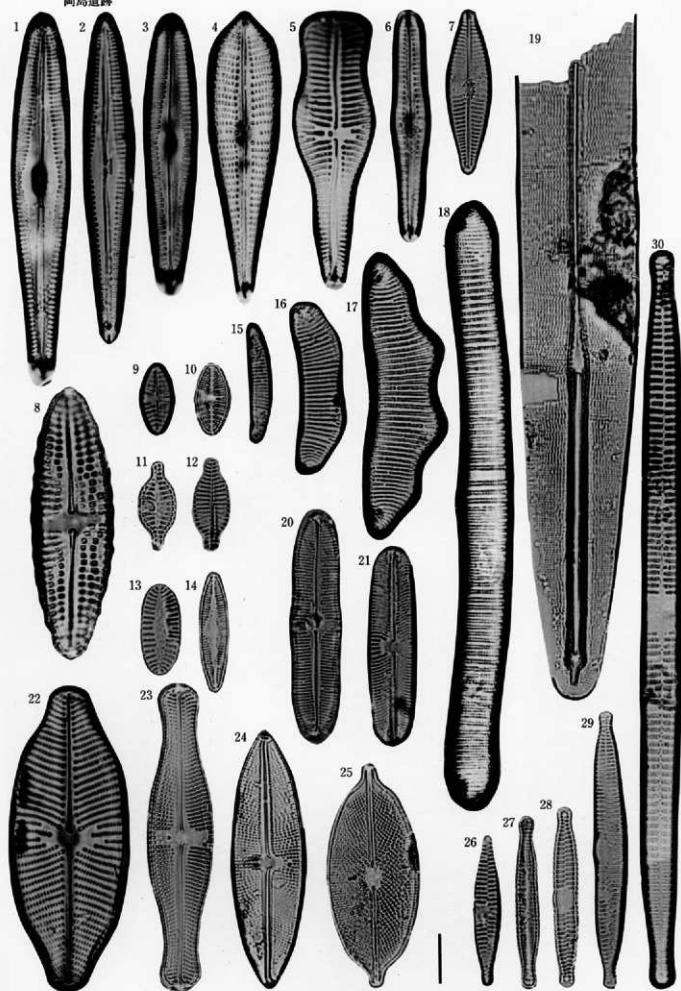


図 64 岡島遺跡産の珪藻遺骸の顕顕微鏡写真 2

図 63 岡島遺跡産珪藻遺骸の顕微鏡写真 1

- | | |
|--|---|
| 1. <i>Cyclotella stylorum</i> BRIGHTWELL | 12. <i>Cocconeis scutellum</i> EHRENBERG |
| 2. <i>Melosira nummuloides</i> (DILLW.) C. A. AGARDH | 13. <i>Amphora ovalis</i> var. <i>libyca</i> (EHR.) CLEVE |
| 3. <i>Melosira nummuloides</i> (DILLW.) C. A. AGARDH | 14. <i>Cymbella sinuata</i> GREGORY |
| 4. <i>Melosira nummuloides</i> (DILLW.) C. A. AGARDH | 15. <i>Cymbella minuta</i> HILSE |
| 5. <i>Melosira nummuloides</i> (DILLW.) C. A. AGARDH | 16. <i>Cymbella turgidula</i> GRUNOW |
| 6. <i>Thalassiosira</i> sp. | 17. <i>Cymbella leptoceros</i> (EHR.) GRUNOW |
| 7. <i>Cocconeis placentula</i> var. <i>englypta</i> (EHR.) CLEVE | 18. <i>Cymbella leptoceros</i> (EHR.) GRUNOW |
| 8. <i>Cocconeis placentula</i> var. <i>englypta</i> (EHR.) CLEVE | 19. <i>Epithemia zebra</i> (EHR.) KÜTZING |
| 9. <i>Cocconeis placentula</i> EHRENBERG | 20. <i>Epithemia zebra</i> (EHR.) KÜTZING |
| 10. <i>Cocconeis pseudomarginata</i> GREGORY | 21. <i>Epithemia turgida</i> (EHR.) KÜTZING |
| 11. <i>Pinnularia macilentia</i> EHRENBERG | 22. <i>Diploneis parva</i> CLEVE |

(スケールは 10 μ m)

図 64 岡島遺跡産珪藻遺骸の顕微鏡写真 2

- | | |
|--|---|
| 1. <i>Gomphonema clevei</i> var. <i>inaequilongum</i> H. KOBAYASI | 16. <i>Eunotia praerupta</i> var. <i>bidens</i> GRUNOW |
| 2. <i>Gomphonema clevei</i> var. <i>inaequilongum</i> H. KOBAYASI | 17. <i>Eunotia robusta</i> RALFS |
| 3. <i>Gomphonema clevei</i> var. <i>inaequilongum</i> H. KOBAYASI | 18. <i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>undulata</i> (RALFS) RABENHORST |
| 4. <i>Gomphonema agur</i> var. <i>terris</i> (EHR.) LANGE-BERTALOT | 19. <i>Amphipleura lendheimeri</i> GRUNOW |
| 5. <i>Gomphonema constrictum</i> EHRENBERG | 20. <i>Caloneis silicula</i> (EHR.) CLEVE |
| 6. <i>Gomphonema longiceps</i> EHRENBERG | 21. <i>Navicula laevissima</i> KÜTZING |
| 7. <i>Gomphonema parvulum</i> KÜTZING | 22. <i>Navicula gastrum</i> (EHR.) KÜTZING |
| 8. <i>Achnanthes brevipes</i> var. <i>intermedia</i> (KÜTZ.) CLEVE | 23. <i>Navicula</i> sp. |
| 9. <i>Achnanthes lanceolata</i> BRÉBISSE | 24. <i>Navicula goeppertiana</i> (BLEISCH) SMITH |
| 10. <i>Achnanthes lanceolata</i> BRÉBISSE | 25. <i>Navicula placenta</i> EHRENBERG |
| 11. <i>Achnanthes lanceolata</i> var. <i>rostrata</i> HUSTEDT | 26. <i>Synedra vaucheriae</i> KÜTZING |
| 12. <i>Achnanthes lanceolata</i> var. <i>rostrata</i> HUSTEDT | 27. <i>Fragilaria bicapitata</i> A. MAYER |
| 13. <i>Achnanthes conspicua</i> A. MAYER | 28. <i>Caratoneis arcus</i> KÜTZING |
| 14. <i>Achnanthes lapidosa</i> HUSTEDT | 29. <i>Caratoneis arcus</i> KÜTZING |
| 15. <i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (KÜTZ.) RABENHORST | 30. <i>Synedra ulna</i> EHRENBERG |

(スケールは 10 μ m)

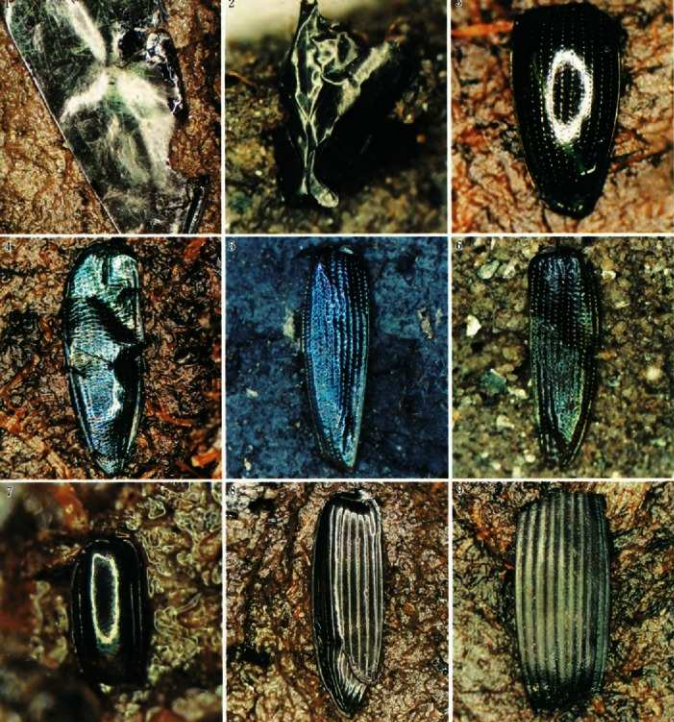


図 65 岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真 1

- | | |
|--|---|
| 1. ゲンゴロウ <i>Cybister japonicus</i> SHARP
右鞘翅下半部 長さ 18.2 mm (中世 2, 大型土坑, 標本 7) | 6. イネネクイハムシ <i>Donacia provosti</i> FAIRMAIRE
右鞘翅 長さ 4.8 mm (中世 2, 大型土坑, 標本 11) |
| 2. ネベリクロヒメゲンゴロウ <i>Ilybius apicalis</i> SHARP
後胸腹板 長さ 4.6 mm (秀生後期後半, III F 17b シルト, 標本 18) | 7. ヒラタコミズギワゴミムシ <i>Tachyna caerulea</i> (BATES)
右鞘翅 長さ 1.4 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 42) |
| 3. ヒメミズスマシ <i>Gyrinus gestroi</i> REGIMBART
左鞘翅 長さ 3.3 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 208) | 8. ツヤヒラタゴミムシ属 <i>Synicus</i> sp.
左鞘翅片 長さ 7.1 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 158) |
| 4. キヌツヤミズクサハムシ <i>Platemeris sericea</i> LINNE
左鞘翅 長さ 5.2 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 60) | 9. アオヘリアオゴミムシ <i>Chlaenius praefectus</i> BATES
右鞘翅片 長さ 9.8 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 62) |
| 5. イネネクイハムシ <i>Donacia provosti</i> FAIRMAIRE
左鞘翅 長さ 4.7 mm (中世 1, 大型土坑, 標本 71) | |

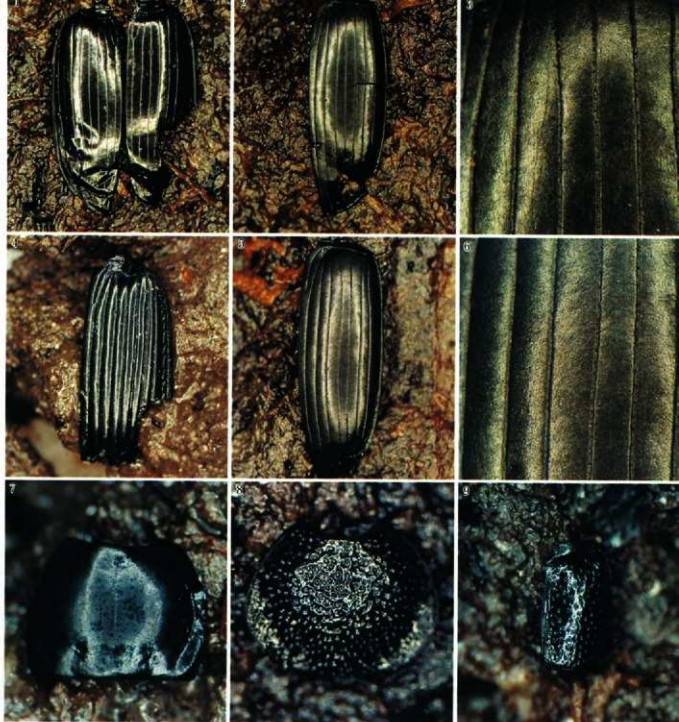


図 66 岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真 2

1. ヒラタゴミムシ亜族 PLATYNINA

左右鞘翅 長さ 8.4 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 113)

2. ヤマトツクリゴミムシ *Lachnocrepis japonica* BATES

右鞘翅 長さ 6.8 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 84)

3. ヤマトツクリゴミムシ *Lachnocrepis japonica* BATES

右鞘翅 拡大 (標本 84)

4. オオナガゴミムシ *Pterostichus fortis* MORAWITZ

右鞘翅上半部 長さ 9.6 mm (中世 2, 大型土坑, 標本 9)

5. ヤマトツクリゴミムシ *Lachnocrepis japonica* BATES

右鞘翅 長さ 7.2 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 153)

6. ヤマトツクリゴミムシ *Lachnocrepis japonica* BATES

右鞘翅拡大 (標本 153)

7. ヤマトツクリゴミムシ *Lachnocrepis japonica* BATES

前胸背板 幅 3.4 mm (縄文晩期, 泥炭最々下層, 標本 43)

8. ヨツボシゴミムシ *Panagaeus japonicus* CHAUDOIR

前胸背板 幅 3.4 mm (縄文晩期, 泥炭上層, 標本 1)

9. ハネカクシ科 STAPHYLININAE

右鞘翅 長さ 1.2 mm (縄文晩期, 泥炭上層, 標本 7)

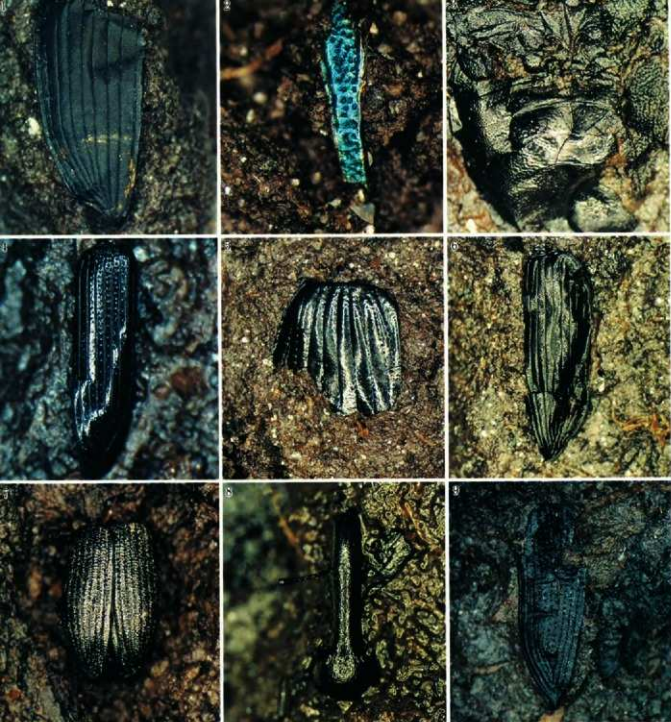


図 67 岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真 3

- | | |
|--|--|
| 1. セアカヒラタゴミシ <i>Dolichus kalensis</i> (SCHALLER)
左鞘翅下半部 長さ 6.8 mm (弥生中期, HE 5f, 標本 16) | 6. ヒメナガキマワリ <i>Strongylium impigrom</i> LEWIS
右鞘翅 長さ 8.2 mm (弥生後期, 上層泥炭, 標本 33) |
| 2. ハンミョウ <i>Cicindela chinensis japonica</i> THUNBERG
腹部腹板 長さ 2.6 mm (弥生後期, 上層泥炭, 標本 6) | 7. ゾウムシ科 CURCLIONIDAE
左右鞘翅 長さ 3.2 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 227) |
| 3. イネノクロカメムシ <i>Scotinophara lurida</i> BURMEISER
腹部腹板 幅 7.2 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 194) | 8. オナガカッツオゾムシ <i>Lixus moitaneus</i> KONO
口吻および触角 長さ 4.8 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 25) |
| 4. クロホソゴミシデマシ? <i>Hypophloeus colydioides</i> (LEWIS)
右鞘翅 長さ 3.0 mm (縄文晩期, 泥炭上層, 標本 15) | 9. カッツオゾムシ <i>Lixus impressiventris</i> ROELOFS
左鞘翅 長さ 5.8 mm (縄文晩期, 泥炭上層, 標本 12) |
| 5. キマワリ <i>Plesiophthalmus nigrocaucus</i> MOTSCHULSKY
左鞘翅上半部 長さ 5.6 mm (弥生後期, 上層泥炭, 標本 67) | |



図 68 岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真 4

図 68 岡島遺跡産の昆虫化石の顕微鏡写真 4

1. コクワガタ♀ *Macrodorcas rectus* (MOTSCHULSKY)
前胸背板 幅 8.8 mm (弥生中期, IIE 5 f, 標本 14)
2. アカアシクワガタ♀ *Nipponodorcus rubrofemoratus* (SNELLEN VAN VOLLENHOVEN)
前胸背板 幅 10.1 mm (弥生中期, IIE 5 f, 標本 15)
3. コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* (FALDERMANN)
前胸背板 幅 6.3 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 83)
4. アオドウガネ *Anomala albopilosa* HOPE 前板背板 幅 9.8 mm (弥生後期, 上層泥炭, 標本 15)
5. アオドウガネ *Anomala albopilosa* HOPE 前胸背板片 幅 4.8 mm (縄文晩期, 泥炭下層, 標本 200)
6. コガネムシ *Mimela splendens* GYLLENHAL 小楯板 幅 2.2 mm (弥生後期, 上層泥炭, 標本 29)
7. コガネムシ *Mimela splendens* GYLLENHAL 右鞘翅下半部 長さ 13.6 mm (縄文晩期, 泥炭上層, 標本 8)
8. ドウガネブイブイ *Anomala cuprea* (HOPE) 左鞘翅 長さ 14.1 mm (弥生中期, IIE 5 f, 標本 12)
9. ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* MOTSCHULSKY 後腿筋 長さ 4.3 mm (中世 2, 大型土坑, 標本 6)
10. クワハムシ *Fleutiauxia armata* (BALY) 左鞘翅片 長さ 2.4 mm (弥生後期, 上層泥炭, 標本 53)
11. キムネアオハムシ *Cneorane elegans* BALY 左鞘翅 長さ 6.1 mm (弥生後期, 上層泥炭, 標本 30)
12. アオバナサルハムシ *Basilepta fulvipes* (MOTSCHULSKY) 右鞘翅 3.1 mm (中世 1, 大型土坑, 標本 26)

図 69 岡島遺跡産昆虫化石の電子顕微鏡写真 1

- 1 a. ヒラタゴミムシ亜族 (PLATYNINA) 左鞘翅 90 B₂区 泥炭下層 (標本 113) 縄文時代晩期
ツヤヒトラゴミムシ属 (*Synuchus* sp.) の可能性が高い
- 1 b. ヒラタゴミムシ亜族 (PLATYNINA) 左鞘翅上半部 第 4 条溝, 第 3 および第 4 間室の彫刻
- 2 a. ヒラタゴミムシ亜族 (PLATYNINA) 右鞘翅 90 B₂区 泥炭下層 (標本 120) 縄文時代晩期
- 2 b. ヒラタゴミムシ亜族 (PLATYNINA) 右鞘翅上半部 第 4 条溝および第 3 間室の彫刻
- 3 a. ヤマトトックゴミムシ (*Lachnocypris japonica* BATES) 右鞘翅
90 B₂区 泥炭下層 (標本 153) 縄文時代晩期
- 3 b. 右鞘翅上半部 第 3 間室の模様および第 4 条溝

(バースケールは μm)

図 70 岡島遺跡産昆虫化石の電子顕微鏡写真 2

- 1 a. イネネクイハムシ (*Donacia provosti* FAIRMAIRE) 右鞘翅 90 B₂区 大形土坑 (標本 11) 中世
- 1 b. 同上 右鞘翅上半部 第 2~第 5 点刻列, 第 2~第 6 間室
- 1 c. 同上 右鞘翅上半部 第 2 点刻列 (長さ約 20 μm の微毛が認められる)
- 2 a. イネノアカムシ (*Scotinophara lurida* (BURMEISTER)) 第 5 および第 6 腹板 90 B₂区 泥炭下層 (標本 23) 縄文時代晩期
- 2 b. 同上 第 5 腹板上の点刻列 (点刻の直径約 25 μm)
- 2 c. 同上 第 3 腹板縁片部の点刻と気門 (気門の直径約 90 μm)

(バースケールは μm)

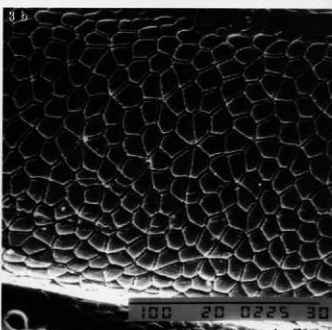
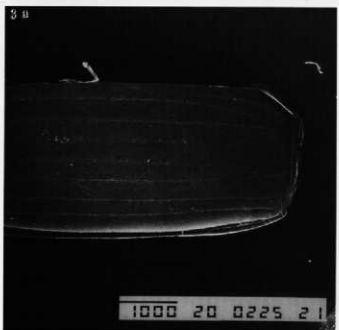
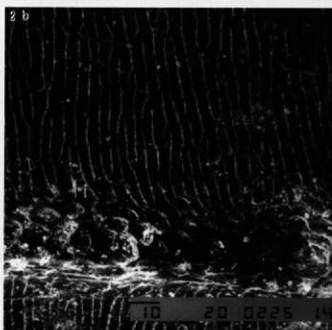
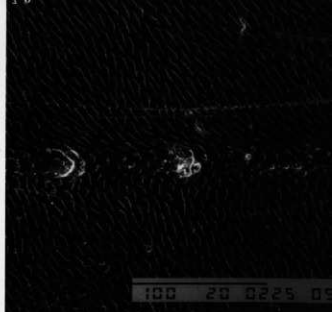


図 69 岡島遺跡産昆虫化石の電子顕微鏡写真 1

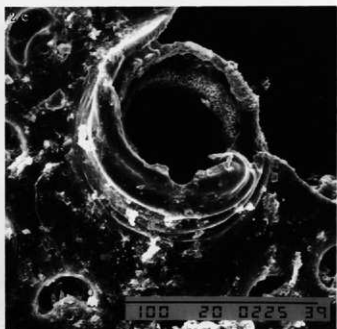
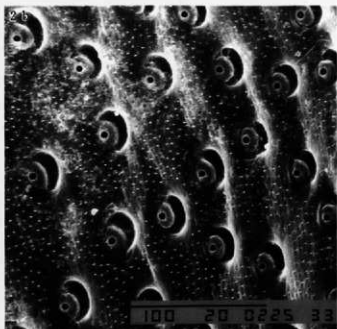
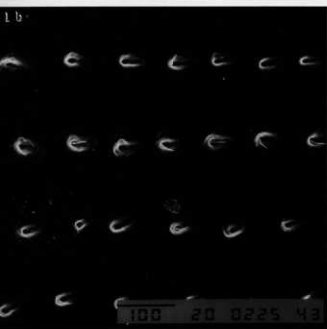
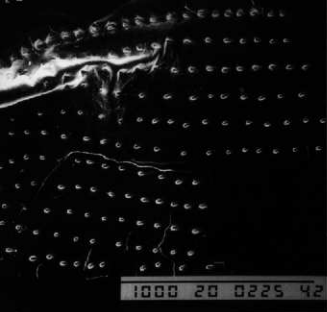


図70 岡島遺跡産昆虫化石の電子顕微鏡写真 2

第2節 岡島遺跡における花粉化石

①. はじめに

岡島遺跡は西三河平野南部・愛知県西尾市に位置する弥生時代の遺跡であり、地形的には矢作川左岸の沖積平野上の微高地（海拔+4.0~+4.5 m）に存在する（図71）。

矢作川
左岸の
沖積平野

今回、岡島遺跡の基盤を構成する縄文時代晩期の堆積物中の花粉化石の分析を行ったので、その概略を報告する。

②. 試料および分析方法

今回扱った分析試料は、IINO 90 B₂区の地層断面から、連続的に採取された細粒砂層・シルト層および腐植質シルト層などの20試料である。模式柱状図および層相は図72-74に示したとおりである。

分析方法は以下の手順によった。

試料の
処理

- (1) 約20gの試料を10%KOH溶液処理（1晩）。
- (2) 60メッシュの篩に通し粗粒物質を除去。
- (3) 10%KOH溶液を加え湯煎（4分間）した後、傾斜法により細粒物質を除去。
- (4) ZnCl₂溶液による比重分離（1,500回転/分の遠心分離を2回繰り返す）。
- (5) HF溶液処理（1晩）で鉱物片を除去。
- (6) アセトリシス処理（40秒間）。
- (7) グリセリン・ゼリーで封入。

顕鏡は400倍で、本木花粉が200個体に達するまで行った。出現率の算出は本木花粉については本木花粉の総数を基数とし、草本花粉については総本木花粉と総草本花粉の和を基数として計算した。

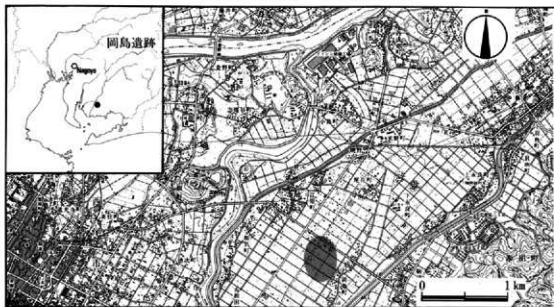


図71 岡島遺跡位置図 国土地理院2万5千分の1「西尾」より縮図



図 72 分析試料採取位置図 (90 B₂区)

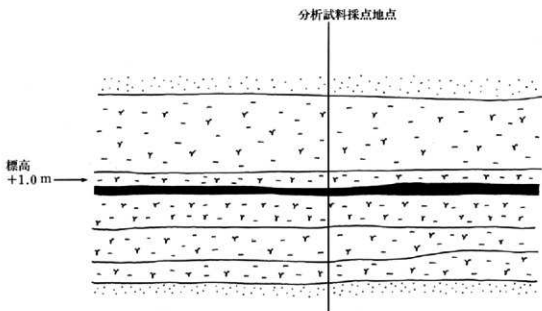


図 73 岡島遺跡 90 B₂区トレンチ断面図

③. 分析結果

分析結果を図75および図76に示した。今回花粉化石を分析した20試料の中、茶褐色泥炭質シルト層、暗灰色腐植質シルト層および暗灰色腐植質混じり細粒砂層に含まれる13試料(試料No.8~20)は、花粉化石が非常に少なかった。また、試料No.1~7の中でも、時間的な制限などにより総本花粉の基数が200個体に達しないままで出現率を算出し、花粉ダイアグラムを描いてある試料もある。

花粉ダイアグラムを描いた6試料は、いずれもよく似た傾向を示した。試料No.3を除く5試料は、いずれもTaxaceae-Cupressaceae(イチイ科—ヒノキ科)が優勢に出現し、試料No.2では24.5%にも達する。

これに次いでCyclobalanopsis(アカガシ亜属)、Lepidobalanus(コナラ亜属)が高率に出現する。

Taxaceae-Cupressaceae(イチイ科—ヒノキ科)以外の針葉樹では、Pinus(マツ属)がどの試料からもかなり高率に出現し、次いでAbies(モミ属)、Sciadopitys(コウヤマキ属)が低率ながら、普遍的に出現する。また、Tsuga(ツガ属)Cryptomeria(スギ属)もほとんどの試料から出現する。

Cyclobalanopsis(アカガシ亜属)、Lepidobalanus(コナラ亜属)以外の広葉樹ではCas-tanopsis(シノキ属)がかなり高率に出現する。その他には、Aesculus(トチノキ属)、Ulmus-Zelkova(ニレ属—ケヤキ属)、Corylus(ハシバミ属)、Oleaceae(モクセイ科)、Viburnum(ガマズミ属)などが低率ながら出現する。

草本花粉は、どの試料とも種類は少なく出現率も低率である。その中でもGramineae(イネ科)は、ほとんどの試料からかなり高率に出現する。(本花粉が非常に少ないため花粉ダイアグラムを描くまでには至らなかったが、試料No.10では、このGramineaeが非常に多くみられた。次いでCyperaceae(カヤツリグサ科)が出現する。その他にはCarduoideae(キク亜科)がほぼ全試料に非常に低率ながら出現し、試料によってはRanunculus(キンボンゲ属)、Umbelliferae(セリ科)などが出現する。

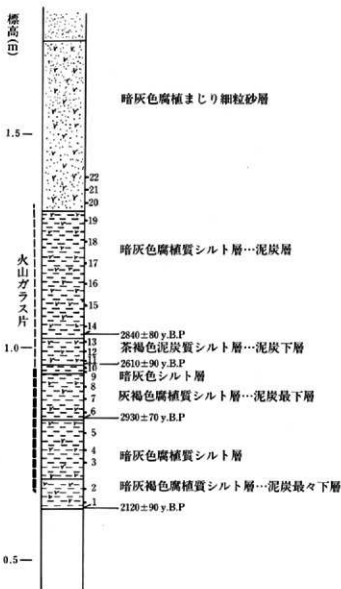


図74 分析試料採取地点における地質柱状図

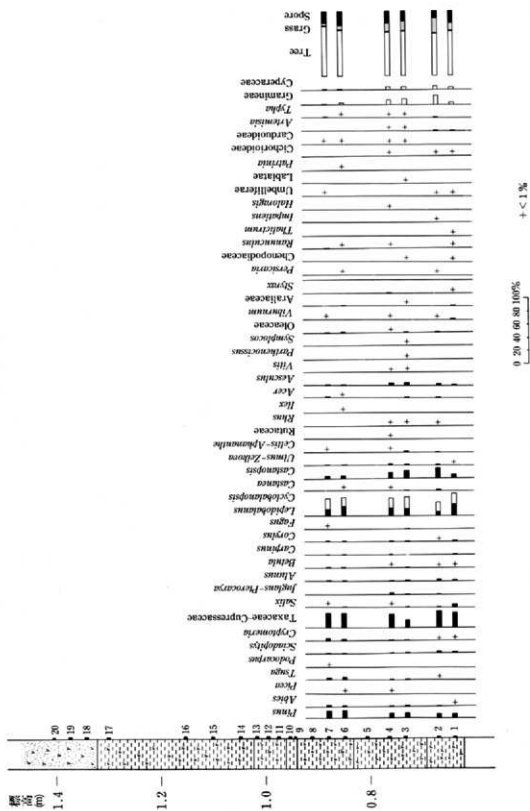


図 75 同島道線 90 B2 区の花輪ダイアグラム。

図 76 花粉化石リストおよび出現率

学名	花粉化石実数							出現率						
	7	6	5	4	3	2	1	7	6	4	3	2	1	
木本花粉														
<i>Pinus</i>	20	27	2	20	19	15	16	12.42	13.04	8.44	9.13	7.18	7.88	
<i>Abies</i>	7	7	5	6	3	1		4.35	3.38	2.11	2.88	1.44	0.49	
<i>Picea</i>		1		1				0.00	0.48	0.42	0.00	0.00	0.00	
<i>Tsuga</i>	6	9		4	3	1		3.73	4.35	1.69	1.44	0.48	0.00	
<i>Podocarpus</i>	1							0.62	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
<i>Sciadopitys</i>	3	3		3	4	7	6	1.86	1.45	1.27	1.92	3.35	2.96	
<i>Cyphoteria</i>	7	8		4	4	1	1	4.35	3.86	1.69	1.92	0.48	0.49	
Taxaceae-Cupressaceae	37	48	12	53	26	55	48	22.98	23.19	22.36	12.50	26.32	23.65	
<i>Salix</i>	1	2	1	2	3	4	11	0.62	0.97	0.84	1.44	1.91	5.42	
<i>Juglans-Platanus</i>			1	9	5	4		0.00	0.00	3.80	2.40	1.91	0.00	
<i>Alnus</i>	3	3		3	6	8	4	1.86	1.45	1.27	2.88	3.83	1.97	
<i>Betula</i>	3	2		2	2	1	1	1.86	0.97	0.84	0.96	0.48	0.49	
<i>Carpinus</i>	2	3		3			2	1.24	1.45	1.27	0.00	0.00	0.99	
<i>Corylus</i>	2	3	1	3	3	1	5	1.24	1.45	1.27	1.44	0.48	2.46	
<i>Fagus</i>	1					2		0.62	0.00	0.00	0.96	0.00	0.00	
<i>Lepidobalanus</i>	17	31	3	30	25	14	38	10.56	14.98	12.66	12.02	6.70	18.72	
<i>Cyclobalanus</i>	28	31	8	40	39	33	37	17.39	14.98	16.88	18.75	15.79	18.23	
<i>Castanea</i>		1		2	4	5		0.00	0.48	0.84	1.92	2.39	0.00	
<i>Castanopsis</i>	9	12	2	24	28	35	14	5.59	5.80	10.13	13.46	16.75	6.90	
<i>Ulmus-Zelkova</i>	4	2		7	2	2	1	2.48	0.97	2.95	0.96	0.96	0.49	
Celtis-Aphananthe	1			2	6	4	2	0.62	0.00	0.84	2.88	1.91	0.99	
Rutaceae				2				0.00	0.00	0.84	0.00	0.00	0.00	
<i>Rhus</i>				1	1	1		0.00	0.00	0.42	0.48	0.48	0.00	
<i>Ilex</i>		1						0.00	0.48	0.00	0.00	0.00	0.00	
<i>Acer</i>	3	1			2	3		1.86	0.48	0.00	0.96	1.44	0.00	
<i>Aesculus</i>	2	3	1	10	11	8	6	1.24	1.45	4.22	5.29	3.83	2.96	
<i>Vitis</i>				1	1			0.00	0.00	0.42	0.48	0.00	0.00	
<i>Parthenocissis</i>					1			0.00	0.00	0.00	0.48	0.00	0.00	
<i>Symphlocos</i>					1			0.00	0.00	0.00	0.48	0.00	0.00	
Oleaceae	3	6	2	1	3	3		1.86	2.90	0.42	1.44	1.44	0.00	
<i>Viburnum</i>	1			1		1	6	0.62	0.00	0.42	0.00	0.48	2.96	
Araliaceae		3			1		3	0.00	1.45	0.00	0.48	0.00	1.48	
<i>Styrax</i>				4			1	0.00	0.00	1.69	0.00	0.00	0.49	
草本花粉														
<i>Persicaria</i>		1				1		0.00	0.44	0.00	0.00	0.35	0.00	
Chenopodiaceae						1	2	0.00	0.00	0.00	0.39	0.00	0.84	
<i>Ranunculus</i>	2	2		1			1	1.16	0.88	0.35	0.00	0.00	0.42	
<i>Thalictrum</i>							2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.84	
<i>Impatiens</i>							1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.35	0.00	
<i>Haloragis</i>					1			0.00	0.00	0.35	0.00	0.00	0.00	
Umbelliferae	1		1				1	0.58	0.00	0.00	0.00	0.35	0.84	
Labiatae						1		0.00	0.00	0.00	0.39	0.00	0.00	
<i>Patrinia</i>		1						0.00	0.44	0.00	0.00	0.00	0.00	
Cichorioideae					1		1	0.00	0.00	0.35	0.00	0.35	0.42	
Carduoideae	1	2	1	1	1			0.58	0.88	0.35	0.39	0.00	0.00	
<i>Artemisia</i>					1	1	3	0.00	0.00	0.35	0.39	1.05	1.26	
<i>Typha</i>	2	1		2	2	5		1.16	0.44	0.70	0.79	1.75	0.00	
Gramineae	3	10	9	25	26	46	12	1.74	4.41	8.75	10.24	16.14	5.04	
Cyperaceae	2	3	3	17	14	18	12	1.16	1.32	5.94	5.51	6.32	5.04	
シダ胞子														
Spore	38	65	14	63	48	34	55	18.10	22.26	18.05	15.89	10.66	18.77	
Tree	161	207	33	237	208	209	203	76.67	70.89	67.91	68.87	65.52	69.28	
Grass	11	20	14	49	46	76	35	5.24	6.85	14.04	15.23	23.82	11.95	
Spore	38	65	14	63	48	34	55	18.10	22.26	18.05	15.89	10.66	18.77	
総花粉数 Total	210	292	61	349	302	319	283	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	

■木本花粉の出現率は木本花粉総数を基数として算出

■草本花粉の出現率は(木本花粉総数+草本花粉総数)を基数として算出

④. 考察

(1) 花粉組成からみた古環境と時代

放射性
炭素年代

今回花粉化石の分析を行い、花粉ダイアグラムが描かれた試料は、岡島遺跡（弥生時代中期～後期）の基盤層を構成する地層（泥炭最々下層、泥炭最下層など）である（図74）。これらの腐植質シルト層ないし泥炭層の放射性炭素年代は、その年代と層率が逆転している場合もあるが、最も新しいものは 2120 ± 90 y.B.P. で、最も古いものは 2930 ± 70 y.B.P. を示し、いずれも縄文時代晩期に相当する（森, 1993）。

森（1993）によれば、愛知県松河戸遺跡で発見された松河戸火山灰層（森ら、1990）に對比される火山ガラス片が、今回の柱状試料の全層率にわたり発見されることから、これら一連の泥質シルト層～泥炭層の堆積の時期は松河戸火山灰降灰以降であるとしている。

古植生

今回の分析結果が得られた6試料は、花粉組成はほとんど類似していて、花粉化石群集から推定される古植生はTaxaceae-Cupressaceae（イチイ科～ヒノキ科）、*Cyclobalanopsis*（アカガシ亜属）、*Lepidobalanus*（コナラ亜属）が優勢な植生であったと推定される。*Castanopsis*（シノキ属）もかなり高率に出現することから、照葉樹林を中心とする林が広がっていた可能性が考えられる。

これらの樹下にあるいは周縁域にはGramineae（イネ科）、Cyperaceae（カヤツリグサ科）を中心とする草場が広がっていたと思われる。*Typha*（ガマ属）などの化石がほとんどみられないことから、水域（湿地）はあまり顕著には発達していなかったものと思われる。*Castanopsis*（シノキ属）を伴う*Cyclobalanopsis*（アカガシ亜属）の高率の出現は、温暖な気候を反映しているものと思われる。このことは濃尾平野でも認められている縄文時代後期の再海進の名残を示しているのかもしれない（吉野ら、1992）。

(2) 花粉化石群集の比較

橋ら（1993）は愛知県下に分布する朝日遺跡（西春日井郡清洲町ほか）をはじめ、勝川遺跡（春日井市）・町田遺跡（春日井市）および1988年度の岡島遺跡（西尾市）の業者委託による花粉分析結果により、縄文時代中期から古墳時代にかけての花粉組成の変遷をまとめた。

今回の分析結果は、上記の岡島遺跡に示された分析結果と非常によく一致している。

西三河平野での沖積層の花粉分析結果はほとんど報告されていないが、周辺地域では濃尾平野の佐屋町ボーリング・コアの南陽層上部の花粉化石群集（吉野ら、1980）、浜名湖々底堆積物の花粉群集（Matushita et. al, 1988）には、今回の分析結果と類似したTaxaceae-Cupressaceae（イチイ科～ヒノキ科）、*Cyclobalanopsis*（アカガシ亜属）および*Lepidobalanus*（コナラ亜属）の優勢な出現が報告されている。しかしながら同じ濃尾平野でありながら、津島ボーリング・コアの沖積層（南陽層）および濃尾平野第四紀研究グループ（1977）による飛島村のボーリング・コアの南陽層には*Cyclobalanopsis*（アカガシ亜属）と*Lepidobalanus*（コナラ亜属）の優勢な層率は認められるが、これに随伴するTaxaceae-Cupressaceae（イチイ科～ヒノキ科）の優勢は認められない。このことは、今後の詳細な

検討を要する問題である。

⑤. まとめ

愛知県西尾市に位置する岡島遺跡の基盤を構成する堆積物（縄文時代晩期）の花粉化石の分析を行った。その花粉組成はTaxaceae-Cupressaceae、*Cyclobalanopsis*、*Lepidobalanus*の高率の出現で特徴づけられる。

*Castanopsis*を伴う高率の*Cyclobalanopsis*の出現は縄文時代後期の再海進の名残を示しているものと思われる。

(吉野道彦・橋真美子・萬谷さつき)

縄文後期の再海進

謝 辞

今回の小論をまとめるにあたり、研究の機会を与えられた愛知県埋蔵文化財センターの方々、愛知県立明和高等学校教諭森 勇一氏には種々の面でお世話になった。記して深く感謝の意を表します。

文 献

- Matsushita, Mariko and Sanukida, Satoshi (1988), Holocene Vegetation History around Lake Hamana on the Pacific Coast of Central Japan. *The Quaternary Research*, 26(4), 393-399.
- 森 勇一・伊藤隆彦・宮田英嗣 (1990), 愛知県町田・松戸遺跡から発見された縄文時代後・晩期の境界付近に位置する火山灰層について。第四紀研究, 29, 17-23.
- 森 勇一 (1993), 珪藻および昆虫化石群集から得られた愛知県・岡島遺跡の古環境変遷。愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第43集), 岡島遺跡, 87-131.
- 濃尾平野第四紀研究グループ(1977), 濃尾平野第四系の層序と微化石分析。地質学論集, 14, 161-183.
- 橋真美子・中垣内薫・服部俊之 (1993), 自然科学分析データの活用その1—花粉分析と樹種同定—。愛知県埋蔵文化財センター年報 (平成4年度), 140-151.
- 吉野道彦・酒井潤一・西村祥子 (1980), 濃尾平野佐屋・津島におけるボーリング・コアの花粉分析。第四紀研究, 19(3), 163-171.
- 吉野道彦・萬谷さつき (1992), 花粉化石からみた朝日遺跡。愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第31集), 朝日遺跡II・(自然科学編), 56-69.

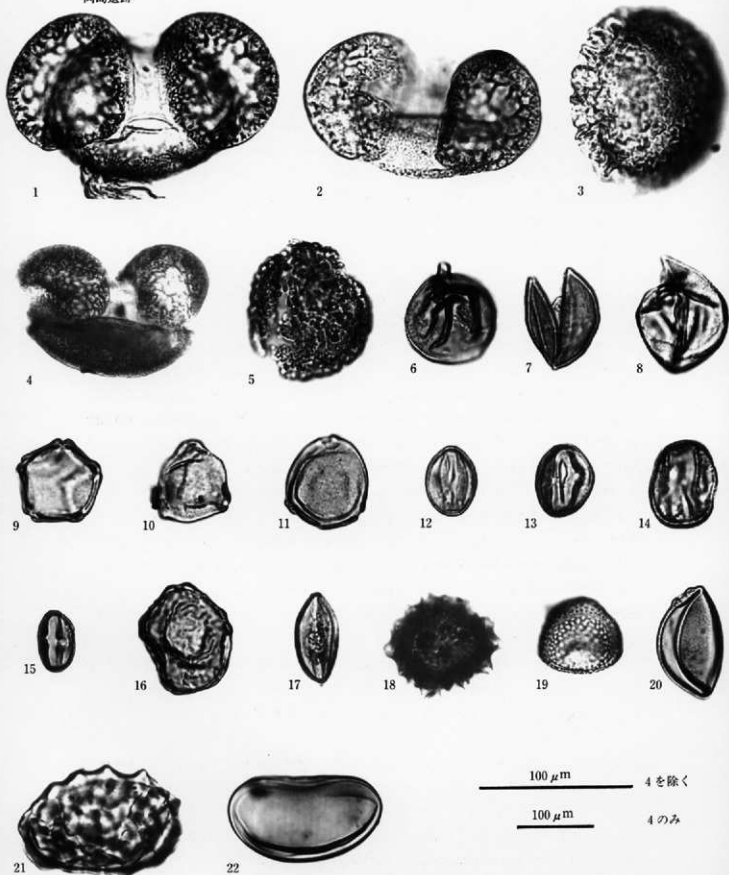


図 77 岡島遺跡出土の花粉化石

1. *Pinus*
2. *Pinus*
3. *Tsuga*
4. *Abies*
5. *Sciadopitys*
6. *Cryptomeria*

7. *Cryptomeria*
8. *Taxaceae-Cupressaceae*
9. *Alnus*
10. *Betula*
11. *Corylus*
12. *Cyclobalanopsis*
13. *Cyclobalanopsis*
14. *Lepidobalanus*
15. *Castanopsis*
16. *Ulmus-Zelkova*
17. *Aesculus*
18. *Carduioideae*

19. *Typha*
20. *Gramineae*
21. *Spore*
22. *Spore*

第3節 岡島遺跡出土の土器胎土

①. はじめに

岡島遺跡(愛知県西尾市)は西三河地区を代表する弥生時代の集落遺跡であり、矢作川の東岸、幡豆山塊の麓に位置する。矢作川の上流には、地質区分でいう領家帯に属する花こう岩が広く分布しており、ここから供給される砂礫によって岡崎平野が形成されている。1987~1989年度の当遺跡の発掘調査においても旧矢作川(その分流も含む)と思われる旧河道も検出され、遺跡周辺は同川による運搬物の堆積の場であった。

岡島遺跡
周辺の
堆積環境

土器に含まれる砂礫には、普通、製作地周辺の堆積物が用いられており、形式が在地の特徴を示す土器では、含まれる砂礫は遺跡近辺で採取できる砂礫種とほぼ一致する。岡島遺跡においても1990年発行の調査報告書において胎土分析が実施され、同遺跡出土土器のほとんどが花こう岩起源の砂礫組成を示すことが筆者らによって報告されており、このことを裏付ける結果が得られている。しかし同時に土器形式の変化にともなって土器中の砂礫組成にも変化が認められることがわかっており、土器製作時に、形のみならず混和する砂礫にも意識がはらわれていたことがうかがえる。

1990年以降の当遺跡の継続した発掘調査によって、これまでに時期区分された土器群に続く新たな土器形式の一群(岡島V期)が出土した。そこで、この一群への土器形式の変化にともなって、土器胎土に混入する砂礫の変化の有無を明らかにすることを本稿の第一の目的とする。

分析の目的

またこれまでの調査の結果、尾張地区を代表する同時期の遺跡である朝日遺跡(愛知県清洲町ほか)では、岡島遺跡の土器と形式・胎土ともに共通する土器が出土するが、岡島遺跡では形式は他地域の影響を受ける土器も、胎土は在地の土器と共通した特徴を示し、他地域から土器が直接搬入された明らかな証拠は見つかっていなかった。そこで、他地域から岡島遺跡への土器搬入の有無を確認することを第二の目的とする。

②. 分析試料と方法

池本(1990)は、岡島遺跡から出土する弥生土器をその型式的変化によってI~IV期に時期区分した。今回の調査でこれにV期が加えられることにもなって、I~IV期の区分に若干変更が生じたので、本稿中では新しい時期区分に従って分析結果の報告を行っている。

分析を行った試料は、新たに設定された岡島V期に属する土器から10点(B-1~10)と、他地域から岡島遺跡に搬入された可能性がある土器12点(X-1~12)である。このうちXサンプルは、形式的に他地域産の可能性のあるものと、肉眼的に判断して在地産土器と異なった胎土である可能性のあるものとを、今回の調査によって出土した土器中から抽出した。またこの中に形式的に静岡県産の可能性のあるものが含まれており、その比較試料として角江遺跡(静岡県浜松市)出土試料(S-1~3)を、静岡県埋蔵文化財調査研究所の木下智章氏に提供して頂き、同時に分析を行った。(図78)。

分析試料

分析方法

分析の方法は土器表面の実体顕微鏡観察と、土器片から作製した薄片プレパレードの偏光顕微鏡観察の二方法である。これは筆者がこれまでに行ってきた、岡島遺跡をはじめとする愛知県内外の遺跡出土土器の分析方法と同じである。共通した方法で分析を行うことにより、他の遺跡産の土器胎土と比較検討が可能である。詳しい方法は愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第14集「岡島遺跡」(1990)を参照されたい。

粒径による三角ダイヤグラム

また特に今回はBサンプルに対して砂礫の粒径の違いを明らかにするため、粒径をもとにした三角ダイヤグラムも作成した。このとき、土器表面の砂礫が占める面積比の比較と考案、粒径がLの砂礫は個数に9を、Mには4を乗じてダイヤグラム化した。

この砂礫数に乗じた9や4という定数は、各々の砂礫が相似形であると仮定し、粒径S(0.25~0.5mm)に対しL(1mm以上)は3倍、M(0.5~1mm)は2倍の直径をもつと考え、面積比は相似比の2乗に比例することに基づく。

③. 分析結果と考察

(1) 岡島V期試料(Bサンプル)の土器胎土の特徴

実体顕微鏡観察結果

実体顕微鏡観察の結果を図79に、これより作成した鉱物三角ダイヤグラムを図80に示す。雲母以外の有色鉱物はほとんど含まれず、無色鉱物と雲母で主要造岩鉱物の95%以上を占める。この点ではI~IV期までの試料(Aサンプル)の特徴に一致するが、特に雲母について注目するとAサンプルに比べ白雲母の比率が高くなる傾向がある。また粒径別にみた場合BサンプルはSサイズがほとんどを占め、Aサンプルより砂礫が細かい傾向がある(図81)。

試料番号	図番号	調査区	登録番号	遺構	時期	その他
B-1	280	89 A 2	E-77	S X 04	V	
B-2	282	89 A 2	E-86	S X 04	V	
B-3	288	89 A 2	E-88	S X 04	V	
B-4	227	90 A 1	E-70	S K 03	V	
B-5	249	89 A 2	E-70	S X 03	V	
B-6	256	89 A 2	E-67	S X 03	V	
B-7	267	89 A 2	E-69	S X 03	V	
B-8	272	89 A 2	E-58	S X 03	V	
B-9	278	89 A 2	E-80	S X 04	V	
B-10	279	89 A 2	E-75	S X 04	V	
X-1	370	91 A 1	E-14	S K 08		
X-2	900	90 B 1	E-51	包含層		IV
X-3	936	89 B 2	E-18	包含層		IV
X-4	22	試掘	—	—		I
X-5	531	90 A 2	E-43	S K 11		II
X-6	532	90 A 2	E-41	S K 11		II
X-7	426	89 A 2	E-216	S X 05		IV
X-8	895	90 A 2	E-351	包含層		
X-9	643	90 B 2	E-1	S K 27		III
X-10	564	90 A 2	E-127	S K 15		III
X-11	742	90 A 2	E-3	S D 12		II
X-12	527	90 A 2	E-40	S K 11		II
S-1		角江遺跡	P-1942			静岡市浜松市
S-2		"	P-1785			"
S-3		"	P-1946			"

図78 分析試料一覧

試料番号	石英			長石			黒雲母			白雲母			有色鉱物			花崗岩			チャート			その他			合計	観察視野数		
	L	M	S	L	M	S	L	M	S	L	M	S	L	M	S	L	M	S	L	M	S	L	M	S				
B-1	3	14	163	0	0	22	0	0	2	0	0	9	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	217	8	
B-2																												
B-3	4	10	98	0	3	22	0	1	20	0	0	40	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	200	9	
B-4	4	15	138	0	0	9	0	0	19	0	0	14	0	0	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	207	7	
B-5	2	10	176	0	1	11	0	0	14	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	219	9	
B-6	0	13	129	0	1	13	0	1	41	0	1	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	217	9	
B-7	0	0	136	0	1	3	0	0	6	0	2	67	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	221	6	
B-8	2	19	127	0	3	28	0	1	10	0	0	23	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	215	9	
B-9	7	33	92	3	9	15	0	3	30	0	0	17	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	214	11	
B-10	1	3	146	0	1	30	0	0	15	0	0	20	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	218	6	

図79 岡島V期試料の実体顕微鏡観察結果

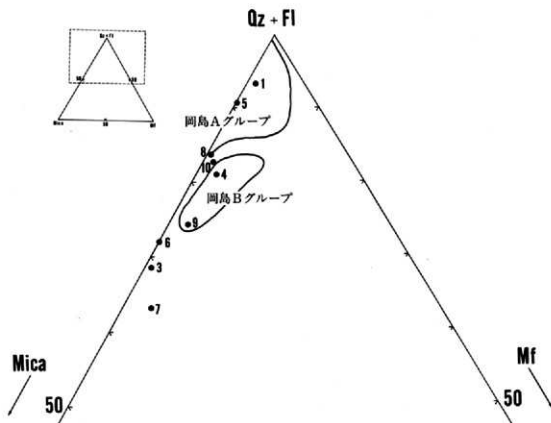


図80 鉱物組成の三角ダイアグラム(Bサンプル)

偏光顕微鏡観察の結果を図82に示す。鉱物ではすべての試料に共通して石英が多く含まれる。これに長石や雲母がとまない、角閃石が含まれることもある。岩片では花崗岩が共通し、チャートが含まれることもある。石英は波動消光を示すものが多く、長石には双晶やバーサイト構造が見られる。これらの組織は花こう岩中の石英や長石に見られるもので、岩片でも花こう岩が主体であることより、これらの砂礫は花こう岩に由来するものと考えられる。また量にはばらつきがあるが、白雲母が共通して含まれることが特徴といえる。

この結果とAサンプルとの比較を行う。三角ダイアグラム上でもAサンプルの領域と同じ傾向にあるし、偏光顕微鏡観察結果を見ても花こう

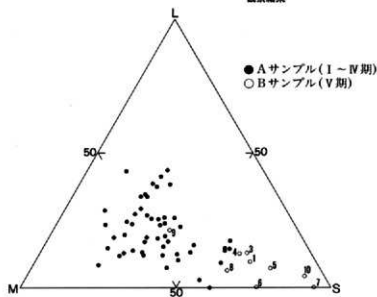
偏光顕微鏡
観察結果

図81 粒径による三角ダイアグラム

試料番号	石英	斜長石	正長石	黒雲母	白雲母	角閃石	緑泥石	輝石	ジルコン	花こう岩	チャート	砂岩	変成岩	火山岩
B-1	○	○	○	—	—	—	—	—	—	○	△			
B-2	○	△	△	○	△					△				
B-3	○	○	○	○	△	—				○	—			
B-4	○	△	△	○	△					○			—	
B-5	○	○	△	○	○	—			—	○				
B-6	○	△	○	○	○				—	○				
B-7	○	△	△	○	△	—			—	○	—			
B-8	○	△	△	○	△	—			—	○				
B-9	○	△	△	○	—	—				○				
B-10	○	△	△	○	△				—	○	—			

図 82 岡島V期試料の偏光顕微鏡観察結果

岩やあるいは花こう岩源の砂礫が主体であることなど、全体ではAサンプルと共通した特徴を示す。つまり岡島V期の段階でも土器製作の際砂礫は遺跡の近辺で入手していた可能性が高い。

**A・B
サンプル
の胎土の差**

またAサンプルを雲母の量で分類したA・Bグループと比べると、B-1, 5が三角ダイヤグラム上でAグループに入る他はBグループに近い。岡島IV期以降雲母が多くなる傾向にあることも一致する結果といえる。しかしAサンプルに比較して、砂礫が細かいことや雲母のうち白雲母が多いことは、遺跡周辺であっても砂礫の採取場所は異なっていたことを示す。

**岡島遺跡
周辺の
地質と砂礫**

遺跡周辺の地質に目を向けると、前述のように矢作川流域には広く花こう岩が分布する。このうち矢作川上流部に分布するものは伊奈川花こう岩と呼ばれ、粗粒で石英・長石・黒雲母の他に角閃石を比較的多く含んでいる。これに対し、矢作川中流部の左岸（岡崎市周辺）には武節花こう岩と呼ばれる花こう岩が露出する。これは伊奈川花こう岩に比べ細粒であり、また黒雲母とともに白雲母を含むことが特徴である（図83）。

これと土器中の砂礫とを比較すると、Aサンプルでは粗粒で黒雲母が多いことより伊奈川花こう岩の影響を受けており、Bサンプルは細粒で白雲母を含む武節花こう岩源の堆積物

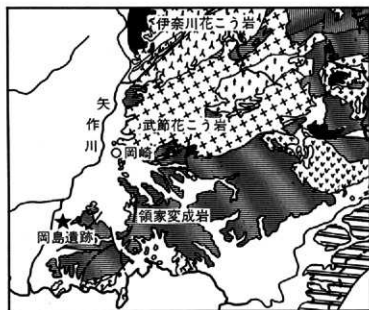


図 83 岡島遺跡周辺の地質

が使用されているものと思われる。

このような違いが発生した理由には、いくつかのことが考えられる。偶発的なことを考えるならばまず河道の変遷が挙げられ、短期間での急激な河道変遷には無理がある。また発掘担当者によると、旧河道の堆積物には大きな変化が見られないとのことより、このような原因は考えにくい。むしろこれまでにも岡島遺跡では時期による胎土の変化が明らかになっており、偶然と考えるよりは人為的な影響と考えたい。しかし当時の人

々にとって、堆積物中の鉱物の種類に対する認識があったとは思えない。おそらく土器形式の変化にとまらぬ、混和材にもこれまでより細粒の砂礫を求め、より細粒の武節花こう岩を源岩とする砂礫を使用することになった。その結果、土器中の砂礫の粒径だけでなく、鉱物組成にも変化が生じたものと思われる。

岡島遺跡から最も近距離に武節花こう岩源の堆積物を求める。岡島遺跡の東を流れる広田川は額田郡幸田町周辺に源を発し、武節花こう岩も面積は狭いがこの周辺にも分布する。つまり、広田川の堆積物であれば武節花こう岩に由来する砂礫が得られることになる。しかし途中で領家変成岩を侵食するので、やや上流に遡る必要があろう。おそらく岡島遺跡からは5km程度以内の距離と思われる。あるいは距離的には少し遠いが、岡崎市を流れる大平川でも武節花こう岩源の堆積物を得られる。

(2) 岡島遺跡出土の他地域産土器(Xサンプル)の胎土

実体顕微鏡観察結果を図84に、それより作成した三角ダイアグラムを図85に、また偏光顕微鏡観察結果を図86に示す。XサンプルのうちX-3・4・7・9・10の5試料は、粒径や胎土の質感など肉眼的には岡島遺跡の土器とやや異なった傾向を示したが、実体顕微鏡・偏光顕微鏡観察の結果では在地の土器とはほぼ共通の特徴を持ち、他地域からの搬入品の可能性は少ない。肉眼的特徴の差は小地域内での土器移動を示すかもしれないが、現時点ではそれを明確にすることは難しい。西三河地区における同時期の他の遺跡の分析結果との比較が必要である。他の7試料はこれまでに分析を行った岡島遺跡の在地土器とは明らかに異なった特徴を示し、地質の異なる地域からの搬入品であるものと思われる。

X-1は、土器形式より静岡県産の可能性のある土器である。三角ダイアグラムでは岡島遺跡産土器の領域に入るが、実体顕微鏡・偏光顕微鏡観察ともにチャートが多く観察され、また火山岩やそれに由来すると思われる輝石も含まれるなど岡島遺跡の土器胎土とは異なる。チャートや火山岩、輝石はこれまで尾張産の土器の特徴と考えられていたが、尾張産の土器では輝石のうち斜方輝石が優占するのに対し、この土器では単斜輝石の方が多

砂礫の採取地

Xサンプルの胎土

搬入された土器

試料番号	石英			長石			黒雲母			白雲母			有色鉱物			花こう岩			チャート			その他			合計	観察視野数	
	L	M	S	L	M	S	L	M	S	L	M	S	L	M	S	L	M	S	L	M	S	L	M	S			
X-1	2	29	133	0	8	21	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	3	0	2	0	219	10	
X-2	7	37	102	0	7	26	0	0	4	0	0	1	1	4	12	0	1	0	2	2	0	0	0	1	267	12	
X-3	4	35	120	1	3	10	3	1	5	0	0	21	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	267	10
X-4	2	4	21	0	1	4	0	3	10	0	0	4	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	4
X-5	40	17	36	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	12	1	1	3	0	0	114	15	
X-6	20	48	116	1	0	12	0	0	0	0	2	0	0	4	1	0	0	1	1	1	1	0	0	0	268	13	
X-7	8	72	83	2	4	10	0	0	1	0	0	0	1	7	0	0	0	0	7	0	0	1	6	1	263	18	
X-8	2	15	97	0	4	55	0	2	7	0	0	1	0	2	22	1	1	0	0	0	0	0	1	0	210	9	
X-9	3	28	152	0	2	11	0	0	1	0	0	1	0	0	10	0	1	0	0	0	1	0	0	0	210	11	
X-10																											
X-11	34	33	7	3	3	1	1	0	0	0	0	0	6	7	1	12	2	0	3	2	0	25	18	0	158	30	
X-12	25	17	107	7	4	19	0	0	4	0	0	3	0	0	1	0	0	0	9	3	1	1	0	0	291	14	
S-1	14	37	115	0	9	15	0	0	1	0	0	0	0	5	0	0	0	4	2	0	1	0	0	6	209	15	
S-2	1	14	117	0	5	34	0	1	5	0	0	1	0	0	21	0	2	0	0	0	0	0	1	0	202	8	
S-3	4	19	129	1	3	20	0	0	14	0	0	2	0	0	14	0	0	0	0	0	0	1	1	0	208	11	

図84 Xサンプルの実体顕微鏡観察結果

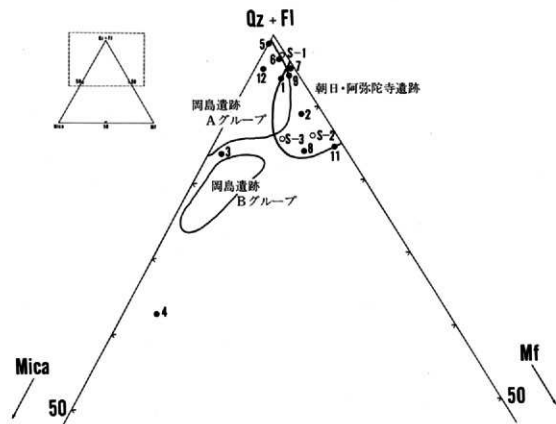


図 85 X・S サンプルの鉱物三角ダイヤグラム

試料番号	石英	斜長石	正長石	黒雲母	白雲母	角閃石	斜方輝石	単斜輝石	ジルコン	花崗岩	チャート	砂岩	変成岩	火山岩
X-1	◎	△	○	△	-	-	-	△	-	-	○	△	-	△
X-2	○	△	△	△	-	-	△	△	-	-	△	-	-	△
X-3	○	○	○	○	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-
X-4	◎	○	△	○	-	△	-	-	-	○	-	-	-	-
X-5	◎	△	-	-	-	-	-	-	-	◎	○	-	-	-
X-6	◎	△	○	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	-
X-7	◎	○	△	○	△	-	-	-	△	-	-	-	-	-
X-8	◎	○	△	△	-	-	○	△	-	-	○	-	-	◎
X-9	◎	○	△	△	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
X-10	○	○	○	△	-	-	-	-	-	◎	-	-	-	-
X-11	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	◎	-
X-12	◎	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	△	-	-
S-1	◎	△	△	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-
S-2	◎	△	-	-	-	△	-	△	-	-	-	△	○	△
S-3	◎	○	△	○	-	-	-	-	-	△	△	△	△	△

図 86 X・S サンプルの偏光顕微鏡観察結果

い傾向にある。比較試料として分析したSサンプル（静岡県浜松市出土）をみると、個々の試料のばらつきはあるがチャートや単斜輝石が含まれるなど、比較的共通した特徴がみられ、X-1が静岡県産の可能性も十分に考えられる。

またX-11は静岡県の発掘担当の方から静岡県産の胎土である可能性の指摘を受けた土器である。この試料では塩基性岩やそれを源岩とする変成岩が主体をなす。これらの

岩石はいわゆる西南日本外帯を形成する三波川帯に由来するものと考えられ、これは豊川と天竜川に挟まれた地域に産する。特に豊橋市から新城市にかけての、豊川東岸に広く分布することが知られている。また個々の砂礫を見るとよく円磨されており、山沿いの地域よりは河川下流部（あるいは海岸部）の砂礫と思われる。

X-5・12はチャートが主体となる試料である。これら2試料はLサイズの砂礫を多く含み、またよく円磨されている。このような特徴はX-11とよく似ており、また量は少ないが2試料とも塩基性岩を源岩とする変成岩が含まれていた。この点よりこの2試料はX-11と地質的にも関わりが強い地域産の可能性がある。この付近ではチャートは豊橋市南部から渚美半島にかけて分布しており、この地域に産地が求められるかもしれない。

これら3試料は胎土の肉眼的特徴も一致するので、豊橋市から静岡県西部にかけての同一文化圏産と考えることもできそうである。砂礫組成の違いはその中で地質の違いであろう。この地域は岡島遺跡とさほど距離はないので、交流もあったものと思われる。

X-2・6・8はチャートとともに火山岩や斜方輝石が含まれる。この組み合わせは尾張産（特に尾張西部）の土器と一致し、また三角ダイヤグラム上でも朝日遺跡（西春日井郡清洲町ほか）や阿弥陀寺遺跡（海部郡甚目寺町）の領域にほぼ一致する。このうちX-8は偏光顕微鏡下での火山岩や斜方輝石の比率が、尾張産の土器と比較しても非常に高くやや異なった傾向を示すといえるが、X-2・6は尾張地域の土器とよく似ており、この地域からの搬入であるものと思われる。

これまで岡島遺跡への他地域産の土器搬入の確かな証拠は見つかっていなかった。この分析結果によって岡島遺跡へも土器の搬入があったことは明らかとなったといえる。特に尾張地区と三河地区の土器交流という点でも、前述のように尾張地区と西三河地区の間の土器の移動は、これまで後者から前者への一方通行とされていた。すなわち朝日遺跡や阿弥陀寺遺跡など尾張地区の遺跡では西三河産の土器は出土するけれども、西三河地区には尾張地区産の土器が西三河地区に搬入されることはなかったと考えられていた。今回西三河で尾張産の可能性のある土器が見つかったことは、尾張と三河の土器交流のあり方を考える上で重要なことである。今後の考古学的な観点からの検討も必要であるし、量に関する問題も解決しなければならないであろう。（永草康次）

謝 辞

本稿の執筆に際し、愛知県埋蔵文化財センターの方々、特に岡島遺跡の調査担当者であり本報告書の編集担当者でもある池本正明氏と科学分析室の方々には、多くの有益なご教示を頂くなどたいへんお世話になった。また静岡県埋蔵文化財調査研究所の木下智章氏には、貴重な資料を快く提供頂いた。また愛知県立明和高等学校教諭である森 勇一氏にも多くの助言を頂いた。記して感謝の意を表す。

尾張産の
土器

尾張地区
と三河地
区の土器
交流

文 献

- 愛知県埋蔵文化財センター (1991 a) 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 18 集) 大河遺跡, 148 p.
- 愛知県埋蔵文化財センター (1991 b) 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 30 集) 朝日遺跡, 206 p.
- 池本正明 (1990) 自然科学的分析. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 13 集) 志貴野遺跡・小島遺跡, 19-25.
- 池本正明・永草康次 (1990 a) 岡島遺跡の土器胎土の特徴. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 14 集) 岡島遺跡, 51-63.
- 池本正明・永草康次 (1990 b) 岡島遺跡の土器胎土に関する考察. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 14 集) 岡島遺跡, 98-101.
- 神谷友和 (1989) S 字状口縁台付甕の分析. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 9 集) 町田遺跡, 32-43.
- 森 勇一・永草康次・橋真美子 (1989 a) 尾張地方を中心とした土器胎土の地域色について. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 9 集) 町田遺跡, 44-49.
- 森 勇一・永草康次・橋真美子 (1989 b) 町田遺跡出土の弥生土器胎土の特徴. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 9 集) 町田遺跡, 50-53.
- 森 勇一・伊藤隆彦・橋真美子・永草康次 (1990) 濃尾平野周辺地域における遺跡基盤層の粒度および鉱物組成. 愛知県埋蔵文化財センター年報 (平成元年度), 131-143.
- 永草康次 (1990) 阿弥陀寺遺跡の土器胎土の特徴について. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 11 集) 阿弥陀寺遺跡, 289-299.
- 永草康次 (1991) S 字状口縁台付甕の胎土について (予察). 文化財科学会第 8 会大会研究発表要旨集, 日本文化財科学会, 63-64.
- 永草 康次 (1992) 朝日遺跡出土の土器胎土. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 (第 31 集) 朝日遺跡 II (自然科学編), 299-314.
- 領家研究グループ (1972) 中部地方領家村の花崗岩類の相互関係. 地球科学, 26 (5), 206-214.
- 矢作健二・橋本真紀夫・赤塚次郎 (1990) 東海地域における弥生時代の土器の胎土分析. 日本文化財科学会第 7 会大会研究発表要旨集, 日本文化財科学会, 24-25.

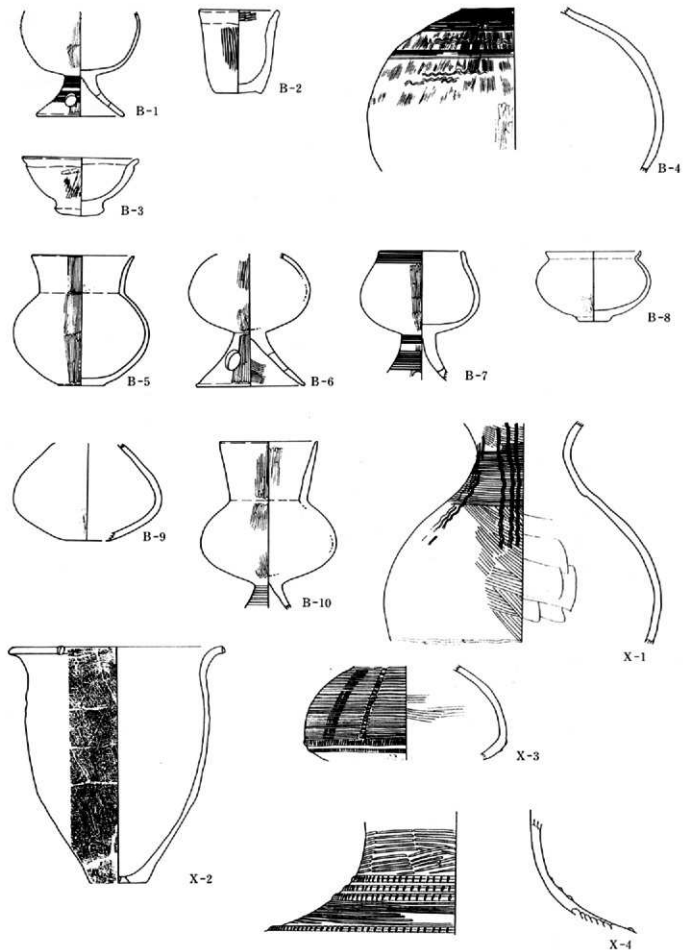
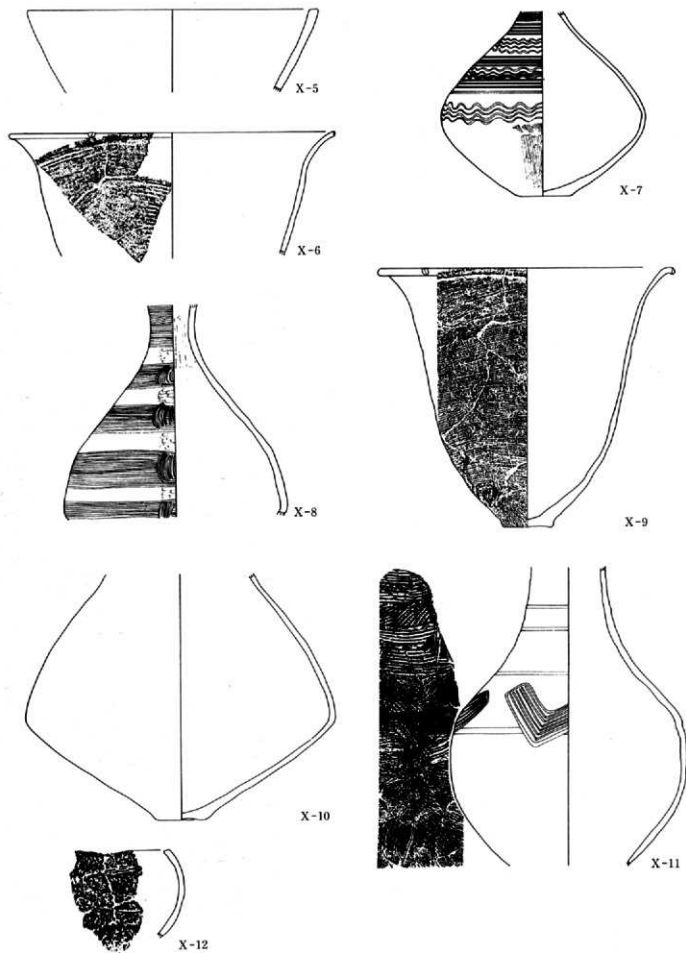


图87 分析土器实测图1



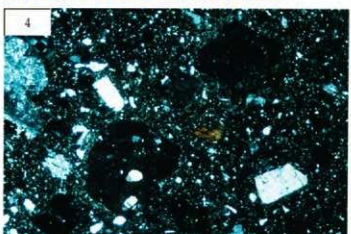
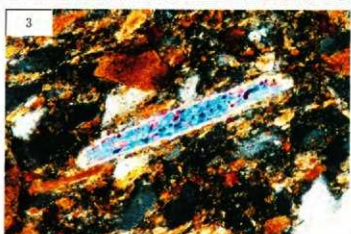
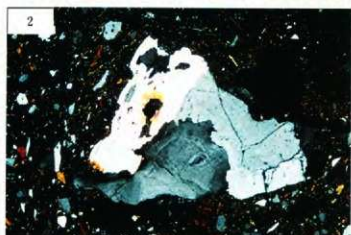
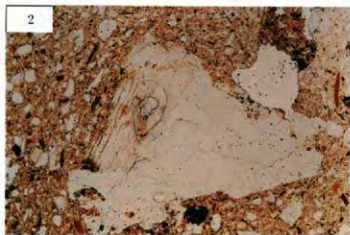
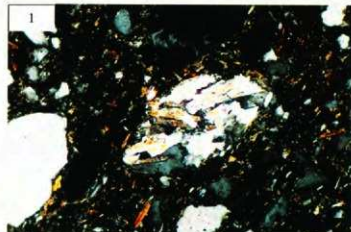
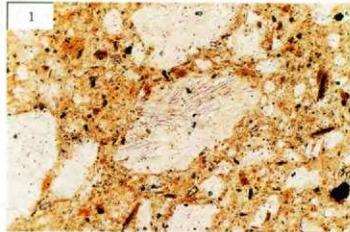


図 89 土器薄片の偏光顕微鏡写真 (1) (左: 単ニコル、右: 直交ニコル)
 ① B-5 白雲母を含む花崗岩 (0.3 mm)
 ② B-6 白雲母を含む花崗岩 (2.5 mm)
 ③ B-6 白雲母 (0.2 mm)
 ④ X-2 火山岩 (左 1.0 mm) および斜方輝石

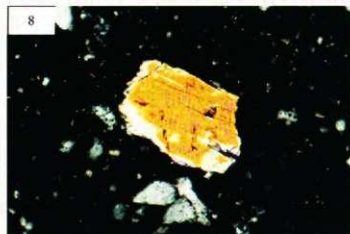
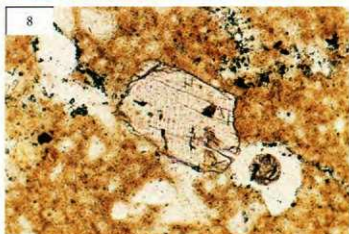
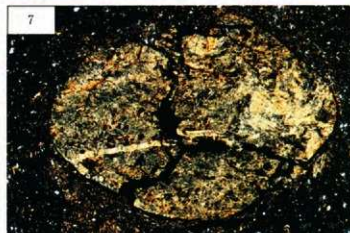
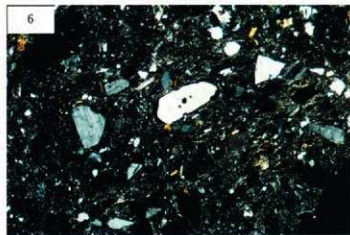
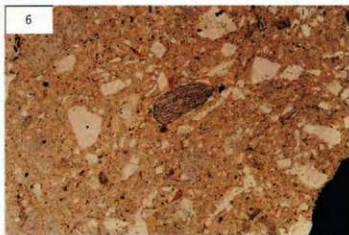
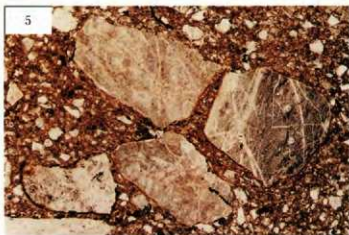


図90 土器薄片の偏光顕微鏡写真 (2) (左：単ニコル、右：直交ニコル)

⑤ X-5 チャート岩片 (右1.1mm)

⑥ X-8 斜方輝石 (0.7mm)

⑦ X-11 塩基性の変成岩 (2.8mm)

⑧ S-2 単斜輝石 (0.3mm)

第4節 残存脂肪酸分析

① 試料の性格

残存脂肪酸をズコーシャ総合科学研究所に依頼して実施した。ここではこの結果を、ズコーシャ総合科学研究所より提出された報告書を要約して掲載する。なお、今回の分析では、墓に關係すると推定される遺構を中心に、総数8点について実施した。具体的な採取地点は、試料1～3がSZ 31の棺身の充填土。試料は柱状に採取したもの。採取位置は、試料1が最も内部底に近い部分、試料2が最上部、試料3はこれらの中間部分に該当する。試料4、5は、土坑b1から採取した試料。採取地点はいずれも中央部分の埋土下部で、試料4がSK 28、試料5がSK 18。試料6・7がSZ 05の主体部埋土、試料8は、試料6・7の比較サンプルでSZ 05主体部付近のマウンド上部から採取した。

② 残存脂肪の抽出

分析に際し、事前に各試料から残存脂肪酸を抽出した。ここで使用した具体的方法は、試料に3倍量のクロロホルム-メタノール(2:1)混液を加え、超音波浴槽中で30分間処理する方法。その後、処理液を濾過後再度クロロホルム-メタノール3液を加え、再び30分間超音波処理を加える。今回は、この操作をさらに2回繰り返して残存脂肪を抽出した。次に、得られた全抽出液溶媒に1%塩化バリウムを全抽出液溶媒の4分の1容量加え、これをクロロホルム層と水層に分配後、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。この結果得られた残存脂肪の抽出量は、平均0.0132%であった。また、残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、脂肪は単純脂質から構成されていた。このうち遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセロールと脂肪酸の結合したトリアシルグリセロール(トリグリセリド)・ステロールエステル・ステロイドの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

③ 残存脂肪の脂肪酸組成

上記の方法により抽出した残存脂肪酸の組成は、残存脂肪に5%メタノール性塩酸を加え、摂氏125度封管中で2時間分解した後、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルをクロロホルムで分離し、ヘキサン-エチルエーテル-酢酸(80:30:1)またはヘキサン-エチルエーテル-酢酸(85:15)を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフィーで分析した。その結果、残存脂肪から12種類の脂肪酸を抽出した(図91)

この中で注目できるのは、炭素数20以上のアラキジン酸・ヘン酸・リグノセリン酸など的高级脂肪酸類で、これらは高等動物、特にその臓器・脳・神経組織・血液・胎盤等に特徴的にみられるものとされている。今回の試料中には、試料1～3・6～8が約11%～22%、試料4・5がこれよりやや高い数値を示し、いずれも高等動物の存在を示すのに十分な量に達している(図93)

④ 残存脂肪のステロール組成

ステロール
組成の所見

試料番号	採取遺構	湿重量 (g)	全脂質 (mg)	抽出率 (%)
試料 1	S Z 31	713.4	12.9	0.0018
2	"	753.2	11.9	0.0016
3	"	665.7	11.5	0.0018
4	S K 28	997.3	13.7	0.0014
5	S K 18	603.7	584.9	0.0969
6	S Z 05 主体	420.1	4.0	0.0010
7	"	531.3	2.6	0.0005
8	"	979.0	6.3	0.0006

図 91 試料の残存脂肪抽出量

試料番号	コレステロール (%)	シトステロール (%)	コレステロール/シトステロール
試料 1	3.08	18.92	0.16
2	3.16	20.64	0.15
3	2.49	10.89	0.23
4	3.63	29.15	0.12
5	2.34	19.41	0.12
6	1.94	39.33	0.05
7	3.39	23.66	0.14
8	1.12	43.64	0.03

図 92 試料中に分布するコレステロールとシトステロールの割合

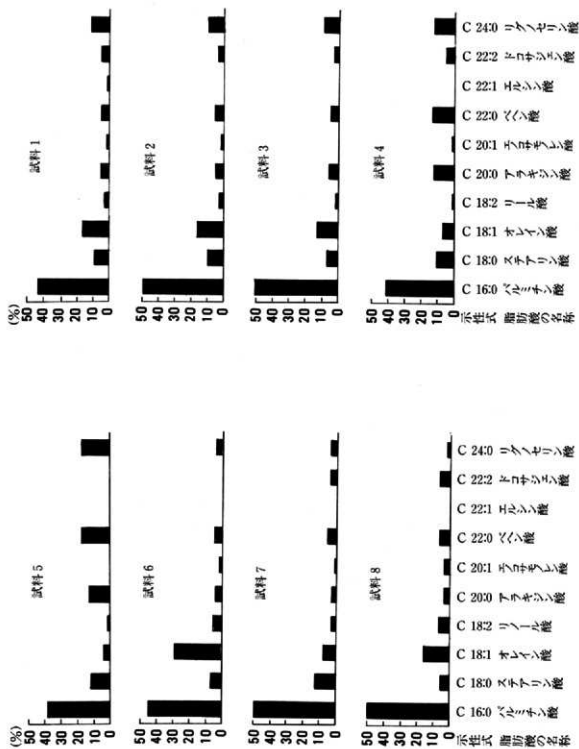


図 93 各試料に残存する脂肪の脂肪酸組成

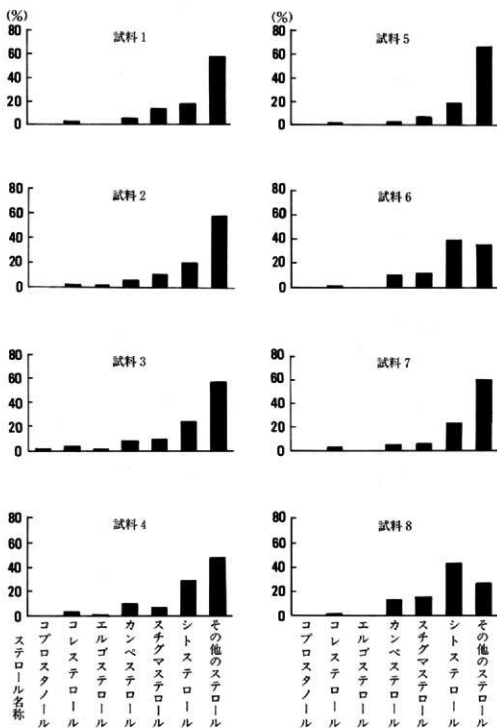


図 94 各試料に残存する脂肪のステロール組成

次に、残存脂肪のステロール組成の分析作業結果について報告する。

分析方法は、残存脂肪酸をヘキサノール-エチルエーテル-酢酸（80：30：1）を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィー分離・精製後、ビリジノー無水酢酸（1：1）を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にしてからガスクロマトグラフィー法をおこなった。その結果、残存脂肪からは15種類程度のステロールを検出した。今回はこれらのうち、コレステロール・エルゴステロール・カンベステロール・スチグマステロール・シトステロールなど特徴的なステロールをガスクロマトグラフィー質量分析により同定した（図92・94）

以下、所見を記述する。

- 1 コレステロールは、各試料中に1～4%程度検出されている。コレステロールは、動物由来で一般的な土壌に4～8%程度含有され、今回の試料ではいずれもこの数値には達してはいない。ただし、植物由来のシトステロールの検討もこれに加えると、各試料に11～29%程度の数値を示した。一般的な植物腐植土では、シトステロールの含有量が30～40%以上とされている関係から、今回の試料は、通常の土壌ではなく、これに異物が混入している可能性がある。
- 2 コレステロールとシトステロールの分布比の指標値は、動物遺体の存在を示唆するもので、今回の試料では試料7が0.14となり、比較試料である試料8の0.03より高い数値を示す。
- 3 カンベステロールとスチグマステロールは堅果植物に由来するもので、今回の試料のうち、試料4、6、8が10～13%と、通常含有率3～9%より高い数値を示した。
- 4 微生物由来のエルゴステロールは土壌微生物による自然発酵を示唆するものとされ、今回の試料には試料2～4で検出されている。
- 5 哺乳動物の腸および排泄物に特異的に分布するコプロスタノールが試料3で若干検出されている。なお、コプロスタノールとコレステロールの含有比から動物種と動物の性別を判定することができるが、その判定にはコプロスタノールが10%以上必要とされる関係から今回は実施してはいない。
- 6 試料4・5では高級脂肪酸が検出されて、明らかに動物遺体の存在が推測できたが、動物性のコレステロールの分布は微量で、脂肪酸とステロールの検出量は整合してはいない。

⑤ 脂肪酸組成の数理解析

ここでは、脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、これを基礎にクラスター分析を実施して、各試料の類似度を比較し、樹状構造図を作成した（図95）。なお、比較試料として、すでに性格が明瞭となっている、摺藪遺跡・原川遺跡、寺田遺跡などのデータと類似度も検討した。その結果、今回の試料の全てがヒトの遺体を直接埋葬した寺田遺跡・原川遺跡試料と類似度が認められた。なお、試料8は、SZ05主体部付近のマウンド上部の土壌で、主体部の比較試料として採取した試料であるが、同様の

ヒトの
脂肪酸

性格を持ったものとなる。未確認の主体部が存在していた可能性を残す。

ヒトの
脂肪酸

⑥ 脂肪酸組成による特殊異性相関

次に残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定する。中級脂肪(炭素数16のバルミン酸から炭素数18のステアリン酸・オレイン酸・リノール酸まで)と高級脂肪(炭素数20のアラキジン酸以上)との比をX軸に、飽和脂肪酸と、不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた(図96)。この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等生物の血液・脳・神経組織・臓器等に由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点と離れた位置にヒトの胎盤、第2象限の原点から離れた位置に高等生物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点からはなれた位置に植物腐植、第3象限から第4象限に移る原点から離れた位置に海産生物が分布する。

求められたドット分布状況は、試料1~3・7・8が第2象限の原点寄りの位置でA群を、試料6は同じ第2象限のX軸寄りの位置でB群を形成した。なお、これらは非常に近い位置に分布している。また、試料4・5は、第1象限の広い範囲に分布し、C群を形成した。

以上の事実から、試料1~3・6~8はいずれも第2象限内に分布することからヒトの体脂肪や骨油、試料4・5は特にヒトの頭部・血液・臓器にそれぞれ由来する脂肪が残存している可能性が高い。

⑦ まとめ

以上の成果から、今回分析した試料は、いずれもヒトに関連する脂肪酸の残存が認められた。今回の分析成果に立脚すれば、試料5~7を採取したSZ31と、試料6~8を採取したSZ05主体部は、いずれもヒトの遺体を直接埋葬した施設であったことが考えられる。なお、前者は土器棺である関係から、小児遺体を直接埋葬したものと想定できる。次に、試料4を採取したSK28や試料5を採取したSK18は、SZ05主体部やSZ31とは、分布領域を異にしたものとなっている。これらの差は、骨油に由来する脂肪酸の検出量に起因している。したがってこれらについては、前二者とは異なった性格、つまり、改葬を前提として設定された一次墓としての用途を考えることができるのかもしれない。ただし、現状では分析件数が乏しく、推定の域を出ない。今後、資料の増加が急務であろう。(池本正明)

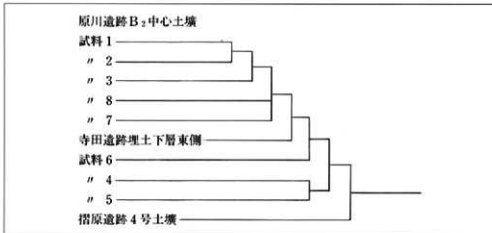


図95 脂肪酸組成によるデンドログラム

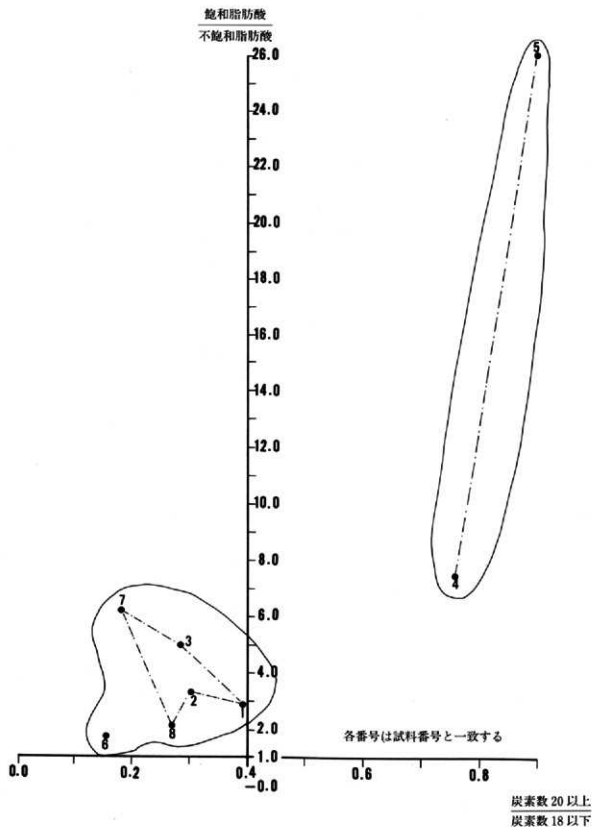


図 96 各試料に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異相関

第V章 考察

第1節 主要遺構の変遷

今回の調査では、3面の検出面から、6つの時期に区分できる遺構群を検出している。ここでは、これを時期別に整理する。

A期

NR 02の右岸で、1棟の掘立柱建物と若干の土坑・溝を検出した。分布域は90年度調査区に集中する。掘立柱建物は、年代を明確にする資料に乏しいが、12世紀を前後した時期が一応想定できる。

B期

89 B区で古墳時代の方形周溝墓を4基検出している。この部分に、墓域としての性格を考えることができる。

C期

弥生時代後期前葉の方形周溝墓を1基検出している。西溝内に陸橋部をもつ形状で、陸橋部は中央よりやや南側にずれる。

D期

年代的には、弥生時代中期後葉に属する。構造的には、NR 02の東側で検出された竪穴住居1棟を評価し、この部分に居住域としての性格を考えるほか、NR 02の西側では方形周溝墓・土器棺墓などが検出され、墓域としての性格を想定することができる。方形周溝墓・土器棺墓は分布域を異にしているようで、前者が90年度調査区、後者が89年度調査区でそれぞれ分布を密にする。場合によってはNR 03を境界としている可能性も考えられるが、SZ 16~22、SZ 30~32と多数の土器棺墓がNR 03の左岸にも分布しており、この点についてはひとまずおく。

E期

年代的には弥生時代中期の中葉に属する。遺構は、若干の土坑と溝を検出したにとどまり、不明瞭となる。詳細は不明。

F期

年代的には弥生時代中期の前葉に属する。今回の調査で最もまとまった数の遺構を検出している。分布域は90-91年度調査区に集中し、89年度調査区では未検出となる。遺構の分布域は、NR 05の兩岸である。このうち性格が判明している遺構は、右岸のみで、方形周溝墓4基をはじめ、溝・土坑などが検出されている。遺構の分布状況は、比較的密となる。検出された方形周溝墓はいずれも四隅に陸橋部をもつ形状である。SZ 34~36は周溝を共有する。方形周溝墓が検出されたことを根拠に、墓域としての性格を考えることができ

る。また、SD 10 は、NR 05 に近接した地点から、ほぼ直線的に北西方向に伸びる溝である。規模から判断し、環濠である可能性をもつ。また、調査区の北側部分では、方向的にSD 10 と平行するSD 09 が存在する。埋土から、いずれも後述するⅢ-1 期に属する遺物が出土していることから考え、これらはほぼ同一時期で、しかも有機的な関連性をもった施設であった可能性が強い。なお、SD 10 の埋没後にSZ 33 が構築されていることから、SD 10 は比較的短時間で埋没している可能性をもつ。

一方、左岸では若干の土坑を検出した。ただし 91 年度調査区のほとんどがNR 05 で占められている状況から、これらはいずれも調査区の縁辺部で検出されたものとなる。調査区の北側に、遺構がさらに広がる可能性はきわめて高い。

(池本正明)

第2節 岡島Ⅰ期～Ⅴ期の設定

①

今回の報告書は、本書で度々触れているように、岡島遺跡としては二冊目に該当する。前回の報告書（『県道報告』）では、本書の第1章第4節に記述したように、多量の土器が遺構差をもった状態で出土し、これらの資料を中心に、岡島遺跡に限定した弥生時代中期の土器編年が報告されている。ここでは、弥生時代中期の土器をⅠ期～Ⅳ期に大区分した後、それぞれをさらに2つに細分し、これを第二項目にアラビア数字を付与することで表現している。（以下、県道Ⅰ期、県道Ⅱ期、県道Ⅲ期、県道Ⅳ期と呼称する。）。具体的内容は、県道Ⅰ期が条痕文系土器、県道Ⅱ期が櫛溝文系土器、県道Ⅲ期、県道Ⅳ期がⅡ期以来の伝統的な一群に凹線文系土器が加わる。

ところで、今回の調査でも本書で述べてきたように、弥生時代中期を中心とする多量の土器が出土している。本節ではこれらの資料を中心に、前回の編年作業の充実化をはかりたい。

再検討部分

②

まず、従来の作業を再検討の結果、時期区分上の問題点が指摘できた。ここでこれらを訂正するが、以下、変更点とその理由を明記する。

まず、県道Ⅰ期は、Ⅰ-1期とⅠ-2期に区分して考えたが、このうち前者を、以下に記述する県道Ⅰ-2期の理解の関係から、「Ⅰ期」とする。次に県道Ⅰ-2期であるが、この段階は、視覚的には器面調整に手法D aまたはD bが多用され、大きくは条痕文系土器の範疇ではあろうが、甕に朝日形甕（石黒 1990）が含まれているほか、35に代表される壺Aも存在する。従って、このような新たな要素を評価し、県道Ⅰ-2期と呼称してきたこの段階を、新たに「Ⅱ期」と呼称する。

県道Ⅱ期については、区分上の問題は存在しない。ただし、上記のように県道Ⅰ-2期を「Ⅱ期」とした関係上、これをそのまま「Ⅲ期」と呼称する。従って、Ⅲ期は、Ⅲ-1期とⅢ-2期に区分できる。

次に、県道Ⅲ・Ⅳ期についてであるが、これらの一群は、基本的にⅢ期以来の伝統的

『県道報告』	修正案	
Ⅰ -1 -2	Ⅰ	岩滑
	Ⅱ	()
Ⅱ -1 -2	Ⅲ -1 -2	瓜郷
	Ⅵ -1 a -1 b -2 a -2 b	古井
Ⅳ -1 -2		長床
	Ⅴ	山中

図 96 編年対照表

な一群に、外来系である凹線文系土器が加わる状況を呈している。器種の消長は乏しい。このことから、今回はこれらを「IV期」として、同一概念で理解する。新名称は、果道III期をIV-1期、果道IV期をIV-2期とする。また、細分については、第三項目に小文字アルファベットをつけ区別する。具体的には、果道III-1期がIV-1 a期、果道III-2期がIV-1 b期、果道IV-1期がIV-2 a期、果道IV-2期がIV-2 bとなる。

また、今回の調査では、弥生時代中期のほかに後期に属する土器も若干得ており、これを「V期」として新たに加える。

以上説明したように、「果道報告」の時期区分を変更し、以下この呼称を使用するが、煩雑になるので図96に「果道報告」との対照関係を提示しておく。なお、本文中で「果道報告」の遺構を引用する場合、丸括弧付で表現している。

③

ここでは前述のI-VI期の具体的内容にふれる。なお、層位学的・型式学的前後関係などの手続きは、果道報告(池本 1990)に基づく。

I期

I期の様相

基準資料は、(SD 30)。出土資料は乏しい。器種には、広口壺B・広口壺E・広口壺F・甕A・甕C・厚口鉢がある。器種は乏しく、比較的単純な組成となるが、量的な安定性を欠くため、明確にはできない。

I期の土器は、大きくは条痕文系土器の範疇で、外面の調整は手法D aを基本とする。調整工具は、判断できるものは貝殻が多い。

II期

II期の様相

基準資料は、SK 11・SK 17・SD 12・SD 17出土資料。器種には、広口壺A・広口壺B・広口壺E・広口壺F・細頸壺A・細頸壺B・無頸壺A・甕A・甕C・大鉢がある。広口壺A・細頸壺A・細頸壺B・大鉢は新器種。厚口鉢は消滅する。また、貝田町式や、須和田式の「平沢型」などがこれに加わる。器種はI期と比較して増大する。

I期の土器も、やはり条痕文系土器の範疇で、外面の調整は、手法D aを基本とする。調整工具は、確認できるものは貝殻が多い。ヘラ・竹管など別工具による文様の付加もみられる。

III期

III期の様相

基準資料には、SZ 33~36・SD 08・SD 09・SD 10・SX 06・(SD 24) 出土資料がある。器種には広口壺A・広口壺B・細頸壺A・細頸壺B・細頸壺C・細頸壺D・無頸壺A・無頸壺B・甕B・甕C・甕D・大鉢がある。細頸壺C・細頸壺D・細頸壺I・無頸壺B・甕B・甕Dは新器種。広口壺E・広口壺F・甕Aは消滅する。また、嶺田・阿島式の一群や、いわゆる美濃型貝田町式がこれに加わる。器種はさらに増大するが、口縁部が「受け口」状を呈する細頸壺にその傾向が著しい。

III期の土器は櫛縞文系土器の範疇。前段階で貝田町式にみられた付加沈線磨消技法が、一般化するほか、頸部文様帯強調技法・黒色焼成技法の成立期に該当する。外面の調整は、

壺・甕を通じて横方向の手法Dbによる。調整痕は、鋭く、深いものが多く、後述するIV期以後のいわゆるハケメ調整とは形状が若干異なる。

III期は、III-1期とIII-2期に細分する。この変化は遺構差にも現れ、III-1期の内容をもつSD10と、III-2期の内容をもつSZ33は重複しており、後者が前者を破壊している。型式差は、おもに壺の加飾法に現れる。なお、後者は前者に比較して、付加沈線磨消技法は省略傾向に、頸部文様帯強調技法は衰退するほか、文様構成も全体的に省略傾向をたどる。なお、施文原体は、ヘラ優位からクシb種優位へと変化する。

IV期

IV期の権相

基準資料には、SZ07・SD07・SX05・(SD25)・(SX08)出土資料がある。器種には広口壺A・広口壺B・広口壺C・広口壺D・広口壺G・広口壺H・広口壺I・広口壺J・細頸壺B・細頸壺C・細頸壺D・細頸壺E・細頸壺F・細頸壺G・細頸壺H・細頸壺I・無頸壺A・無頸壺B・無頸壺C・甕E・甕F・甕G・甕H・大形鉢・大鉢・高杯A・高杯Bがある。広口壺C・広口壺D・広口壺G・広口壺H・広口壺I・広口壺J・細頸壺E・細頸壺F・細頸壺G・細頸壺H・無頸壺C・甕G・甕H・高杯A・高杯B・大形鉢は新器種。甕C・甕Dは消滅する。また、まれに超大形の壺も加わる。

IV期の土器はIII期からの伝統的な器種(在地系)に、外米系である凹線文系土器が加わり、大きく二系統に区分できる。器種は、凹線文系土器が構成因子に加わった関係上、III期と比較して著しく増大する。

在地系では、壺の黒色焼成技法の完成期～崩壊期、肩部突出技法の成期に該当する。壺の加飾法は、前段階に特徴的であった、付加沈線磨消技法・頸部文様帯強調技法が基本的に消滅し、クシによる直線文と波状文を重ねる形状がもっともスタンダードとなる。また、調整工具と施文原体とが分化し、クシa種のような、特殊な原体を多用する。このクシa種は、三河地域に特徴的な原体で、「ササラ」もしくは「ホウキ」のような形状が推定できるほど、1本1本が細く、そして深い独特のものとなる。甕は台付に変化し、台部柱状技法により独特な形状を呈する。

外米系は、在地系の特色である黒色焼成技法、肩部突出技法、台部柱状技法や施文原体にクシa種の使用はみられず、高杯に連続成形技法や施文原体にクシc種・クシd種・クシe種などを特徴的に用いる。

IV期は、遺構差・型式差などを根拠として前後に区分(IV-1期・IV-2期)したのち、それぞれをさらに細分する。これらの差は、在地系優位の器種組成が外米系優位の構成へと変化していく過程として理解できる。なお、遺構の帰属時期は、IV-1期がSD07・(SD25)、IV-2a期がSX05・(SX08)、IV-2b期がSZ07である。

IV-1期の器種組成は、在地系が圧倒的優位で、外米系は散見されるにすぎない。壺では黒色焼成技法、肩部突出技法が特徴的で、施文原体にクシa種を多用する。IV-1a期とIV-1b期との差は、おもに壺の加飾法に現れ、器種の消長を伴うものではない。具体的には前者が、クシa種とともにヘラによる斜格子文・斜線文・はね上げ文などを多用す

るもので、後者ではこれが基本的にクシa種のみ単純構成となる。

IV-1b期からIV-2期への変化は、在地系土器では、壺に特徴的となる。具体的には、黒色焼成技法の、色調が全体的に淡くなることと際立つ変化で、文様構成も、前者がクシa種による直線文・波状文が主体であるのに対し、後者では、区画文1種の多用やクシa種の使用頻度の低下がうかがえる。また、肩部突出技法はより明瞭に、体部の形状が四角をイメージできるほど発達する。また甕は、台部柱状技法が明瞭になるようである。一方、凹線文系土器は前者との比率が増大する方法で進み、明瞭な変化はうかがうことができない。また、IV-2a期とIV-2b期との差は、外来系土器の占有率に現れる。

V期

V期の様相

基準資料は、SX 03・SX 04 出土資料。器種には広口壺K・広口壺L・短頸壺B・短頸壺C・短頸壺D・短頸壺E・短頸壺F・小形壺A・小形壺B・高杯C・高杯D・高杯F・高杯G・器台・甕Iがある。IV期と器種の断絶性が非常に高く、前段階からの承襲を引く器種が現状では存在せず、すべて新器種となる。組成は不十分となる。器形の小型化、ミニチュア品の増大が特色で、いずれも外面の調整に、手法Caを施すことが通有。黒色焼成技法、肩部突出技法、台部柱状技法はいずれも消滅する。

④

SK 17の位置

以下、上記の内容に若干の私見を加えまとめる。

I期は、いわゆる「岩滑式」に該当する。縄文時代以来の伝統下に成立した一群。甕Cはいわゆる朝日式に起因する甕である。

II期には、名古屋城三の丸遺跡下層遺構に類似する名称未命名の一群。広口壺Aの出現など、尾張低地及びその周辺部の要素が伝統的な要素に加わる。ここで注意しておきたいのが、SK 17 出土資料である。図版 46・47 に掲載したもののうち、ほとんどはこの段階の特色をよく示しているが、厚口鉢の存在や、甕Aの口端に施されるオシビキ文はむしろ前時期の特色といえる。なお、586 は貝田町式の壺である。SK 17 は、第2章第2節で述べているように、土坑b1に分類される大型土坑で、埋土は自然堆積の様相を呈している。このような資料の存在が、SK 17 以外で検出されていない現状では、これを早急に一括性の高いものと判断することはできない。ただし、器壁の薄い甕Aなどが、良好な残存状態で数点出土していることは無視できない事実である。あるいはこの様な内容をもつ資料の位置づけが、II期の成立に大きく関わってくる問題となるのかもしれない。

III期は「瓜壺式」の範疇。貝田町式との類似性が高い。そうした点で、II期段階に貝田町式が確実に存在していることは重要な事実と考えなければならないであろう。これと伝統的な条痕文系土器の相乗作用により、III期の土器群が成立したことは先学によりすでに指摘されている。このように考えるのであれば、頸部文様帯強調技法も、貝田町式に特徴的な付加線磨消技法のデフォルメされたものと理解できるほか、IV期に特徴的に発達する黒色焼成技法の成立も、貝田町式を視覚的に模倣した結果と考えられる。

VI期は、前半が「古井式」、後半が「長床式」に該当する。学史によれば、大型品に特色

をみた前者と、小型品に特色をみた後者であったが、岡島遺跡の内容をみる限り、両者の差は加飾法など若干の相違でしかない。したがって、前者に凹線文系土器の概念がすでに岡島遺跡に到達している事実と、布地系土器に回転台使用の痕跡が明確に読み取れる事実から、ここではこれらを時間差に起因した内的な変遷と理解し、同一概念でまとめた。IV期の内容は、いわゆる古井式とか長床式とか呼称された在地系の一群と、凹線文系土器の一群で構成される。両者は、器形・手法・技法・文様など全く異なった概念下で製作されているが、部分的には融合し、両者の特色を兼ね備えた器種も出現させている。なお、IV期の内容は、器種構成上の断絶がV期と著しく、さらにもう一段階、凹線文系土器が圧倒的優位を占める時期（IV-3期）も想定できるが、岡島遺跡ではこうした内容をもつ資料を得てはいない。

V期は、「山中式」に該当する。ただし、今回の調査では土器集積遺構を検出したに留まり、組成は不十分なものとなる。(池本正明)

参考・引用文献

- 石黒立人 1990 「弥生中期土器にみる複数の系」 『考古学フォーラム』1 愛知考古学談話会
- 石黒立人他 1990 『阿弥陀寺遺跡』 愛知県埋蔵文化財センター
- 神谷友和 1988 「愛知県安城市古井堤遺跡出土の条痕文土器」 『古代』第86号 早稲田大学考古学会
- 久永春男 1966 「弥生文化の発展と地域性 東海」 『日本の考古学III 弥生時代』
- 久永春男他 1963 『瓜郷』 豊橋市遺跡調査会
- 松田 訓 1990 「弥生時代中期の遺物」『名古屋城三の丸遺跡(1)』 愛知県埋蔵文化財センター

第3節 矢作川流域における沖積地の形成と遺跡の分布

昭和62年以降、本センターが実施してきた岡島遺跡の調査結果によれば、弥生期における旧河道は調査区内において少なくとも3～4条が確認され、分流あるいは合流して南下していることが明かとなった。これらの事実記載および科学分析による古環境の変遷等については、第2章第2節および第4章に譲ることとして、ここではこれらの河川の営力による沖積地の形成を、遺跡分布の有り様から考えることとしたい。

弥生前期の水神平式土器を出土する遺跡は、清水・久麻久神社・十念坊遺跡の3例を数え、台地あるいは丘陵上に立地している(図97)。このことは、低地部分が居住に向きない状況であったことを想起させる。いまだ後退せずに入り込んでいる入り江、もしくは湿地状の土地であったことが考えられる。清水・久麻久両遺跡からは海産性の貝類が出土しており、汀線が近かったことを示している。

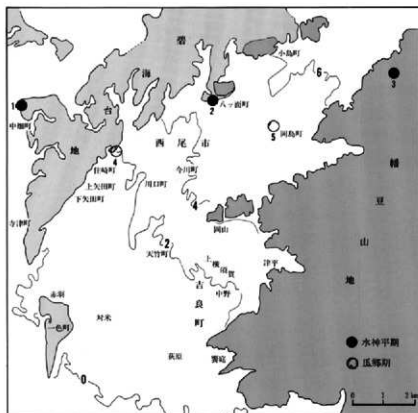
中期の瓜壺式土器を出土する遺跡は、岡島・住崎遺跡が加わり、ここに初めて沖積地に立地する集落の出現を見るところとなった(終97)。しかしその数は少なく、自然堤防上のごく限られた場所のみ居住し得たことが伺われる。

遺跡の数が爆発的に増加するのは、古井・長床式(高藏式)土器の時期であり、図98に示したように碧海台地縁辺部や丘陵上、沖積地などに分布が広がっている。とりわけ、これまで分布を見なかった南部の吉良町内にも、岡山丘陵に密集するかの如き分布状況を呈している。沖積地の自然堤防上に立地していないこの状況は、やはり居住に適した土地が沖積低地部分には見いだせなかったことを意味していると感じざるを得ない。その意味で、池端遺跡の存在は注目に値するが、やはり限られた中での自然堤防上の居住地であったのだろう。八ツ面町の松崎八反田・熊子山・久麻久神社遺跡などからはハイガイ・アカシなどの貝殻が出土し、前二者からは石鍾も出土している。明らかに、近辺に汀線があったことを伺わせる。海は南下せず、網状流となって流れる川の運搬した土砂は、吉良町北部や碧海台地寄りの部分に堆積したようである。八ツ面山より東方の岡島・毘沙門遺跡において、貝殻の出土を見ない事実は、海からの距離差を示していると解したい。

後期の山中式土器を出土する遺跡は、これらの遺跡に加えて更に吉良町の沖積地に現れてくる。とりわけ岡山丘陵の南に広がる沖積低地部分には、山ヶ田・畑ヶ伸遺跡と呼ばれる遺跡を含む広大な岡山南遺跡がある。発掘調査の手が加えられていないため、その規模や内容等が詳しく明らかにし得ないのが残念である。最も南に位置する遺跡は、新井前遺跡で、現在の標高2mの等高線状に位置している。このことは、瀬田遺跡や須西遺跡においても同様である。新井前遺跡からは海産性の貝の出土が確認されており、汀線の近きことを証左するものである。

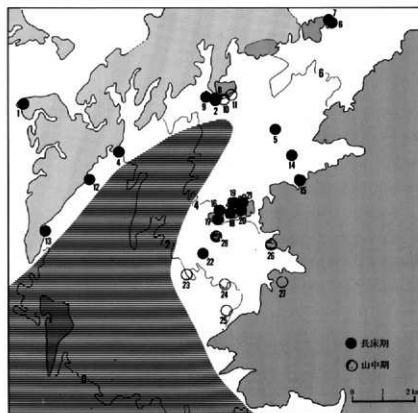
矢作川下流域における弥生時代の沖積地と海岸線の状況を、以上の知見により推定すると、図98のごとき汀線が考えられる。

(大橋正明)



- 1 清水道跡
- 2 久麻久神社道跡
- 3 十念坊道跡
- 4 住崎道跡
- 5 岡島道跡

図 97 水神平期・瓜郷期の道跡分布



- 6 不毛第2道跡
- 7 西山道跡
- 8 熊子山道跡
- 9 松崎八反田道跡
- 10 新御堂道跡
- 11 ハツ面南麓道跡
- 12 川原道跡
- 13 中繩道跡
- 14 長沙門道跡
- 15 別曾山道跡
- 16 中根山道跡
- 17 磐山道跡
- 18 善光寺道跡
- 19 大岩山道跡
- 20 山王山南道跡
- 21 石流道跡
- 22 池端道跡
- 23 須西道跡
- 24 瀬田道跡
- 25 新井前道跡
- 26 東兼道跡
- 27 大入道跡
- 28 岡山南道跡

図 98 長床期・山中期の道跡分布

第VI章 まとめ

岡島遺跡の今回の調査は、総面積 19000 m²にも及ぶ大規模なものとなった。調査成果は、前述のごとくである。本文にも触れているように、発掘調査により確認された遺構・遺物は、大きく6期にまとめることができた。ここではこれをふたたび日本史の時代区分にもどし、簡単にまとめる。

弥生時代

岡島遺跡の中心的な時期に該当する。今回の調査区は、遺跡の南側外縁部に該当することから、明瞭な遺構はあまり多数とはいえない。今回検出した遺構のうち、性格を推定できるものは、周溝墓や土器棺墓に多い。従って、これらの集中する 89-90 年度調査区は墓域としての性格をもつことが考えられる。また、91 年度調査区については、SB 02 の存在を評価し、居住域としての性格を推定できる。なお、同調査区に集中する土坑 A も、竪穴住居としての性格を付与することができるのであれば、これはさらに濃厚となる。つまり、今回の調査区では、NR 05 を挟んで東側に墓域、西側に居住域が展開していた様子を想定することができるのである。

ところで岡島遺跡では、今回の調査区北側部分に居住域が存在すると考えられてきた。この考え方は、西尾市教育委員会の調査で弥生時代後期の竪穴住居が検出されていることや、『果道報告』の、63 D・A 区で土坑 A が集中して検出されていることもよく整合している。つまり岡島遺跡では、大きく二つ以上の居住域が設定されていた可能性が考えられるのである。ただし、遺跡の大部分が未調査である現状では断言することはできない。今後委ねられた課題である。

古墳時代

遺構・遺物の分布は希薄であった。『果道報告』の第 1 面と一致し、基本的には蛇行する溝が若干検出されているに留まる。これらの遺構には、生活に直接関連するような性格は付与しがたく、弥生時代の集落がこの時代にはすでに解体または大幅に縮小していることを考えさせる。

平安時代～鎌倉時代

遺構の分布は希薄で、明瞭な遺構は 90 B 区で検出されているにすぎない。90 B 区で検出された獨立柱建物 (SB 01) は、平安時代後期から活発化する遺跡の拡散現象に関連する動きとして理解できるのかもしれない。ただし、これは現在の岡島町集落とは直接の関連を

もたない。中世後期の遺物が希薄なこと、91年度調査区でまとまって出土している近世の遺物が、大規模な整地をともなっているからである。

科学分析

科学分析は、努めて多角的に実施した。その結果、矢作川下流域の古環境の変遷を考える重要な資料を提供する結果となった。今後こうした方法を利用して遺跡を取り巻く環境の変遷についても課題とし、比較資料を増大させることを急務と考えたい。ただし、今回の事例は、考古学と自然科学が基本的に異なった方法論に立脚するのが原因し、両者の整合性に不十分な点が若干みられた。今後の課題としておきたい。

(池本正明)

報告書抄録

フリガナ	オカジマイセキ 2							
書名	岡島遺跡 II							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 43 集							
編著者名	池本正明・森勇一・松田訓・樋上昇・野本欽也・大橋正明・川井啓介・楯真美子・永草康次							
編集機関	財団法人 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒 498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方 802-24							
発行年	西暦 1993 年 3 月 31 日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 °' "	南緯 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
岡島	西尾市岡島町	23213	55074	34°51'48"	137°5'38"	19860601 19860731 19890901 19900331 19900901 19910331 19911201 19920331	1900	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
岡島	集落跡	弥生時代	竪穴住居 方形周溝墓 土器棺墓		弥生土器 石器		弥生時代中期に属する多量の土器が出土している	

主要遺構計測一覧

住居 (S B)

番 号	調査区別遺構番号	長辺(m)	短辺(m)	検出面	時期
S B01	90B1 S K100-114,116-118	-	-	第1面	A期
02	91B1 S B01	5.6	-	第2面	D期

土蔵 (S K)

番 号	調査区別遺構番号	長辺(m)	短辺(m)	検出面	時期
S K01	90B, S K68, 90B, S K47	-	8.0 0.5	第1面	A期
02	89A, S K1001	2.6	1.7	第1面	B期
03	90A, S K05	-	2.5 0.2	第2面	C期
04	90A, S K44	-	3.5 0.2	第2面	D期
06	91A, S K114	5.4	3.4 0.3	第2面	D期
06	91A, S K132	4.6	3.4 0.2	第2面	D期
07	91A, S K126	3.3	2.4 0.4	第2面	D期
08	91A, S K117	1.2	0.7 0.5	第2面	D期
09	91A, S K70	5.0	2.8 0.3	第2面	D期
10	90B, S K11	1.6	0.9 0.2	第3面	E期
11	90A, S K133	4.7	1.0 0.5	第3面	F期
12	90A, S K141	3.1	1.3 0.4	第3面	F期
13	90A, S K145	2.7	0.9 0.4	第3面	F期
14	90A, S K163	2.1	1.9 0.3	第3面	F期
15	90A, S K153	2.9	2.1 0.5	第3面	F期
16	90A, S K130	1.8	1.4 0.6	第3面	F期
17	90A, S K167	7.0	5.4 0.7	第3面	F期
18	90A, S K129	3.8	1.5 0.9	第3面	F期
19	90A, S K111	2.0	1.7 0.2	第3面	F期
20	90B, S K16	2.5	1.8 0.4	第3面	F期
21	90B, S K17	-	1.1 0.6	第3面	F期
22	90B, S K81	2.3	1.7 0.3	第3面	F期
23	90B, S K72	2.6	1.9 0.3	第3面	F期
24	90B, S K53	2.2	1.3 0.3	第3面	F期
25	90B, S K58	1.7	1.2 0.4	第3面	F期
26	91A, S K1005	1.7	1.1	第3面	F期
27	91A, S K1006	-	1.1	第3面	F期
28	90A, S K120	2.8	1.3 0.6	第3面	F期
29	90B, S K03	6.2	2.1 0.2	第3面	F期
30	90B, S K01	-	1.3 0.3	第3面	F期
31	90B, S K07	1.0	0.5 0.2	第3面	F期

厨湯釜、土器箱 (S Z)

番 号	調査区別遺構番号	長辺(m)	短辺(m)	検出面	時期
S Z01	89B, S Z01周	9.7	-	第1面	B期
02	89B, S D31周	4.4	3.6	第1面	B期
03	89B, S D29周	(6.1)	-	第1面	B期
04	89B, S D30周	4.3	3.4	第1面	B期
05	90B, S Z01周	12.6	12.1	第2面	C期
06	89A, S D1002周	9.5	7.8	第2面	D期
07	90A, S Z01周	-	-	第2面	D期
08	90A, S Z02周	-	-	第2面	D期
09	90A, S Z03周	9.2	-	第2面	D期
10	89A, 土器10箱	-	-	第2面	D期
11	89A, 土器11箱	-	-	第2面	D期
12	89A, 土器86箱	-	-	第2面	D期
13	89A, 土器13箱	-	-	第2面	D期
14	89A, 土器1箱	-	-	第2面	D期
15	89A, 土器97箱	-	-	第2面	D期
16	89A, 土器23箱	-	-	第2面	D期

S Z17	89A, 土器20箱	-	-	第2面	D期
18	89A, S Z04箱	-	-	第2面	D期
19	89A, S Z05箱	-	-	第2面	D期
20	89A, S Z03箱	-	-	第2面	D期
21	89A, S Z01箱	-	-	第2面	D期
22	89A, 土器104箱	-	-	第2面	D期
23	89A, 土器110箱	-	-	第2面	D期
24	89B, 土器107箱	-	-	第2面	D期
25	89B, 土器102箱	-	-	第2面	D期
26	89B, 土器103箱	-	-	第2面	D期
27	89B, 土器115箱	-	-	第2面	D期
28	89B, 土器116箱	-	-	第2面	D期
29	89B, 土器131箱	-	-	第2面	D期
30	90B, 土器2箱	-	-	第2面	D期
31	90B, 土器3箱	-	-	第2面	D期
32	90B, S K86箱	0.7	0.7	第2面	D期
33	90A, S K165, 1C, 1D, 1E周	7.6	6.1	第3面	F期
34	90B, S D66, 96, 98周	7.6	-	第3面	F期
35	90B, S D68, 96, 10周	5.1	4.6	第3面	F期
36	90B, S D68, 11, S K13, 13周	8.0	7.4	第3面	F期

井戸 (S Z)

番 号	調査区別遺構番号	長辺(m)	短辺(m)	深さ(m)	検出面	時期
S E01	90B1 S E01	-	-	1.3	第2面	C期

溝 (S D)

番 号	調査区別遺構番号	長辺(m)	短辺(m)	深さ(m)	検出面	時期
S D01	90B, S D47	4.9	0.5 0.1	0.1	第1面	A期
02	90B, S D48	3.2	0.4 0.1	0.1	第1面	A期
03	89A, S D10	-	1.0 0.4	0.4	第1面	B期
04	89B, S D34	18.3	0.7 0.1	0.1	第1面	B期
05	90A, S D05	-	0.9 0.3	0.3	第2面	C期
06	91A, S D02	9.5	0.2 0.1	0.1	第2面	D期
07	90B, S D01A	-	1.6 0.5	0.5	第3面	E期
08	90B, S D01B	-	3.5 0.6	0.6	第3面	F期
09	90A, S D12	-	-	0.8	第3面	F期
10	90A, S D07	-	1.6 0.6	0.6	第3面	F期
11	90A, S D13	-	2.1 0.5	0.5	第3面	F期
12	90A, S K149	7.6	1.8 0.3	0.3	第3面	F期
13	90B, S D04	3.6	0.8 0.2	0.2	第3面	F期
14	90B, S D11	5.9	1.5 0.2	0.2	第3面	F期
15	90B, S D19	-	1.0 0.3	0.3	第3面	F期
16	90B, S D07	12.1	1.7 0.5	0.5	第3面	F期
17	90A, S D08	9.8	1.8 0.8	0.8	第3面	F期
18	90A, S D18	4.4	0.8 0.2	0.2	第3面	F期

土器集積遺構 (S X)

番 号	調査区別遺構番号	長辺(m)	短辺(m)	検出面	時期
S X01	89A, S X01	-	-	第1面	B期
02	90B, S D08	-	-	第1面	B期
03	89A, S X1001	-	-	第2面	C期
04	89A, S X1002	-	-	第2面	C期
05	89A, 土器群	-	-	第2面	D期
06	90B, S X01	5.2	3.9 0.2	第3面	F期

遺物計測一覧

土器・土製品

番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	容量cc	番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	容量cc
1	18.2	-	29.0			東部中学資料		63	6.7	-	-	62-E-93	灰		
2	-	5.2	28.5			東部中学資料		64	7.4	-	-	62-E-66	黒褐色		
3	8.6	4.6	18.6			東部中学資料		65	6.0	-	-	62-E-96	黄灰		
4	-	7.4	21.5			東部中学資料		66	11.2	-	-	62-E-85	灰白	A29	
5	18.6	-	38.0			東部中学資料		67	5.6	-	-	62-E-101	灰白		
6	8.6	3.3	14.8			東部中学資料		68	10.4	-	-	62-E-1	オリーブ褐色		
7	9.7	4.8	12.6			東部中学資料		69	29.7	-	-	62-E-63	黄褐色		
8	9.2	-	35.2			東部中学資料		70	28.6	-	-	62-E-64	黒褐色		
9	-	-	17.0			東部中学資料		71	19.6	-	-	62-E-42	灰黄	A30	
10	23.2	-	32.0			東部中学資料		72	27.8	-	-	62-E-77	灰黄		
11	-	12.5	18.4			東部中学資料		73	-	7.7	-	62-E-5	暗灰黄		
12	8.3	-	18.0			東部中学資料		74	14.4	-	-	62-E-404	灰白	A2	
13	-	10.0	17.9			東部中学資料		75	-	-	-	62-E-394	暗灰黄		
14	-	13.8	14.1			東部中学資料		76	-	-	-	62-E-390	淡黄		
15	-	14.7	11.6			東部中学資料		77	14.4	-	-	62-E-387	灰黄		
16	-	-	14.7			東部中学資料		78	-	-	-	62-E-398	黄灰	A24	
17	15.3	7.8	25.9			東部中学資料		79	-	-	-	62-E-401	灰黄	A33	
18	-	8.1	36.7			東部中学資料		80	7.3	4.6	-	62-E-384	灰白		
19	-	6.4	35.2			東部中学資料		81	11.0	-	-	62-E-385	にぶい黄	A29	
20	-	4.1	36.0			東部中学資料		82	6.7	-	-	62-E-405	灰黄褐色		
21	4.5	3.0	4.8			東部中学資料		83	-	8.8	-	62-E-393	灰白		
22	-	-	112.2			試験資料		84	21.4	-	-	62-E-14	灰黄褐色		
23	10.8	5.6	18.2			試験資料		85	11.8	5.2	25.1	63-E-7	灰白		
24	10.9	4.3	19.7			試験資料		86	8.0	-	-	63-E-6	灰オリーブ	A41	
25	9.7	3.0	6.6			試験資料		87	11.6	6.3	22.3	63-E-27	灰黄	A48	
26	9.2	-	9.7			試験資料		88	8.4	3.5	7.6	63-E-5	にぶい黄褐色		
27	-	-	-	63-E-60	浅黄	77-66埋蔵品		89	19.0	-	-	63-E-3	浅黄	A42	
28	13.8	-	-	63-E-56	灰色			90	-	11.2	-	63-E-17	灰黄		
29	14.5	-	-	63-E-62	浅黄褐色			91	19.6	-	-	63-E-29	灰オリーブ	A50	
30	-	8.6	-	63-E-57	にぶい黄褐色			92	14.0	7.8	19.7	63-E-30	にぶい黄	A49	
31	-	-	-	63-E-75	にぶい黄褐色			93	7.9	2.0	8.3	69A-E-5	にぶい黄褐色		
32	-	5.2	-	63-E-74	浅黄褐色			94	12.5	5.8	4.5	69A-E-4	にぶい黄褐色		
33	-	-	-	63-E-79	浅黄			95	16.2	2.6	21.5	69A-E-21	黄		
34	-	-	-	63-E-78	浅黄			96	14.6	-	18.0	69A-E-2	にぶい黄褐色		
35	21.8	8.4	-	63-E-98	にぶい黄褐色	A-6		97	10.2	4.6	14.7	69A-E-24	黒褐色		
36	9.8	-	-	63-E-53	にぶい黄褐色			98	11.6	4.7	13.5	69A-E-29	暗灰黄		
37	12.8	-	-	63-E-55	にぶい赤褐色			99	10.0	5.1	11.4	69A-E-22	にぶい黄褐色		
38	-	-	-	63-E-50	明赤灰			100	-	2.7	16.7	69A-E-14	暗灰黄		
39	-	6.0	-	63-E-47	浅黄			101	-	5.0	17.0	69A-E-5	黒褐色		
40	10.2	4.4	8.4	63-E-52	灰白			102	-	-	17.0	69A-E-7	黄		
41	-	-	-	63-E-49	浅黄			103	-	5.0	13.5	69A-E-1	黒褐色		
42	-	6.2	-	63-E-48	灰黄褐色			104	10.1	-	10.1	69A-E-18	にぶい黄褐色		
43	17.0	7.2	41.5	62-E-417	黒褐色	TP2		105	18.2	-	66.2	69A-E-8	にぶい黄褐色		
44	16.0	6.3	35.1	62-E-102	灰			106	-	-	17.5	69A-E-12	暗灰黄		
45	21.0	-	-	62-E-219	オリーブ褐色			107	-	-	18.0	69A-E-13	にぶい黄褐色		
46	16.5	-	-	62-E-237	灰黄褐色			108	-	-	19.3	69A-E-11	黄		
47	21.5	-	-	62-E-268		A15 TP6		109	-	12.7	18.7	69A-E-4	オリーブ褐色		
48	18.9	-	-	62-E-221	黒褐色	TP5		110	18.0	-	4.7	69A-E-388	にぶい黄褐色		
49	6.7	-	-	62-E-117	黒褐色	A18		111	18.0	-	13.6	69A-E-389	赤灰		
50	7.2	-	-	62-E-119	黒褐色			112	16.4	-	4.1	69A-E-390	浅黄		
51	9.5	-	-	62-E-17	暗灰黄			113	-	5.5	19.8	69B-E-20	にぶい黄褐色		
52	15.8	-	-	62-E-118	灰白			114	18.6	-	18.2	69B-E-35	浅黄		
53	7.7	2.8	8.9	62-E-218	黄			115	13.4	-	125.0	69B-E-64-1	にぶい黄褐色		
54	13.9	-	-	62-E-204	黄			116	-	5.8	117.0	69B-E-64-2	にぶい赤褐色		
55	30.7	7.2	31.1	62-E-270	灰オリーブ褐色			117	18.3	6.9	34.4	69B-E-18	黄褐色		
56	30.7	-	-	62-E-266	黄			118	18.0	-	45.0	69B-E-13	黄		
57	26.3	-	-	62-E-216	暗オリーブ褐色			119	16.5	-	112.9	69B-E-10	にぶい黄褐色		
58	24.6	-	-	62-E-287	オリーブ褐色			120	15.9	-	15.3	69B-E-17	にぶい黄褐色		
59	18.0	-	-	62-E-305	黄	A24		121	5.5	-	6.6	69B-E-21	にぶい黄褐色		
60	11.4	5.3	35.6	62-E-84	黄灰	TP10		122	10.6	-	4.2	69A-E-1065	暗灰		
61	16.1	-	-	62-E-85	灰白			123	-	7.0	-	69B-E-1084	灰白		
62	14.2	-	-	62-E-94	灰白			124	-	7.4	-	69B-E-1065	灰白		

番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	材質	番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	容量cc
125	—	3.6	—	90B ₁ -E-1012	灰白			189	4.0	4.0	14.3g	90A ₁ -E-1013	黄灰	加工円盤	
126	—	8.4	—	90B ₁ -E-1001	灰白			190	6.6	5.5	45.7g	90A ₁ -E-1012	12.5V黄緑	加工円盤	
127	7.4	—	—	90B ₁ -E-1002	灰			191	5.4	5.0	24.8g	90A ₁ -E-1014	黄灰	加工円盤	
128	—	—	—	90B ₁ -E-1006	灰白			192	6.2	5.9	35.4g	89A ₁ -E-1035	浅黄	加工円盤	
129	—	9.2	—	90B ₁ -E-1003	灰白			193	3.9	3.8	11.6g	90B ₁ -E-1019	黄灰	加工円盤	
130	13.4	—	—	90B ₁ -E-1001	灰白			194	4.5	4.2	10.7g	90A ₁ -E-1007	12.5V黄緑	加工円盤	
131	—	7.5	—	90B ₁ -E-1010	明緑灰			195	3.4	3.3	7.9g	90A ₁ -E-1010	黄灰	加工円盤	
132	7.4	4.9	1.9	90B ₁ -E-1015	12.5V黄緑			196	4.2	3.9	14.4g	89A ₁ -E-1036	黄灰	加工円盤	
133	12.0	5.9	3.7	90B ₁ -E-1017	12.5V黄緑			197	3.6	3.2	7.3g	90A ₁ -E-1008	黄緑	加工円盤	
134	12.8	6.1	3.8	90B ₁ -E-1016	12.5V黄緑			198	5.1	4.9	21.6g	90A ₁ -E-1006	黄	加工円盤	
135	12.4	5.5	4.2	90B ₁ -E-1014	12.5V黄緑			199	4.4	4.0	17.6g	90A ₁ -E-1009	黄灰	加工円盤	
136	11.9	—	—	90B ₁ -E-1013	12.5V黄緑			200	4.2	3.6	15.4g	89A ₁ -E-1033	明黄緑	加工円盤	
137	—	15.9	—	90B ₁ -E-1019	12.5V黄緑			201	4.9	4.5	26.4g	90A ₁ -E-1011	黄緑	加工円盤	
138	12.8	—	—	89A ₁ -E-1005	灰白			202	5.6	(4.1)	12.3g	90B ₁ -E-1020	浅黄	加工円盤	
139	—	7.3	—	89A ₁ -E-1013	明緑灰			203	3.7	3.5	12.2g	89A ₁ -E-1039	黄灰	加工円盤	
140	—	7.2	—	89A ₁ -E-1007	明緑灰			204	4.1	3.9	13.0g	90A ₁ -E-1004	12.5V黄緑	加工円盤	
141	10.6	—	—	89B ₁ -E-1002	黄灰			205	3.9	3.5	10.3g	89A ₁ -E-1041	黄灰	加工円盤	
142	9.8	—	—	89B ₁ -E-1000	12.5V黄緑			206	4.6	4.1	14.4g	89A ₁ -E-1042	浅黄	加工円盤	
143	12.8	5.8	5.6	90A ₁ -E-1002	黄灰			207	3.5	3.4	8.5g	89A ₁ -E-1032	明黄緑	加工円盤	
144	—	8.0	—	90A ₁ -E-1001	12.5V黄緑			208	3.9	3.7	9.8g	89A ₁ -E-1034	明赤緑	加工円盤	
145	—	8.0	—	90A ₁ -E-1000	灰白			209	—	—	5.4g	89A ₁ -M-1	—	鋼線	
146	—	—	—	89A ₁ -E-1014	12.5V黄緑			210	23.6	—	(3.7)	90B ₁ -E-12	灰白		
147	13.9	5.5	8.2	89A ₁ -E-1000	灰白			211	—	7.3	(4.2)	90B ₁ -E-13	12.5V黄緑		
148	13.6	5.9	5.9	89A ₁ -E-1001	灰白			212	7.5	—	(7.4)	90B ₁ -E-2	12.5V黄緑		
149	15.2	—	—	89A ₁ -E-1024	灰白			213	9.8	—	(5.0)	90B ₁ -E-6	12.5V赤緑		
150	—	6.2	—	89A ₁ -E-1008	明緑灰			214	—	—	(6.2)	90B ₁ -E-4	12.5V黄緑		
151	—	6.6	—	89A ₁ -E-1031	灰白			215	—	—	(4.7)	90B ₁ -E-5-2	12.5V黄緑		
152	—	7.6	—	89A ₁ -E-1029	浅黄			216	—	13.1	(1.4)	90B ₁ -E-11	12.5V黄緑		
153	8.0	4.0	2.4	89A ₁ -E-1002	明緑灰			217	—	13.0	(3.4)	90B ₁ -E-3	12.5V黄緑		
154	8.5	5.8	1.8	89A ₁ -E-1029	明緑灰			218	—	13.1	(2.3)	90B ₁ -E-7	浅黄緑		
155	—	—	—	89A ₁ -E-1009	12.5V黄緑			219	8.2	3.8	8.3	90B ₁ -E-1	明緑灰		289
156	8.0	4.0	1.3	89A ₁ -E-1004	浅黄			220	(19.4)	—	(2.1)	90B ₁ -E-19	12.5V赤緑		
157	—	—	—	89A ₁ -E-1012	橙			221	—	—	(5.7)	90B ₁ -E-26	灰白		
158	—	—	—	89A ₁ -E-1023	橙			222	—	(6.4)	(3.8)	90B ₁ -E-14	浅黄		
159	—	—	—	89A ₁ -E-1030	12.5V黄緑			223	—	5.8	(5.2)	90B ₁ -E-15	浅黄緑		
160	12.9	5.7	9.0	91B ₁ -E-1001	—			224	—	—	(10.5)	90B ₁ -E-31	12.5V黄緑		
161	10.5	4.2	7.2	91B ₁ -E-1002	—			225	18.0	—	(8.3)	90B ₁ -E-16	浅黄		
162	10.8	2.7	8.9	91B ₁ -E-1003	—			226	—	(9.0)	(9.3)	90B ₁ -E-27	灰白		
163	10.5	4.8	8.9	91B ₁ -E-1004	—			227	—	—	(25.3)	90A ₁ -E-70	橙		
164	9.9	3.6	6.0	91B ₁ -E-1005	—			228	13.8	—	(3.4)	90A ₁ -E-82	浅黄		
165	11.7	5.7	6.9	91B ₁ -E-1006	—			229	—	7.0	(4.4)	90A ₁ -E-71	浅黄緑		
166	—	6.3	—	91B ₁ -E-1007	—			230	7.9	—	(16.2)	90A ₁ -E-74	12.5V黄緑		479
167	11.7	3.3	5.7	91B ₁ -E-1008	—			231	25.5	—	(4.4)	90A ₁ -E-80	浅黄		
168	10.2	3.6	6.3	91B ₁ -E-1009	—			232	25.7	—	(5.4)	90A ₁ -E-81	橙		
169	11.7	3.9	4.2	91B ₁ -E-1010	—			233	13.0	—	(8.4)	90A ₁ -E-73	—		
170	9.3	4.2	3.3	91B ₁ -E-1011	—			234	—	—	—	90A ₁ -E-83	橙		
171	4.8	4.4	2.4	91B ₁ -E-1012	—			235	—	16.0	(4.3)	90A ₁ -E-80	黄緑		
172	10.2	4.8	2.1	91B ₁ -E-1013	—			236	—	10.2	(6.1)	90A ₁ -E-59	灰白		
173	8.1	4.5	6.3	91B ₁ -E-1014	—			237	—	8.3	(5.3)	90A ₁ -E-66	明赤緑		
174	7.2	3.0	5.7	91B ₁ -E-1015	—			238	15.0	—	(5.3)	90A ₁ -E-69	12.5V黄緑		
175	9.6	4.2	5.1	91B ₁ -E-1016	—			239	15.0	—	(13.1)	90A ₁ -E-84	黄緑		1,136
176	12.3	4.2	6.3	91B ₁ -E-1017	—			240	—	8.5	(7.4)	90A ₁ -E-69	橙		
177	12.8	8.1	3.9	91B ₁ -E-1018	—			241	10.7	3.9	3.1	90A ₁ -E-87	12.5V黄緑		93
178	7.2	3.3	5.7	91B ₁ -E-1019	—			242	10.7	14.2	6.6	90A ₁ -E-88	12.5V黄緑		468
179	—	—	254.5g	90B ₁ -E-327	12.5V黄緑	台型状土製品		243	16.9	5.2	21.4	89A ₁ -E-37	12.5V黄緑		7,714
180	—	—	42.7g	90B ₁ -E-31	12.5V黄緑	不明土製品		244	10.5	5.0	13.0	89A ₁ -E-38	橙		1,108
181	—	—	92.3g	89A ₁ -E-386	12.5V黄緑	フワ土製品		245	8.9	6.1	10.3	89A ₁ -E-39	明緑		762
182	—	—	39.0g	89A ₁ -E-390	灰黄緑	結晶性		246	8.3	—	—	89A ₁ -E-53	橙		252
183	6.5	6.2	32.4g	89A ₁ -E-1038	12.5V黄緑	加工円盤		247	8.4	4.0	10.3	89A ₁ -E-51	橙		264
184	6.4	6.1	42.9g	89A ₁ -E-1040	黄灰	加工円盤		248	9.2	5.2	11.2	89A ₁ -E-59	灰白		621
185	7.0	6.2	30.4g	90A ₁ -E-1003	灰黄緑	加工円盤		249	11.0	4.9	14.2	89A ₁ -E-70	橙		1,120
186	5.5	5.4	23.5g	90B ₁ -E-1018	浅黄	加工円盤		250	9.8	12.7	22.7	89A ₁ -E-55	橙		1,028
187	6.7	6.5	47.6g	90A ₁ -E-1005	12.5V赤緑	加工円盤		251	9.6	—	(16.8)	89A ₁ -E-42	明緑		643
188	6.4	6.0	59.1g	89A ₁ -E-1007	明赤緑	加工円盤		252	8.2	—	17.1	89A ₁ -E-66	橙		680

番号	日付	旗杆	旗高	登録番号	色調	備考	容量cc	番号	日付	旗杆	旗高	登録番号	色調	備考	容量cc
253	7.2	-	(14.5)	89A ₁ -E-65	橙		306	317	9.6	5	16.8	90A ₁ -E-54	緑灰		2,940
254	7.7	3.1	16.0	89A ₁ -E-43	橙		809	318	-	11.4	(4.0)	90A ₁ -E-21	灰白		
255	6.8	11.6	(14.3)	89A ₁ -E-67	明緑			319	-	4.8	(13.5)	90A ₁ -E-42	赤灰		
256	5.8	2.2	6.8	89A ₁ -E-61	12.2 ¹ 橙		89	320	-	7.3	(11.0)	90A ₁ -E-14	灰白		
257	5.8	3.0	7.5	89A ₁ -E-52	明赤緑		108	321	-	5.1	(3.7)	90A ₁ -E-27	黒		
258	5.9	3.6	7.4	89A ₁ -E-62	明赤緑		149	322	-	8.3	(15.2)	90A ₁ -E-1	淡茶緑		
259	5.3	3.0	7.8	89A ₁ -E-63	橙		128	323	-	6.1	(20.5)	90A ₁ -E-43	12.2 ¹ 黄緑		
260	5.9	3.2	6.5	89A ₁ -E-41	橙		58	324	-	5.8	(11.8)	90A ₁ -E-4	灰		
261	5.5	3.1	7.8	89A ₁ -E-60	明緑		146	325	-	3.9	(8.6)	90A ₁ -E-23	赤緑		
262	5.1	3.1	7.3	89A ₁ -E-49	明赤緑		118	326	19.0	-	(11.3)	90A ₁ -E-12	12.2 ¹ 黄		
263	6.6	4.0	7.2	89A ₁ -E-50	12.2 ¹ 黄		73	327	-	11.3	(10.5)	90A ₁ -E-26	灰黄緑		
264	6.0	3.7	7.0	89A ₁ -E-48	12.2 ¹ 黄		37	328	-	-	(6.5)	90A ₁ -E-25	12.2 ¹ 黄		
265	10.8	10.8	14.5	89A ₁ -E-47	12.2 ¹ 黄		506	329	17.8	8.4	14.6	90A ₁ -E-112	淡茶緑		909
266	8.5	9.2	15.2	89A ₁ -E-44	橙		479	330	12.0	6.0	4.4	90A ₁ -E-55	12.2 ¹ 黄		243
267	9.1	-	(14.0)	89A ₁ -E-69	12.2 ¹ 黄		521	331	24.0	-	(18.0)	90A ₁ -E-51	暗緑		
268	12.4	9.1	12.5	89A ₁ -E-45	明緑		302	332	20.0	-	(19.0)	90A ₁ -E-15	12.2 ¹ 黄緑		
269	13.1	(10.2)	13.6	89A ₁ -E-71	橙		491	333	20.5	-	(4.0)	90A ₁ -E-27	12.2 ¹ 黄緑		
270	13.1	10.8	13.5	89A ₁ -E-54	橙		542	334	18.4	-	(18.0)	90A ₁ -E-56	灰黄		
271	12.6	10.4	18.2	89A ₁ -E-64	橙		821	335	17.9	-	(10.2)	90A ₁ -E-53	淡茶緑		
272	10.2	3.2	7.6	89A ₁ -E-58	12.2 ¹ 黄		445	336	18.7	-	(11.0)	90A ₁ -E-34	明緑		
273	11.1	3.6	4.8	89A ₁ -E-73	灰白		142	337	19.0	-	(3.5)	90A ₁ -E-212	明緑		
274	9.5	2.2	4.9	89A ₁ -E-40	12.2 ¹ 黄		107	338	-	-	(10.7)	90A ₁ -E-47	灰黄緑		
275	21.4	7.5	27.8	89A ₁ -E-156	12.2 ¹ 黄		7,128	339	-	-	(11.8)	90A ₁ -E-46	明緑		
276	7.3	4.7	10.2	89A ₁ -E-87	橙		205	340	-	11.1	(7.2)	90A ₁ -E-23-1	茶緑		
277	16.5	4.0	8.3	89A ₁ -E-85	12.2 ¹ 黄		212	341	-	7.3	(3.5)	90A ₁ -E-30	灰		
278	-	-	(10.5)	89A ₁ -E-80	橙		342	342	-	9.2	(7.0)	90A ₁ -E-32	12.2 ¹ 黄		
279	10.4	-	(10.8)	89A ₁ -E-75	12.2 ¹ 黄		996	343	-	9.6	(7.4)	90A ₁ -E-23-2	茶緑		
280	-	9.2	(10.9)	89A ₁ -E-77	浅黄		344	344	19.6	-	(8.4)	90A ₁ -E-8	12.2 ¹ 赤緑		
281	11.0	9.6	12.8	89A ₁ -E-74	12.2 ¹ 黄		460	345	-	14.0	(5.0)	90A ₁ -E-29	12.2 ¹ 黄		
282	8.2	4.9	9.0	89A ₁ -E-86	浅黄緑		176	346	33.1	-	(17.0)	90A ₁ -E-13	灰白		
283	67.0	4.6	7.2	89A ₁ -E-78	12.2 ¹ 黄		65	347	22.7	-	(25.8)	90A ₁ -E-9	茶緑	T P 43	
284	7.1	5.1	7.4	89A ₁ -E-90	12.2 ¹ 黄		80	348	-	8.6	(5.4)	90A ₁ -E-24	12.2 ¹ 黄緑		
285	7.0	4.0	6.7	89A ₁ -E-89	浅黄緑		65	349	-	4.9	(25.0)	89A ₁ -E-192	黄灰		
286	4.2	2.9	4.6	89A ₁ -E-79	橙		15	350	-	5.0	(18.0)	89A ₁ -E-191	黄灰		
287	-	5.9	(7.0)	89A ₁ -E-83	浅黄緑		351	351	-	10.4	(39.2)	89A ₁ -E-206	12.2 ¹ 黄		
288	11.7	4.8	6.9	89A ₁ -E-88	12.2 ¹ 黄		430	352	-	4.6	(10.0)	89A ₁ -E-391	茶緑		
289	12.4	4.2	(6.2)	89A ₁ -E-84	12.2 ¹ 黄		133	353	-	4.8	(25.5)	89A ₁ -E-399	オリーブ黄		
290	6.4	4.2	6.9	89A ₁ -E-82	12.2 ¹ 黄		89	354	-	4.6	(26.0)	89A ₁ -E-133	黄灰		
291	11.2	6.2	12.5	89A ₁ -E-76	橙		491	355	-	-	(16.7)	89A ₁ -E-168	浅黄		
292	14.9	8.0	23.3	89A ₁ -E-46	12.2 ¹ 黄		2,407	356	26.7	7.0	52.0	89A ₁ -E-169	12.2 ¹ 黄緑		34,984
293	-	-	91B ₁ -E-1-1					357	-	9.6	(38.4)	89A ₁ -E-171	12.2 ¹ 黄		
294	-	-	91B ₁ -E-1-2					358	-	-	-	89A ₁ -E-165	12.2 ¹ 黄緑		
295	-	-	(16.9)	89A ₁ -E-156	黄灰		359	359	-	9.6	(30.4)	89A ₁ -E-170	12.2 ¹ 黄緑		
296	-	5.4	(23.4)	89A ₁ -E-179	灰		360	360	-	-	(22.7)	89A ₁ -E-172	灰黄緑		
297	-	8.0	(35.7)	89A ₁ -E-204	12.2 ¹ 黄		361	361	-	11.0	(34.5)	89A ₁ -E-92	12.2 ¹ 黄		
298	-	4.2	(8.4)	89A ₁ -E-17	浅黄緑		362	362	-	8.2	(19.7)	89A ₁ -E-203	明黄緑		
299	-	4.5	(10.0)	89A ₁ -E-198	暗灰		363	363	26.6	7.5	79.9	89A ₁ -E-20	12.2 ¹ 黄緑		122,776
300	14.0	-	(14.2)	89A ₁ -E-151	灰黄緑		364	364	28.0	-	(62.2)	89A ₁ -E-21	灰		
301	19.6	-	(8.4)	90A ₁ -E-8	12.2 ¹ 赤緑		365	365	33.6	5.1	32.0	89A ₁ -E-10	暗灰		26,586
302	-	-	(12.4)	90A ₁ -E-10	暗灰		366	366	31.9	6.3	33.0	89A ₁ -E-11	灰		23,734
303	-	-	(13.9)	90A ₁ -E-16	暗灰		367	367	-	5.9	(21.0)	90A ₁ -E-48	茶緑		
304	-	-	(9.0)	90A ₁ -E-45	12.2 ¹ 赤緑		368	368	-	-	(20.5)	90A ₁ -E-47	茶緑		
305	20.0	-	(17.3)	90A ₁ -E-5	12.2 ¹ 黄緑		369	369	-	4.5	(22.5)	90A ₁ -E-48	茶緑		
306	25.3	-	(21.1)	90A ₁ -E-11	灰白		370	370	-	-	(23.5)	91A ₁ -E-14	12.2 ¹ 黄		
307	23.6	-	(6.5)	90A ₁ -E-35	12.2 ¹ 黄緑		371	371	14.2	-	(35.9)	89A ₁ -E-272	灰		
308	12.2	5.0	27.1	90A ₁ -E-56	灰		5,357	372	23.6	-	(14.0)	89A ₁ -E-247	12.2 ¹ 黄緑		
309	17.1	5.4	38.8	90A ₁ -E-2	茶緑		18,456	373	20.5	-	(10.4)	89A ₁ -E-221	浅黄		
310	-	4.8	(25.7)	90A ₁ -E-6	茶緑		374	374	-	-	(29.5)	89A ₁ -E-294	黄灰		
311	-	4.5	(25.8)	90A ₁ -E-48	灰		375	375	24.6	-	(11.8)	89A ₁ -E-350	浅黄緑		
312	-	-	(12.0)	90A ₁ -E-7	12.2 ¹ 赤緑		376	376	15.8	4.9	34.0	89A ₁ -E-280	黄灰		12,059
313	-	-	(15.9)	90A ₁ -E-44	黄灰		377	377	15.4	-	(24.5)	89A ₁ -E-282	12.2 ¹ 黄緑		
314	9.3	5.8	22.1	90A ₁ -E-57	暗灰		3,305	378	16.5	-	(24.1)	89A ₁ -E-281	暗黄灰		
315	8.7	-	(7.3)	90A ₁ -E-17	灰黄緑		379	379	(16.20)	-	(28.9)	89A ₁ -E-253	灰		
316	12.5	7.9	39.5	90A ₁ -E-49	茶緑		6,980	380	(17.40)	-	(8.7)	89A ₁ -E-343	灰		

番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	容量cc	番号	口径	底径	器高	登録番号	色調	備考	容量cc
281	16.5	-	(29.4)	89A ₂ -E-245	黄灰			445	-	-	-	89A ₂ -E-268	白		
282	16.7	-	(10.4)	89A ₂ -E-235	灰白			446	-	-	-	89A ₂ -E-232	黄		
283	18.0	-	(15.5)	89A ₂ -E-206	灰黄陶			447	19.4	-	(4.4)	89A ₂ -E-284	陶灰		
284	16.7	-	(14.3)	89A ₂ -E-234	暗灰陶			448	13.6	11.4	13.2	89A ₂ -E-283	赤陶		247
285	17.8	-	(8.0)	89A ₂ -E-263	黄陶			449	42.2	-	(24.0)	89A ₂ -E-219	赤陶		
286	14.6	-	(21.3)	89A ₂ -E-210	陶灰			450	30.6	5.8	21.1	89A ₂ -E-218	白		18.014
287	16.6	-	(9.5)	89A ₂ -E-269	陶陶			451	29.9	-	(13.5)	89A ₂ -E-214	灰黄陶		
288	16.4	-	(5.9)	89A ₂ -E-262	陶灰			452	18.8	-	(19.4)	89A ₂ -E-232	灰黄陶		
289	17.4	-	(9.0)	89A ₂ -E-264	灰黄			453	24.1	-	(9.5)	89A ₂ -E-226	赤陶		
290	19.2	-	(21.2)	89A ₂ -E-276	陶灰			454	23.6	-	(22.8)	89A ₂ -E-91	灰黄		
291	16.5	-	(22.9)	89A ₂ -E-240	黒			455	(21.5)	-	(14.9)	89A ₂ -E-242	白		
292	16.7	-	(10.3)	89A ₂ -E-246	黄灰			456	-	8.8	(9.3)	89A ₂ -E-212	白		
293	16.4	-	(7.5)	89A ₂ -E-259	黄灰			457	-	8.0	(11.2)	89A ₂ -E-268	陶灰		
294	15.5	-	(5.0)	89A ₂ -E-266	灰黄			458	19.1	-	(23.9)	90B ₂ -E-27	赤陶		
295	-	5.1	(32.5)	89A ₂ -E-285	暗赤灰			459	-	-	-	90B ₂ -E-27	灰黄陶		
296	-	7.2	(22.2)	89A ₂ -E-286	黄灰			460	-	4.8	(2.4)	90B ₂ -E-28	黒		
297	-	4.8	(25.3)	89A ₂ -E-217	黒			461	(15.7)	-	(3.8)	90B ₂ -E-94	黄灰		
298	15.7	-	(19.5)	89A ₂ -E-250	黄灰			462	(19.6)	-	(8.1)	90B ₂ -E-100	灰白		
299	18.8	-	(5.0)	89A ₂ -E-265	灰黄陶			463	-	-	-	90B ₂ -E-86	白		
300	17.1	-	(19.2)	89A ₂ -E-251	黒			464	-	-	-	90B ₂ -E-98	黄灰		
301	27.0	-	(5.0)	89A ₂ -E-280	灰黄陶			465	-	-	-	90B ₂ -E-90	赤陶		
302	21.7	-	(10.6)	89A ₂ -E-277	浅黄陶			466	-	-	-	90B ₂ -E-99①	灰		
303	26.1	-	(17.0)	89A ₂ -E-287	白	赤彩		467	-	-	-	90B ₂ -E-99②	灰		
304	17.6	8.0	36.1	89A ₂ -E-292	黄		13,821	468	-	-	-	90B ₂ -E-98	黄灰		
305	19.4	9.0	(31.2)	89A ₂ -E-258	黄		11,210	469	-	-	-	90B ₂ -E-89	灰		
306	-	6.2	(25.0)	89A ₂ -E-261	白			470	-	-	-	90B ₂ -E-88	灰		
307	10.1	5.0	22.6	89A ₂ -E-32	陶灰		2,991	471	-	-	-	90B ₂ -E-87	暗灰黄		
308	7.6	-	(10.4)	89A ₂ -E-378	灰白			472	(10.2)	7.3	10.1	90B ₂ -E-101	白		286
309	15.4	-	-	89A ₂ -E-36	暗陶			473	-	-	(2.8)	90B ₂ -E-93	白		
310	8.0	-	(5.1)	89A ₂ -E-344	灰黄			474	-	(9.0)	(3.5)	90B ₂ -E-91	オリーブ色		
311	8.1	-	(2.9)	89A ₂ -E-347	赤黒			475	-	-	-	90A ₂ -E-141	灰黄陶		
312	6.2	5.9	23.3	89A ₂ -E-137	灰白		2,270	476	-	-	-	90A ₂ -E-144	白		
313	7.4	-	(9.0)	89A ₂ -E-226	灰			477	-	-	-	90A ₂ -E-148	白		
314	8.5	-	(22.7)	89A ₂ -E-271	灰黄陶			478	-	-	-	90A ₂ -E-143	灰黄陶		
315	7.8	4.9	22.4	89A ₂ -E-140	白		2,049	479	-	-	-	90A ₂ -E-146	白		
316	10.0	-	(5.7)	89A ₂ -E-323	黄灰			480	-	-	-	90A ₂ -E-132	黄灰		
317	10.1	-	(6.5)	89A ₂ -E-295	白			481	-	-	-	90A ₂ -E-147	白		
318	9.4	-	(5.1)	89A ₂ -E-331	浅黄陶			482	-	-	-	90A ₂ -E-149	白		
319	19.2	-	(6.0)	89A ₂ -E-297	白			483	-	-	-	90A ₂ -E-150	白		
320	9.7	-	(5.0)	89A ₂ -E-303	白			484	-	-	-	90A ₂ -E-134	赤		
321	-	-	(19.2)	89A ₂ -E-157	灰			485	-	-	-	90A ₂ -E-153	暗灰黄		
322	-	-	(8.0)	89A ₂ -E-324	陶灰			486	-	-	-	90A ₂ -E-145	赤黒		
323	-	4.9	(19.3)	89A ₂ -E-209	黒			487	-	-	-	90A ₂ -E-142	白		
324	-	4.9	(17.4)	89A ₂ -E-220	白	赤彩		488	(6.4)	(4.6)	19.9	90A ₂ -E-48	暗灰黄		1,498
325	-	6.0	(17.8)	89A ₂ -E-228	灰			489	-	-	-	90A ₂ -E-50	灰オリーブ		
326	-	5.5	(20.0)	89A ₂ -E-216	白			490	-	-	-	90A ₂ -E-61	黄灰		
327	-	4.7	(15.4)	89A ₂ -E-243	灰白			491	-	-	-	90A ₂ -E-60	黒		
328	-	5.3	(14.2)	89A ₂ -E-213	浅黄			492	-	-	-	90A ₂ -E-49	黄灰		
329	-	5.0	(10.1)	89A ₂ -E-215	灰白			493	-	-	-	90A ₂ -E-56	黒		
330	-	4.0	(12.5)	89A ₂ -E-33	白			494	-	-	-	90A ₂ -E-57	黄灰		
331	-	-	-	89A ₂ -E-327	陶灰			495	-	-	-	90A ₂ -E-62	白		
332	-	-	-	89A ₂ -E-325	赤陶			496	-	-	-	90A ₂ -E-55	赤陶		
333	-	-	-	89A ₂ -E-336	白			497	-	-	-	90A ₂ -E-59	赤陶		
334	-	-	-	89A ₂ -E-292	暗灰黄			498	-	5.6	(2.0)	90A ₂ -E-65	赤陶		
335	-	-	-	89A ₂ -E-294	黄灰			499	-	5.6	(2.0)	90A ₂ -E-52	黄		
336	-	-	-	89A ₂ -E-293	灰			500	-	-	-	90A ₂ -E-64	白		
337	-	-	-	89A ₂ -E-379	灰黄陶			501	-	-	-	90A ₂ -E-51	灰黄陶		
338	-	-	-	89A ₂ -E-330	白			502	7.5	4.3	23.8	90B ₂ -E-196	赤陶		2,022
339	-	-	-	89A ₂ -E-357	赤陶			503	-	-	-	90B ₂ -E-200	赤陶		
340	-	-	-	89A ₂ -E-393	赤			504	-	-	-	90B ₂ -E-201	赤		
341	-	-	-	89A ₂ -E-396	灰			505	-	-	-	90B ₂ -E-197	暗灰黄		
342	-	-	-	89A ₂ -E-333	白			506	-	-	-	90B ₂ -E-206	赤陶		
343	-	-	-	89A ₂ -E-228	黄			507	-	-	(18.9)	90B ₂ -E-195	陶灰		
344	-	-	-	89A ₂ -E-240	灰陶			508	30.6	4.8	28.4	90B ₂ -E-194	赤陶		7,783

番付	日付	旗杆	部高	登録番号	色調	備考	容量cc	番付	日付	旗杆	部高	登録番号	色調	備考	容量cc
509	--	--	--	90A ₂ -E-220	12.25V黄			573	20.9	--	(11.50)	90A ₂ -E-124	黄緑		
510	--	--	--	90B ₂ -E-221	暗黒			574	15.5	--	(6.80)	90A ₂ -E-81	12.25V黄緑		
511	7.5	3.9	26.7	90B ₂ -E-215	黒緑		2,652	575	14.6	--	(4.7)	90A ₂ -E-88	12.25V黄緑		
512	--	--	--	90B ₂ -E-222	赤黒			576	--	--	--	90A ₂ -E-115	12.25V黄		
513	--	--	--	90B ₂ -E-319	灰黄緑			577	--	--	--	90A ₂ -E-100	灰黄		
514	--	--	--	90B ₂ -E-321	黒緑			578	--	--	--	90A ₂ -E-107	灰オリーブ		
515	--	--	--	90B ₂ -E-21	黒緑			579	--	--	--	90A ₂ -E-120	12.25V黄緑		
516	--	--	--	90B ₂ -E-26	浅黄			580	--	--	--	90A ₂ -E-119	12.25V黒		
517	--	--	--	90B ₂ -E-22	12.25V黄緑			581	--	--	--	90A ₂ -E-103	12.25V黄緑		
518	--	--	--	90B ₂ -E-27	灰黄緑			582	--	--	(7.50)	90A ₂ -E-74	黒緑		
519 (16.8)	--	--	(8.4)	90A ₂ -E-37	灰			583	--	--	--	90A ₂ -E-102	灰黄		
520	16.0	--	(7.9)	90A ₂ -E-34	12.25V黄緑			584	--	--	--	90A ₂ -E-112	灰黄		
521	--	--	--	90A ₂ -E-44	12.25V黄緑			585	--	--	--	90A ₂ -E-111	灰黄緑		
522	12.4	--	(7.0)	90A ₂ -E-35	暗赤黒			586	--	--	(20.3)	90A ₂ -E-66	黒緑		
523	--	--	--	90A ₂ -E-45	灰黄緑			587	--	--	(10.1)	90A ₂ -E-67	灰黄緑		
524	--	--	--	90A ₂ -E-38-1	暗赤			588	--	--	(7.9)	90A ₂ -E-67	暗赤		
525	--	--	--	90A ₂ -E-38-2	暗赤			589	--	--	(5.7)	90A ₂ -E-85	暗赤		
526	--	--	--	90A ₂ -E-47	暗赤			590	--	--	(7.1)	90A ₂ -E-83	12.25V黄緑		
527 (28.2)	--	--	(9.5)	90A ₂ -E-40	12.25V黄緑			591	--	--	(6.9)	90A ₂ -E-86	12.25V黒		
528 (28.6)	--	--	(13.8)	90A ₂ -E-42	灰黒			592	--	--	(6.6)	90A ₂ -E-84	12.25V黄緑		
529	--	--	--	90A ₂ -E-46-1	黒緑			593	--	--	(6.1)	90A ₂ -E-78	暗赤		
530	--	--	--	90A ₂ -E-46-2	黒緑			594	--	--	(7.0)	90A ₂ -E-90	12.25V黄緑		
531 (31.0)	--	--	(9.9)	90A ₂ -E-43	灰白			595	--	--	(6.5)	90A ₂ -E-84	暗赤黒		
532 (34.4)	--	--	(13.2)	90A ₂ -E-41	浅黄			596	--	--	--	90A ₂ -E-117	灰オリーブ		
533	--	--	--	90A ₂ -E-205	灰白			597	--	--	--	90A ₂ -E-116	灰白		
534	--	--	--	90A ₂ -E-213	灰黄緑			598	--	--	--	90A ₂ -E-118	灰白		
535	--	--	--	90A ₂ -E-210	灰黄緑			599	--	--	--	90A ₂ -E-99	黄緑		
536	--	--	--	90A ₂ -E-209	赤黒			600	13.5	--	(6.80)	90A ₂ -E-80	暗赤黒		
537	--	--	--	90A ₂ -E-200	黒緑			601	28.6	--	(6.30)	90A ₂ -E-68	黒		
538	--	--	--	90A ₂ -E-203	12.25V赤黒			602	34.5	--	(18.0)	90A ₂ -E-71	暗赤		
539	--	--	--	90A ₂ -E-202	暗赤			603	27.8	--	(19.5)	90A ₂ -E-70	黒		
540 21.8	--	--	(8.5)	90A ₂ -E-176	赤黒			604	29.0	--	(4.80)	90A ₂ -E-82	暗赤		
541 4.8	--	--	(4.7)	90A ₂ -E-179-2	12.25V黄緑			605	30.0	--	(7.60)	90A ₂ -E-76	暗赤		
542	--	--	--	90A ₂ -E-232	暗赤			606	--	--	(18.3)	90A ₂ -E-69	黒		
543	--	--	(14.8)	90A ₂ -E-177	黒			607	30.0	--	(13.3)	90A ₂ -E-72	暗赤		
544	--	--	--	90A ₂ -E-168	黒			608	25.5	--	(6.80)	90A ₂ -E-92	暗赤		
545	--	--	--	90A ₂ -E-184	12.25V黄緑			609	--	--	--	90A ₂ -E-122	12.25V黄緑		
546	--	5.4	(3.0)	90A ₂ -E-180	12.25V黄緑			610	--	--	--	90A ₂ -E-96	暗赤黄		
547 26.3	--	--	(11.2)	90A ₂ -E-179-1	12.25V黄緑			611	--	5.4	(7.4)	90A ₂ -E-83	12.25V赤黒		
548 18.8	--	--	(16.2)	90A ₂ -E-178-1	暗赤			612	--	5.8	(3.30)	90A ₂ -E-79	暗赤		
549	--	16.6	--	90A ₂ -E-178-2	暗赤			613	--	4.5	(2.40)	90A ₂ -E-77	暗赤		
550	--	--	--	90A ₂ -E-183	暗			614	--	--	--	90A ₂ -E-199	浅黄		
551	--	--	--	90A ₂ -E-180	暗赤			615	--	(7.6)	(4.80)	90A ₂ -E-197	灰黄		
552	--	--	--	90A ₂ -E-181	暗赤			616 (29.6)	--	--	(8.90)	90A ₂ -E-196	灰黄		
553	--	--	--	90A ₂ -E-167	暗赤			617	16.3	--	(19.9)	90B ₂ -E-5	灰黄緑		
554	--	--	--	90A ₂ -E-185	12.25V黄緑			618	--	6.1	(23.7)	90B ₂ -E-6	浅黄緑		
555	--	4.3	(9.6)	90A ₂ -E-167	暗赤			619	--	--	(8.90)	90B ₂ -E-12	灰黄緑		
556	--	--	--	90A ₂ -E-166	12.25V黄緑			620	--	--	--	90B ₂ -E-11	灰黄緑		
557	--	--	--	90A ₂ -E-165	黒			621	--	6.9	(3.7)	90B ₂ -E-13	12.25V黄緑		
558	--	--	--	90A ₂ -E-164	暗赤			622	--	4.8	(2.7)	90B ₂ -E-14	灰黄緑		
559	--	--	--	90A ₂ -E-195	暗赤			623 (10.4)	--	--	(10.0)	90B ₂ -E-50	12.25V黄		
560	--	4.1	(12.4)	90A ₂ -E-168	12.25V黒			624	--	--	--	90B ₂ -E-61	灰黄		
561	--	5.4	(9.8)	90A ₂ -E-194	暗			625	--	--	--	90B ₂ -E-62-1	暗赤		
562	--	--	--	90A ₂ -E-123	暗赤			626	--	--	--	90B ₂ -E-62-2	暗赤		
563 12.7	--	--	(6.0)	90A ₂ -E-128	12.25V黄緑			627	--	--	(16.8)	90B ₂ -E-58	暗赤		
564	--	5.1	(28.8)	90A ₂ -E-127	灰白			628 (32.2)	--	--	(18.5)	90B ₂ -E-52	暗		
565	--	--	(21.2)	90A ₂ -E-125-1	12.25V黄緑			629 (18.2)	--	--	(3.7)	90B ₂ -E-43	12.25V黄緑		
566	--	5.5	(6.0)	90A ₂ -E-125-2	12.25V黄緑			630	--	--	--	90B ₂ -E-47	12.25V黄		
567	--	6.1	(2.0)	90A ₂ -E-134	12.25V黒			631	--	--	--	90B ₂ -E-41	12.25V黄緑		
568	--	4.6	(4.8)	90A ₂ -E-138	灰黄			632	--	--	--	90B ₂ -E-40	12.25V黄緑		
569 (14.1)	--	--	(9.4)	90A ₂ -E-160	灰オリーブ			633	--	--	--	90B ₂ -E-44	12.25V黄緑		
570	--	--	--	90A ₂ -E-171	灰黄			634	--	--	--	90B ₂ -E-46	暗赤		
571	--	--	--	90A ₂ -E-170	灰黄緑			635	--	--	--	90B ₂ -E-32	浅黄		
572	--	--	--	90A ₂ -E-173	暗赤黄			636	--	--	--	90B ₂ -E-33	灰黄		

番号	口径	口径	器高	登録番号	色調	備考	登録cc	番号	口径	口径	器高	登録番号	色調	備考	登録cc
637	-	-	-	90B ₁ -E-34	12.25x黄緑			701	-	-	-	90A ₂ -E-330	緑灰黄		
638	45.40	-	(7.3)	90B ₁ -E-38-1	12.25x黄			702	-	-	-	90A ₂ -E-341	緑灰黄		
639	-	-	-	90B ₁ -E-38-2	12.25x黄			703	-	7.0	66.7	90A ₂ -E-333	黒		
640	-	-	-	90B ₁ -E-38-3	12.25x黄			704	-	-	-	90A ₂ -E-345	オリーブ黒		
641	-	-	-	90B ₁ -E-37	灰白			705	-	-	-	90A ₂ -E-349	黄緑		
642	-	-	-	90B ₁ -E-3	黒			706	-	-	-	90A ₂ -E-348	オリーブ黒		
643	30.5	5.2	28.0	90B ₁ -E-1	灰白		7.473	707	-	-	-	90A ₂ -E-350	黒		
644	-	-	(29.7)	90B ₁ -E-4	黒			708	-	-	-	90A ₂ -E-347	黒		
645	-	-	(9.5)	90B ₁ -E-255	12.25x黄緑	T P 29		709	14.1	-	5.0	90A ₂ -E-234	12.25x黄緑		
646	9.8	-	(9.0)	90B ₁ -E-277	灰黄緑			710	19.6	-	(11.7)	90A ₂ -E-223	灰黒		
647	8.3	-	(10.2)	90B ₁ -E-278	灰黄緑			711	10.4	-	(10.0)	90A ₂ -E-219	緑灰		
648	-	-	(17.8)	90B ₁ -E-253	12.25x黄緑			712	10.2	-	(9.7)	90A ₂ -E-224	黄緑		
649	-	-	(4.2)	90B ₁ -E-266	灰黄緑			713	-	-	-	90A ₂ -E-254	黄緑		
650	-	-	-	90B ₁ -E-140	黒			714	-	-	(9.3)	90A ₂ -E-226	12.25x黄緑		
651	-	-	-	90B ₁ -E-110	黄緑			715	-	-	-	90A ₂ -E-269	黄緑		
652	-	-	-	90B ₁ -E-111	黄緑			716	-	-	-	90A ₂ -E-260	12.25x黄緑		
653	-	-	-	90B ₁ -E-124	黒			717	-	-	-	90A ₂ -E-238	黒		
654	-	-	-	90B ₁ -E-107	浅黄			718	-	-	-	90A ₂ -E-250	黄緑		
655	-	-	-	90B ₁ -E-314	12.25x赤黒			719	-	5.5	(21.0)	90A ₂ -E-218	黄緑		
656	-	-	-	90B ₁ -E-133	浅黄			720	-	5.2	(8.2)	90A ₂ -E-232	黄緑		
657	-	-	-	90B ₁ -E-256	オリーブ黒			721	-	-	(16.0)	90A ₂ -E-221	黄緑		
658	-	-	-	90B ₁ -E-257	黄灰			722	-	6.8	(19.5)	90A ₂ -E-222	灰黄緑		
659	-	-	-	90B ₁ -E-261	緑灰黄			723	-	6.6	(13.0)	90A ₂ -E-220	緑灰		
660	-	-	-	90B ₁ -E-194	12.25x黄			724	-	-	-	90A ₂ -E-243	黄緑		
661	-	-	-	90B ₁ -E-268	黒			725	-	-	-	90A ₂ -E-279	黄緑		
662	-	-	-	90B ₁ -E-139	灰			726	-	-	-	90A ₂ -E-251	黄緑		
663	-	-	-	90B ₁ -E-123	オリーブ黄			727	-	-	-	90A ₂ -E-261	黄緑		
664	-	-	-	90B ₁ -E-270	黒			728	-	-	-	90A ₂ -E-268	12.25x黄緑		
665	-	-	-	90B ₁ -E-271	浅黄			729	-	-	-	90A ₂ -E-262	黄緑		
666	-	-	-	90B ₁ -E-262	黒			730	-	-	-	90A ₂ -E-256	12.25x黄緑		
667	-	-	-	90B ₁ -E-116	灰オリーブ			731	-	-	-	90A ₂ -E-240	12.25x黄緑		
668	-	-	-	90B ₁ -E-135	オリーブ黒			732	12.9	-	(9.1)	90A ₂ -E-228	12.25x黄緑		
669	-	-	-	90B ₁ -E-137	オリーブ黒			733	-	-	-	90A ₂ -E-249	12.25x黄緑		
670	-	-	-	90B ₁ -E-263	黒			734	31.6	-	(14.0)	90A ₂ -E-217	12.25x黄緑		
671	-	-	-	90B ₁ -E-315	黒			735	27.2	-	(18.5)	90A ₂ -E-216	黄緑		
672	-	-	-	90A ₂ -E-113	黒			736	-	3.8	(5.3)	90A ₂ -E-230	黄緑		
673	-	-	-	90A ₂ -E-265	12.25x黒			737	-	-	-	90A ₂ -E-271	黒		
674	-	6.9	(3.3)	90A ₂ -E-279	黒			738	-	-	-	90A ₂ -E-257	黄緑		
675	-	-	-	90A ₂ -E-105	12.25x黄緑			739	-	-	-	90A ₂ -E-255	12.25x黄緑		
676	-	48.0	(10.4)	90A ₂ -E-276	黄灰			740	-	-	-	90A ₂ -E-248	黄緑		
677	-	6.1	(2.0)	90A ₂ -E-134	12.25x黒			741	19.9	3.9	24.6	90A ₂ -E-215	黄緑		4.197
678	-	-	-	90A ₂ -E-316	12.25x黄緑			742	-	-	(32.0)	90A ₂ -E-3	12.25x黒		
679	-	-	-	90A ₂ -E-317	緑黒			743	-	5.6	(17.1)	90A ₂ -E-4	緑灰黄		
680	-	-	-	90A ₂ -E-114	黒			744	30.4	-	(4.2)	90A ₂ -E-12	灰		
681	-	-	-	90A ₂ -E-115	12.25x黄			745	9.8	-	(3.0)	90A ₂ -E-10	灰黄		
682	-	-	(27.4)	90A ₂ -E-274	黒			746	-	-	-	90A ₂ -E-6	緑黒		
683	33.6	46.0	35.7	90A ₂ -E-275	黒			747	-	-	-	90A ₂ -E-13	橙		
684	-	-	-	90A ₂ -E-308	黒			748	-	-	-	90A ₂ -E-30	黒		
685	-	-	-	90A ₂ -E-131	緑			749	-	-	-	90A ₂ -E-18-1	灰黄		
686	25.9	-	(6.0)	90A ₂ -E-126	12.25x黄緑			750	-	-	-	90A ₂ -E-18-2	灰黄		
687	-	-	-	90A ₂ -E-121	12.25x黒			751	-	-	-	90A ₂ -E-5	黒		
688	-	-	-	90A ₂ -E-118	灰白			752	-	-	-	90A ₂ -E-19	12.25x黄緑		
689	-	-	-	90A ₂ -E-304	12.25x黄緑			753	-	-	-	90A ₂ -E-17	緑灰黄		
690	-	-	-	90A ₂ -E-303	12.25x黄緑			754	-	-	-	90A ₂ -E-16	浅黄		
691	16.1	-	(17.3)	90A ₂ -E-301	緑灰			755	-	-	-	90A ₂ -E-11	緑灰黄		
692	-	-	-	90A ₂ -E-343	黄緑			756	-	-	-	90A ₂ -E-8-2	浅黄		
693	-	-	-	90A ₂ -E-342	緑灰			757	-	-	-	90A ₂ -E-8-1	浅黄		
694	-	-	-	90A ₂ -E-334	オリーブ黒			758	-	-	-	90A ₂ -E-8-3	浅黄		
695	-	-	-	90A ₂ -E-335	オリーブ黒			759	-	-	-	90A ₂ -E-8-4	浅黄		
696	-	-	-	90A ₂ -E-337	灰オリーブ			760	-	-	-	90A ₂ -E-9-1	黄灰		
697	-	-	-	90A ₂ -E-336	オリーブ黒			761	-	-	-	90A ₂ -E-9-2	黄灰		
698	-	-	-	90A ₂ -E-338	12.25x黄緑			762	-	-	-	90A ₂ -E-27	黒		
699	-	-	-	90A ₂ -E-346	オリーブ黄			763	29.0	6.3	26.6	90A ₂ -E-1	12.25x黄緑		6.971
700	-	-	-	90A ₂ -E-344	灰			764	23.4	-	(14.7)	90A ₂ -E-23	12.25x黒		

番号	口径	径程	器高	登録番号	色調	備考	容量cc	番号	口径	径程	器高	登録番号	色調	備考	容量cc
760	23.0	-	(13.0)	90A ₁ -E-2	黒陶			829	-	-	-	90B ₁ -E-193	暗灰黄		
764	28.7	-	(6.7)	90A ₁ -E-26	灰白			830	-	-	-	90B ₁ -E-197	12.5 μ 黄緑		
762	-	-	-	90A ₁ -E-14	黒陶			831	-	-	-	90B ₁ -E-196	オリーブ紫		
766	23.5	-	(8.2)	90A ₁ -E-25	灰			832	-	5.5	(7.0)	90B ₁ -E-184	灰黄緑		
769	-	-	-	90A ₁ -E-24	黒			833	-	4.0	(4.6)	90B ₁ -E-145	黒		
770	-	-	-	90A ₁ -E-7	黒			834	-	-	(17.4)	90A ₁ -E-274	黒		
771	25.6	-	(11.7)	90A ₁ -E-22	12.5 μ 黄緑			835	-	(15.6)	90A ₁ -E-277	黒陶			
772	-	5.3	(3.4)	90A ₁ -E-21	12.5 μ 黄			836	-	-	(8.3)	90A ₁ -E-280	黒陶		
773	-	5.0	(3.4)	90A ₁ -E-15	黄緑			837	-	-	-	90A ₁ -E-291	12.5 μ 黄緑		
774	-	-	-	90A ₁ -E-143	灰黄陶			838	-	-	-	90A ₁ -E-312	黒陶		
775	-	-	-	90A ₁ -E-141	灰黄陶			839	-	-	-	90A ₁ -E-292	灰黄陶		
776	-	-	-	90A ₁ -E-142	12.5 μ 黄			840	-	-	-	90A ₁ -E-317	暗陶		
777	-	-	-	90A ₁ -E-144	12.5 μ 黄緑			841	-	-	-	90A ₁ -E-309	12.5 μ 黄緑		
778	-	-	-	90B ₁ -E-289	12.5 μ 黄			842	-	-	-	90A ₁ -E-316	12.5 μ 黄緑		
779	-	-	-	90B ₁ -E-285	橙			843	-	-	-	90A ₁ -E-303	12.5 μ 黄緑		
780	-	-	-	90B ₁ -E-288	暗灰黄			844	-	-	-	90A ₁ -E-306	灰黄陶		
781	-	-	-	90B ₁ -E-210	黄陶			845	-	-	-	90A ₁ -E-299	黒陶		
782	-	-	-	90B ₁ -E-202	黄陶			846	-	-	-	90A ₁ -E-310	12.5 μ 黄緑		
783	-	-	-	90B ₁ -E-204-4	12.5 μ 黄			847	-	-	-	90A ₁ -E-285	暗陶		
784	-	-	-	90B ₁ -E-204-5	12.5 μ 黄			848	-	-	-	90A ₁ -E-204	12.5 μ 黄緑		
785	-	-	-	90B ₁ -E-204-6	12.5 μ 黄			849	-	(8.4)	(10.4)	90A ₁ -E-276	黄灰		
786	-	-	-	90B ₁ -E-203	黒陶			850	-	6.9	(3.9)	90A ₁ -E-281	黄灰		
787	-	-	-	90B ₁ -E-206	黒陶			851	-	6.9	(3.3)	90A ₁ -E-279	黒陶		
788	-	-	-	90B ₁ -E-207-1	暗陶			852	-	6.1	(5.4)	90A ₁ -E-284	暗陶		
789	-	-	-	90B ₁ -E-207-2	暗陶			853	-	8.2	(6.5)	90A ₁ -E-278	12.5 μ 黄緑		
790	-	4.6	(2.1)	90B ₁ -E-211	灰陶			854	-	6.5	(1.8)	90A ₁ -E-286	灰黄陶		
791	-	-	-	90B ₁ -E-218	暗陶			855	-	-	-	90A ₁ -E-311	陶		
792	(29.1)	-	(24.4)	90B ₁ -E-216	黄灰			856	12.0	-	(5.1)	90A ₁ -E-282	灰黄陶		
793	(29.4)	-	(12.7)	90B ₁ -E-217	灰黄			857	-	-	-	90A ₁ -E-289	陶		
794	(27.0)	-	(8.3)	90B ₁ -E-132	12.5 μ 黄緑			858	-	-	-	90A ₁ -E-307	黒		
795	-	(8.3)	90B ₁ -E-178	黒陶				859	-	-	-	90A ₁ -E-313	暗陶		
796	-	(8.3)	90B ₁ -E-150	暗陶				860	-	-	-	90A ₁ -E-315	暗陶		
797	-	(6.0)	90B ₁ -E-148	暗陶				861	-	-	-	90A ₁ -E-300	暗灰黄		
798	10.0	-	(6.4)	90B ₁ -E-146	灰黄陶			862	-	-	-	90A ₁ -E-297	暗陶		
799	-	-	-	90B ₁ -E-174	12.5 μ 黄			863	-	-	-	90A ₁ -E-318	12.5 μ 黄		
800	-	-	-	90B ₁ -E-182-2	12.5 μ 黄緑			864	-	-	-	90A ₁ -E-293	12.5 μ 黄緑		
801	-	-	-	90B ₁ -E-182-1	12.5 μ 黄緑			865	-	-	-	90A ₁ -E-298	12.5 μ 黄緑		
802	-	-	-	90B ₁ -E-179	灰			866	33.6	(6.4)	35.7	90A ₁ -E-275	暗陶		17.103
803	-	-	-	90B ₁ -E-190-2	浅黄			867	-	6.3	(5.0)	90A ₁ -E-283	12.5 μ 黄緑		
804	-	-	-	90B ₁ -E-163-3	暗灰黄			868	-	5.4	(3.1)	90A ₁ -E-302	暗陶		
805	-	-	-	90B ₁ -E-163-1	暗灰黄			869	-	-	-	90B ₁ -E-238	12.5 μ 黄緑		
806	-	-	-	90B ₁ -E-164-1	浅黄			870	-	-	-	90B ₁ -E-237	12.5 μ 黄緑		
807	-	-	-	90B ₁ -E-164-3	浅黄			871	-	-	-	90B ₁ -E-233	12.5 μ 黄		
808	-	-	-	90B ₁ -E-164-2	浅黄			872	-	-	-	90B ₁ -E-233	12.5 μ 黄緑		
809	-	-	-	90B ₁ -E-164-4	浅黄			873	-	-	-	90B ₁ -E-229	陶		
810	-	-	-	90B ₁ -E-164-5	浅黄			874	-	-	-	90B ₁ -E-231	暗陶		
811	-	-	-	90B ₁ -E-151	暗陶			875	-	-	-	90B ₁ -E-230	暗陶		
812	-	5.3	(3.0)	90B ₁ -E-175	灰陶			876	-	5.2	(3.1)	90B ₁ -E-236	灰黄陶		
813	-	6.3	(3.7)	90B ₁ -E-149	暗陶			877	-	4.9	(3.4)	90B ₁ -E-225	暗陶		
814	-	7.5	(3.0)	90B ₁ -E-177	灰黄陶			878	(5.0)	-	(19.9)	90B ₁ -E-224	灰陶		
815	-	5.0	(3.0)	90B ₁ -E-182	暗陶			879	30.7	5.1	32.1	90B ₁ -E-223	暗陶		10.253
816	19.8	5.0	17.5	90B ₁ -E-153	暗陶		3.516	880	-	-	-	90B ₁ -E-226	灰黄陶		
817	-	-	-	90B ₁ -E-181	オリーブ紫			881	-	-	-	90B ₁ -E-234	12.5 μ 黄緑		
818	24.2	-	(14.0)	90B ₁ -E-180	暗陶			882	16.7	-	(11.5)	90B ₁ -E-238	12.5 μ 黄緑		
819	-	-	-	90B ₁ -E-158	12.5 μ 黄			883	26.6	-	(19.8)	91A-E-24	灰黄陶		
820	-	-	-	90B ₁ -E-166	12.5 μ 黄緑			884	(19.3)	-	(16.6)	90B-E-62	12.5 μ 黄緑		
821	-	-	-	90B ₁ -E-170	暗オリーブ紫			885	20.2	-	(16.0)	90B ₁ -E-239	12.5 μ 黄緑		
822	-	-	-	90B ₁ -E-162	暗陶			886	(13.7)	-	(9.1)	91A-E-30-1	浅黄		
823	-	-	-	90B ₁ -E-168	オリーブ紫			887	-	-	(23.3)	91A-E-30-2	浅黄		
824	-	-	-	90B ₁ -E-160	浅黄			888	-	6.4	(17.5)	90A ₁ -E-354	暗陶		
825	-	-	-	90B ₁ -E-191	暗陶			889	28.9	6.1	27.7	90B-E-49	暗陶		6.216
826	-	-	-	90B ₁ -E-163	暗陶			890	28.0	-	(17.2)	90A-E-98	黒		
827	-	-	-	90B ₁ -E-172	暗陶			891	17.0	-	(4.8)	90B-E-69-1	暗赤陶		
828	-	-	-	90B ₁ -E-189	黒			892	-	-	(21.8)	90B-E-69-2	暗赤陶		

番号	日経	銘柄	部高	登録番号	色調	備考	容積cc	番号	日経	銘柄	部高	登録番号	色調	備考	容積cc
803	-	5.4	413.4	90B ₁ -E-409-3	暗赤褐色			9007	17.6	9.9	15.0	90B12-E-243	にじみ黄緑		
804	6.6	4.8	23.0	90B ₁ -E-251	黒色		2,798	9008	10.5	10.0	17.2	90A-E-89	灰白		
805	-	-	423.0	90A ₁ -E-351	にじみ黄緑			9009	19.6	-	115.89	89B-E-17-1	黒色		
806	-	6.0	428.7	90B ₁ -E-250	黒色			9010	-	19.0	119.89	89B-E-17-2	黒色		
807	15.5	5.6	16.7	90B ₁ -E-240	灰黄緑		5,643	9011	23.6	11.4	26.6	89A2-E-178	暗黄緑		
808	13.4	-	114.0	90B ₁ -E-252	黒色			9012	16.8	9.0	29.0	89A2-E-183	暗緑		
809	-	-	141.7	90A-E-91	灰黄			9013	14.5	7.9	19.0	89A2-E-186	黒		
900	22.4	6.0	25.6	90B ₁ -E-91	淡黄		4,670	9014	-	-	-	90-W-1			
901	19.2	5.8	25.4	90B ₁ -E-90	橙		3,055	9015	-	-	-	90-W-2			
902	25.2	6.1	22.7	90B ₁ -E-79	黒色		4,335	9016	-	-	-	90-W-3			
903	14.3	5.5	20.5	90A-E-119	灰		8,214	9017	-	-	-	90-W-4			
904	15.6	-	130.3	89A ₁ -E-183-1	灰黄緑			9018	-	-	-	90-W-5			
905	-	5.65	44.6	89A ₁ -E-183-2	灰黄緑			9019	-	-	-	90-W-6			
906	13.4	5.4	37.1	89B ₁ -E-13	黄灰		11,200	石器・石製品							
907	17.8	-	48.5	89A ₁ -E-150	にじみ黄緑			1001	磨製石斧	172.1	2.98	S-1	ハイアロクラストイト		
908	16.8	-	419.4	89A ₁ -E-141	にじみ黄			1002	磨製石斧	329.9	2.9	S-2	塩基性凝灰岩		
909	20.6	6.8	42.2	89A ₁ -E-158	黒		20,523	1003	磨製石斧	220.9	2.74	S-3	塩基性凝灰岩		
910	15.3	-	136.5	89A ₁ -E-154	黄灰			1004	磨製石斧	429.1	2.97	S-4	玄武岩(パサルト)		
911	15.5	4.6	35.1	89A ₁ -E-134	暗赤褐色		13,433	1005	磨製石斧	580.6	2.84	S-5	塩基性凝灰岩		
912	16.0	-	116.9	89A ₁ -E-147	黒色			1006	磨製石斧	478.2	2.99	S-6	塩基性凝灰岩		
913	12.3	-	427.8	89B ₁ -E-14	黒色			1007	磨製石斧	416.1	3.06	S-7	玄武岩		
914	15.8	-	116.2	89A ₁ -E-129	橙			1008	-	63.7	2.37	S-8	砂岩		
915	18.9	6.9	44.3	89A ₁ -E-130	オリーブ色		29,015	1009	-	491.3	2.58	S-9	アラライト(白島花こう石)		
916	-	4.8	432.1	89B ₁ -E-68	黒色			1010	石彫丁	75.7	2.84	S-10	緑色片岩		
917	20.3	-	116.3	89A ₁ -E-163	黄灰			1011	石彫丁	28.2	2.82	S-11	花崗石		
918	11.4	6.0	24.8	89A ₁ -E-132	灰白		4,007	1012	石剣	17.5	2.73	S-12	黄灰		
919	8.1	4.7	20.7	89A ₁ -E-142	黒色		1,917	1013	磨石	494.0	2.82	S-13	砂岩		
920	8.6	6.0	25.0	89B ₁ -E-16	灰黄		4,230	1014	磨石	285.7	2.81	S-14	砂岩		
921	6.8	-	110.1	89A ₁ -E-128	灰黄緑			1015	石鏝	3.2	2.87	S-15	砂岩凝灰岩		
922	10.5	-	68.3	89A ₁ -E-126	暗灰			1016	石鏝	3.8	2.53	S-16	砂岩凝灰岩		
923	-	5.7	418.0	89A ₁ -E-146	黒色			1017	石鏝	2.6	2.36	S-17	オパール質石英岩		
924	11.7	3.6	35.0	89A ₁ -E-135	にじみ黄緑		4,146	1018	石鏝	3.8	2.53	S-18	砂岩凝灰岩		
925	25.2	8.0	45.3	89A ₁ -E-160	淡黄		21,240	1019	石鏝	2.2	2.44	S-19	砂岩凝灰岩		
926	23.2	-	134.6	89A ₁ -E-132	灰黄			1020	石鏝	0.9	3	S-20	灰岩		
927	420.2	-	17.2	89A ₁ -E-259-1	淡黄			1021	石鏝	2.6	2.6	S-21	チャート		
928	-	-	124.7	90A ₁ -E-329-2	淡黄			1022	管玉	0.5	2.5	S-22	緑色凝灰岩		
929	-	8.3	135.8	89A ₁ -E-282	にじみ黄緑			1023	管玉	1.1	2.2	S-23	緑色凝灰岩		
930	25.4	-	128.6	89A ₁ -E-193	淡黄緑			1024	磨製石斧	17.8	2.92	S-24	塩基性凝灰岩		
931	21.7	-	136.5	89A ₁ -E-190	にじみ黄緑			1025	磨製石斧	10.9	2.89	S-25	玄武岩(パサルト)		
932	13.8	-	121.0	89B ₁ -E-15	黄灰	T.P37									
933	32.0	-	110.0	89A ₁ -E-129	灰白										
934	28.7	-	110.1	89A ₁ -E-195	淡黄										
935	7.3	-	68.2	89B ₁ -E-18-1	にじみ黄緑										
936	-	-	110.2	89B ₁ -E-18-2	にじみ黄緑										
937	14.0	5.8	20.0	89A ₁ -E-138	黒色		8,145								
938	-	5.0	120.2	89A ₁ -E-136	灰白										
939	-	6.4	125.9	89A ₁ -E-124	にじみ黄緑										
940	-	8.3	135.8	89A ₁ -E-283	にじみ黄緑										
941	-	4.2	112.7	89A ₁ -E-127	灰白										
942	-	4.4	112.3	89A ₁ -E-122	灰白										
943	-	-	115.9	89A ₁ -E-184	橙										
944	31.3	9.2	19.7	89A ₁ -E-181	灰黄										
945	422.0	-	121.4	90A ₁ -E-200	にじみ黄緑										
946	14.2	5.7	28.4	89A ₁ -E-144	灰白										
947	16.7	-	113.7	89A ₁ -E-159	黒色										
948	23.0	-	122.4	89A ₁ -E-135	暗赤褐色										
949	18.7	-	115.0	90A ₁ -E-99	黒色										
950	15.6	-	112.9	89A ₁ -E-149	暗灰										
951	-	-	120.5	89B ₁ -E-19	暗赤褐色										
952	19.7	6.9	23.5	90B ₁ -E-246	にじみ黄緑										
953	17.4	8.1	28.2	89A ₁ -E-194	橙										
954	14.4	-	138.0	90B ₁ -E-242	にじみ黄										
955	420.4	-	116.3	90B ₁ -E-34	灰白										
956	20.2	12.9	13.8	90B12-E-249	にじみ黄緑										

凡例

- 色調は財団法人日本色研研究所「標準土色帖」(1989年版)による
- 土器の容積は体積計算による
- 土製品は長径、短径、重量を表明
- 単位はmm